別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画									
事　項	記　入　欄								備　考
計画の区分	学部の設置								
フリガナ 設置者	ｺｸﾘﾂﾀﾞｲｶﾞｸﾎｳｼﾞﾝ ｴﾋﾒﾀﾞｲｶﾞｸ 国立大学法人　愛媛大学								
フリガナ 大学の名称	ｴﾋﾒﾀﾞｲｶﾞｸ 愛媛大学［Ehime University］								
大学本部の位置	愛媛県松山市道後樋又10番13号								
大学の目的	愛媛大学は，学術の一中心として，広く知識を授けるとともに，深く専門の学芸を教授研究し，知的，道徳的及び応用的能力を展開させ，もって文化の創造と発展に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	愛媛大学社会共創学部は、様々な地域社会の持続可能な発展のために、多様な地域ステークホルダーと協働しながら、課題解決策を企画・立案することができ、様々な地域社会を価値創造へと導く力（＝社会共創力）を備えた人材を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次人	人		年　月 第　年次		
	社会共創学部 [Faculty of Collaborative Regional Innovation]							松山市文京町３番	
	産業マネジメント学科 [Department of Industrial Management]	4	70	—	280	学士（社会共創学）	平成28年4月 第1年次		
	産業イノベーション学科[Department of Industrial Innovation]	4	25	—	100	学士（社会共創学）	平成28年4月 第1年次		
	環境デザイン学科 [Department of Environmental Design]	4	35	—	140	学士（社会共創学）	平成28年4月 第1年次		
	地域資源マネジメント学科[Department of Regional Resource Management]	4	50	—	200	学士（社会共創学）	平成28年4月 第1年次		
	計		180	—	720				
同一設置者内における変更状況 （定員の移行，名称の変更等）	法文学部 総合政策学科(昼間主コース)(廃止)(△270)※平成28年4月学生募集停止 （３年次編入学定員）　(廃止)(△ 10)※平成30年4月学生募集停止 総合政策学科(夜間主コース)(廃止)(△ 60)※平成28年4月学生募集停止 （３年次編入学定員）　(廃止)(△ 20)※平成30年4月学生募集停止 人文学科（昼間主コース）　(廃止)(△125)※平成28年4月学生募集停止 人文学科（夜間主コース）　(廃止)(△ 50)※平成28年4月学生募集停止 （３年次編入学定員）　(廃止)(△ 20)※平成30年4月学生募集停止 人文社会学科（昼間主コース）［新設］(275)　(平成27年4月届出予定) （３年次編入学定員）　［新設］(10)　(平成27年4月届出予定) 人文社会学科（夜間主コース）［新設］(90)　(平成27年4月届出予定) （３年次編入学定員）　［新設］(20)　(平成27年4月届出予定) 教育学部 総合人間形成課程　(廃止)　(△60)　※平成28年4月学生募集停止 スポーツ健康科学課程　(廃止)　(△20)　※平成28年4月学生募集停止 芸術文化課程　(廃止)　(△20)　※平成28年4月学生募集停止 学校教育教員養成課程［定員増］(40)　(平成28年4月)								

同一設置者内における変更状況 （定員の移行，名称の変更等）	農学部 生物資源学科(廃止)　(△170)　※平成28年4月学生募集停止 （３年次編入学定員）(廃止)(△ 10)※平成30年4月学生募集停止 食料生産学科[新設]（70）（平成27年4月届出予定） （３年次編入学定員）[新設]（ 5）（平成27年4月届出予定） 生命機能学科[新設]（45）（平成27年4月届出予定） （３年次編入学定員）[新設]（ 2）（平成27年4月届出予定） 生物環境学科[新設]（55）（平成27年4月届出予定） （３年次編入学定員）[新設]（ 3）（平成27年4月届出予定） 教育学研究科 学校教育専攻（廃止）（△5）※平成28年4月学生募集停止 教科教育専攻[定員減]（△10）（平成28年4月） 教育実践高度化専攻（教職大学院）[新設]（15）（平成27年3月認可申請） 農学研究科 生物資源学専攻(廃止)　(△72)　※平成28年4月学生募集停止 食料生産学専攻[新設]（26）（平成27年4月届出予定） 生命機能学専攻[新設]（23）（平成27年4月届出予定） 生物環境学専攻[新設]（23）（平成27年4月届出予定）	

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
	社会共創学部 産業マネジメント学科	144科目	72科目	11科目	227科目	124単位
	社会共創学部 産業イノベーション学科	170科目	73科目	22科目	265科目	124単位
	社会共創学部 環境デザイン学科	136科目	73科目	17科目	226科目	124単位
	社会共創学部 地域資源マネジメント学科	123科目	103科目	35科目	261科目	124単位

教員組織の概要

	学部等の名称	専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
		人	人	人	人	人	人	人
新設分	社会共創学部 産業マネジメント学科	8 (8)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	253 (253)
	産業イノベーション学科	6 (6)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	266 (266)
	環境デザイン学科	4 (3)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	10 (9)	0 (0)	265 (266)
	地域資源マネジメント学科	8 (8)	6 (6)	1 (1)	2 (2)	17 (17)	0 (0)	247 (247)
	計	26 (25)	23 (23)	2 (2)	4 (4)	55 (54)	0 (0)	－ (－)
既設分	法文学部 人文社会学科	42 (41)	38 (38)	11 (11)	1 (1)	92 (91)	0 (0)	288 (288)
	教育学部 学校教育教員養成課程	41 (41)	37 (37)	11 (11)	0 (0)	89 (89)	0 (0)	266 (266)
	特別支援教育教員養成課程	4 (4)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	253 (253)
	理学部 数学科	6 (6)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	242 242
	物理学科	7 (7)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	241 241
	化学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	244 (244)
	生物学科	3 (3)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	12 (12)	0 (0)	243 (243)
	地球科学科	2 (2)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	8 (8)	0 (0)	244 (244)
	医学部 医学科	42 (42)	52 (52)	49 (49)	162 (162)	305 (305)	0 (0)	367 (367)
	看護学科	11 (11)	2 (2)	3 (3)	7 (7)	23 (23)	0 (0)	275 (275)
	工学部 機械工学科	7 (7)	7 (7)	1 (1)	6 (6)	21 (21)	0 (0)	256 (256)
	電気電子工学科	7 (7)	7 (7)	0 (0)	5 (5)	19 (19)	0 (0)	261 (261)
	環境建設工学科	7 (7)	7 (7)	1 (1)	8 (8)	23 (23)	0 (0)	269 (269)
	機能材料工学科	5 (5)	6 (6)	0 (0)	7 (7)	18 (18)	0 (0)	255 (255)
	応用化学科	10 (10)	9 (9)	0 (0)	11 (11)	30 (30)	3 (3)	256 (256)
	情報工学科	6 (6)	8 (8)	2 (2)	4 (4)	20 (20)	1 (1)	267 (267)

教員組織の概要										
既設分	農学部 食料生産学科	22 (18)	13 (12)	0 (0)	7 (7)	42 (37)	0 (0)	260 (260)		
	生命機能学科	8 (8)	6 (6)	0 (0)	4 (4)	18 (18)	0 (0)	260 (260)		
	生物環境学科	16 (15)	19 (19)	0 (0)	4 (4)	39 (38)	0 (0)	260 (260)		
	計	252 (246)	238 (237)	79 (79)	239 (239)	808 (801)	4 (4)	― (―)		
合計		278 (271)	261 (260)	81 (81)	243 (243)	863 (855)	4 (4)	― (―)		

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
	事務職員	301 人 (301)	440 人 (440)	741 人 (741)	大学全体
	技術職員	514 (514)	162 (162)	676 (676)	
	図書館専門職員	19 (19)	0 (0)	19 (19)	
	その他の職員	5 (5)	420 (420)	425 (425)	
	計	839 (839)	1,022 (1,022)	1,861 (1,861)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	387,277 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	387,277 ㎡	
	運動場用地	79,745 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	79,745 ㎡	
	小計	467,022 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	467,022 ㎡	
	その他	4,187,394 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	4,187,394 ㎡	
	合計	4,654,416 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	4,654,416 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	218,480 ㎡ (218,480 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	218,480 ㎡ (218,480 ㎡)

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	107室	93室	627室	17室 (補助職員0人)	5室 (補助職員0人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	社会共創学部	55 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	大学全体	1,221,225〔381,002〕 (1,221,225〔381,002〕)	28,440〔12,809〕 (28,440〔12,809〕)	6,760〔6,160〕 (6,760〔6,160〕)	6,351 (6,351)	10,384 (10,384)	1 (1)	
	計	1,221,225〔381,002〕 (1,221,225〔381,002〕)	28,440〔12,809〕 (28,440〔12,809〕)	6,760〔6,160〕 (6,760〔6,160〕)	6,351 (6,351)	10,384 (10,384)	1 (1)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	10,615 ㎡	979 席	785,000冊	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	10,388 ㎡	武道場１，弓道場１，テニスコート19面，水泳プール４基	大学全体

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		―	―	―	―	―	―	国費による
	共同研究費等		―	―	―	―	―	―	
	図書購入費	―	―	―	―	―	―	―	
	設備購入費	―	―	―	―	―	―	―	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	― 千円	― 千円	― 千円	― 千円	― 千円	― 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	―

既設大学等の状況	大学の名称	愛媛大学（Ehime University）								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	法文学部						1.05		愛媛県松山市文京町３番	
	総合政策学科（昼間主コース）	4	270	3年次10	1,100	学士（総合政策）	1.05	平8		
	総合政策学科（夜間主コース）	4	60	3年次20	280	学士（法学）学士（経済学）	1.05	平8		
	人文学科（昼間主コース）	4	125	－	500	学士（人文）	1.08	平8		
	人文学科（夜間主コース）	4	50	3年次20	240		1.04	平8		
	教育学部					学士（教育学）	1.06		愛媛県松山市文京町３番	
	学校教育教員養成課程	4	100	－	400		1.09	平11		
	特別支援教育教員養成課程	4	20	－	80		1.02	平20		
	総合人間形成課程	4	60	－	240		1.01	平20		
	スポーツ健康科学課程	4	20	－	80		1.10	平20		
	芸術文化課程	4	20	－	80		1.05	平11		
	理学部					学士（理学）	1.03		愛媛県松山市文京町２番５号	
	数学科	4	50	－	200		1.08	平17		
	物理学科	4	50	－	200		1.04	平17		
	化学科	4	52	－	208		1.02	平17		
	生物学科	4	43	－	172		1.04	平17		
	地球科学科	4	30	－	120		0.95	平17		
	医学部						1.00			
	医学科	6	110	2年次5	660	学士（医学）	1.00	昭48	愛媛県東温市志津川	*医学部医学科入学定員うち5人は，平成29年度までの措置
	看護学科	4	60	3年次10	260	学士（看護学）	1.00	平6		
	工学部					学士（工学）	1.05		愛媛県松山市文京町３番	*医学部医学科入学定員うち10人は，平成31年度までの措置
	機械工学科	4	90		360		1.03	平3		
	電気電子工学科	4	80		320		1.04	平3		
	環境建設工学科	4	90		360		1.04	平8		
	機能材料工学科	4	70		280		1.07	平8		
	応用化学科	4	90	学科共通	360		1.05	平3		
	情報工学科	4	80		320		1.06	平3		
				3年次10	20					
	農学部					学士（農学）	1.06		愛媛県松山市樽味３丁目５番７号	
	生物資源学科	4	170	3年次10	700		1.06	昭63		
	大学院法文学研究科（修士課程）					修士（法学）修士（経済学）	0.70		愛媛県松山市文京町３番	
	総合法政策専攻	2	15	－	30	修士（学術）	0.49	平10		
	人文科学専攻	2	10	－	20	修士（人文科学）	1.00	平10		
	大学院教育学研究科（修士課程）					修士（教育学）	0.77		愛媛県松山市文京町３番	
	学校教育専攻	2	5	－	10		0.50	平5		
	特別支援教育専攻									
	特別支援学校教育	2	5	－	10		1.10	平17		
	特別支援教育コーディネーター専修	1	6	－	6		0.74	平17		
	教科教育専攻	2	30	－	60		0.73	平8		
	学校臨床心理専攻	2	9	－	18		0.94	平16		

既設大学等の状況	大学院医学系研究科（修士課程）					修士（看護学）	0.84		愛媛県東温市志津川	
	看護学専攻	2	16	－	32		0.84	平10		
	大学院医学系研究科（博士課程）					博士（医学）	1.00		愛媛県東温市志津川	
	医学専攻	4	30	－	120		1.00	平18		
	大学院理工学研究科（博士前期課程）					修士（理学） 修士（工学）	1.08		愛媛県松山市文京町３番	
	生産環境工学専攻	2	60	－	120		1.10	平18		
	物質生命工学専攻	2	57	－	114		1.23	平18		
	電子情報工学専攻	2	57	－	114		1.00	平18		
	数理物質科学専攻	2	40	－	80		0.91	平18		
	環境機能科学専攻	2	26	－	52		1.14	平18		
	大学院理工学研究科（博士後期課程）					博士（理学） 博士（工学）	1.27		愛媛県松山市文京町３番	
	生産環境工学専攻	3	6	－	18		1.83	平18		
	物質生命工学専攻	3	5	－	15		1.06	平18		
	電子情報工学専攻	3	4	－	12		0.91	平18		
	数理物質科学専攻	3	4	－	12		1.33	平18		
	環境機能科学専攻	3	4	－	12		1.00	平18		
	大学院農学研究科（修士課程）					修士（農学）	0.70		愛媛県松山市樽味３丁目５番７号	
	生物資源学専攻	2	72	－	144		0.70	昭42		
	大学院連合農学研究科（博士課程）					博士（農学） 博士（学術）	1.25		愛媛県松山市樽味３丁目５番７号	
	生物資源生産学専攻	3	9	－	27		1.07	昭60		
	生物資源利用学専攻	3	4	－	12		1.91	昭60		
	生物環境保全学専攻	3	4	－	12		1.00	昭60		

	名称	目的	所在地	設置年月	規模等
附属施設の概要	医学部附属病院	医学教育，研究及び診療	愛媛県東温市志津川	昭和51年5月	建物面積　71,529㎡
	医学部附属総合医学教育センター	医学教育改革を推進及び発展		平成17年4月	建物面積　141㎡
	医学部附属手術手技研修センター	手術手技向上への寄与		平成25年12月	建物面積　775㎡
	医学部附属Aiセンター	医学・医療の向上及び発展		平成26年8月	建物面積　285㎡
	教育学部附属教育実践総合センター	授業実践，研究及びその実地指導	愛媛県松山市持田町1丁目5番22号	平成10年4月	建物面積　1,202㎡
	教育学部附属幼稚園	幼児教育，研究及び教員養成		昭和24年5月	建物面積　1,115㎡
	教育学部附属小学校	児童教育，研究及び教員養成		昭和24年5月	建物面積　5,424㎡
	教育学部附属中学校	生徒教育，研究及び教員養成		昭和24年5月	建物面積　7,004㎡
	教育学部附属特別支援学校	特別支援教育，研究及び教員養成		昭和47年4月	建物面積　3,020㎡
	愛媛大学附属高等学校	高等普通教育及び専門教育，研究，教育実習	松山市樽味3丁目2番40号	平成20年4月	建物面積 13,999㎡
	農学部附属農場	農学の理論を探求しつつ，応用技術を総合化する研究及び学生生徒の実験実習	松山市八反地甲498番地	昭和29年4月	土地面積　187,813㎡
	農学部附属演習林	森林・林業に関する研究及び学生生徒の実験実習	松山市大井野町乙145番2	昭和32年9月	土地面積3,838,905㎡

国立大学法人　愛媛大学　設置認可等に関わる組織の移行表

平成27年度	入学定員	編入学定員	収容定員
愛媛大学			
法文学部			
総合政策学科	330	3年次 30	1380
昼間主コース	270	10	1100
夜間主コース	60	20	280
人文学科	175	3年次 20	740
昼間主コース	125	－	500
夜間主コース	50	20	240
教育学部			
学校教育教員養成課程	100	－	400
特別支援教育教員養成課程	20	－	80
総合人間形成課程	60	－	240
スポーツ健康科学課程	20	－	80
芸術文化課程	20	－	80
理学部			
数学科	50	－	200
物理学科	50	－	200
化学科	52	－	208
生物学科	43	－	172
地球科学科	30	－	120
医学部			
医学科	110	2年次 5	660
看護学科	60	3年次 10	260
工学部			
機械工学科	90	－	360
電気電子工学科	80	－	320
環境建設工学科	90	－	360
機能材料工学科	70	－	280
応用化学科	90	－	360
情報工学科	80	－	320
各学科共通	－	3年次 10	20
農学部			
生物資源学科	170	3年次 10	700
		3年次	
計	1,790	2年次 5 3年次80	7,540

平成28年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の理由
愛媛大学				
社会共創学部				学部の設置（設置申請）
産業マネジメント学科	70	0	280	
産業イノベーション学科	25	0	100	
環境デザイン学科	35	0	140	
地域資源マネジメント学科	50	0	200	
法文学部				
人文社会学科	365	3年次 30	1520	学科の設置（届出）
昼間主コース	275	10	1120	
夜間主コース	90	20	400	
教育学部				
学校教育教員養成課程	140	－	560	定員変更（40）
特別支援教育教員養成課程	20	－	80	
総合人間形成課程	0	－	0	平成28年4月学生募集停止
スポーツ健康科学課程	0	－	0	平成28年4月学生募集停止
芸術文化課程	0	－	0	平成28年4月学生募集停止
理学部				
数学科	50	－	200	
物理学科	50	－	200	
化学科	52	－	208	
生物学科	43	－	172	
地球科学科	30	－	120	
医学部				
医学科	110	2年次 5	645	
看護学科	60	3年次 10	260	
工学部				
機械工学科	90	－	360	
電気電子工学科	80	－	320	
環境建設工学科	90	－	360	
機能材料工学科	70	－	280	
応用化学科	90	－	360	
情報工学科	80	－	320	
各学科共通	－	3年次 10	20	
農学部				
食料生産学科	70	3年次 5	290	学科の設置（届出）
生命機能学科	45	3年次 2	184	学科の設置（届出）
生物環境学科	55	3年次 3	226	学科の設置（届出）
計	1,770	2年次 5 3年次60	7,405	

平成27年度	入学定員	編入学定員	収容定員
愛媛大学大学院			
法文学研究科			
総合法政策専攻（M）	15	－	30
人文科学専攻（M）	10	－	20
教育学研究科			
学校教育専攻（M）	5	－	10
特別支援教育専攻（M）	11	－	16
教科教育専攻（M）	30	－	60
学校臨床心理専攻（M）	9	－	18
医学系研究科			
医学専攻（D）	30	－	120
看護学専攻（M）	16	－	32
理工学研究科			
生産環境工学専攻（M）	60	－	120
物質生命工学専攻（M）	57	－	114
電子情報工学専攻（M）	57	－	114
数理物質科学専攻（M）	40	－	80
環境機能科学専攻（M）	26	－	52
生産環境工学専攻（D）	6	－	18
物質生命工学専攻（D）	5	－	15
電子情報工学専攻（D）	4	－	12
数理物質科学専攻（D）	4	－	12
環境機能科学専攻（D）	4	－	12
農学研究科			
生物資源学専攻（M）	72	－	144
連合農学研究科			
生物資源生産学専攻（D）	9	－	27
生物資源利用学専攻（D）	4	－	12
生物環境保全学専攻（D）	4	－	12
計	478	－	1050

平成28年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の理由
愛媛大学大学院				
法文学研究科				
総合法政策専攻（M）	15	－	30	
人文科学専攻（M）	10	－	20	
教育学研究科				
教育実践高度化専攻（M）	15	－	30	専攻の設置（設置申請）
特別支援教育専攻（M）	11	－	16	
教科教育専攻（M）	20	－	40	定員変更（△10）
学校臨床心理専攻（M）	9	－	18	
医学系研究科				
医学専攻（D）	30	－	120	
看護学専攻（M）	16	－	32	
理工学研究科				
生産環境工学専攻（M）	60	－	120	
物質生命工学専攻（M）	57	－	114	
電子情報工学専攻（M）	57	－	114	
数理物質科学専攻（M）	40	－	80	
環境機能科学専攻（M）	26	－	52	
生産環境工学専攻（D）	6	－	18	
物質生命工学専攻（D）	5	－	15	
電子情報工学専攻（D）	4	－	12	
数理物質科学専攻（D）	4	－	12	
環境機能科学専攻（D）	4	－	12	
農学研究科				
食料生産学専攻（M）	26	－	52	専攻の設置（届出）
生命機能学専攻（M）	23	－	46	専攻の設置（届出）
生物環境学専攻（M）	23	－	46	専攻の設置（届出）
連合農学研究科				
生物資源生産学専攻（D）	9	－	27	
生物資源利用学専攻（D）	4	－	12	
生物環境保全学専攻（D）	4	－	12	
計	478	－	1050	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通教育科目	初年次科目		新入生セミナーA	1①～②	2			○			8	6	1			兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			新入生セミナーB	1①～②	2			○			1					兼6	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			こころと健康	1①～②	2			○								兼9	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			スポーツ	1①～②	1					○						兼16	
			小計（4科目）	－	7	0	0	－			8	6	1	0	0	兼33	－
	基礎科目		英語Ⅰ	1①	1				○							兼10	
			英語Ⅱ	1②	1				○							兼11	
			英語Ⅲ	1③	1				○							兼9	
			英語Ⅳ	1④	1				○							兼9	
			情報リテラシー入門Ⅰ	1①	1			○								兼12	
			情報リテラシー入門Ⅱ	1②	1			○								兼12	
			社会力入門	1④	1			○								兼3	オムニバス
			科学技術リテラシー入門	1③	1			○								兼5	
			愛媛学	1①	1			○								兼5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			小計（9科目）	－	9	0	0	－			0	0	0	0	0	兼37	－
	教養科目	主題探究型科目	環境を考える	1③④2①②		1		○								兼17	
			倫理と思想を考える	1③④2①②		1		○								兼2	
			歴史を考える	1③④2①②		1		○								兼6	
			ことばの世界	1③④2①②		1		○								兼7	
			芸術の世界	1③④2①②		1		○								兼8	
			地域と世界	1③④2①②		1		○								兼5	
			社会のしくみを考える	1③④2①②		1		○			2					兼6	
			現代社会の諸問題	1③④2①②		1		○			2	1				兼17	
			現代と科学技術	1③④2①②		1		○								兼16	
			自然のしくみ	1③④2①②		1		○								兼9	
			生命の不思議	1③④2①②		1		○								兼11	
			小計（11科目）	－	0	11	0	－			4	1	0	0	0	兼99	－
		学問分野別科目 総合分野	環境学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			人間科学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			生活科学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
		人文学分野	哲学入門	1①②③④2①②		1		○								兼2	
			文学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
			言語学入門	1①②③④2①②		1		○								兼2	
			歴史学入門	1①②③④2①②		1		○			1					兼2	
			考古学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
			地理学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
		社会科学分野	法学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			政策科学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
			経済学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			社会学入門	1①②③④2①②		1		○								兼2	
			心理学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			日本国憲法	1③～④		2		○								兼3	
		自然科学分野	数学入門	1①②③④2①②		1		○								兼4	
			物理学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			化学入門	1①②③④2①②		1		○								兼2	
			生物学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
			地学入門	1①②③④2①②		1		○								兼2	
			工学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			農学入門	1①②③④2①②		1		○								兼11	
		小計（22科目）		－	0	23	0	－			1	0	0	0	0	兼55	－
		初修外国語	初級ドイツ語Ⅰ	1①		1			○							兼3	
			初級ドイツ語Ⅱ	1②		1			○							兼3	
			初級ドイツ語Ⅲ	1③		1			○							兼3	
			初級ドイツ語Ⅳ	1④		1			○							兼3	
			初級フランス語Ⅰ	1①		1			○							兼3	
			初級フランス語Ⅱ	1②		1			○							兼3	
			初級フランス語Ⅲ	1③		1			○							兼2	
			初級フランス語Ⅳ	1④		1			○							兼2	
			初級中国語Ⅰ	1①		1			○							兼5	
			初級中国語Ⅱ	1②		1			○							兼5	
			初級中国語Ⅲ	1③		1			○							兼5	
			初級中国語Ⅳ	1④		1			○							兼5	
			初級朝鮮語Ⅰ	1①		1			○							兼2	
			初級朝鮮語Ⅱ	1②		1			○							兼2	
			初級朝鮮語Ⅲ	1③		1			○							兼2	
			初級朝鮮語Ⅳ	1④		1			○							兼2	
			初級フィリピノ語Ⅰ	1①		1			○							兼1	
			初級フィリピノ語Ⅱ	1②		1			○							兼1	
			初級フィリピノ語Ⅲ	1③		1			○							兼1	
			初級フィリピノ語Ⅳ	1④		1			○							兼1	
			小計（20科目）	－	0	20	0	－			0	0	0	0	0	兼14	－
		高年次教養科目	文系主題科目	2③～④		2		○			1					兼4	
			理系主題科目	2③～④		2		○								兼3	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			1	0	0	0	0	兼7	－

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通教育科目	発展科目	英語プロフェッショナル養成コースに関する科目	Oral Communication	2①～②		2		○								兼1	
			Speaking & Reading Strategies	2①～②		2		○								兼1	
			Effective Presentations	2①～②		2		○								兼1	
			Writing Workshop	2①～②		2		○								兼1	
			Academic Reading	2①～②		2		○								兼1	
			Writing Strategies	2③～④		2		○								兼1	
			Discussion Skills	2③～④		2		○								兼1	
			English For Academic Research	2①～②		2		○								兼1	
			Business English	2③～④		2		○								兼1	
			Introducing Japanese Culture in English	2①～②		2		○								兼1	
			Oral Performance	2③～④		2		○								兼1	
			Introductory Interpretation	2①～②		2		○								兼1	
			Studying English Abroad Ⅰ	1①～②		2		○								兼1	
			Studying English Abroad Ⅱ	1③～④		2		○								兼1	
			小計（14科目）	－	0	28	0		－		0	0	0	0	0	兼10	－
		愛媛大学リーダーズ・スクールに関する科目	愛媛大学リーダーズ・スクール	1①～②		2		○								兼3	
			グローバル・リーダーシップⅠ	1③④		1			○							兼1	
			グローバル・リーダーシップⅡ	1③④		1			○							兼1	
			小計（3科目）	－	0	4	0		－		0	0	0	0	0	兼3	－
		サーバント・リーダー養成に関する科目	地域未来創成入門	1①②		1		○								兼3	
			カルチャーシェアリング	1①②		1		○								兼3	
			ベーシック国内サービスラーニング	1①～②		4			○							兼3	
			アドバンスド国内サービスラーニング	1①～②		4			○							兼3	
			ベーシック海外サービスラーニング	1③～④		4			○							兼3	
			アドバンスド海外サービスラーニング	1③～④		4			○							兼3	
			小計（6科目）	－	0	18	0		－		0	0	0	0	0	兼3	－
		環境ＥＳＤ指導者養成講座に関する科目	持続可能な社会づくり（ＥＳＤ）	1①～②			2	○								兼1	
			環境ＥＳＤ指導者養成講座Ⅰ	1③～④			4	○								兼1	
			環境ＥＳＤ指導者養成講座Ⅱ	2①～②			4	○								兼1	
			環境ＥＳＤ指導者養成演習Ⅰ	2③～④			2		○							兼1	
			環境ＥＳＤ指導者養成演習Ⅱ	2③～④			2		○							兼1	
			小計（5科目）	－	0	0	14		－		0	0	0	0	0	兼1	－
		スキルアップ科目	英語Ｓ１	1①～②			2	○								兼1	
			英語Ｓ２	1③～④			2	○								兼1	
			英語Ｓ３	2①～②			2	○								兼7	
			ライフスポーツ	2①～②③～④			1			○						兼2	
			小計（4科目）	－	0	0	7		－		0	0	0	0	0	兼10	－
		食育士プログラムに関する科目	食育入門	1③④			1	○								兼1	
			食育総論	2①～②			2	○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	0	3		－		0	0	0	0	0	兼6	－
		防災エキスパートに関する科目	環境防災学	1①～②			2	○								兼1	
			小計（１科目）	－	0	0	2		－		0	0	0	0	0	兼1	－
		教員免許に関する科目	スポーツと教育	1③～④			1			○						兼9	
			小計（1科目）	－	0	0	1		－		0	0	0	0	0	兼9	－
		自律学習プログラムに関する科目	知の最前線に学ぶ	2③～④			1			○						兼3	
			プロジェクト学習	2③～④			2			○						兼3	
			小計（2科目）	－	0	0	3		－		0	0	0	0	0	兼3	－
	留学生対象科目	日本語科目	アカデミックジャパニーズ１	1①			1		○							兼1	
			アカデミックジャパニーズ２	1②			1		○							兼1	
			アカデミックジャパニーズ３	1③			1		○							兼2	
			アカデミックジャパニーズ４	1④			1		○							兼2	
			日本語Ａ１	1①～②			2		○							兼2	
			日本語Ａ２	1③～④			2		○							兼2	
			日本語Ｂ１	1①～②			2		○							兼2	
			日本語Ｂ２	1③～④			2		○							兼2	
			日本語口頭表現Ｃ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語口頭表現Ｃ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｃ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｃ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語口頭表現Ｄ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語口頭表現Ｄ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｄ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｄ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語口頭表現Ｅ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語口頭表現Ｅ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｅ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｅ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語総合Ｅ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語総合Ｅ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語漢字Ａ１	1①～②			2		○							兼1	
			日本語漢字Ａ２	1③～④			2		○							兼1	
			日本語漢字表記Ｂ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語漢字表記Ｂ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語漢字語彙Ｂ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語漢字語彙Ｂ２	1③④			1		○							兼1	
			小計（28科目）	－	0	0	34		－		0	0	0	0	0	兼6	－
		日本事情に関する科目	日本事情Ａ１	1①～②			2	○								兼1	
			日本事情Ａ２	1③～④			2	○								兼1	
			日本事情Ｂ１	1①～②			2	○								兼2	
			日本事情Ｂ２	1③～④			2	○								兼1	
			小計（4科目）	－	0	0	8		－		0	0	0	0	0	兼4	－

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門教育科目	基礎力育成科目群		社会共創学概論	1③	2			○								兼5	オムニバス
			地域調査方法入門	1③	2			○			1	1				兼5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			経営入門	1②	2			○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			サーバントリーダーシップ入門	1①	2			○								兼4 専任補充予定	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			小計（4科目）	－	8	0	0	－			2	2	0	0	0	兼9	－
	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	フィールドワーク入門	1③	2			○			1	1				兼4 兼任補充予定	オムニバス
			フィールド基礎実習	1③～④	1					○	1	2				兼5	共同
			フィールド実習	2②	2					○	3	1				兼8	共同
			プロジェクト基礎演習	2③	2				○		8	5	1				共同
			プロジェクト実践演習	3②	2				○		8	5	1				共同
			プロジェクト応用演習	3③	2				○		8	5	1				共同
			海外フィールド実習	3②		6				○						兼5 兼任補充予定	共同・集中
		インターンシップ科目	インターンシップ入門	2①②	2					○	2	1				兼5	共同・集中
			海外インターンシップ	2②3②		2				○		2				兼4	共同・集中
		実践力育成発展科目	インターンシップ実践	3①②③④		2				○	1	1					共同・集中
			初年次プロジェクト演習	1①～②	2				○		2	2	1				共同
			基礎データ処理	1①②③④	2				○		3	2				兼1	共同・集中
			社会調査Ⅰ	2①～②	2				○		3	4	1			兼1	共同
			社会調査Ⅱ	2③～④		2			○		2	1	1			兼1	共同
		小計（14科目）		－	19	12	0	－			8	6	1	0	0	兼21	－
	課題解決思考力育成科目群		質的データの収集と分析	2①		2		○								兼4	オムニバス
			地域経済学	2①	2			○				1					
			地域産業概論	1④		2		○								兼10	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			産業イノベーション論	2②		2		○								兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			持続可能性科学	1④	2			○								兼1	
			社会心理学	1③		2		○								兼1	
			統計学	2②		2		○								兼1	
			地域社会論	1③		2		○								兼1	
			小計（8科目）	－	4	12	0	－			0	1	0	0	0	兼15	－
	専門力育成科目群	学科科目	経済学概論	1①	2			○			2						
			企業システム論	1③	2			○				1					
			マーケティング概論	1④	2			○				1					
			小計（3科目）	－	6	0	0	－			2	2	0	0	0	0	－
		履修コース科目	ミクロ経済学Ⅰ	1②		2		○			1						
			ミクロ経済学Ⅱ	1④		2		○			1						
			数理的思考	2①		2		○			1						
			地域産業論	2①～②		2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			情報産業論	2③		2		○			1						
			情報経済論	3②		2		○			1						
			情報処理論	1③		2		○								兼1	
			プログラミング	1④		2			○							兼1	
			数理経済学	3③		2		○								兼任補充予定	
			中小企業論	2①		2		○				1					
			日本経済史	1④		2		○			1						
			日本経営史	3①		2		○			1						
			産業立地論	3③		2		○				1					
			地域・中小企業家論	2③～④		2		○			1					兼1	共同
			ビジネスプランニング	3①②③④		2		○				1					集中
			サービス・マーケティング論	2③		2		○				1					
			流通論	2②		2		○					1				
			地域商業論	3③		2		○					1				
			マーケティング・リサーチ	2①		2		○				1					
			消費者行動論	2④		2		○				1					
			簿記原理	1③～④		4		○			1						
			会計学原理Ⅰ	2②		2		○			1						
			会計学原理Ⅱ	3①		2		○			1						隔年
			原価計算論	2③～④		4		○			1						
			意思決定会計	3①		2		○			1						
			管理会計論	3①②③④		4		○			1						隔年・集中
			ビジネスファイナンス	2④		2		○				1					
			組織デザイン論	1④		2		○			1						
			戦略的経営	2③		2		○			1						
			生産管理論	2②		2		○			1						
			経営工学	3④		2		○			1						
			経営情報システム論Ⅰ	2③		2		○				1					
			経営情報システム論Ⅱ	3④		2		○				1					
			人事労務管理論	2①		2		○				1					
			キャリアデザイン論	3②		2		○				1					
			小計（35科目）	－	0	76	0	－			8	7	1	0	0	兼2	－

科目区分				授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	他学科科目	住民参加と合意形成	3①		2		○								兼2	オムニバス
				社会資本の整備と運用	3②		2		○								兼1	
				地域防災実践学	3②		2		○								兼1	
				地域活性化論	2②		2		○								兼1	集中
				観光地形成論	3③		2		○								兼1	
				観光文化論	3④		2		○								兼1	
				農業起業論	3①		2		○								兼1	
				農林漁業団体論	2③		2		○								兼1	
				ソフトツーリズム論	4②		2		○								兼1	
				観光コミュニケーション論	2④		2		○								兼1	
			他学部科目	財政学Ⅰ	2③		2		○								兼1	
				財政学Ⅱ	2④		2		○								兼1	
				観光経済論	2④		2		○								兼1	隔年
				観光まちづくり論	2③		2		○								兼1	隔年
				金融論	2②		2		○								兼1	隔年
				民法総論	2①		2		○								兼1	
				企業法政策（ファイナンス）	2①		2		○								兼1	
				企業法政策（ガバナンス）	2②		2		○								兼1	
				競争法政策	3①		2		○								兼1	
				知的財産法	3②		2		○								兼1	隔年
				労働法	2③		2		○								兼1	
				小計（21科目）	－	0	42	0	－			0	0	0	0	0	兼15	－
	学位認定科目群			社会共創演習Ⅰ	3①	1				○		8	5	1				共同
				社会共創演習Ⅱ	4④	1				○		8	5	1				共同
				自由課題研究	3通		4			○		1	2					共同
				卒業研究	4通		4			○		8	5	1				共同
				小計（4科目）	－	2	8	0	－			8	6	1	0	0	0	－
合計（227科目）					－	55	258	72	－			8	7	1	0	0	兼253	－

学位又は称号	学士（社会共創学）	学位又は学科の分野	学際領域

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
【産業マネジメントコース】 **共通教育科目　31単位以上** ・『初年次科目』必修7単位 ・『基礎科目』必修9単位 ・『教養科目』主題探究型科目から4単位以上、学問分野別科目から7単位以上を含む15単位以上 **専門教育科目　93単位以上** ・『基礎力育成科目群』必修8単位 ・『実践力育成科目群』フィールドワーク科目　必修11単位 インターンシップ科目　必修2単位 実践力育成発展科目「初年次プロジェクト演習」「基礎データ処理」「社会調査I」必修6単位 ・『課題解決思考力育成科目群』「地域経済学」「持続可能性科学」必修4単位 上記以外から2単位以上 ・『専門力育成科目群』学科科目「経済学概論」「企業システム論」「マーケティング概論」必修6単位 履修コース科目「ミクロ経済学Ⅰ」「数理的思考」「地域産業論」必修6単位 「情報産業論」「中小企業論」「日本経済史」「産業立地論」から4単位以上 上記以外及び他学科科目、他学部科目から30単位以上 （ただし、他学科科目、他学部科目で8単位を超える分については専門力育成科目群の単位としては認めない） ・『学位認定科目群』「社会共創演習Ⅰ」「社会共創演習Ⅱ」必修2単位 「自由課題研究」「卒業研究」から4単位以上 ・上記のほか、他大学、他学部、他学科科目等から8単位以上 **合計　124単位以上**	１学年の学期区分	４期
	１学期の授業期間	８週
	１時限の授業時間	90分

【事業創造コース】
共通教育科目　31単位以上
・『初年次科目』必修7単位
・『基礎科目』必修9単位
・『教養科目』主題探究型科目から4単位以上、学問分野別科目から7単位以上を含む15単位以上
専門教育科目　93単位以上
・『基礎力育成科目群』必修8単位
・『実践力育成科目群』フィールドワーク科目　必修11単位
インターンシップ科目　必修2単位
実践力育成発展科目「初年次プロジェクト演習」「基礎データ処理」「社会調査I」必修6単位
・『課題解決思考力育成科目群』「地域経済学」「持続可能性科学」必修4単位
上記以外から2単位以上
・『専門力育成科目群』学科科目「経済学概論」「企業システム論」「マーケティング概論」必修6単位
履修コース科目「地域・中小企業家論」「組織デザイン論」「生産管理論」必修6単位
「ビジネスプランニング」「会計学原理Ⅰ」「意思決定会計」
「ビジネスファイナンス」から4単位以上
上記以外及び他学科科目、他学部科目から30単位以上
（ただし、他学科科目、他学部科目で8単位を超える分については専門力育成科目群の単位としては認めない）
・『学位認定科目群』「社会共創演習Ⅰ」「社会共創演習Ⅱ」必修2単位
「自由課題研究」「卒業研究」から4単位以上
・上記のほか、他大学、他学部、他学科科目等から8単位以上

合計　124単位以上

履修登録上限単位数　48単位（１学年あたり）

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（産業イノベーション学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通教育科目	教養科目	初年次科目	新入生セミナーA	1①～②	2			○			4	3				兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			新入生セミナーB	1①～②	2			○			1	1				兼5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			こころと健康	1①～②	2			○								兼9	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			スポーツ	1①～②	1					○						兼16	
			小計（4科目）	－	7	0	0	－			4	3	0	0	0	兼32	－
		基礎科目	英語Ⅰ	1①	1				○							兼10	
			英語Ⅱ	1②	1				○							兼11	
			英語Ⅲ	1③	1				○							兼9	
			英語Ⅳ	1④	1				○							兼9	
			情報リテラシー入門Ⅰ	1①	1			○								兼12	
			情報リテラシー入門Ⅱ	1②	1			○								兼12	
			社会力入門	1④	1			○								兼3	オムニバス
			科学技術リテラシー入門	1③	1			○								兼5	
			愛媛学	1①	1			○								兼5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			小計（9科目）	－	9	0	0	－			0	0	0	0	0	兼37	－
		主題探究型科目	環境を考える	1③④2①②		1		○								兼17	
			倫理と思想を考える	1③④2①②		1		○								兼2	
			歴史を考える	1③④2①②		1		○								兼6	
			ことばの世界	1③④2①②		1		○								兼7	
			芸術の世界	1③④2①②		1		○								兼8	
			地域と世界	1③④2①②		1		○								兼5	
			社会のしくみを考える	1③④2①②		1		○								兼8	
			現代社会の諸問題	1③④2①②		1		○								兼20	
			現代と科学技術	1③④2①②		1		○								兼16	
			自然のしくみ	1③④2①②		1		○								兼9	
			生命の不思議	1③④2①②		1		○								兼11	
			小計（11科目）	－	0	11	0	－			0	0	0	0	0	兼104	－
		学問分野別科目 総合分野	環境学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			人間科学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			生活科学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
		人文学分野	哲学入門	1①②③④2①②		1		○								兼2	
			文学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
			言語学入門	1①②③④2①②		1		○								兼2	
			歴史学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
			考古学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
			地理学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
		社会科学分野	法学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			政策科学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
			経済学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			社会学入門	1①②③④2①②		1		○								兼2	
			心理学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			日本国憲法	1③～④		2		○								兼3	
		自然科学分野	数学入門	1①②③④2①②		1		○								兼4	
			物理学入門	1①②③④2①②		1		○			1						
			化学入門	1①②③④2①②		1		○								兼2	
			生物学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
			地学入門	1①②③④2①②		1		○								兼2	
			工学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			農学入門	1①②③④2①②		1		○								兼11	
		小計（22科目）		－	0	23	0	－			1	0	0	0	0	兼55	－
		初修外国語	初級ドイツ語Ⅰ	1①		1			○							兼3	
			初級ドイツ語Ⅱ	1②		1			○							兼3	
			初級ドイツ語Ⅲ	1③		1			○							兼3	
			初級ドイツ語Ⅳ	1④		1			○							兼3	
			初級フランス語Ⅰ	1①		1			○							兼3	
			初級フランス語Ⅱ	1②		1			○							兼3	
			初級フランス語Ⅲ	1③		1			○							兼2	
			初級フランス語Ⅳ	1④		1			○							兼2	
			初級中国語Ⅰ	1①		1			○							兼5	
			初級中国語Ⅱ	1②		1			○							兼5	
			初級中国語Ⅲ	1③		1			○							兼5	
			初級中国語Ⅳ	1④		1			○							兼5	
			初級朝鮮語Ⅰ	1①		1			○							兼2	
			初級朝鮮語Ⅱ	1②		1			○							兼2	
			初級朝鮮語Ⅲ	1③		1			○							兼2	
			初級朝鮮語Ⅳ	1④		1			○							兼2	
			初級フィリピノ語Ⅰ	1①		1			○							兼1	
			初級フィリピノ語Ⅱ	1②		1			○							兼1	
			初級フィリピノ語Ⅲ	1③		1			○							兼1	
			初級フィリピノ語Ⅳ	1④		1			○							兼1	
			小計（20科目）	－	0	20	0	－			0	0	0	0	0	兼14	－
		高年次科目	文系主題科目	2③～④		2		○								兼5	
			理系主題科目	2③～④		2		○								兼3	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼8	－

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通教育科目	発展科目	英語プロフェッショナル養成コースに関する科目	Oral Communication	2①～②		2		○								兼1	
			Speaking & Reading Strategies	2①～②		2		○								兼1	
			Effective Presentations	2①～②		2		○								兼1	
			Writing Workshop	2①～②		2		○								兼1	
			Academic Reading	2①～②		2		○								兼1	
			Writing Strategies	2③～④		2		○								兼1	
			Discussion Skills	2③～④		2		○								兼1	
			English For Academic Research	2①～②		2		○								兼1	
			Business English	2③～④		2		○								兼1	
			Introducing Japanese Culture in English	2①～②		2		○								兼1	
			Oral Performance	2③～④		2		○								兼1	
			Introductory Interpretation	2①～②		2		○								兼1	
			Studying English Abroad Ⅰ	1①～②		2		○								兼1	
			Studying English Abroad Ⅱ	1③～④		2		○								兼1	
			小計（14科目）	－	0	28	0	－			0	0	0	0	0	兼10	－
		愛媛大学リーダーズ・スクールに関する科目	愛媛大学リーダーズ・スクール	1①～②		2		○								兼3	
			グローバル・リーダーシップⅠ	1③④		1			○							兼1	
			グローバル・リーダーシップⅡ	1③④		1			○							兼1	
			小計（3科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼3	－
		サーバント・リーダー養成に関する科目	地域未来創成入門	1①②		1		○								兼3	
			カルチャーシェアリング	1①②		1		○								兼3	
			ベーシック国内サービスラーニング	1①～②		4			○							兼3	
			アドバンスド国内サービスラーニング	1①～②		4			○							兼3	
			ベーシック海外サービスラーニング	1③～④		4			○							兼3	
			アドバンスド海外サービスラーニング	1③～④		4			○							兼3	
			小計（6科目）	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	兼3	－
		環境ＥＳＤ指導者養成講座に関する科目	持続可能な社会づくり（ＥＳＤ）	1①～②			2	○								兼1	
			環境ＥＳＤ指導者養成講座Ⅰ	1③～④			4	○								兼1	
			環境ＥＳＤ指導者養成講座Ⅱ	2①～②			4	○								兼1	
			環境ＥＳＤ指導者養成演習Ⅰ	2③～④			2		○							兼1	
			環境ＥＳＤ指導者養成演習Ⅱ	2③～④			2		○							兼1	
			小計（5科目）	－	0	0	14	－			0	0	0	0	0	兼1	－
		スキルアップ科目	英語Ｓ１	1①～②			2	○								兼1	
			英語Ｓ２	1③～④			2	○								兼1	
			英語Ｓ３	2①～②			2	○								兼7	
			ライフスポーツ	2①～②③～④			1			○						兼2	
			小計（4科目）	－	0	0	7	－			0	0	0	0	0	兼10	－
		食育士プログラムに関する科目	食育入門	1③④			1	○								兼1	
			食育総論	2①～②			2	○			1					兼5	
			小計（2科目）	－	0	0	3	－			1	0	0	0	0	兼5	－
		防災スキルパートに関する科目	環境防災学	1①～②			2	○								兼1	
			小計（１科目）	－	0	0	2	－			0	0	0	0	0	兼1	－
		教員免許に関する科目	スポーツと教育	1③～④			1			○						兼9	
			小計（1科目）	－	0	0	1	－			0	0	0	0	0	兼9	－
		自律学習プログラムに関する科目	知の最前線に学ぶ	2③～④			1			○						兼3	
			プロジェクト学習	2③～④			2			○						兼3	
			小計（2科目）	－	0	0	3	－			0	0	0	0	0	兼3	－
	留学生対象科目	日本語科目	アカデミックジャパニーズ１	1①			1		○							兼1	
			アカデミックジャパニーズ２	1②			1		○							兼1	
			アカデミックジャパニーズ３	1③			1		○							兼2	
			アカデミックジャパニーズ４	1④			1		○							兼2	
			日本語Ａ１	1①～②			2		○							兼2	
			日本語Ａ２	1③～④			2		○							兼2	
			日本語Ｂ１	1①～②			2		○							兼2	
			日本語Ｂ２	1③～④			2		○							兼2	
			日本語口頭表現Ｃ1	1①②			1		○							兼1	
			日本語口頭表現Ｃ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｃ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｃ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語口頭表現Ｄ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語口頭表現Ｄ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｄ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｄ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語口頭表現Ｅ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語口頭表現Ｅ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｅ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｅ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語総合Ｅ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語総合Ｅ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語漢字Ａ１	1①～②			2		○							兼1	
			日本語漢字Ａ２	1③～④			2		○							兼1	
			日本語漢字表記Ｂ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語漢字表記Ｂ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語漢字語彙Ｂ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語漢字語彙Ｂ２	1③④			1		○							兼1	
			小計（28科目）	－	0	0	34	－			0	0	0	0	0	兼6	－
		日本事情に関する科目	日本事情Ａ１	1①～②			2	○								兼1	
			日本事情Ａ２	1③～④			2	○								兼1	
			日本事情Ｂ１	1①～②			2	○								兼2	
			日本事情Ｂ２	1③～④			2	○								兼1	
			小計（4科目）	－	0	0	8	－			0	0	0	0	0	兼4	－

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門教育科目	基礎力育成科目群		社会共創学概論	1③	2			○			1					兼4	オムニバス
			地域調査方法入門	1③	2			○			1	1				兼5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			経営入門	1②	2			○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			サーバントリーダーシップ入門	1①	2			○			1					兼3 兼任補充予定	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			小計（4科目）	－	8	0	0	－			1	1	0	0	0	兼11	－
	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	フィールドワーク入門	1③	2			○				1				兼5 兼任補充予定	オムニバス
			フィールド基礎実習	1③～④	1					○		1				兼7	共同
			フィールド実習	2②	2					○		3		1		兼8	共同
			プロジェクト基礎演習	2③	2				○		4	5					共同
			プロジェクト実践演習	3②	2				○		6	3					共同
			プロジェクト応用演習	3③	2				○		5	3		1			共同
			海外フィールド実習	3②		6				○						兼5 兼任補充予定	共同・集中
		インターンシップ科目	インターンシップ入門	2①②	2					○		2				兼6	共同・集中
			海外インターンシップ	2②3②		2				○						兼6	共同・集中
		実践力育成発展科目	インターンシップ実践	3①②③④		2				○	4	4		1			共同・集中
			インターンシップ応用	3③④4①②③④		2				○	5	4					共同・集中
			産業イノベーションセミナーⅠ	2①～②3③～④	2					○	6	5		1			オムニバス・共同
			産業イノベーションセミナーⅡ	2③～④4①～②	2					○	6	5		1			オムニバス・共同
		小計（13科目）		－	17	12	0	－			6	5	0	1	0	兼25	－
	課題解決思考力育成科目群		質的データの収集と分析	2①		2		○			1					兼3	オムニバス
			地域経済学	2①		2		○								兼1	
			産業イノベーション論	2②	2			○			2	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			持続可能性科学	1④	2			○								兼1	
			社会心理学	1③		2		○								兼1	
			統計学	2②		2		○								兼1	
			地域社会論	1③		2		○								兼1	
			小計（7科目）	－	4	10	0	－			2	1	0	0	0	兼6	－
	専門力育成科目群	学科科目	地域産業概論	1④	2			○			5	5					ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			産業技術調査	1②	2					○	6	5		1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）・集中
			海洋生産科学概論	1③	2			○			2	2				兼2	オムニバス
			紙産業概論	1④	2			○			1	2					オムニバス
			ものづくり概論	1④	2			○			2	1					オムニバス
			産業経済論	3②	2			○			4						ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）・集中
			産業文化論	2③	2			○			1						
			小計（7科目）	－	14	0	0	－			6	5	0	1	0	兼2	－
		履修コース科目 海洋生産科学系	水産社会学	2①		2		○			1						
			水産生物環境学	3①		2		○			1						
			水族生理学	2③		2		○				2					オムニバス
			水産経済論	3①		2		○			1					兼1	オムニバス
			養殖学	3①		2		○			1						
			養殖環境保全学	3①		2		○				2					オムニバス
			水産生物学	3①		2		○			1	2					オムニバス
			次世代水産イノベーション論	3①		2		○			1	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）・集中
			海洋生産科学Ⅰ	3①～②		2		○			2	2				兼2	オムニバス
			海洋生産科学Ⅱ	4①～②		2		○			2	2				兼2	オムニバス
			海洋生産科学セミナーⅠ	3①～②		2			○		2	2					共同
			海洋生産科学セミナーⅡ	4①～②		2			○		2	2					共同
			小計（12科目）	－	0	24	0	－			2	2	0	0	0	兼2	－
		履修コース科目 紙産業系	製紙技術論	3①		2		○			1						
			製紙材料論Ⅰ	3①		2		○				1					
			分析化学Ⅰ	3②		2		○			1						
			製紙材料論Ⅱ	3③		2		○				1					
			科学英語Ⅰ	3①～②		2		○			1						
			紙産業セミナーⅠ	3①～②		2			○		2	2					オムニバス
			紙加工技術論	3③		2		○			1						
			製紙化学Ⅰ	3④		2		○				1					
			製紙化学工学	3④		2		○			1						
			科学英語Ⅱ	3③～④		2		○				1					
			紙産業セミナーⅡ	4③～④		2			○		2	2					オムニバス
			紙産業基礎演習	3通		4			○		2	1		1			共同
			工場見学Ⅰ	3通		2				○	2	1		1			オムニバス
			有機化学	3③		2		○			1						
			分析化学Ⅱ	3④		2		○						1			
			製紙化学Ⅱ	4②		2		○			1						
			工場見学Ⅱ	4通		2				○	2	1		1			オムニバス
			科学英語Ⅲ	4①～②		2		○			1						
			科学英語Ⅳ	4③～④		2		○				1					
			小計（19 科目）	－	0	40	0	－			2	2	0	1	0	0	－

科目区分				授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	ものづくり系	微積分	1①		2		○			1						
				線形代数	1②		2		○			1						
				基礎電磁気学	2①		2		○				1					
				工業力学	2①		2		○			1						
				制御工学	3①		2		○				1					
				材料と強度	2②		2		○			1						
				加工学	2④		2		○			1						
				ものづくり実験	3①～②		2				○	1	1				兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
				ものづくり実習	2③～④		2				○	2	1					共同
				ものづくりセミナーⅠ	3①～②		2				○	2	1					共同
				ものづくりセミナーⅡ	3③～④		2				○	2	1					共同
				メカトロニクス学	3②		2		○				1					
				CAD製図	2①～②		2				○	1						
				ものづくり設計	2③		2		○			1						
				工業材料	2③		2		○			1						
				CAE基礎および演習	3③		2			○		1						
				設計工学	4③		2		○			1						
				小計（17科目）	－	0	34	0	－			2	1	0	0	0	兼4	－
			他学科科目	数理的思考	2①		2		○								兼1	
				情報産業論	2③		2		○								兼1	
				情報処理論	1③		2		○								兼1	
				地域・中小企業家論	2③～④		2		○								兼2	共同
				流通論	2②		2		○								兼1	
				マーケティング・リサーチ	2①		2		○								兼1	
				簿記原理	1③～④		4		○								兼1	
				会計学原理Ⅰ	2②		2		○								兼1	
				原価計算論	2③～④		4		○								兼1	
				ビジネスファイナンス	2④		2		○								兼1	
				組織デザイン論	2④		2		○								兼1	
				生産管理論	2②		2		○								兼1	
				経営工学	3④		2		○								兼1	
				人事労務管理論	2①		2		○								兼1	
				技術・環境倫理学	3①		2		○								兼1	集中
				環境修復学	2①		2		○								兼1	
				環境ガバナンス論	2①		2		○								兼任補充予定	
				生物多様性保全学	2②		2		○								兼1	
				環境統計学	2②		2		○								兼1	
				住民参加と合意形成	2①		2		○								兼2	オムニバス
				地域活性化論	2②		2		○								兼1	集中
				地域農林漁業論	2③		2		○								兼3	オムニバス
				農業起業論	4①		2		○								兼1	
				農業構造論	4①		2		○								兼1	
				農林漁業団体論	3③		2		○								兼1	
			他学部科目	水族発生学	3①②③④		2		○								兼1	集中
				水圏動物生理学	3④		2		○								兼1	
				基礎生物化学	2①		2		○								兼1	
				環境化学	2③		2		○								兼1	
				木材化学	4①～②		2		○								兼1	
				木質バイオマス変換利用学	4③		2		○								兼1	
				木質高分子化学	3③～④		2		○								兼1	
				森林資源化学	4①～②		2		○								兼1	
				知的財産法	3②		2		○								兼1	隔年
				技術マネジメント	3①～②		2		○								兼1	
				電気回路	3①～②		2		○								兼1	
				電気電子計測	3③～④		2		○								兼1	
				アナログ電子回路	3③～④		2		○								兼1	
				機械力学	2③～④		2		○								兼1	
				ディジタル電子回路	3①～②		2		○								兼1	
				熱力学	2①～②		2		○								兼1	
				電気機器	3①～②		2		○								兼1	
				船舶工学入門	4①～②		2		○								兼2	オムニバス
				流体力学	3③～④		2		○								兼1	
				小計（44科目）	－	0	92	0	－			0	0	0	0	0	兼41	－
	学位認定科目群			社会共創演習Ⅰ	3①②③④	1				○		6	5		1			共同
				社会共創演習Ⅱ	4①②③④	1				○		6	5		1			共同
				自由課題研究	3通		4			○		2	1					共同
				卒業研究	4通		4			○		6	5		1			共同
				小計（4科目）	－	2	8	0	－			6	5	0	1	0	0	－
合計（265 科目）					－	61	328	72	－			6	5	0	1	0	兼266	－

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考

学位又は称号	学士（社会共創学）	学位又は学科の分野	学際領域

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	4期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分

【海洋生産科学コース】

共通教育科目　31単位以上

・『初年次科目』必修7単位
・『基礎科目』必修9単位
・『教養科目』主題探究型科目から4単位以上、学問分野別科目から7単位以上を含む15単位以上

専門教育科目　93単位以上

・『基礎力育成科目群』必修8単位
・『実践力育成科目群』フィールドワーク科目　必修11単位
インターンシップ科目　必修2単位
実践力育成発展科目「産業イノベーションセミナーⅠ」「産業イノベーションセミナーⅡ」必修4単位
・『課題解決思考力育成科目群』「産業イノベーション論」「持続可能性科学」必修4単位
上記以外から2単位以上
・『専門力育成科目群』学科科目「地域産業概論」「産業技術調査」「海洋生産科学概論」「紙産業概論」「ものづくり概論」「産業経済論」「産業文化論」必修14単位
履修コース科目
（海洋生産科学系）「水産社会学」「水産生物環境学」「水族生理学」「水産経済論」「養殖学」「養殖環境保全学」「水産生物学」「次世代水産イノベーション論」「海洋生産科学Ⅰ」「海洋生産科学Ⅱ」「海洋生産科学セミナーⅠ」「海洋生産科学セミナーⅡ」必修24単位
（他学科・他学部科目）「地域・中小企業家論」「流通論」「マーケティング・リサーチ」「簿記原理」「原価計算論」「組織デザイン論」「生産管理論」「人事労務管理論」から4単位以上
上記4単位以外およびその他の他学科・他学部科目から6単位以上
・『学位認定科目群』「社会共創演習Ⅰ」「社会共創演習Ⅱ」必修2単位
「自由課題研究」「卒業研究」から4単位以上
・上記のほか、他大学、他学部、他学科科目等から8単位以上

合計　124単位以上

【紙産業コース】

共通教育科目　31単位以上

・『初年次科目』必修7単位
・『基礎科目』必修9単位
・『教養科目』主題探究型科目から4単位以上、学問分野別科目から7単位以上を含む15単位以上

専門教育科目　93単位以上

・『基礎力育成科目群』必修8単位
・『実践力育成科目群』フィールドワーク科目　必修11単位
インターンシップ科目　必修2単位
実践力育成発展科目「産業イノベーションセミナーⅠ」「産業イノベーションセミナーⅡ」必修4単位
・『課題解決思考力育成科目群』「産業イノベーション論」「持続可能性科学」必修4単位
上記以外から2単位以上
・『専門力育成科目群』学科科目「地域産業概論」「産業技術調査」「海洋生産科学概論」「紙産業概論」「ものづくり概論」「産業経済論」「産業文化論」必修14単位
履修コース科目
（紙産業系）「製紙技術論」「製紙材料論Ⅰ」「分析化学Ⅰ」「製紙材料論Ⅱ」「科学英語Ⅰ」「紙産業セミナーⅠ」「紙加工技術論」「製紙化学Ⅰ」「製紙化学工学」「科学英語Ⅱ」「紙産業セミナーⅡ」必修22単位
「紙産業基礎演習」「工場見学Ⅰ」「有機化学」「分析化学Ⅱ」「製紙化学Ⅱ」「工場見学Ⅱ」「科学英語Ⅲ」「科学英語Ⅳ」から6単位以上
（他学科・他学部科目）「地域・中小企業家論」「流通論」「マーケティング・リサーチ」「簿記原理」「原価計算論」「組織デザイン論」「生産管理論」「人事労務管理論」から4単位以上
上記4単位以外およびその他の他学科・他学部科目から2単位以上
・『学位認定科目群』「社会共創演習Ⅰ」「社会共創演習Ⅱ」必修2単位
「自由課題研究」「卒業研究」から4単位以上
・上記のほか、他大学、他学部、他学科科目等から8単位以上

合計　124単位以上

【ものづくりコース】

共通教育科目　31単位以上

・「初年次科目」必修7単位
・「基礎科目」必修9単位
・「教養科目」主題探究型科目から4単位以上、学問分野別科目から7単位以上を含む15単位以上

専門教育科目　93単位以上

・『基礎力育成科目群』必修8単位
・『実践力育成科目群』フィールドワーク科目　必修11単位
インターンシップ科目　必修2単位
実践力育成発展科目「産業イノベーションセミナーⅠ」「産業イノベーションセミナーⅡ」必修4単位
・『課題解決思考力育成科目群』「産業イノベーション論」「持続可能性科学」必修4単位
上記以外から2単位以上
・『専門力育成科目群』学科科目「地域産業概論」「産業技術調査」「海洋生産科学概論」「紙産業概論」「ものづくり概論」「産業経済論」「産業文化論」必修14単位
履修コース科目
（ものづくり系）「微積分」「線形代数」「基礎電磁気学」「工業力学」「制御工学」「材料と強度」「加工学」「ものづくり実験」「ものづくり実習」「ものづくりセミナーⅠ」「ものづくりセミナーⅡ」「メカトロニクス学」必修24単位
「CAD製図」「ものづくり設計」「工業材料」「CAE基礎および演習」「設計工学」から4単位以上
（他学科・他学部科目）「地域・中小企業家論」「流通論」「マーケティング・リサーチ」「簿記原理」「原価計算論」「組織デザイン論」「生産管理論」「人事労務管理論」から4単位以上
上記4単位以外およびその他の他学科・他学部科目から2単位以上
・『学位認定科目群』「社会共創演習Ⅰ」「社会共創演習Ⅱ」必修2単位
「自由課題研究」「卒業研究」から4単位以上
・上記のほか、他大学、他学部、他学科科目等から8単位以上

合計　124単位以上

履修登録上限単位数　48単位（1学年あたり）

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通教育科目	初年次科目		新入生セミナーA	1①～②	2			○			4	5		1		兼7 兼任補充予定	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			新入生セミナーB	1①～②	2			○			1	1				兼5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			こころと健康	1①～②	2			○								兼9	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			スポーツ	1①～②	1					○						兼16	
			小計（4科目）	－	7	0	0		－		4	5	0	1	0	兼32	－
	基礎科目		英語Ⅰ	1①	1				○							兼10	
			英語Ⅱ	1②	1				○							兼11	
			英語Ⅲ	1③	1				○							兼9	
			英語Ⅳ	1④	1				○							兼9	
			情報リテラシー入門Ⅰ	1①	1			○				1				兼11	
			情報リテラシー入門Ⅱ	1②	1			○				1				兼11	
			社会力入門	1④	1			○								兼3	オムニバス
			科学技術リテラシー入門	1③	1			○								兼5	
			愛媛学	1①	1			○								兼5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			小計（9科目）	－	9	0	0		－		0	1	0	0	0	兼36	－
	教養科目	主題探究型科目	環境を考える	1③④2①②		1		○								兼17	
			倫理と思想を考える	1③④2①②		1		○								兼2	
			歴史を考える	1③④2①②		1		○								兼6	
			ことばの世界	1③④2①②		1		○								兼7	
			芸術の世界	1③④2①②		1		○								兼8	
			地域と世界	1③④2①②		1		○								兼5	
			社会のしくみを考える	1③④2①②		1		○								兼8	
			現代社会の諸問題	1③④2①②		1		○								兼20	
			現代と科学技術	1③④2①②		1		○								兼16	
			自然のしくみ	1③④2①②		1		○			1					兼8	
			生命の不思議	1③④2①②		1		○								兼11	
			小計（11科目）	－	0	11	0		－		1	0	0	0	0	兼103	－
		学問分野別科目 総合分野	環境学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			人間科学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			生活科学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
		人文学分野	哲学入門	1①②③④2①②		1		○								兼2	
			文学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
			言語学入門	1①②③④2①②		1		○								兼2	
			歴史学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
			考古学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
			地理学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
		社会科学分野	法学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			政策科学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
			経済学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			社会学入門	1①②③④2①②		1		○								兼2	
			心理学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			日本国憲法	1③～④		2		○								兼3	
		自然科学分野	数学入門	1①②③④2①②		1		○								兼4	
			物理学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			化学入門	1①②③④2①②		1		○								兼2	
			生物学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
			地学入門	1①②③④2①②		1		○								兼2	
			工学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			農学入門	1①②③④2①②		1		○								兼11	
		小計（22科目）		－	0	23	0		－		0	0	0	0	0	兼56	－
		初修外国語	初級ドイツ語Ⅰ	1①		1			○							兼3	
			初級ドイツ語Ⅱ	1②		1			○							兼3	
			初級ドイツ語Ⅲ	1③		1			○							兼3	
			初級ドイツ語Ⅳ	1④		1			○							兼3	
			初級フランス語Ⅰ	1①		1			○							兼3	
			初級フランス語Ⅱ	1②		1			○							兼3	
			初級フランス語Ⅲ	1③		1			○							兼2	
			初級フランス語Ⅳ	1④		1			○							兼2	
			初級中国語Ⅰ	1①		1			○							兼5	
			初級中国語Ⅱ	1②		1			○							兼5	
			初級中国語Ⅲ	1③		1			○							兼5	
			初級中国語Ⅳ	1④		1			○							兼5	
			初級朝鮮語Ⅰ	1①		1			○							兼2	
			初級朝鮮語Ⅱ	1②		1			○							兼2	
			初級朝鮮語Ⅲ	1③		1			○							兼2	
			初級朝鮮語Ⅳ	1④		1			○							兼2	
			初級フィリピノ語Ⅰ	1①		1			○							兼1	
			初級フィリピノ語Ⅱ	1②		1			○							兼1	
			初級フィリピノ語Ⅲ	1③		1			○							兼1	
			初級フィリピノ語Ⅳ	1④		1			○							兼1	
			小計（20科目）	－	0	20	0		－		0	0	0	0	0	兼14	－
		教養科目 高年次	文系主題科目	2③～④		2		○								兼5	
			理系主題科目	2③～④		2		○								兼3	
			小計（2科目）	－	0	4	0		－		0	0	0	0	0	兼8	－

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通教育科目	発展科目	英語プロフェッショナル養成コースに関する科目	Oral Communication	2①～②		2		○								兼1	
			Speaking & Reading Strategies	2①～②		2		○								兼1	
			Effective Presentations	2①～②		2		○								兼1	
			Writing Workshop	2①～②		2		○								兼1	
			Academic Reading	2①～②		2		○								兼1	
			Writing Strategies	2③～④		2		○								兼1	
			Discussion Skills	2③～④		2		○								兼1	
			English For Academic Research	2①～②		2		○								兼1	
			Business English	2③～④		2		○								兼1	
			Introducing Japanese Culture in English	2①～②		2		○								兼1	
			Oral Performance	2③～④		2		○								兼1	
			Introductory Interpretation	2①～②		2		○								兼1	
			Studying English Abroad Ⅰ	1①～②		2		○								兼1	
			Studying English Abroad Ⅱ	1③～④		2		○								兼1	
			小計（14科目）	－	0	28	0	－			0	0	0	0	0	兼10	－
		愛媛大学リーダーズ・スクールに関する科目	愛媛大学リーダーズ・スクール	1①～②		2		○								兼3	
			グローバル・リーダーシップⅠ	1③④		1			○							兼1	
			グローバル・リーダーシップⅡ	1③④		1			○							兼1	
			小計（3科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼3	－
		サーバント・リーダー養成に関する科目	地域未来創成入門	1①②		1		○								兼3	
			カルチャーシェアリング	1①②		1		○								兼3	
			ベーシック国内サービスラーニング	1①～②		4			○							兼3	
			アドバンスド国内サービスラーニング	1①～②		4			○							兼3	
			ベーシック海外サービスラーニング	1③～④		4			○							兼3	
			アドバンスド海外サービスラーニング	1③～④		4			○							兼3	
			小計（6科目）	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	兼3	－
		環境ＥＳＤ指導者養成講座に関する科目	持続可能な社会づくり（ＥＳＤ）	1①～②			2	○								兼1	
			環境ＥＳＤ指導者養成講座Ⅰ	1③～④			4	○								兼1	
			環境ＥＳＤ指導者養成講座Ⅱ	2①～②			4	○								兼1	
			環境ＥＳＤ指導者養成演習Ⅰ	2③～④			2		○							兼1	
			環境ＥＳＤ指導者養成演習Ⅱ	2③～④			2		○							兼1	
			小計（5科目）	－	0	0	14	－			0	0	0	0	0	兼1	－
		スキルアップ科目	英語Ｓ１	1①～②			2	○								兼1	
			英語Ｓ２	1③～④			2	○								兼1	
			英語Ｓ３	2①～②			2	○								兼7	
			ライフスポーツ	2①～②③～④			1			○						兼2	
			小計（4科目）	－	0	0	7	－			0	0	0	0	0	兼10	－
		食育士プログラムに関する科目	食育入門	1③④			1	○								兼1	
			食育総論	2①～②			2	○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	0	3	－			0	0	0	0	0	兼6	－
		防災エキスパートに関する科目	環境防災学	1①～②			2	○				1					
			小計（１科目）	－	0	0	2	－			0	1	0	0	0	0	－
		教員免許に関する科目	スポーツと教育	1③～④			1			○						兼9	
			小計（1科目）	－	0	0	1	－			0	0	0	0	0	兼9	－
		自律学習プログラムに関する科目	知の最前線に学ぶ	2③～④			1			○						兼3	
			プロジェクト学習	2③～④			2			○						兼3	
			小計（2科目）	－	0	0	3	－			0	0	0	0	0	兼3	－
	留学生対象科目	日本語科目	アカデミックジャパニーズ１	1①			1		○							兼1	
			アカデミックジャパニーズ２	1②			1		○							兼1	
			アカデミックジャパニーズ３	1③			1		○							兼2	
			アカデミックジャパニーズ４	1④			1		○							兼2	
			日本語Ａ１	1①～②			2		○							兼2	
			日本語Ａ２	1③～④			2		○							兼2	
			日本語Ｂ１	1①～②			2		○							兼2	
			日本語Ｂ２	1③～④			2		○							兼2	
			日本語口頭表現Ｃ1	1①②			1		○							兼1	
			日本語口頭表現Ｃ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｃ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｃ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語口頭表現Ｄ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語口頭表現Ｄ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｄ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｄ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語口頭表現Ｅ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語口頭表現Ｅ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｅ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｅ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語総合Ｅ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語総合Ｅ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語漢字Ａ１	1①～②			2		○							兼1	
			日本語漢字Ａ２	1③～④			2		○							兼1	
			日本語漢字表記Ｂ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語漢字表記Ｂ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語漢字語彙Ｂ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語漢字語彙Ｂ２	1③④			1		○							兼1	
			小計（28科目）	－	0	0	34	－			0	0	0	0	0	兼6	－
		日本事情に関する科目	日本事情Ａ１	1①～②			2	○								兼1	
			日本事情Ａ２	1③～④			2	○								兼1	
			日本事情Ｂ１	1①～②			2	○								兼2	
			日本事情Ｂ２	1③～④			2	○								兼1	
			小計（4科目）	－	0	0	8	－			0	0	0	0	0	兼4	－

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	基礎力育成科目群		社会共創学概論	1③	2			○			1			1		兼3	オムニバス
			地域調査方法入門	1③	2			○				1				兼6	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			経営入門	1②	2			○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			サーバントリーダーシップ入門	1①	2			○								兼4 兼任補充予定	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			小計（4科目）	－	8	0	0	－			1	1	0	1	0	兼10	－
	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	フィールドワーク入門	1③	2			○			1					兼5 兼任補充予定	オムニバス
			フィールド基礎実習	1③～④	1					○	1	1				兼6	共同
			フィールド実習	2②	2					○	1			1		兼10	共同
			プロジェクト基礎演習	2③	2				○		4	5		1		兼任補充予定	共同
			プロジェクト実践演習	3②	2				○		4	5		1		兼任補充予定	共同
			プロジェクト応用演習	3③	2				○		4	5		1		兼任補充予定	共同
			海外フィールド実習	3②		6				○	1	2				兼2 兼任補充予定	共同・集中
		インターンシップ科目	インターンシップ入門	2①②	2					○		1				兼7	共同・集中
			海外インターンシップ	2②3②		2				○	1	1				兼4	共同・集中
		実践力育成発展科目	インターンシップ実践	3②		2				○	2	1				兼任補充予定	共同・集中
			環境デザインフィールド実習Ⅰ	3②		2				○	4	5		1		兼任補充予定	共同・集中
			環境デザインフィールド実習Ⅱ	3③		2				○	4	5		1		兼任補充予定	共同・集中
			国際プレゼンテーション演習	3②		1			○			1					
			環境情報処理演習	2④		1			○			1					
		小計（14科目）		－	13	16	0	－			4	5	0	1	0	兼22	－
	課題解決思考力育成科目群		質的データの収集と分析	2①		2		○				2				兼2	オムニバス
			地域経済学	2①		2		○								兼1	
			地域産業概論	1④		2		○								兼10	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			産業イノベーション論	2②		2		○								兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			持続可能性科学	1④	2			○			1						
			社会心理学	1③	2			○				1					
			地域社会論	1③		2		○								兼1	
			小計（7科目）	－	4	10	0	－			1	2	0	0	0	兼12	－
	専門力育成科目群	学科科目	環境デザイン概論	1④	2			○			4	5		1		兼任補充予定	オムニバス
			環境デザイン課題研究Ⅰ	3③	2					○	4	5		1		兼任補充予定	共同
			環境デザイン課題研究Ⅱ	3④	2					○	4	5		1		兼任補充予定	共同
			環境デザインゼミナールⅠ	4①	1				○		4	5		1		兼任補充予定	共同
			環境デザインゼミナールⅡ	4②	1				○		4	5		1		兼任補充予定	共同
			環境デザインゼミナールⅢ	4③	1				○		4	5		1		兼任補充予定	共同
			環境デザインゼミナールⅣ	4④	1				○		4	5		1		兼任補充予定	共同
			技術・環境倫理学	3①	2			○								兼1	集中
			地球環境学	1③	2			○			1						
			環境デザイン論	2①	2			○			2	1		1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			地域デザイン論	1①	2			○			1						
			統計学	1②	2			○				1					
			微積分	1①		2		○								兼1	
			線形代数	1②		2		○								兼1	
			物理学	1③		2		○				1					
			化学	1④		2		○			1						
			生物学	1①		2		○			1						
			地球科学	1②		2		○			1						
			小計（18科目）	－	20	12	0	－			4	5	0	1	0	兼3	－
		履修コース科目 環境サステナビリティ系	環境修復学	2①		2		○			1						
			環境ガバナンス論	2①		2		○								兼任補充予定	
			環境経済学	3①		2		○				1					
			生物多様性保全学	2②		2		○			1						
			環境マネジメント論	3②		2		○								兼任補充予定	
			環境統計学	2②		2		○				1					
			水域環境保全	3②		2		○			1						
			応用地球科学	3①		2		○			1						
			地理情報システム学	3①		2		○				1					
			自然社会環境学	3②		2		○				1					
			小計（10科目）	－	0	20	0	－			2	2	0	0	0	0	－
		履修コース科目 地域デザイン・防災系	公共ガバナンス論	2①		2		○				1					
			景観デザイン	2③		2		○						1			
			防災マネジメント学	2②		2		○				1					
			住民参加と合意形成	3①		2		○			1	1					オムニバス
			社会資本の整備と運用	2②		2		○				1					
			防災情報社会学	2③		2		○				1					
			地域防災実践学	3②		2		○				1					
			自然災害学	3①		2		○				1					
			国土形成史	1④		2		○			1	1					オムニバス
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			1	3	0	1	0	0	－

科目区分				授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	選択	自由	授業形態 講義	演習	実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考	
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	他学部科目	地球環境学序論	1①		2		○								兼1	
				現代地球科学序論	1④		2		○								兼2	オムニバス
				地質学概論	2①		2		○								兼1	
				鉱物学概論	2①		2		○								兼1	
				岩石学概論	2②		2		○								兼1	
				固体地球物理学概論	2②		2		○								兼2	オムニバス
				地球科学野外実習Ⅰ	2①		2				○	1					兼4	共同・集中
				地球科学野外実習Ⅱ	2③		2				○						兼5	共同・集中
				生物学序論	2①		2		○								兼1	
				現代生物学序論	1③		2		○								兼2	オムニバス
				基礎生物化学	2①		2		○								兼1	
				環境毒性学	3③		2		○								兼1	
				発生学	2②		2		○								兼1	
				分類学	2③		2		○								兼1	
				環境化学	4③～④		2		○								兼1	
				確率・統計	2④		2		○								兼1	
				土木計画学及び同演習	2③		3		○								兼1	※演習
				交通計画	3②		2		○								兼2	オムニバス
				防災工学	3③		2		○								兼3	オムニバス
				都市の環境問題	3④		2		○								兼1	
				都市・地域計画	3③		2		○								兼1	
				国土整備と関連法	3④		2		○								兼1	
				小計（22科目）	－	0	45	0	－			1	0	0	0	0	兼26	－
	学位認定科目群			社会共創演習Ⅰ	3④	1				○		4	5		1		兼任補充予定	共同
				社会共創演習Ⅱ	4④	1				○		4	5		1		兼任補充予定	共同
				自由課題研究	3通		4			○		4	5		1		兼任補充予定	共同
				卒業研究	4通		4			○		4	5		1		兼任補充予定	共同
				小計（4科目）	－	2	8	0	－			4	5	0	1	0	0	－
合計（226科目）					－	63	237	72	－			4	5	0	1	0	兼265	－

学位又は称号	学士（社会共創学）	学位又は学科の分野	学際領域

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	4期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分

【環境サステナビリティコース】

共通教育科目　31単位以上

・『初年次科目』必修7単位
・『基礎科目』必修9単位
・『教養科目』　主題探究型科目から4単位以上、学問分野別科目から7単位以上を含む15単位以上

専門教育科目　93単位以上

・『基礎力育成科目群』必修8単位
・『実践力育成科目群』フィールドワーク科目　必修11単位
インターンシップ科目　必修2単位
実践力育成発展科目「インターンシップ実践」「環境デザインフィールド実習Ⅰ」
「環境デザインフィールド実習Ⅱ」「国際プレゼンテーション演習」
「環境情報処理演習」から6単位以上
・『課題解決思考力育成科目群』「持続可能性科学」「社会心理学」必修4単位
上記以外から2単位以上
・『専門力育成科目群』学科科目「環境デザイン概論」「環境デザイン課題研究I」「環境デザイン課題研究Ⅱ」
「環境デザインゼミナールⅠ」「環境デザインゼミナールⅡ」
「環境デザインゼミナールⅢ」「環境デザインゼミナールⅣ」
「技術・環境倫理学」「地球環境学」「環境デザイン論」「地域デザイン論」
「統計学」必修20単位
「微積分」「線形代数」「物理学」「化学」「生物学」「地球科学」から4単位以上
履修コース科目（環境サステナビリティ系）から16単位以上
（地域デザイン・防災系および他学部科目）から6単位以上
・『学位認定科目群』「社会共創演習Ⅰ」「社会共創演習Ⅱ」必修2単位
「自由課題研究」「卒業研究」から4単位以上
・上記のほか、他大学、他学部、他学科科目等から8単位以上

合計　124単位以上

【地域デザイン・防災コース】

共通教育科目　31単位以上

・『初年次科目』必修7単位
・『基礎科目』必修9単位
・『教養科目』主題探究型科目から4単位以上、学問分野別科目から7単位以上を含む15単位以上

専門教育科目　93単位以上

・『基礎力育成科目群』必修8単位
・『実践力育成科目群』フィールドワーク科目　必修11単位
インターンシップ科目　必修2単位
実践力育成発展科目「インターンシップ実践」「環境デザインフィールド実習Ⅰ」
「環境デザインフィールド実習Ⅱ」「国際プレゼンテーション演習」
「環境情報処理演習」から6単位以上
・『課題解決思考力育成科目群』「持続可能性科学」「社会心理学」必修4単位
上記以外から2単位以上
・『専門力育成科目群』学科科目「環境デザイン概論」「環境デザイン課題研究I」「環境デザイン課題研究Ⅱ」
「環境デザインゼミナールⅠ」「環境デザインゼミナールⅡ」
「環境デザインゼミナールⅢ」「環境デザインゼミナールⅣ」
「技術・環境倫理学」「地球環境学」「環境デザイン論」「地域デザイン論」
「統計学」必修20単位
「微積分」「線形代数」「物理学」「化学」「生物学」「地球科学」から4単位以上
履修コース科目（地域デザイン・防災系）から14単位以上
（環境サステナビリティ系および他学部科目）から8単位以上
・『学位認定科目群』「社会共創演習Ⅰ」「社会共創演習Ⅱ」必修2単位
「自由課題研究」「卒業研究」から4単位以上
・上記のほか、他大学、他学部、他学科科目等から8単位以上

合計　124単位以上

履修登録上限単位数　48単位（１学年あたり）

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通教育科目	教養科目	初年次科目	新入生セミナーA	1①～②	2			○			3	2	1	1		兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			新入生セミナーB	1①～②	2			○			1	1				兼5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			こころと健康	1①～②	2			○			1					兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			スポーツ	1①～②	1					○	3	1				兼12	
			小計（4科目）	－	7	0	0	－			3	3	1	1	0	兼29	－
		基礎科目	英語Ⅰ	1①	1				○							兼10	
			英語Ⅱ	1②	1				○							兼11	
			英語Ⅲ	1③	1				○							兼9	
			英語Ⅳ	1④	1				○							兼9	
			情報リテラシー入門Ⅰ	1①	1			○			1					兼11	
			情報リテラシー入門Ⅱ	1②	1			○			1					兼11	
			社会力入門	1④	1			○								兼3	オムニバス
			科学技術リテラシー入門	1③	1			○								兼5	
			愛媛学	1①	1			○								兼5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			小計（9科目）	－	9	0	0	－			1	0	0	0	0	兼36	－
		主題探究型科目	環境を考える	1③④2①②		1		○								兼17	
			倫理と思想を考える	1③④2①②		1		○								兼2	
			歴史を考える	1③④2①②		1		○								兼6	
			ことばの世界	1③④2①②		1		○								兼7	
			芸術の世界	1③④2①②		1		○								兼8	
			地域と世界	1③④2①②		1		○								兼5	
			社会のしくみを考える	1③④2①②		1		○								兼8	
			現代社会の諸問題	1③④2①②		1		○				1				兼19	
			現代と科学技術	1③④2①②		1		○								兼16	
			自然のしくみ	1③④2①②		1		○								兼9	
			生命の不思議	1③④2①②		1		○								兼11	
			小計（11科目）	－	0	11	0	－			0	1	0	0	0	兼103	－
		学問分野別科目 総合分野	環境学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			人間科学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			生活科学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
		人文学分野	哲学入門	1①②③④2①②		1		○								兼2	
			文学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
			言語学入門	1①②③④2①②		1		○								兼2	
			歴史学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
			考古学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
			地理学入門	1①②③④2①②		1		○			1	1				兼1	
		社会科学分野	法学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			政策科学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
			経済学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			社会学入門	1①②③④2①②		1		○								兼2	
			心理学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			日本国憲法	1③～④		2		○								兼3	
		自然科学分野	数学入門	1①②③④2①②		1		○								兼4	
			物理学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			化学入門	1①②③④2①②		1		○								兼2	
			生物学入門	1①②③④2①②		1		○								兼3	
			地学入門	1①②③④2①②		1		○								兼2	
			工学入門	1①②③④2①②		1		○								兼1	
			農学入門	1①②③④2①②		1		○					1			兼10	
			小計（22科目）	－	0	23	0	－			1	1	1	0	0	兼53	－
		初修外国語	初級ドイツ語Ⅰ	1①		1			○							兼3	
			初級ドイツ語Ⅱ	1②		1			○							兼3	
			初級ドイツ語Ⅲ	1③		1			○							兼3	
			初級ドイツ語Ⅳ	1④		1			○							兼3	
			初級フランス語Ⅰ	1①		1			○							兼3	
			初級フランス語Ⅱ	1②		1			○							兼3	
			初級フランス語Ⅲ	1③		1			○							兼2	
			初級フランス語Ⅳ	1④		1			○							兼2	
			初級中国語Ⅰ	1①		1			○							兼5	
			初級中国語Ⅱ	1②		1			○							兼5	
			初級中国語Ⅲ	1③		1			○							兼5	
			初級中国語Ⅳ	1④		1			○							兼5	
			初級朝鮮語Ⅰ	1①		1			○							兼2	
			初級朝鮮語Ⅱ	1②		1			○							兼2	
			初級朝鮮語Ⅲ	1③		1			○							兼2	
			初級朝鮮語Ⅳ	1④		1			○							兼2	
			初級フィリピノ語Ⅰ	1①		1			○							兼1	
			初級フィリピノ語Ⅱ	1②		1			○							兼1	
			初級フィリピノ語Ⅲ	1③		1			○							兼1	
			初級フィリピノ語Ⅳ	1④		1			○							兼1	
			小計（20科目）	－	0	20	0	－			0	0	0	0	0	兼14	－
		高年次教養科目	文系主題科目	2③～④		2		○			1					兼4	
			理系主題科目	2③～④		2		○								兼3	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			1	0	0	0	0	兼7	－

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通教育科目	発展科目	英語プロフェッショナル養成コースに関する科目	Oral Communication	2①～②		2		○								兼1	
			Speaking & Reading Strategies	2①～②		2		○								兼1	
			Effective Presentations	2①～②		2		○								兼1	
			Writing Workshop	2①～②		2		○								兼1	
			Academic Reading	2①～②		2		○								兼1	
			Writing Strategies	2③～④		2		○								兼1	
			Discussion Skills	2③～④		2		○								兼1	
			English For Academic Research	2①～②		2		○								兼1	
			Business English	2③～④		2		○								兼1	
			Introducing Japanese Culture in English	2①～②		2		○								兼1	
			Oral Performance	2③～④		2		○								兼1	
			Introductory Interpretation	2①～②		2		○								兼1	
			Studying English Abroad Ⅰ	1①～②		2		○								兼1	
			Studying English Abroad Ⅱ	1③～④		2		○								兼1	
			小計（14科目）	－	0	28	0	－			0	0	0	0	0	兼10	－
		愛媛大学リーダーズ・スクールに関する科目	愛媛大学リーダーズ・スクール	1①～②		2		○								兼3	
			グローバル・リーダーシップⅠ	1③④		1			○							兼1	
			グローバル・リーダーシップⅡ	1③④		1			○							兼1	
			小計（3科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼3	－
		サーバント・リーダー養成に関する科目	地域未来創成入門	1①②		1		○								兼3	
			カルチャーシェアリング	1①②		1		○								兼3	
			ベーシック国内サービスラーニング	1①～②		4			○							兼3	
			アドバンスド国内サービスラーニング	1①～②		4			○							兼3	
			ベーシック海外サービスラーニング	1③～④		4			○							兼3	
			アドバンスド海外サービスラーニング	1③～④		4			○							兼3	
			小計（6科目）	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	兼3	－
		環境ＥＳＤ指導者養成講座に関する科目	持続可能な社会づくり（ＥＳＤ）	1①～②			2	○								兼1	
			環境ＥＳＤ指導者養成講座Ⅰ	1③～④			4	○								兼1	
			環境ＥＳＤ指導者養成講座Ⅱ	2①～②			4	○								兼1	
			環境ＥＳＤ指導者養成演習Ⅰ	2③～④			2		○							兼1	
			環境ＥＳＤ指導者養成演習Ⅱ	2③～④			2		○							兼1	
			小計（5科目）	－	0	0	14	－			0	0	0	0	0	兼1	－
		スキルアップ科目	英語Ｓ１	1①～②			2	○								兼1	
			英語Ｓ２	1③～④			2	○								兼1	
			英語Ｓ３	2①～②			2	○								兼7	
			ライフスポーツ	2①～②③～④			1			○	1					兼1	
			小計（4科目）	－	0	0	7	－			1	0	0	0	0	兼9	－
		食育士プログラムに関する科目	食育入門	1③④			1	○								兼1	
			食育総論	2①～②			2	○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	0	3	－			0	0	0	0	0	兼6	－
		防災スペシャリストに関する科目	環境防災学	1①～②			2	○								兼1	
			小計（１科目）	－	0	0	2	－			0	0	0	0	0	兼1	－
		教員免許に関する科目	スポーツと教育	1③～④			1			○	2	1				兼6	
			小計（1科目）	－	0	0	1	－			2	1	0	0	0	兼6	－
		自律学習プログラムに関する科目	知の最前線に学ぶ	2③～④			1			○						兼3	
			プロジェクト学習	2③～④			2			○						兼3	
			小計（2科目）	－	0	0	3	－			0	0	0	0	0	兼3	－
	留学生対象科目	日本語科目	アカデミックジャパニーズ１	1①			1		○							兼1	
			アカデミックジャパニーズ２	1②			1		○							兼1	
			アカデミックジャパニーズ３	1③			1		○							兼2	
			アカデミックジャパニーズ４	1④			1		○							兼2	
			日本語Ａ１	1①～②			2		○							兼2	
			日本語Ａ２	1③～④			2		○							兼2	
			日本語Ｂ１	1①～②			2		○							兼2	
			日本語Ｂ２	1③～④			2		○							兼2	
			日本語口頭表現Ｃ1	1①②			1		○							兼1	
			日本語口頭表現Ｃ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｃ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｃ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語口頭表現Ｄ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語口頭表現Ｄ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｄ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｄ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語口頭表現Ｅ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語口頭表現Ｅ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｅ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語読解作文Ｅ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語総合Ｅ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語総合Ｅ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語漢字Ａ１	1①～②			2		○							兼1	
			日本語漢字Ａ２	1③～④			2		○							兼1	
			日本語漢字表記Ｂ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語漢字表記Ｂ２	1③④			1		○							兼1	
			日本語漢字語彙Ｂ１	1①②			1		○							兼1	
			日本語漢字語彙Ｂ２	1③④			1		○							兼1	
			小計（28科目）	－	0	0	34	－			0	0	0	0	0	兼6	－
		日本事情に関する科目	日本事情Ａ１	1①～②			2	○								兼1	
			日本事情Ａ２	1③～④			2	○								兼1	
			日本事情Ｂ１	1①～②			2	○								兼2	
			日本事情Ｂ２	1③～④			2	○								兼1	
			小計（4科目）	－	0	0	8	－			0	0	0	0	0	兼4	－

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門教育科目	基礎力育成科目群		社会共創学概論	1③	2			○				1		1		兼3	オムニバス
			地域調査方法入門	1③	2			○				1		1		兼5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			経営入門	1②	2			○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			サーバントリーダーシップ入門	1①	2			○						1		兼3 兼任補充予定	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			小計（4科目）	－	8	0	0	－			0	1	0	1	0	兼11	－
	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	フィールドワーク入門	1③	2			○				1	1			兼4 兼任補充予定	オムニバス
			フィールド基礎実習	1③～④	1					○	2					兼6	共同
			フィールド実習	2②	2					○	1			1		兼10	共同
			プロジェクト基礎演習	2③	2				○		8	6	1	2			共同
			プロジェクト実践演習	3②	2				○		6	6	1	2			共同
			プロジェクト応用演習	3③	2				○		6	6	1	2			共同
			海外フィールド実習	3②		6				○	1					兼4 兼任補充予定	共同・集中
		インターンシップ科目	インターンシップ入門	2①②	2					○	1	1				兼6	共同・集中
			海外インターンシップ	2②3②		2				○	1					兼5	共同・集中
		実践力育成発展科目	インターンシップ実践	2①②③④		2				○	8	6	1	2			共同・集中
			インターンシップ応用	3②		2				○	1		1	2			共同
			文化資源論Ⅰ	2①		2				○	1	4					共同
			文化資源論Ⅱ	2③		2				○	2	3					共同
			障がい者スポーツ健康実習	2①		1				○	1						集中
			少年期スポーツ健康実践	2③		2			○		1	1					共同・集中
			青年期スポーツ健康実践	3①		2			○		1						集中
			中高齢期スポーツ健康実践	3③		2			○			1					集中
			アスリートスポーツ健康実践	4①		2			○			1					集中
		小計（18科目）		－	13	25	0	－			8	6	1	2	0	兼21	－
	課題解決思考力育成科目群		質的データの収集と分析	2①		2		○				1				兼3	オムニバス
			地域経済学	2①		2		○								兼1	
			地域産業概論	1④		2		○								兼10	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			産業イノベーション論	2②		2		○								兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			持続可能性科学	1④	2			○								兼1	
			社会心理学	1③		2		○								兼1	
			統計学	2②		2		○								兼1	
			地域社会論	1③	2			○				1					
			小計（8科目）	－	4	12	0	－			0	1	0	0	0	兼15	－
	専門力育成科目群	学科科目	地域資源融合論	1①	2			○			2		1				オムニバス
			地域マネジメント論	2①	2			○			2	2		1			オムニバス
			農山漁村論	2①	2			○					1	1		兼1	オムニバス
			地域活性化論	2②		2		○			1						集中
			観光地形成論	2③	2			○				1					
			地域文化論	2②		2		○				1					
			生涯スポーツ概論	2①		2		○			2	1					オムニバス
			地域健康づくり論	2③	2			○			1	1					オムニバス
			身体運動論	2④		2		○				1					
			地域資源融合実習Ⅰ	2①②③④		1				○	4	4		1			共同・集中
			地域資源融合実習Ⅱ	2①②③④		1				○	4	2	1	1			共同・集中
			小計（11科目）	－	10	10	0	－			8	6	1	2	0	兼1	－
		履修コース科目 農山漁村マネジメント系	農山漁村生活技術	1①～④・2①		6			○		1		1	2			共同
			都市農村交流論Ⅰ	1①		1				○			1				集中
			農山漁村情報処理入門	2①		2		○					1				
			地元学	2②		2				○				1			集中
			地域農林漁業論	2③		2		○					1	1		兼1	オムニバス
			農業起業論	3①		2		○						1			
			農業構造論	3①		2		○			1						
			農山漁村課題研究	4通		4				○			1	2			共同
			都市農村交流論Ⅱ	1③～④		2		○					1				
			農林漁業団体論	2③		2		○			1						
			自給地域形成論	3③		2		○						1			
			農林漁家実習	2②		3				○	1		1	2			共同
			農山漁村団体実習	2④・3②		3				○	1		1	2			共同
			農山漁村法人実習	2④・3②		3				○	1		1	2			共同
			農山漁村自治体実習	2④・3②		3				○	1		1	2			共同
			小計（15科目）	－	0	39	0	－			1	0	1	2	0	兼1	－

科目区分				授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	文化資源マネジメント系	文化資源マネジメント論	2①		2		○			2	4					オムニバス
				都市景観論演習Ⅰ	3③		2			○		1						
				観光文化論演習Ⅰ	3③		2			○			1					
				地域構想論演習Ⅰ	3②		2			○			1					
				地域コンテンツ論演習Ⅰ	3②		2			○			1					
				文化遺産論演習Ⅰ	3④		2			○		1	1					オムニバス
				都市景観論演習Ⅱ	4②～③		4			○		1						
				観光文化論演習Ⅱ	4②～③		4			○			1					
				地域構想論演習Ⅱ	4②～③		4			○			1					
				地域コンテンツ論演習Ⅱ	4②～③		4			○			1					
				文化遺産論演習Ⅱ	4②～③		4			○		1	1					共同
				環境文化論	2④		2		○				1					
				都市景観論	2①		2		○			1						
				文化遺産論Ⅰ	2②		2		○				1					
				文化遺産論Ⅱ	3①		2		○			1						
				観光文化論	2④		2		○				1					
				ソフトツーリズム論	3②		2		○				1					
				観光コミュニケーション論	2④		2		○				1					
				国際比較観光論	3②		2		○			1						
				地域づくり論Ⅰ	2②		2		○				1					
				地域づくり論Ⅱ	3①		2		○				1					
				地域構想論	2④		2		○				1					
				地域コンテンツ論	2③		2		○				1					
				小計（23科目）	－	0	56	0	－			2	4	0	0	0	0	－
			スポーツ健康マネジメント系	スポーツ健康生理学	2②		2		○			1						
				スポーツ社会学	2③		2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
				健康医学	2③～④		2		○			1						
				衛生学・公衆衛生学	3①		2		○			1						
				学校保健	3②		2		○								兼1	
				スポーツ健康測定評価学	3①		2		○				1					
				運動学・バイオメカニクス	3③～④		2		○			1						
				スポーツリーダーシップ論	3④		2		○				1					
				救急処置	1②		2			○		1					兼1	共同・集中
				地域スポーツ演習Ⅰ	3通		2			○			1					
				地域スポーツ演習Ⅱ	4通		2			○		1						
				レクリエーション演習	2①		2			○		2	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
				生涯スポーツ演習	2③		2			○		2	1					オムニバス
				スポーツ健康情報処理演習	2④		2			○		1						
				スポーツ健康ICT活用演習	3②		2			○		1						
				アダプテッド・スポーツ演習	3①		2			○		1						
				コミュニティ・イベント演習	3④		2			○		1						
				スポーツプロモーション演習Ⅰ	3③～④		2			○			1					
				スポーツ教育学演習Ⅰ	3③～④		2			○		1						
				スポーツ健康生理学演習Ⅰ	3③～④		2			○		1						
				健康医学演習Ⅰ	3③～④		2			○		1						
				健康運動疫学演習Ⅰ	3③～④		2			○			1					
				スポーツ健康情報マネジメント演習Ⅰ	3③～④		2			○		1						
				スポーツプロモーション演習Ⅱ	4①～②		2			○			1					
				スポーツ教育学演習Ⅱ	4①～②		2			○		1						
				スポーツ健康生理学演習Ⅱ	4①～②		2			○		1						
				健康医学演習Ⅱ	4①～②		2			○		1						
				健康運動疫学演習Ⅱ	4①～②		2			○			1					
				スポーツ健康情報マネジメント演習Ⅱ	4①～②		2			○		1						
				マルチスポーツⅠ	1④		1				○	1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
				マルチスポーツⅡ	2②		1				○	1	1					オムニバス
				スポーツ健康指導法（体つくり運動１）	2①		1				○	1						
				スポーツ健康指導法（体つくり運動２）	2④		1				○	1						
				スポーツ健康指導法（武道）	2③～④		1				○						兼1	
				スポーツ健康指導法（陸上競技）	3①～②		1				○						兼1	
				スポーツ健康指導法（水泳）	3②		1				○		1					
				スポーツ健康指導法（ダンス）	3②		1				○	1						
				スポーツ健康指導法（器械運動）	3③～④		1				○						兼1	
				スポーツ健康指導法（球技１）	3③		1				○		1					
				スポーツ健康指導法（球技２）	3③～④		1				○						兼1	
				小計（40科目）	－	0	69	0	－			5	2	0	0	0	兼6	－
	学位認定科目群			社会共創演習Ⅰ	3④	1				○		6	6	1	2			共同
				社会共創演習Ⅱ	4④	1				○		6	6	1	2			共同
				自由課題研究	3通		4			○		3						共同
				卒業研究	4通		4			○		6	6	1	2			共同
				小計（4科目）	－	2	8	0	－			7	6	1	2	0	0	－
合計（261科目）					－	53	327	72	－			8	6	1	2	0	兼247	－

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考

学位又は称号	学士（社会共創学）	学位又は学科の分野	学際領域

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	4期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分

【農山漁村マネジメントコース】

共通教育科目　31単位以上

・『初年次科目』必修7単位
・『基礎科目』必修9単位
・『教養科目』主題探究型科目から4単位以上、学問分野別科目から7単位以上を含む15単位以上

専門教育科目　93単位以上

・『基礎力育成科目群』必修8単位
・『実践力育成科目群』フィールドワーク科目　必修11単位
インターンシップ科目　必修2単位
実践力育成発展科目「インターンシップ実践」「インターンシップ応用」必修4単位
・『課題解決思考力育成科目群』「持続可能性科学」「地域社会論」必修4単位
上記以外から2単位以上
・『専門力育成科目群』学科科目「地域資源融合論」「地域マネジメント論」「農山漁村論」「観光地形成論」
「地域健康づくり論」必修10単位
「地域活性化論」「地域文化論」「生涯スポーツ概論」「身体運動論」
「地域資源融合実習Ⅰ」「地域資源融合実習Ⅱ」から2単位以上
履修コース科目（農山漁村マネジメント系）
「農山漁村生活技術」「都市農村交流論Ⅰ」「農山漁村情報処理入門」「地元学」「地域農林漁業論」
「農業起業論」「農業構造論」「農山漁村課題研究」　必修21単位
上記以外から15単位以上
・『学位認定科目群』「社会共創演習Ⅰ」「社会共創演習Ⅱ」必修2単位
「自由課題研究」「卒業研究」から4単位以上
・上記のほか、他大学、他学部、他学科科目等から8単位以上

合計　124単位以上

【文化資源マネジメントコース】

共通教育科目　31単位以上

・『初年次科目』必修7単位
・『基礎科目』必修9単位
・『教養科目』主題探究型科目から4単位以上、学問分野別科目から7単位以上を含む15単位以上

専門教育科目　93単位以上

・『基礎力育成科目群』必修8単位
・『実践力育成科目群』フィールドワーク科目　必修11単位
インターンシップ科目　必修2単位
実践力育成発展科目「インターンシップ実践」「文化資源論Ⅰ」「文化資源論Ⅱ」から4単位以上
・『課題解決思考力育成科目群』「持続可能性科学」「地域社会論」必修4単位
上記以外から2単位以上
・『専門力育成科目群』学科科目「地域資源融合論」「地域マネジメント論」「農山漁村論」「観光地形成論」
「地域健康づくり論」必修10単位
「地域活性化論」「地域文化論」「生涯スポーツ概論」「身体運動論」
「地域資源融合実習Ⅰ」「地域資源融合実習Ⅱ」から2単位以上
履修コース科目（文化資源マネジメント系）
「文化資源マネジメント論」必修2単位
「都市景観論演習Ⅰ」「観光文化論演習Ⅰ」「地域構想論演習Ⅰ」
「地域コンテンツ論演習Ⅰ」「文化遺産論演習Ⅰ」から8単位以上
「都市景観論演習Ⅱ」「観光文化論演習Ⅱ」「地域構想論演習Ⅱ」
「地域コンテンツ論演習Ⅱ」「文化遺産論演習Ⅱ」から4単位以上
上記以外から22単位以上
・『学位認定科目群』「社会共創演習Ⅰ」「社会共創演習Ⅱ」必修2単位
「自由課題研究」「卒業研究」から4単位以上
・上記のほか、他大学、他学部、他学科科目等から8単位以上

合計　124単位以上

【スポーツ健康マネジメントコース】

共通教育科目　31単位以上

・『初年次科目』必修7単位
・『基礎科目』必修9単位
・『教養科目』主題探究型科目から4単位以上、学問分野別科目から7単位以上を含む15単位以上

専門教育科目　93単位以上

・『基礎力育成科目群』必修8単位
・『実践力育成科目群』フィールドワーク科目　必修11単位
インターンシップ科目　必修2単位
実践力育成発展科目「インターンシップ実践」「障がい者スポーツ健康実習」
「少年期スポーツ健康実践」「青年期スポーツ健康実践」
「中高齢期スポーツ健康実践」「アスリートスポーツ健康実践」から4単位以上
・『課題解決思考力育成科目群』「持続可能性科学」「地域社会論」必修4単位
上記以外から2単位以上
・『専門力育成科目群』学科科目「地域資源融合論」「地域マネジメント論」「農山漁村論」「観光地形成論」
「地域健康づくり論」必修10単位
「地域活性化論」「地域文化論」「生涯スポーツ概論」「身体運動論」
「地域資源融合実習Ⅰ」「地域資源融合実習Ⅱ」から2単位以上
履修コース科目（スポーツ健康マネジメント系）
「スポーツ健康生理学」「スポーツ社会学」「衛生学・公衆衛生学」「救急処置」
「地域スポーツ演習Ⅰ」「地域スポーツ演習Ⅱ」「レクリエーション演習」
「スポーツ健康情報処理演習」「マルチスポーツⅠ」「マルチスポーツⅡ」　必修18単位
「スポーツプロモーション演習Ⅰ」「スポーツ教育学演習Ⅰ」「スポーツ健康生理学演習Ⅰ」
「健康医学演習Ⅰ」「健康運動疫学演習Ⅰ」「スポーツ健康情報マネジメント演習Ⅰ」から2単位以上
「スポーツプロモーション演習Ⅱ」「スポーツ教育学演習Ⅱ」「スポーツ健康生理学演習Ⅱ」
「健康医学演習Ⅱ」「健康運動疫学演習Ⅱ」「スポーツ健康情報マネジメント演習Ⅱ」から2単位以上
上記以外から14単位以上
・『学位認定科目群』「社会共創演習Ⅰ」「社会共創演習Ⅱ」必修2単位
「自由課題研究」「卒業研究」から4単位以上
・上記のほか、他大学、他学部、他学科科目等から8単位以上

合計　124単位以上

履修登録上限単位数　48単位（１学年あたり）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初年次科目	新入生セミナーA	大学において知的活動の基本である「スタディ・スキル」と、学生生活を支える「ソーシャル・スキル」を習得する。第1回 オリエンテーション・カルト問題対策・大学生活上の規則とマナー、第2回 コミュニケーション1、 第3回 コミュニケーション2、第4回 大学での学び入門、第5回 キャンパスハラスメント防止研修、第6回 ノートのとり方、第7回 大学図書館における情報収集、ならびに、第8回 男女共同参画研修を教育企画室、図書館、ダイバーシティ推進本部女性未来育成センターが担当、第9回から15回まで学部での学びに必要な基礎知識を担当する。 (オムニバス方式／全15回) （77　野本　ひさ／2回） オリエンテーション・カルト問題対策・大学生活上の規則とマナー キャンパスハラスメント防止研修 （241　清水　栄子／1回） コミュニケーション1 （230　村田　晋也／1回） コミュニケーション2 （223　阿部　光伸／2回） 大学での学び入門 ノートのとり方 （220　仲道　雅輝／2回） 大学での学び入門 ノートのとり方 （215　平尾　智隆／1回） キャンパスハラスメント防止研修 （202　郡司島　宏美／1回） 男女共同参画研修 （①　西村　勝志、2　徐　祝旗、3　山口　由等、②　岡本　直之、5　岡本　隆、6　曽我　亘由、7　崔　英靖、(1)　川口　和仁、10　谷本　貴之、11　折戸　洋子、⑤　藤川　健、(2)　園田　雅江、15　広垣　光紀、⑦　野澤　一博、⑧　山口　信夫／7回）　大学図書館における情報収集、情報の整理方法、読解の基礎(1)　、読解の基礎(2)、レポート・論文の基礎(1)、レポート・論文の基礎(2)、口頭発表の基礎 (1)、口頭発表の基礎 (2)・まとめ	オムニバス方式・共同（一部）
		新入生セミナーB	近年、地域に関する諸課題は多様化・複雑化している。しかし、単純には課題解決できない実情がある。そうした課題を解決するために求められる能力・スキルが社会共創力である。本講義では、まず課題解決に向けて求められる社会共創力とは何かを理解する。次に、地域社会の実情と課題について地域ステークホルダーの立場から考える。立場の違いから課題の見え方が異なる点も十分に理解する。さらに、グループワークにより、エリアごとの課題及び協働の在り方を整理し合う。そうする中で、社会共創に関する基礎的な考え方とステークホルダーとの協働を実現するために求められる能力・スキルの基礎を学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) （①　西村　勝志／4回） ガイダンス　－社会共創とは何か－ 学部ＤＰと社会共創学との関係をした上で、習得すべき知識や技能を説明する 地域ステークホルダーの種類と地域社会の諸課題及び諸課題の相互関連性を理解する ポスターセッション （16　松原　孝博／3回） 南予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する (1) 南予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する (2) ポスターセッション （114　後藤　理恵／6回） 南予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する (1) 南予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する (2) 南予ステークホルダーによる事例報告 グループディスカッション (1) グループディスカッション (2) ポスターセッション （24　大森　浩二・118　二神　透／6回） 中予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する (1) 中予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する (2) 中予ステークホルダーによる事例報告 グループディスカッション (1) グループディスカッション (2) ポスターセッション （31　浅井　英典／3回） 東予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する (1) 東予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する (2) ポスターセッション （124　山中　亮／4回） 中予ステークホルダーによる事例報告 グループディスカッション (1) グループディスカッション (2) ポスターセッション	オムニバス方式・共同（一部）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初年次科目	こころと健康	生活の基盤である健康に対する考え方は，身体的側面のみならず，健全なこころや食生活のあり方を含め，昨今ますます多様化の傾向にある。このような状況の下，大学生活を開始する新入生が最低限必要な教養として健康に対する基本的な知識とライフスキルを学び，心身ともに健全な生活を継続的に送るための手がかりが得られるよう，「青年期のこころ」（心理学），「生活の医学」（医学），「食と健康」（食育），「スポーツ」の４つの学問分野により授業を展開する。 （オムニバス方式/全１５回） （77　野本　ひさ/２回（共同２回） オリエンテーション・メンタルヘルス/まとめ （147　庭﨑　隆/２回（共同２回） オリエンテーション・メンタルヘルス/まとめ （103　橋本　巌/３回） 青年期のこころ （86　小林　直人/２回） 生活の医学 （231　加藤　亜希/２回） 生活の医学 （239　垣原　登志子/２回） 食と健康 （29　藤原　誠/2回） スポーツ （57　田中　雅人/１回） スポーツ （228　上田　敏子/１回） スポーツ	オムニバス方式・共同（一部）
		スポーツ	初回は本授業の目標，指導内容等のガイダンスを行い，受講生の希望を基にクラス分けを行う。2回目の授業では体力測定（敏捷性，筋持久力，全身持久力）を行い，現在の体力の現状を把握する。3・4回目は基礎的な体づくり，5・6回目は，基礎的な動きづくりを行い，それらの改善を図る。7～13回目は，各教員の専門性を活かした発展的体づくり運動を行う。14回目では，再度体力測定を行い，受講期間中の体力の改善状況を把握する。以上の3～14回目の授業では，履修効果を高めるための冊子を基にライフスキルの涵養を図る講義も並行して行う。最終回はライフスキルに関する小テスト及び15回にわたる授業の振り返りを行う。	
	基礎科目	英語Ⅰ	大学生として必要な基礎的英語コミュニケーション能力を定着させるための授業である。英語を使って情報を入手し，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力を身につける。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。特に，自分の考えを明瞭，かつ，簡潔に英語で表現し，会話や議論に積極的に参加できるようになることを目指す。	
		英語Ⅱ	大学生として必要な基礎的英語コミュニケーション能力を定着させるための授業である。英語を使って情報を入手し，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力を身につける。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。特に，様々な状況で耳にする英語による情報を，正しく把握し，適切に対応できる能力を身につけることを目指す。	
		英語Ⅲ	大学生として必要な基礎的英語コミュニケーション能力を定着させるための授業である。英語を使って情報を入手し，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力を身につける。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。特に，自分の考えを明瞭，かつ，論理的に，英語で書き表すことができるようになることを目指す。	
		英語Ⅳ	大学生として必要な基礎的英語コミュニケーション能力を定着させるための授業である。英語を使って情報を入手し，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力を身につける。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。特に，様々な手段で視覚的に入手する英語による情報を，正しく把握し，適切に対応できる能力を身につけることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎科目	情報リテラシー入門Ⅰ	コンピュータやネットワークなどの仕組みを理解し，コンピュータを日常の道具として活用するために，(1)情報リテラシー，(2)情報検索，(3)情報表現，(4)情報倫理について学ぶことにより，コンピュータに関する基礎的な知識・技能を身につけ，高度情報化社会に対応する能力を養成する。情報リテラシー入門Iでは，情報倫理・セキュリティ，電子メールとWeb，日本語ワープロ，プレゼンテーションについて講義と演習を交えて学習する。	
		情報リテラシー入門Ⅱ	コンピュータやネットワークなどの仕組みを理解し，コンピュータを日常の道具として活用するために，(1)情報リテラシー，(2)情報検索，(3)情報表現，(4)情報倫理について学ぶことにより，コンピュータに関する基礎的な知識・技能を身につけ，高度情報化社会に対応する能力を養成する。情報リテラシー入門IIでは，情報倫理・セキュリティ，ネットワークとネットサービス，コンピュータ，情報の表現，表計算について講義と演習を交えて学習する。	
		社会力入門	人間が社会を形成し，維持していくために不可欠な資質・能力を“社会力”という。この授業は，大学生活を通して「オトナ」になるための基礎的な学びとしての“社会力”を修得することを目指したキャリア教育である。授業は，「労働と社会」「グローバル社会」「人間関係」「安全衛生」の4つの学際的観点から実施される。また，今後の自身のキャリア形成を支えるツールとなるキャリア・ポートフォリオの作成を行う。本講のキャリア教育は単なる就職支援ではなく，人生の新しい段階（社会）へと移行する若者の成長を支える教育として位置付けている。 （オムニバス方式/全８回） （215　平尾　智隆/４回） 労働と社会 グローバル社会 （77　野本　ひさ/２回） 人間関係 （36　田中　寿郎/２回） 安全衛生	オムニバス方式
		科学技術リテラシー入門	「科学する心」の育成は，科学の時代である現代の市民に必須の教養である。現在の入試制度のもとでは，文系の学部・学科に入学してくる学生には，自然科学や技術に関する素養が乏しい学生が多い。本講義は，文系学部・学科の学生に科学的な見方や考え方を習得させる事を目指し，1単位の科目として開講する。講義は①科学技術の考え方を事例をもとに講義し，②その知識を基にして正解の無い問題をアクティブ・ラーニングの手法を用いて自分なりに科学的に解を求める事を通して，科学的な素養を身につけさせるものである。	
		愛媛学	文部科学省に採択された「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」における「地域志向教育カリキュラム」のベース科目として位置づけられるCOCコア科目である。日本の縮図，日本社会の将来像ともいえる「愛媛県」の「歴史・文化」「自然・環境」及び「観光・まちづくり・産業」等を概観し，地域が抱える課題について理解を深め，地域内のイノベーションの創出方法について学ぶ。これらを通して，基本的な地域意識を涵養することを目的とする。 （オムニバス方式/全８回） （223　阿部　光伸/２回（共同２回） ガイダンス/総括討論 （131　秋丸　國廣/２回（共同２回） ガイダンス/総括討論 （111　松本　賢哉/２回） 東予における地域課題 （112　前田　眞/２回） 中予における地域課題 （100　坂本　世津夫/２回） 南予における地域課題	オムニバス方式・共同（一部）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	主題探究型科目	環境を考える	環境学は，自然環境，社会環境，都市環境など，人間の生活を取り巻く環境とその人間，動植物への影響について，物理学，化学，生物学，地学，社会科学，人文科学等の基礎科学からのアプローチにより研究を行う学問分野である。本授業では，教員が環境学にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			倫理と思想を考える	倫理学は，一般に行動の規範となる物事の道徳的な評価を理解しようとする哲学の研究領域の一つである。思想とは，人間が自分自身および自分の周囲について，あるいは自分が感じ思考できるものごとについて抱く，あるまとまった考えのことである。本授業では，教員が倫理学と思想にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			歴史を考える	歴史学は，過去の史料を評価・検証する過程を通して歴史の事実，及びそれらの関連を研究する学問分野である。本授業では，教員が歴史学にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			ことばの世界	文学は，言語表現による芸術作品について研究する学問分野であり，言語学は，人類が使用する言語の本質や構造を科学的に研究する学問分野である。本授業では，教員が文学や言語学にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			芸術の世界	芸術とは，表現者あるいは表現物と，鑑賞者とが相互に作用し合うことなどで，精神的・感覚的な変動を得ようとする活動をいい，文芸（言語芸術），美術（造形芸術），音楽（音響芸術），演劇・映画（総合芸術）などを指す。本授業では，教員が芸術にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			地域と世界	グローカル化（globalization）とは，全世界を同時に巻き込んでいく流れ（globalization）と，地域の特色や特性を考慮していく流れ（localization）の2つの言葉を組み合わせた混成語である。「地球規模で考えながら，自分の地域で活動する」（Think globally, act locally。）とも関連する言葉である。本授業では，教員が地域と世界にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			社会のしくみを考える	社会学は，社会現象の実態や，現象の起こる原因に関するメカニズム（因果関係）を解明するために研究する学問分野である。本授業では，教員が社会学にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			現代社会の諸問題	現代社会とは，時代の変化と共に社会に生じる変化を強調し，現在存在する社会を過去の社会と区別するために用いられている。本授業では，教員が現代社会がかかえている諸問題について探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			現代と科学技術	自然科学とは，自然に属するもろもろの対象を取り扱い，その法則性を明らかにするため，観測可能な対象やプロセスを解明し理解する学問分野である。物理学，化学，生物学，地学は自然科学の一分野である。本授業では，教員が自然科学に基づいた科学技術にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			自然のしくみ	物理学は自然界の現象とその性質について，化学は原子・分子レベルでの物質の構造や性質について，地学は地球について研究する学問分野である。本授業では，教員が物理学・化学・地学に基づいた自然のしくみにかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			生命の不思議	生物学は，生命現象を研究する自然科学の一分野であり，生物やその存在様式を研究対象としている。化学は，原子・分子レベルで物質の構造や性質を解明し，また新しい物質を構築する学問分野である。本授業では，教員が生物学や化学に基づいた生命にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	学問分野別科目	総合分野	環境学入門	環境学は，自然環境，社会環境，都市環境など，人間の生活を取り巻く環境とその人間，動植物への影響について，物理学，化学，生物学，地学，社会科学，人文科学等の基礎科学からのアプローチにより研究を行う学問分野である。環境学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。環境学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				人間科学入門	人間科学は，「人間とは何か」という問題を科学的に研究し，なんらかの意味と解釈を得えようとする，学際的，総合的に研究を行う学問分野である。人間科学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。人間科学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				生活科学入門	生活科学は，人間生活における人間と環境の相互作用について，人的・物的両面から，自然・社会・人文の諸科学を基盤として研究し，生活の向上とともに人類の福祉に貢献する実践的総合的に研究を行う学問分野である。生活科学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。生活科学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
			人文学分野	哲学入門	哲学は，語義的には「愛智」を意味する学問的活動である。古代ギリシアでは学問一般を意味していたが，近代における諸科学の分化・独立によって，諸科学の基礎づけを目ざす学問や，世界・人生の根本原理を追及する学問となった。哲学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。哲学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				文学入門	文学は，詩・小説・戯曲・随筆・文芸評論などの言語表現による芸術作品について研究する学問分野である。文学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。文学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				言語学入門	言語学は，人類が使用する言語の本質や構造を科学的に研究する学問分野である。音声学，音韻論，形態論，統語論，談話分析，意味論，語彙論，語用論，手話言語学などの研究分野がある。言語学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。言語学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				歴史学入門	歴史学は，過去の史料を評価・検証する過程を通して歴史の事実，及びそれらの関連を研究する学問分野である。歴史学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。歴史学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				考古学入門	考古学は，人類が残した痕跡（例えば，遺物，遺構など）の研究を通し，人類の活動とその変化を研究する学問分野である。考古学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。考古学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				地理学入門	地理学は，空間ならびに自然と，経済・社会・文化等との関係を対象にして研究する学問分野である。地理学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。地理学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	学問分野別科目	社会科学分野	法学入門	法学は，法律学ともいう。法および法現象を専門的に研究する学問分野である。法および法現象の経験科学的，理論的な解明を直接の目的とする理論法学や，立法，行政，裁判に役立つ法原理，法的技術を中心に体系化されている実用法学などがある。法学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。法学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				政策科学入門	政策科学は，政策研究や政策分析ともいう。政府などの公的機関が行う政策を改善するために研究する学問分野である。政策科学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。政策科学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				経済学入門	経済学は，この世において有限な資源から，いかに価値を生産し分配していくか，社会全般の経済活動を対象に研究する学問分野である。経済学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。経済学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				社会学入門	社会学は，社会現象の実態や，現象の起こる原因に関するメカニズム（因果関係）を解明するために，研究する学問分野である。社会学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。社会学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				心理学入門	心理学は，人の心のはたらき，あるいは人や動物の行動を研究する学問分野である。科学的経験主義の立場から観察・実験・調査等の方法によって一般法則の探求を推し進める基礎心理学，基礎心理学の知見を活かして現実生活上の問題の解決や改善に寄与することを目指す応用心理学などに大別される。心理学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。心理学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				日本国憲法	日本国憲法は，現在の日本の国家形態，統治組織，統治作用を規定している，1947年5月3日に施行された日本の現行憲法である。日本国憲法における，基本理念・原理，及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。日本国憲法全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
			自然科学分野	数学入門	ギリシャ語に語源をもつ数学（Mathematics）は，必ずしも「数の学問」ではなく，その研究対象はとても広い。代数学，幾何学，解析学，統計学などの研究分野がある。数学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。数学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				物理学入門	物理学は，自然科学の一分野であり，自然界に見られる現象には普遍的な法則があると考え，自然界の現象とその性質を解明し理解する学問分野である。物理学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。物理学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				化学入門	化学は，物質の性質を原子や分子のレベルで解明し，化学反応を用いて新しい物質を作り出すことを設計，追求する学問分野である。化学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。化学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				生物学入門	生物学は，生命現象を研究する自然科学の一分野であり，生物やその存在様式を研究対象としている。生物学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。生物学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				地学入門	地学は，地球を研究対象とした自然科学の一分野であり，地球磁気圏から地球内部の核に至るまで，地球の構造や環境，歴史などを対象とした学問分野である。地学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。地学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				工学入門	工学は，数学と自然科学を基礎とし，ときには人文社会科学の知見を用いて，公共の安全，健康，福祉のために有用な事物や快適な環境を構築することを目的とする学問分野である。工学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。工学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				農学入門	農学は，農業・林業・水産業・畜産業などに関わる応用的な学問分野である。数学，物理学，化学，生物学，地学，社会科学などを基礎として研究を行う学問である。農学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。農学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	初修外国語	初級ドイツ語Ⅰ	初修外国語の「初級ドイツ語I～IV」は，ドイツ語とドイツ語圏の事情に関する初級授業である。「初級ドイツ語I」はその入門部分に当たり，ここでは挨拶・自己紹介などの基本的なコミュニケーションの基礎を養う。文法事項としては，綴りと発音の規則に始まり，動詞の人称変化などを中心に学ぶ。「聴く・読む・話す・書く」のバランスの取れた技能の習得を目標とする。	
			初級ドイツ語Ⅱ	「初級ドイツ語I」の基礎の上に，ドイツ語全般の理解に必要となる基本的な知識・技能を習得する授業である。日常的な状況におけるコミュニケーションや表現力の基礎を養う。文法事項もやや高度になり，必要な語彙も少しずつ増加し，動詞や冠詞類の変化など，ドイツ語を運用する上での必須事項を引き続き学ぶ。クラス・教員によって力点の置き方に差はあるが，ここでも目標は「聴く・読む・書く・話す」のバランスのとれた技能の習得である。言語とともに，ドイツ語圏の事情についての知識も身に着けることを目指す。	
			初級ドイツ語Ⅲ	「初級ドイツ語I・II」で学んだ基礎的な知識・技能の上に，より幅広く高度な表現力を習得する授業である。日常的なコミュニケーションや表現力をより豊かにする力を養う。文法事項のレベルも高くなり，さらに多くの語彙を学ぶ。引き続き「聴く・読む・書く・話す」のバランスの取れた技能の習得を目標とし，より複雑な表現にも対応できるようになることを目指す。さらに，ドイツ語という言語に関する知識にとどまらず，ドイツ語圏における文化・習慣・思考などの特徴もより深く理解できるようになる。	
			初級ドイツ語Ⅳ	「初級ドイツ語I・II・III」で学んだ知識や技能に基づき，日常生活において必要なコミュニケーションや表現に対する応用力を養う授業である。より高度な文法事項を含んだ複雑な構文の文章に取り組むことで長文読解力の基礎も習得し，これまでに学んだ事柄を生かす力を養う。ドイツ語圏の事情についての知識も増やすことにより，より円滑なコミュニケーションや表現力の育成を目指す。「初級ドイツ語I」～「初級ドイツ語IV」を通年で受講することによって，ドイツ語検定試験4級程度のレベルに到達することが可能である。	
			初級フランス語Ⅰ	初修外国語の「初級フランス語I～IV」は，フランス語とフランス語圏の事情に関する初級である。「初級フランス語I」はその入門部分である。挨拶・自己紹介などの基本的なコミュニケーションの基礎を養う。文法事項としては，綴りと発音の規則に始まり，動詞の人称変化などを中心に学ぶ。「聴く・読む・話す・書く」のバランスの取れた技能の習得を目標とする。	
			初級フランス語Ⅱ	「初級フランス語I」の基礎の上に，フランス語全般の理解に必要となる基本的な知識・技能を習得する。日常的な状況におけるコミュニケーションや表現力の基礎を養う。文法事項もやや高度になり，必要な語彙も少しずつ増加し，動詞や冠詞類の変化など，フランス語を運用する上での必須事項を引き続き学ぶ。「聴く・読む・書く・話す」のバランスのとれた技能の習得が目標である。言語とともに，フランス語圏の事情について学習する。	
			初級フランス語Ⅲ	「初級フランス語I・II」で学んだ基礎的な知識・技能の上に，より幅広く高度な表現力を習得する授業である。日常的なコミュニケーションや表現力をより豊かにする力を養う。文法事項のレベルも高くなり，さらに多くの語彙を学ぶ。「聴く・読む・書く・話す」のバランスの取れた技能の習得し，より複雑な表現を学習する。さらに，フランス語だけでなく，フランス語圏における文化・習慣・思考などの特徴もより深く理解できるようになる。	
			初級フランス語Ⅳ	「初級フランス語I・II・III」で学んだ知識や技能に基づき，より高度な文法事項の習得とより複雑な構文の文章の理解に取り組む。日常生活において必要なコミュニケーションや表現に対する応用力を養う。フランス語圏の事情についての知識も増やし，より円滑なコミュニケーションや表現力の学習する。「初級フランス語I」～「初級フランス語IV」を通年で受講することによって，フランス語検定試験4級程度のレベルに到達することが可能である。	
			初級中国語Ⅰ	初めて中国語を学ぶものを対象とした中国語の入門授業。四技能のうち「話す」と「聞く」に重点を置く。最初の五回の授業で発音の基礎とピンイン（中国語の表音ローマ字）の読み方と綴り方を集中的に学習する。その後，発音のトレーニングを継続しながら，動詞述語文，形容詞述語文，名詞述語文，主述述語文，構造助詞「的」の用法を学ぶ。単語については２５０語の習得を目標とする。授業終了時には，中国語検定試験準４級の半分程度のレベルに受講生は到達する。	
			初級中国語Ⅱ	「初級中国語Ⅰ」の基礎に立ち，四技能のうち「話す」と「聞く」と重点的に鍛える。発音のトレーニングを継続しながら，数量補語，各種疑問文，指示代名詞，所有表現，親族名称，場所表現，数量詞，動詞連続，完了態，変化態について学ぶ。単語については５００語の習得を目標とする。授業終了時には，中国語検定試験準４級のレベル，すなわち，中国語学習を進めていく上での最低限の基礎知識を習得したレベルに受講生は到達する。	
			初級中国語Ⅲ	「初級中国語Ⅰ・Ⅱ」の基礎に立ち，四技能のうち「話す」と「聞く」を引き続き重点的に鍛える。同時に，「読む」と「書く」を徐々に導入する。発音のトレーニングも継続する。経験態，可能を表す助動詞，進行態，程度副詞，比較表現，年月日時刻曜日の表現，金額の表現，複雑な連体修飾語，前置詞，複雑な連用修飾語を学ぶ。単語については７５０語の習得を目標とする。授業終了時には，中国語検定試験準４級と４級の中間レベルに受講生は到達する。	
			初級中国語Ⅳ	「初級中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の基礎に立ち，四技能のうち「話す」と「聞く」に重点を置きながらも，「読む」と「書く」も平行して習得していく。発音のトレーニングも継続する。程度補語，数量補語，結果補語，方向補語，可能補語，願望を表す助動詞，必要・義務を表す助動詞，禁止表現，受動態，使役表現，「把」構文，存現文を学ぶ。単語については１０００語の習得を目標とする。授業終了時には，中国語検定試験準４級のレベル，すなわち，中国語の基礎をマスターし，平易な中国語を聞き，話すことができるレベルに受講生は到達する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	初修外国語	初級朝鮮語Ⅰ	初修外国語の「初級朝鮮語I～IV」は，朝鮮語の初心者を対象とした授業である。「初級朝鮮語Ⅰ」は，ゼロから朝鮮語の文字（ハングル）や発音に習熟し，日常生活における初歩的なコミュニケーションができることを到達目標とする。たとえばあいさつや自己紹介をしたり，住んでいるところ，好き嫌い，学生生活などについて話せるようにする。授業では，「読む・書く・聞く・話す」の４つの技能をバランスよく習得できるようにし，学生同士の対話練習や発表の時間を多く持つ予定である。	
			初級朝鮮語Ⅱ	「初級朝鮮語Ⅰ」に引き続き，「初級朝鮮語Ⅱ」では，朝鮮語の文字（ハングル）や発音を習得できるようにし，ハングルでパソコン入力ができるようにする。また，「初級朝鮮語Ⅱ」では，描写力の基本を身に付けることを目標とする。具体的には，物のあるなしや位置関係，さらには，一日の生活や一週間の生活を話せるようにし，人や物の特徴についても言えるようにする。授業では，話す技能とともに，聞く能力，書く技能も同様に伸ばすようにする。	
			初級朝鮮語Ⅲ	「初級朝鮮語Ⅰ」「初級朝鮮語Ⅱ」に引き続き，「初級朝鮮語Ⅲ」では様々なコミュニケーションの場に応じた表現を身につける。具体的には，相手に働きかける表現を中心として，頼む・指示する・勧める，意向・欲求を言う，誘う・提案といった，日常生活において事態をを一歩進める表現ができるようにする。さらには，敬語表現を学ぶことによって，人間関係に応じた言葉づかいができるようにする。これらの表現は，対話練習と書く練習，聞く練習によって習熟するようにする。	
			初級朝鮮語Ⅳ	「初級朝鮮語Ⅰ」「初級朝鮮語Ⅱ」「初級朝鮮語Ⅲ」に引き続き，「初級朝鮮語Ⅳ」ではより円滑なコミュニケーションが図れるような表現を身につける。たとえば，時間表現，過去のことやこれからのことが話せるようにする。さらには，理由・目的・対立の表現を学んで因果関係を表したり，推測・仮定，可能，不可能の表現ができるようにする。さらには，対話練習や作文練習に加えて，短い文章を多く読むことを通じて，読解能力を伸ばすことも目指す。	
			初級フィリピノ語Ⅰ	フィリピノ語のアルファベットの読み方，発音から始め，簡単な挨拶，自己紹介ができるようにする。具体的には，初歩的な読み・書き・話すの３技能を獲得するため，初学者用の教科書に沿って，フィリピノ語の単語についての基礎知識，フィリピノ語の述部＋主部からなる基本文型を習得して，フィリピノ語の特徴を理解するとともに，語順，前節語（人称代名詞，小辞）についても理解する。これらに習熟するために音声教材を利用し，繰返し発音するとともに，書取りも行い，上記の技能の定着を図る。	
			初級フィリピノ語Ⅱ	「初級フィリピノ語I」で習得した内容を定着させ，さらに継続発展を行うため「初級フィリピノ語I」で使用した教科書および音声教材を引続き使用する。語彙力の強化とともに文法力の強化によって表現の幅を広げるため，フィリピノ語における標識辞の機能を理解し，これに習熟するために主題を示すang形を理解するとともに，所有等を表すng形を理解する。また修飾・被修飾の関係を示す繋辞の機能についても理解する。これらを通じて，基本的な読み書き話すの３技能の強化を行う。	
			初級フィリピノ語Ⅲ	「初級フィリピノ語II」で習得した内容を定着させ，語学力を系統的に涵養するため「初級フィリピノ語I」「初級フィリピノ語II」で使用した教科書・音声教材に準拠しながら，さらに多様な表現力および読解力を身につける。具体的には，基本文型の一つである同位文，標識辞のsa形の機能，形容詞の副詞的用法を理解する。さらに動詞の活用と相（アスペクト）を理解する。まずは行為者焦点動詞の重点的な習熟を図る。これらにより，日常的な行為についてフィリピノ語による口頭表現，文章表現を可能にする。	
			初級フィリピノ語Ⅳ	「初級フィリピノ語I」「初級フィリピノ語II」「初級フィリピノ語III」で習得したことをもとに，一通りのフィリピノ語の初級文法を理解することによって，旅行に出た時に必要となる基本的な表現力を身につけるとともに簡単な文章の読解力を身につける。具体的には，引き続き教科書・音声教材を活用しつつ，動詞については多様な「非行為者焦点動詞」に習熟するとともに「行為者焦点動詞」との対応や関係を理解し，かつ動詞のモードを理解することで，同一事象に関しての多様な表現の可能性を知り，フィリピノ語の特徴を把握する。	
		高年次教養科目	文系主題科目	初年次を中心として開講している教養教育科目は，高校卒業程度の知識レベルを基礎としている。そのため，その教育内容は，現代社会で必要とされる内容には十分ではない。そこで，ある程度専門教育を受けた2年次後期以降に，文系の学問領域に関する種々の主題を例として，文系の高度な教養を身につける事を目的とした講義である。現代社会が直面する課題を認識しその解決に貢献できる人材が備えているべき文系の素養の育成を目指す。講義形式は座学やe-ラーニングを有効に活用し，選択科目として開講する。	
			理系主題科目	初年次を中心として開講している教養教育科目は，高校卒業程度の知識レベルを基礎としている。そのため，その教育内容は，現代社会で必要とされる内容には十分ではない。そこで，ある程度専門教育を受けた2年次後期以降に，理系の学問領域に関する種々の主題を例として，理系の高度な教養を身につける事を目的とした講義である。現代社会が直面する課題を認識しその解決に貢献できる人材が備えているべき理系の素養の育成を目指す。講義形式は座学やe-ラーニングを有効に活用し，選択科目として開講する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	発展科目	英語プロフェッショナル養成コースに関する科目	Oral Communication	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なオーラルコミュニケーション・スキルを涵養するための授業である。日常生活や旅行などの過去の個人的経験を基にした会話，公共機関や職場といった社会的な場等，様々な文脈での実践的コミュニケーションの場面において，かなり詳細な内容の英語を正確に聞き取り，それに対して，自分の意見を効果的に述べられることを到達目標としている。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。	
			Speaking & Reading Strategies	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なリーディング・スキルを涵養するための授業である。多読・速読用のテキストを活用する共に，英字新聞やインターネット上の英語で書かれた社会的な問題を扱った記事を速読し，その内容を正しく理解し，自らの批評的意見に基づき，発展的な議論を展開できることを到達目標としている。毎回の授業では，ICTを活用して最新の記事にアクセスし，話題提供を行うとともに，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。	
			Effective Presentations	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なプレゼンテーション・スキルを涵養するための授業である。各自の研究や様々な社会問題をテーマにして，インターネットなどを活用して必要な資料収集を行い，効果的な英語表現を使ったスライドを作成できること，さらに，視覚的に理解しやすいスライドに仕上げること，そしてそれらを効果的に英語で発表できることを到達目標としている。毎回の授業では英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。	
			Writing Workshop	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なライティング・スキルを涵養するための授業である。自分の興味のある話題について，文献だけでなくインターネットや簡単なフィールドワークなどを利用したリサーチ・プロジェクトを遂行できること，さらにその調査の結果を論理的に説得力のある小論文（エッセイ）としてまとめることを到達目標としている。毎回の授業では英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式と，作文の添削指導を行うチュータリング形式を用いた学習活動を行う。	
			Academic Reading	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なアカデミック・リーディング・スキルを涵養するための授業である。英語で書かれた学術出版物を理解できること，興味のある学術分野について説明することができること，読み手に配慮した大学院進学志望書を書くことができることを到達目標としている。毎回の授業では，講義形式で話題提供を行い，その後ディスカッション形式で意見交換を行う学習内容となっている。なお，志望書の添削指導を行うチュータリング形式を用いた学習活動も行う。	
			Writing Strategies	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なアカデミック・ライティング・スキルを涵養するための授業である。リサーチ・ペーパーの構造を理解し説明できること，正しい引用方法を用いて，興味のある分野の内容に関して期末レポートをまとめられることを到達目標としている。毎回の授業では英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式と，レポート作成に際して，添削指導を行うチュータリング形式を併用した学習活動を行う。	
			Discussion Skills	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なディスカッション・スキルを涵養するための授業である。現代社会の様々な問題を認識し，自分の意見を明確に，流暢さをもって述べられること，他人の意見に対して正当な理由をもって賛成，または反対の意見を述べられることを到達目標としている。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式，及び意見交換・討論を行うディスカッション形式の学習活動を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	発展科目	英語プロフェッショナル養成コースに関する科目	English For Academic Research	基礎科目として学んだ英語を基に，学術研究のための汎用的な英語運用能力を涵養するための授業である。比較的専門的な内容の英文（雑誌記事や論文等）を読解できること，授業で扱ったテーマについてエッセイを書くことができること，そしてそれらの内容について批判的思考ができることを到達目標としている。毎回の授業では，講義形式で話題提供を行い，その後，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式を用いた学習活動を行う。	
			Business English	基礎科目として学んだ英語を基に，ビジネスのための英語運用能力を涵養するための授業である。ビジネス英語の語彙に習熟できること，ビジネス場面で使用される英語表現を理解し，使用できること，そしてビジネスに関する時事的な話題について議論できることを到達目標としている。毎回の授業では，講義形式で話題提供を行い，その後，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式，及びディスカッション形式の学習活動を行う。	
			Introducing Japanese Culture in English	基礎科目として学んだ英語を基に，日本文化を紹介するための英語運用能力を涵養するための授業である。日本に特有な行動様式について理解し，英語で丁寧に説明できること，日本固有の文化（衣・食・住・祭等に関する様々なテーマ）について英語で説明できることを到達目標としている。毎回の授業では，講義形式で話題提供を行い，その後，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式，及びプレゼンテーション形式の学習活動を行う。	
			Oral Performance	基礎科目として学んだ英語を基に，発展的なオーラル・パフォーマンス能力を涵養するための授業である。演劇やミュージカル，落語（英語小噺も含む），芝居，パブリック・スピーキングなどの様式を用いて，より豊かな英語表現力を身につけることを到達目標としている。毎回の授業では，自宅でのリハーサルトレーニングの成果を発表し，学生同士相互評価を行う。なお，英語の4技能のみならず，身体表現なども活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動も行う。	
			Introductory Interpretation	基礎科目として学んだ英語を基に，通訳技法の基礎を学ぶための授業である。精通しているトピックについて日・英の両言語で丁寧に説明できること，日・英の両言語で素早くノート・テークができること，さらに架空の状況で，学んだ通訳技法を教室環境で披露できることを到達目標としている。毎回の授業では，講義形式による話題提供の他，シャドーイングなどの通訳訓練法，さらに英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。	
			Studying English Abroad Ⅰ	前期集中科目として，英語プロフェッショナル養成コース所属の学生を対象として開講される科目。夏季休業中における海外での短期語学研修に参加した学生に対して，研修先より発行された修了証等を確認し，一定の単位を認定する授業である。なお，事前・事後指導の受講が義務づけられており，それらを適切に受講していない場合は，単位認定は行われない。特に，事前指導では，渡航先での安全・危機管理面の講習を，事後指導では発表会と海外研修レポートの執筆・提出という課題が用意されている。	
			Studying English Abroad Ⅱ	後期集中科目として，英語プロフェッショナル養成コース所属の学生を対象として開講される科目。春季休業中における海外での短期語学研修に参加した学生に対して，研修先より発行された修了証等を確認し，一定の単位を認定する授業である。なお，事前・事後指導の受講が義務づけられており，それらを適切に受講していない場合は，単位認定は行われない。特に，事前指導では，渡航先での安全・危機管理面の講習を，事後指導では発表会と海外研修レポートの執筆・提出という課題が用意されている。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	発展科目	愛媛大学リーダーズ・スクールに関する科目	愛媛大学リーダーズ・スクール	本科目は，組織や社会を牽引するリーダー及びそれをサポートすることで組織の有効性を増すフォロワーに必要な知識・行動・態度の修得を目的とするものであり，リーダーシップの理論学習に止まらず，グループワークやプレゼンテーション等を含むアクティブな授業を実施する事で学んだ事柄を試行・実践する機会を設けている。複数のスタッフによる体系的・段階的・継続的な支援・教育を通じ，本人の人間的な成長の促進，大学の活性化，卒業後の社会貢献に資するプログラムを提供している。	
			グローバル・リーダーシップⅠ	急速にグローバル化が進む現代社会においては，国内外の多様な人々と円滑なコミュニケーションをとりつつ協働する能力が求められている。本科目では，通常の講義に加え，韓国の大学との共同研修等を通して，価値観や文化的背景が異なるメンバー同士がお互いの主張を認め，協力して一つの物事に取り組む上で必須となる態度やスキルについて学ぶ。受講生らが，今後わが国の経済を担う国際的な人材となる上で役立つ意思疎通能力や主体性等を養成することをねらいとする。	
			グローバル・リーダーシップⅡ	ボーダーレス化する現代社会においては，異なる言語・文化・習慣を持つ多様な人材と意思の疎通を図りつつ協働する力が必須となる。本科目では，海外（サイパン）の小・中・高等学校の生徒たちを相手にした授業を作成し実施すると共に，現地教員からの助言を受け，彼らと議論を重ねることで授業の改良・改善に取り組む。加えて，現地の生徒を相手とした日本文化の紹介活動についてもチームで企画・立案し実施する。これらを通じ，受講生たちが国際的な人材となる上で必須の積極的コミュニケーションや，リーダーシップの発揮について学ぶことを目的とする。	
		サーバント・リーダー養成に関する科目	地域未来創成入門	本講義では，一次産業を中心とした未来社会の持続的発展に貢献できるサーバント・リーダー（地域社会で献身的に活動するリーダー）としての素養を身につける。授業を通じて自らが目指すサーバント・リーダーのあり方について説明すること，持続不可能な地域と世界の現状について，自然・社会文化・経済の視点から説明すること，　一次産業を中心とした持続可能な未来社会像について説明すること，地域において学習・調査活動に関わることのできるフィールドワーク手法と危機管理方法について説明することができるようになることをめざす。	
			カルチャーシェアリング	日本・インドネシアの言語・文化を理解し，多様な主体との協調を通じて地域の未来ビジョンを語る能力を身につける。本授業は，国内サービスラーニングと同時期に実施する。講義では，インドネシアの学生とともに，相手の文化を理解・尊重しながら，協力しあう能力，英語またはインドネシア語で，自国の生活・文化を説明する能力，英語またはインドネシア語で，自らの未来ビジョンを語る能力を身につけることをめざす。SUIJIサーバント・リーダー養成に関する科目「国内サービスラーニング」の受講を希望する学生を対象とする。	
			ベーシック国内サービスラーニング	四国3大学（愛媛・香川・高知大学）が設定するフィールドにおいて，四国3大学とインドネシア3大学双方の学生と協働で，地域の課題と可能性を発掘して課題を解決する方策を見いだす地域貢献活動を行う。本授業は，自ら発掘した地域の課題と可能性を説明することができる，地域から世界の未来を開拓する方法を説明することができる，長期にわたって国内の僻地で持続的に活動するための方法を説明し，実践することができる，言語，文化理解に基づき多様な主体との協調を通じて地域の未来ビジョンを発表することができる能力を習得する。	
			アドバンスド国内サービスラーニング	四国3大学（愛媛・香川・高知大学）が設定するフィールドにおいて，四国3大学とインドネシア3大学双方の学生と協働で，地域の課題と可能性を発掘して課題を解決する方策を見いだす地域貢献活動を行う。本授業は，学生が地元住民など多様な主体と協働しながら，地域の課題解決を目指し，地域の未来可能性を活用した地域貢献活動を実践する為に必要な，ベーシック国内サービスラーニングにおいて習得する能力に加えて，地域課題を解決し，地域のポテンシャルを活用した行動を示すことができる能力を習得する。	
			ベーシック海外サービスラーニング	インドネシア3大学（ガジャマダ・ボゴール農業・ハサヌディン大学）が設定するフィールドに出向き，四国3大学とインドネシア3大学双方の学生と協働で，地域の課題と可能性を発掘して課題を解決する方策を見いだす活動を行う。本授業は，自ら発掘した地域の課題と可能性を説明する，地域から世界の未来を開拓する方法を説明する，長期にわたって国内の僻地で持続的に活動するための方法を説明し実践する，言語，文化理解に基づき多様な主体との協調を通じて地域の未来ビジョンを発表することができる能力を習得する。	
			アドバンスド海外サービスラーニング	インドネシア3大学（ガジャマダ・ボゴール農業・ハサヌディン大学）が設定するフィールドに出向き，四国3大学とインドネシア3大学双方の学生と協働で，地域の課題と可能性を発掘して課題を解決する方策を見いだす活動を行う。本授業は，学生が地元住民など多様な主体と協働しながら，地域の課題解決を目指し，地域の未来可能性を活用した地域貢献活動を実践する為に必要な，ベーシック海外サービスラーニングにおいて習得する能力に加えて，地域課題を解決し，地域のポテンシャルを活用した行動を示すことができる能力を習得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	発展科目	環境ＥＳＤ指導者養成講座に関する科目	持続可能な社会づくり（ＥＳＤ）	本講義では，愛媛大学環境ESD指導者養成カリキュラムの基礎として，自然環境，社会文化，経済分野を横断的に学び，地域からグローバルな地域的広がりにおいて現状を理解し，様々な事象の連関性に気づき，理解するために分析する力を身につけることを目的とする。さらに，人々の意識を変革するために有効な学びの場を企画し提供するという，自ら行動する姿勢を身につけることを目指す。授業は，ESD教材を実際に使いながらグループワーク形式で実施する。	
			環境ＥＳＤ指導者養成講座Ⅰ	持続可能な社会づくりのための環境教育（環境ESD）の指導者に必要な知識と技能を修得する。講義では実際にフィールドに出向き，地域住民，NPO代表者などと関わりながら，地域の自然環境，社会文化，経済の持続不可能な事柄を探求し，持続可能な資源の発掘を行うための技能を身につける。グループワークを通じて，より持続可能な社会を目指した，環境ESDを企画するための知識と技能を学ぶ。本講義は，フィールド実習と合わせて学内外の講師陣から提供される分野横断型の知識と技能を習得することを目指す。	
			環境ＥＳＤ指導者養成講座Ⅱ	本講義は，環境ESD指導者養成講座Iの履修を通じて学んだ持続可能な社会づくりのための環境教育（環境ESD）の指導者に必要な知識と技能をベースに，学生自らが環境ESD活動を企画・運営を行い，学習成果を地域社会に還元する手法を学ぶ。さらに，地域で持続可能な社会づくりを実践している実践者を講師陣に向かえ，実践に結びつく知識と技能を習得することを目指す。講義では，グループワークを通じて，より持続可能な社会を目指した，環境ESDを企画するための知識と技能を学ぶ。	
			環境ＥＳＤ指導者養成演習Ⅰ	本講義の受講生は，環境ESD（持続可能な社会づくりのための環境教育）に関連する活動を行っている諸団体等でのインターンシップを通じて，環境ESDの企画運営に関する実務を学ぶ。持続可能な社会づくりを意識した活動を体験しながら，地域に密着した人的・物的資源を発掘することと，環境ESD指導者II種を取得するまでに学んだ知識と経験を，インターンシップ先の活動を通じて，地域社会に還元することを目的としている。インターンシップ期間は原則60時間とする。	
			環境ＥＳＤ指導者養成演習Ⅱ	本講義の受講生は，環境ESD指導者養成演習Ⅰを受講していることが条件である。環境ESD（持続可能な社会づくりのための環境教育）に関連する活動を行っている諸団体等でのインターンシップを通じて，環境ESDの企画運営に関する実務を学ぶ。持続可能な社会づくりを意識した活動を体験しながら，地域に密着した人的・物的資源を発掘することと，環境ESD指導者II種を取得するまでに学んだ知識と経験を，インターンシップ先の活動を通じて，地域社会に還元することを目的としている。インターンシップ期間は原則60時間とする。	
		スキルアップ科目	英語Ｓ１	前期集中科目として，全学部学生を対象とした科目。夏季休業中における海外での短期語学研修に参加した学生に対して，研修先より発行された修了証等を確認し，一定の単位を認定する授業である。なお，事前・事後指導の受講が義務づけられており，それらを適切に受講していない場合は，単位認定は行われない。特に，事前指導では，渡航先での安全・危機管理面の講習を，事後指導では発表会と海外研修レポートの執筆・提出という課題が用意されている。	
			英語Ｓ２	後期集中科目として，全学部学生を対象とした科目。春季休業中における海外での短期語学研修に参加した学生に対して，研修先より発行された修了証等を確認し，一定の単位を認定する授業である。なお，事前・事後指導の受講が義務づけられており，それらを適切に受講していない場合は，単位認定は行われない。特に，事前指導では，渡航先での安全・危機管理面の講習を，事後指導では発表会と海外研修レポートの執筆・提出という課題が用意されている。	
			英語Ｓ３	英語のスピーキング・リスニング・ライティング・リーディングの技能間の連携を意識した学習を通して，高度な英語コミュニケーション力の習得を目指す授業である。英語で情報を入手し，その情報を基に英語で自分の考えを構築し，発信する能力を身に付ける。ペアワーク・グループワーク・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行い，積極的に英語を使い議論に参加できるだけでなく，明瞭かつ簡潔な英語表現で自分の意見を伝えるようになることを目指す。	
			ライフスポーツ	初心者を対象にした水泳及びスキーを内容とする集中授業を開講している。水泳は，特に教員免許状の取得を目指す学生を中心にして授業を行っている。夏季に正規のクロール，平泳ぎの泳法と指導方法を理解し，息継ぎをしながら泳ぐことができることを目指す。スキーは，冬季にスキー場において授業を行う。主に初心者を対象に受講生の経験の少ない自然環境下で，共同生活をしながら初～中級者レベルのスキルの獲得を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	発展科目	食育士プログラムに関する科目	食育入門	「食」は，人が健やかに生きていくための源であり，生涯を通じて健全な心身を保ち，豊かな人間性をはぐくむためには，健全な食生活が不可欠である。我が国の食生活は，海外からの食料輸入の増大に加え，食の外部化や生活様式の多様化が進み，若年層の生活習慣病増加や，食料資源の浪費等の諸問題が顕在化している。現在食に関してどのような問題点があるのか，またなぜ食育が今必要なのかを考える。また，現代の食生活がどのように形成されたのか，食文化から考える。	
			食育総論	今日の日本の食は，物的にはきわめて豊かになった。しかし，その一方で，世界人口増加に比例して食料不足や貧困問題が深刻化している。日本国内でも食料自給率の低下や農家の高齢化，後継者不足など，農に関する様々な問題が発生している。そうした中で，食と農の間に大きな断絶があり，新たな関係構築の必要性が指摘されている。本講義では，食と農に関わる現状や問題点について，作物学，森林科学，水産学，社会学など各視点から考えるとともに，日本の食と農の関係について明らかにする。	
		防災エキスパートに関する科目	環境防災学	防災士の取得を前提とした講義であり，防災士（ぼうさいし）とは，特定非営利活動法人日本防災士機構による民間資格である。本講義は，防災士機構の認定に基づく講義であり，災害に関する一般的知識との習得と，松山消防局職員による救命講習の実技からなる。講義で補うことができない内容については，レポート課題として補完する。本講義単位取得者は，日本防災士機構の資格試験に合格すれば，防災士の資格を取得することができる。	
		教員免許に関する科目	スポーツと教育	教員免許状取得を目指す学生を対象にして開講する。小～高等学校の公式行事として，保健体育関係の行事等は複数あり，将来的にそれらに円滑に対応することができることを目指して本授業で経験を積む。授業内容を以下に示す３つのパートに区分し，３もしくは４回にわたり各パートを順次受講する。１）児童・生徒間の親睦を図るレクリエーション種目の実践，２）科学的根拠に基づいた運動系のクラブ活動の指導，３）運動会やクラスマッチの企画・運営の実践。	
		自律学習プログラムに関する科目	知の最前線に学ぶ	本学では知の最前線の著名な担い手を国内外から招聘し，様々な講演会やシンポジウムを随時開催している。学生は，①これらの学術講演会のうち5件を選択して聴講し，②それぞれの講演会で学んだことをレポートとして提出するとともに，③これら一連の講演会を通して得られた学修の成果についてロ頭試問を受けることにより，1単位を取得できる。本科目の取り組み期間は随意で，学期・年度を越えてもよい。学生が自律的に最先端の科学に触れる機会を見いだし，自らの知的可能性を広げる原動力となることを目的とする。	
			プロジェクト学習	学生が個人またはグループ単位で自由にテーマを設定し，自主的にその研究プロジェクトに取り組むことを主眼とする科目である。自らが発想したテーマについて，自律的に課題発見・解決に取り組むことを通して，汎用的能力と知の技法を身につけることを目的としている。プロジェクトの学習期間は随意で，学期・年度を越えてもよい。所定の活動成果報告書が提出された時点でプロジェクトが終了したものと扱われ，成績評価が行われる。1プロジェクトにつき，2単位が付与される。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	留学生対象科目	日本語科目	アカデミックジャパニーズ１	本科目の目的は，大学での学習に必要な総合的な日本語能力の向上および習熟を図ることであり，到達目標は，１.大量の日本語情報から，一定時間内で大意を的確に把握し，２.それに基づいて自らの意見形成を行い，３.日本語で表現できるようになることである。文法的な正確さはある程度まで求めるが，伝達能力をより重視する。授業は聴解主体の回と読解主体の回を交互に繰り返す。読解，聴解とも生教材を主に使用する。	
			アカデミックジャパニーズ２	本科目の目的は，大学での学習に必要な総合的な日本語能力の向上および習熟を図ることであり，到達目標は，１.大量の日本語情報から，一定時間内で大意を的確に把握し，２.それに基づいて自らの意見形成を行い，３.日本語で表現できるようになることである。文法的な正確さはある程度まで求めるが，伝達能力をより重視する。授業は生教材を用いての聴解が主体となる。また，グループワークの比重が高くなる。	
			アカデミックジャパニーズ３	本科目の目的は，大学生活の中でよくあるケースを基本に，相手や機能によって適切なメールの書き方と表現を学び，今後の人間関係を良好にしていけるようなメールが書けることである。具体的な到達目標は，１）日本語学習者に多い誤用例や，誤解を生みやすい表現について理解し，適切な表現を正しく使えるようになる，２）相手や場合にふさわしいメールを書くことができるようになる，である。そのため，実際にメールを送る課題を通じ，知識の定着をはかる。	
			アカデミックジャパニーズ４	本科目の目的は，将来専門課程で必要とされる口頭発表・またその後の質疑応答が可能になるような日本語表現力ー「描写」「説明」「意見のサポート」方法ーを身につけることである。そのため，大学生として適切な口頭発表を行うために必要な手順を，具体的に理解し，実践できることを目指す。その手段として，授業中は留学生同士また日本人ボランティアとのピア活動を積極的に行い，ピアによる発表原稿や口頭発表の見直し・振り返りを通して，ピアサポートの方法を知る。	
			日本語Ａ１	前学期に開講する本科目の目的は，日本語初級前半レベルの４技能（話す・聞く・読む・書く）を総合的に学習し，大学生活における日本人とのコミュニケーションに役立てることである。到達目標は，日常生活に必要な語彙・文型を覚え，実際の場面でそれらを使って日本人と会話できることである。授業は，日本語初級教科書に基づいて進め，毎回宿題を課し，定期的にテストを実施する。受講生は，ひらがな・カタカナをすでに学習していることを前提とし，基本的に日本語で行う。また必ず予習・復習を必要とする。	
			日本語Ａ２	後学期に開講する本科目の目的は，日本語初級前半レベルの４技能（話す・聞く・読む・書く）を総合的に学習し，大学生活における日本人とのコミュニケーションに役立てることである。到達目標は，日常生活に必要な語彙・文型を覚え，実際の場面でそれらを使って日本人と会話できることである。授業は，日本語初級教科書に基づいて進め，毎回宿題を課し，定期的にテストを実施する。受講生は，ひらがな・カタカナをすでに学習していることを前提とし，基本的に日本語で行う。また必ず予習・復習を必要とする。	
			日本語Ｂ１	前学期に開講する本科目の目的は，日本語初級後半レベルの４技能（話す・聞く・読む・書く）を総合的に学習し，大学生活における日本人とのコミュニケーションに役立てることである。到達目標は，１．日本語の動詞や形容詞の活用を正しい形で使用できる，２．教科書に出てくる語彙や文法を用いて，４技能をまんべんなく習得する，３．実際の場面で，学習した語彙・文法を使って日本人と会話できる，の３点である。授業は，日本語初級教科書に基づいて進め，毎回宿題を課し，定期的にテストを実施する。また必ず予習・復習を必要とする。	
			日本語Ｂ２	後学期に開講する本科目の目的は，日本語初級後半レベルの４技能（話す・聞く・読む・書く）を総合的に学習し，大学生活における日本人とのコミュニケーションに役立てることである。到達目標は，１．日本語の動詞や形容詞の活用を正しい形で使用できる，２．教科書に出てくる語彙や文法を用いて，４技能をまんべんなく習得する，３．実際の場面で，学習した語彙・文法を使って日本人と会話できる，の３点である。授業は，日本語初級教科書に基づいて進め，毎回宿題を課し，定期的にテストを実施する。また必ず予習・復習を必要とする。	
			日本語口頭表現Ｃ１	前学期に開講する本科目の目的は，初級で学習した文法や語彙の復習をし，単文から複文へとより高度な表現を学習することにより，物事を詳細に説明する能力，論理的な意見の交換，発表するための口頭表現能力を身につけることである。また，到達目標は，１．日本と自国の社会・文化等の共通点や相違点を理解してスピーチすることができる，２．提起されたテーマについて，J-support（日本人学生・社会人）と話し合うことができる，３．話し合ったことを文章にまとめ，発表することができる，　の３点である。授業は，教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語口頭表現Ｃ２	後学期に開講する本科目の目的は，初級で学習した文法や語彙の復習をし，単文から複文へとより高度な表現を学習することにより，物事を詳細に説明する能力，論理的な意見の交換，発表するための口頭表現能力を身につけることである。また，到達目標は，１．日本と自国の社会・文化等の共通点や相違点を理解してスピーチすることができる，２．提起されたテーマについて，J-support（日本人学生・社会人）と話し合うことができる，３．話し合ったことを文章にまとめ，発表することができる　の３点である。授業は，教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語読解作文Ｃ１	前学期に開講する本科目の目的は，１．初級の基礎的な学習を踏まえ，より高い総合的技能の習得を目指す，２．日本語の基礎的構造を知り，それを運用する能力を身に付ける，３．自律的な学習スタイルを習得する，の３点である。また，到達目標は，１．初級の文型表現を運用することができる，２．自分の考えを短文で表現できる，３．日本語能力試験３級程度の語彙（特に漢字）を理解し使用できる，の３点である。授業は，教材プリント(事前配布)に基づいて進行する。	
			日本語読解作文Ｃ２	後学期に開講する本科目の目的は，１．初級の基礎的な学習を踏まえ，より高い総合的技能の習得を目指す，２．日本語の基礎的構造を知り，それを運用する能力を身に付ける，３．自律的な学習スタイルを習得する，の３点である。また，到達目標は，１．初級の文型表現を運用することができる，２．自分の考えを短文で表現できる，３．日本語能力試験３級程度の語彙（特に漢字）を理解し使用できる，の３点である。授業は教材プリント(事前配布)に基づいて進行する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	留学生対象科目	日本語科目	日本語口頭表現Ｄ１	前学期に開講する本科目の目的は，クラスメートやJ-support（日本人学生・社会人）の対話を通して，文化や社会，人間などについて考える力と，それをスピーチで表現したり，グループで話し合ったりする日本語力を身に付けることである。また，到着目標は，１．自分の体験や意見を日本語で表現できる，２．相手の意見を聞いて理解できる。３．考え方や価値観が異なる相手と対話して，自分の考えを深めたり，新しい考えを創設したりできる，の３点である。授業は教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語口頭表現Ｄ２	後学期に開講する本科目の目的は，クラスメートやJ-support（日本人学生・社会人）の対話を通して，文化や社会，人間などについて考える力と，それをスピーチで表現したり，グループで話し合ったりする日本語力を身に付けることである。また，到着目標は，１．自分の体験や意見を日本語で表現できる，２．相手の意見を聞いて理解できる，３．考え方や価値観が異なる相手と対話して，自分の考えを深めたり，新しい考えを創設したりできる，の３点である。授業は教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語読解作文Ｄ１	前学期に開講する本科目の目的は，大学での学びに必要となる読解のスキルとレポートを書く時のルールを学ぶことである。読解は，必要な情報を的確に把握できるよう，接続表現や文末表現など着目すべき点を学び，文と文，段落と段落の関係を正しくとらえる能力の養成を目指す。また，他者に分かりやすく伝えられるよう，レポートを書く時のルール，文型，表現を身につける。合わせて教材にある語彙の定着も目指す。授業は教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語読解作文Ｄ２	後学期に開講する本科目の目的は，大学での学びに必要となる読解のスキルとレポートを書く時のルールを学ぶことである。読解は，必要な情報を的確に把握できるよう，接続表現や文末表現など着目すべき点を学び，文と文，段落と段落の関係を正しくとらえる能力の養成を目指す。また，他者に分かりやすく伝えられるよう，レポートを書く時のルール，文型，表現を身につける。合わせて教材にある語彙の定着も目指す。授業は教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語口頭表現Ｅ１	前学期に開講する本科目の目的は，場面に応じた「適切な待遇表現」を学び，日本人を招くビジターセッション（インタビュー）運営等を通して，場面に応じた待遇表現運用力の向上を目指す。また到着目標は，１．ビジターに接するとき，相手にふさわしい話し方や表現を使って，質疑応答ができる，２．考え方や価値観が異なる相手と対話して，自分の考えを深めたり，新しい考えを創設したりできる，３．テーマを理解するために必要な情報・知識を適切な方法を使って入手できる，の３点である。	
			日本語口頭表現Ｅ２	後学期に開講する本科目の目的は，場面に応じた「適切な待遇表現」を学び，日本人を招くビジターセッション（インタビュー）運営等を通して，場面に応じた待遇表現運用力の向上を目指す。また到着目標は，１．ビジターに接するとき，相手にふさわしい話し方や表現を使って，質疑応答ができる，２．考え方や価値観が異なる相手と対話して，自分の考えを深めたり，新しい考えを創設したりできる，３．テーマを理解するために必要な情報・知識を適切な方法を使って入手できる，の３点である。	
			日本語読解作文Ｅ１	前学期に開講する本科目の目的は，日本語表現全般に通じる基礎的な方法を習得するため，表現を「通信・案内・伝達」「記録・報告」「意見・主張」の三部に分け，ジャンル・形式別の日本語表現方法を身に付けることである。到達目標は，１．文章を書く場合の一般的な手順や基本を理解する，２．場面や相手に応じた適切な手段で自己表現ができる，３．情報を収集・整理し，正確かつ簡潔に伝える文章にまとめる方法について理解する，４論理的な文章を読み，全体の構成や論旨を読み取る力がつく，５．日本語の特徴を理解する，の５点である。	
			日本語読解作文Ｅ２	後学期に開講する本科目の目的は，日本語表現全般に通じる基礎的な方法を習得するため，表現を「通信・案内・伝達」「記録・報告」「意見・主張」の三部に分け，ジャンル・形式別の日本語表現方法を身に付けることである。到達目標は，１．文章を書く場合の一般的な手順や基本を理解する，２．場面や相手に応じた適切な手段で自己表現ができる，３．情報を収集・整理し，正確かつ簡潔に伝える文章にまとめる方法について理解する，４論理的な文章を読み，全体の構成や論旨を読み取る力がつく，５．日本語の特徴を理解する，の５点である。	
			日本語総合Ｅ１	前学期に開講する本科目の目的は，単なる言葉の理解だけでなく，ビジネス知識，習慣など，社会的文化的背景を含めた，総合的な理解力，判断力をつけ，あらゆるビジネス場面で日本語による十分なコミュニケーションができるようにすることである。到達目標は，１．日本語に関する正確な知識と運用能力が身につく，２．どのようなビジネス会話でも正確に理解できる，３．会議，商談，電話の応対などで相手の話すことが正確に理解できる，４．対人関係に応じた言語表現の使い分けが適切にできる，５．日本のビジネス慣習を十分理解できる，の５点である。	
			日本語総合Ｅ２	後学期に開講する本科目の目的は，単なる言葉の理解だけでなく，ビジネス知識，習慣など，社会的文化的背景を含めた，総合的な理解力，判断力をつけ，あらゆるビジネス場面で日本語による十分なコミュニケーションができるようにすることである。到達目標は，１．日本語に関する正確な知識と運用能力が身につく，２．どのようなビジネス会話でも正確に理解できる，３．会議，商談，電話の応対などで相手の話すことが正確に理解できる，４．対人関係に応じた言語表現の使い分けが適切にできる，５．日本のビジネス慣習を十分理解できる，の５点である。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	留学生対象科目	日本語科目	日本語漢字Ａ１	前学期に開講する本科目の目的は，ひらがな・カタカナ・漢字（323字）の読み書きを身につけることである。到着目標は，１．正しい書き順でひらがな・カタカナ・漢字が書ける，２．学習した漢字で書かれた漢字仮名交じり文が読める，３．学習した漢字を使って，日本語の文を漢字仮名交じり文で表記できる，の３点である。授業は，テキスト『Write Now! Kanji for Beginners』に基づいて進行する。	
			日本語漢字Ａ２	後学期に開講する本科目の目的は，ひらがな・カタカナ・漢字（323字）の読み書きを身につけることである。到着目標は，１．正しい書き順でひらがな・カタカナ・漢字が書ける，２．学習した漢字で書かれた漢字仮名交じり文が読める，３．学習した漢字を使って，日本語の文を漢字仮名交じり文で表記できる，の３点である。授業は，テキスト『Write Now! Kanji for Beginners』に基づいて進行する。	
			日本語漢字表記Ｂ１	前学期に開講する本科目の目的は，自律的な学習を通して，自分のレベルの一段階上の漢字とその使い方を覚え，漢字力特に正しい表記力を身につけることである。到達目標は，１．読み手に誤解されない字形等，正しく漢字が書けるようになる，２．授業開始時に設定した目標のレベルまでの漢字を正しく表記が行え，意味がわかるようになる，の２点である。また，場合によっては，ひらがなカタカナの書字指導も行う。授業は，それぞれのレベルに合う教材を使って漢字表記方法を中心に漢字学習を行う。	
			日本語漢字表記Ｂ２	後学期に開講する本科目の目的は，自律的な学習を通して，自分のレベルの一段階上の漢字とその使い方を覚え，漢字力特に正しい表記力を身につけることである。到達目標は，１．読み手に誤解されない字形等，正しく漢字が書けるようになる，２．授業開始時に設定した目標のレベルまでの漢字を正しく表記が行え，意味がわかるようになる，の２点である。また，場合によっては，ひらがなカタカナの書字指導も行う。授業は，それぞれのレベルに合う教材を使って漢字表記方法を中心に漢字学習を行う。	
			日本語漢字語彙Ｂ１	前学期に開講する本科目の目的は，自律的な学習を通して，自分のレベルの一段階上の漢字と漢字語彙の使い方を覚え，漢字力とそれに伴う語彙力を身につけることである。到達目標は，１．読み手に誤解されない字形，正しい書き方で漢字が書けるようになる，２．授業開始時に設定した目標のレベルまでの漢字と漢字語彙の読み書きができ，意味がわかるようになる，の２点である。授業は，それぞれのレベルに合う教材を使って漢字語彙の使い方を中心に漢字学習を行う。	
			日本語漢字語彙Ｂ２	後学期に開講する本科目の目的は，自律的な学習を通して，自分のレベルの一段階上の漢字と漢字語彙の使い方を覚え，漢字力とそれに伴う語彙力を身につけることである。到達目標は，１．読み手に誤解されない字形，正しい書き方で漢字が書けるようになる，２．授業開始時に設定した目標のレベルまでの漢字と漢字語彙の読み書きができ，意味がわかるようになる，の２点である。授業は，それぞれのレベルに合う教材を使って漢字語彙の使い方を中心に漢字学習を行う。	
		日本事情に関する科目	日本事情Ａ１	本科目の目的は，日本の大学ではじめて大学生活を送る学部外国人留学生が，教室内外の活動を通じて，日本文化への理解を深めることである。教室内では，担当教員の講義等により，伝統的な日本文化や今日的な日本マナーを学ぶ。教室外活動としては，松山城，道後温泉，石手寺等の具体的な歴史名所への訪問を行うことで，地元愛媛（特に松山）の歴史を知る。また，伊予かすり会館や地元企業見学等を通じて，地元愛媛（特に松山）の産業等への知識も得る。	
			日本事情Ａ２	この授業では現代日本の様々な社会問題（食の安全，原子力等）を取り上げ，日本語によるグループディスカッションを行う。本科目の目的は，１.現代日本の話題を知ってそれについて日本語で自分の意見を述べる，２.日本社会や文化を様々な視点で考える，の２点である。到達目標は，１.日本語でディスカッションができる，２.日本に話題になっているトピックスについて日本語で意見が述べられる，３.日本語で情報収集ができる，の３点である。	
			日本事情Ｂ１	日本の大学で初めて大学生活を送る外国人留学生が，大学の仕組み・日本の社会の仕組み・日本の文化・日本の言葉など，専門的な学問以前の常識として保持しておきたい基本的な知識を習得する。さらに，日常生活・大学生活で気付いた疑問点について，授業のなかで互いに紹介し合い，討論を行うことにより，実践的な日本語コミュニケーション能力を培う。単に日本の問題点を紹介するだけでなく，同じ事項に関する留学生の母国の様子も紹介しあい，比較対照しながら，立体的に検討していく。	
			日本事情Ｂ２	本来,「日本事情」が扱うべき主題はきわめて多岐に渡る。本科目では戦後期日本を中心に,日本社会への理解を深め,基礎的な判断材料となるような知識の習得を目指す。到達目標は,1.日本での生活・学習の基礎的な判断材料となるような知識を習得する,2.日本が単一なものではなく,「いくつもの日本文化・いくつもの日本社会」があることを例を挙げて説明できる,3.授業で取り上げた諸問題に関し,自国の状況と比較して見解を述べることができる,ことである。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎力育成科目群	社会共創学概論	この授業は、社会共創学という学問の起点となる科目で、社会共創学の学問的性質、社会の課題およびその発見の視点、トランスディシプリナリー研究の在り方ならびに科学と社会の連携による「知の統合」とそれによる地域の新しい価値創造までのプロセスについて学びます。その際に重要なるサーバントリーダーシップの重要性およびその修得法について学びます。講義では、地域社会が抱える複雑な課題を解決する国内外の事例も交え、かつグループ・ディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを活用して学ぶことによって、課題設定・解決への学習意欲を高めます。 （オムニバス方式／全15回） （⑪　榊原　正幸／11回） ガイダンス　－社会共創学の学問的性質－ 地域社会の諸問題　―科学と現実社会が交わるトランス・サイエンス― トランスディシプリナリティの概念　－学と社会の連携による「知の統合」と協働－ トランスディシプリナリティの実践　－欧米および日本におけるトランスディシプリナリー研究の実践例－ トランスディシプリナリー研究におけるステークホルダー論 課題解決のための分野横断的思考 トランスディシプリナリー研究におけるサーバントリーダーシップの重要性と修得 グループ・ディスカッション「地域社会の課題解決のためのプロセスとその手法」 地域社会の課題とトランスディシプリナリー研究の萌芽 その5　－インドネシアにおける貧困問題を背景とします水銀汚染とトランスディシプリナリー・アプローチによる地域社会の変容－ 社会共創学がもたらす社会の変容 グループ・ディスカッション「自分が住んでいる地域社会におけるトランスディシプリナリティ」 （⑨　若林　良和／1回） 地域社会の課題とトランスディシプリナリー研究の萌芽 その１　－地場産業に関する多面的分析－ （㉑　笠松　浩樹／1回） 地域社会の課題とトランスディシプリナリー研究の萌芽 その2　－愛媛県の農山漁村振興－ （⑮　井口　梓／1回） 地域社会の課題とトランスディシプリナリー研究の萌芽 その3　－地域づくりと文化－ （⑳　片岡　由香／1回） 地域社会の課題とトランスディシプリナリー研究の萌芽 その4　－協働の空間デザイン－	オムニバス方式
		地域調査方法入門	現代社会において、地域調査は、企業・行政・団体や研究機関など地域の様々な主体（ステークホルダー）によって実施され、地域社会の実態把握と問題点の追求、諸課題解決の可能性の検討を考える重要な方法のひとつとして位置づけられる。本授業では、地域の様々な人々とともに地域の課題について検討するために、地域調査の一連の方法を学ぶ。地域社会の多様な実態を明らかにするのに必要となる問題発見能力や調査能力、分析能力の基礎を身につける。具体的には、地域調査に関する基本的な手法を紹介するとともに、演習によって調査実施のノウハウを体得し、その結果をもとに、地域社会の実態を明らかにする。 （オムニバス方式／全15回） （⑨　若林　良和／1回） 第１回　ガイダンス（授業の目的と概要・進め方、社会調査の目的と意義、社会調査の歴史、社会調査の倫理、社会共創学における地域調査の意義） （6　曽我　亘由・15　広垣　光紀／６回）（共同） 第３～８回　量的調査：アンケート調査（統計データをもとに明らかになる事項の解説、データ解析演習、アンケート調査のメリット・デメリットの解説、【演習】調査票作成と調査実施、結果の集約と分析） （119　羽鳥　剛史／4回） 第２回　社会調査の設計（調査の企画、実施方法及び現地調査計画の検討、対象地域の選定、アポイントメント調整） 第９～11回　質的調査：インタビュー調査の要点の解説、インタビュー調査のメリット・デメリット、【演習】調査項目作成と調査実施、結果の集約と分析） （⑮　井口　梓／2回） 第12～13回　地域調査の実際①：地域情報の収集と読解（地図・文献（郷土史資料）、行政資料（地域の計画書・統計書など）様々な資料の紹介、【演習】地図の読解） （㉑　笠松　浩樹・⑬　深堀　秀史／2回）（共同） 第14回　地域調査の実際②：多角的なアプローチとしての地域調査法（景観観察、土地利用調査、行動調査、発掘調査など様々な調査の特徴について解説） 第15回　総括：地域調査の方途	オムニバス方式・共同（一部）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎力育成科目群	経営入門	本講義では、企業システムを体系的に学ぶために、企業（経営）の基礎知識を習得するとともに、具体的なビジネスモデルを製販統合やコンビニエンスストアなどの事例を通じて理解することを目的とする。具体的には、①株式会社などの企業形態について基本的な事柄②会社組織の基本的な仕組み、企業と企業に関わる利害関係者（債権者、顧客、地域住民など）との関係、③具体的なビジネスモデルについて学んでいく。 （オムニバス方式／全15回） （7　崔　英靖／8回）ガイダンス(1回・共同）を行った後、企業経営の基礎知識について、創業から株式公開までの流れに沿って説明する。 （11　折戸　洋子／8回）ガイダンス（1回・共同）を行った後、競争とビジネスモデルについて、チェーンストアやコンビニの事例などを用いて説明する。	オムニバス方式・共同（一部）
		サーバントリーダーシップ入門	この授業は、社会共創学という学問を具現化していくための基本科目と位置付けられ、地域の諸課題解決に取り組むための基礎的な資質・能力であるリーダーシップのあり方を学修します。特に、地域のステークホルダーとの協働において重視されるサーバントリーダーシップについて、具体的、かつ、実践的な取り組みを紹介しながら、系統的に学びます。授業は、２コマ連続で実施し、担当教員による講義とグループワーク（１グループ10名×18グループ）を織り交ぜながら実施します。課題は、グループ毎に３分の動画にまとめ、Moodle/Facebook にアップロードして提出し、教員と受講者間で共有し、授業で活用します。 （オムニバス方式／全15回） （⑨　若林　良和／4回） ・ガイダンス（授業の目的と概要、到達目標およびグループワークの手法と課題提出の方法、評価方法について説明する。） ・社会共創学とサーバントリーダーシップ（社会共創学とサーバントリーダーシップの関係、さらにその意義について解説する。） ・リーダーシップと地域社会（地域の諸課題解決に必要なリーダーシップの重要性とあり方を概説した上で、既存のリーダーシップの機能や効果を理論的に検討する。） ・まとめ（本講義のふりかえりを行い、学生各自が目指すサーバントリーダー像（活躍場所、取り組む課題など）を発表して共有する。） （㉑　笠松　浩樹／7回） ・ガイダンス（授業の目的と概要、到達目標およびグループワークの手法と課題提出の方法、評価方法について説明する。） ・社会共創学とサーバントリーダーシップ（社会共創学とサーバントリーダーシップの関係、さらにその意義について解説する。） ・リーダーシップと地域社会（地域の諸課題解決に必要なリーダーシップの重要性とあり方を概説した上で、既存のリーダーシップの機能や効果を理論的に検討する。） ・日本の里山で活躍するサーバントリーダー（国内の里山の現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、国内の里山で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・日本の里海で活躍するサーバントリーダー（国内の里海の現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、国内の里海で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・日本の都市で活躍するサーバントリーダー（国内の都市の現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、国内の都市で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・まとめ（本講義のふりかえりを行い、学生各自が目指すサーバントリーダー像（活躍場所、取り組む課題など）を発表して共有する。） （⑰　小林　修／5回） ・ガイダンス（授業の目的と概要、到達目標およびグループワークの手法と課題提出の方法、評価方法について説明する。） ・サーバントリーダーシップ概説１：サーバントリーダーシップの概念（サーバントリーダーシップの概念について、これまでの研究系譜や実践例から検討する。） ・サーバントリーダーシップ概説３：地域社会との関連（サーバントリーダーシップを、地域社会との関わりにおいて概説する。サーバントリーダーのあり方について、幅広い観点から地域の現状を俯瞰しつつ、地域の課題と可能性を見出すための手だてについて検討する。） ・サーバントリーダーと地域貢献（地域の発展に貢献することができるサーバントリーダーの基本的な視点、資質、目指すべき方向性について解説する。） ・まとめ（本講義のふりかえりを行い、学生各自が目指すサーバントリーダー像（活躍場所、取り組む課題など）を発表して共有する。）	オムニバス方式・共同（一部）・専任補充予定

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎力育成科目群		サーバントリーダーシップ入門	（⑱　島上　宗子／11回） ・ガイダンス（授業の目的と概要、到達目標およびグループワークの手法と課題提出の方法、評価方法について説明する。） ・社会共創学とサーバントリーダーシップ（社会共創学とサーバントリーダーシップの関係、さらにその意義について解説する。） ・リーダーシップと地域社会（地域の諸課題解決に必要なリーダーシップの重要性とあり方を概説した上で、既存のリーダーシップの機能や効果を理論的に検討する。） ・サーバントリーダーシップ概説１：サーバントリーダーシップの概念（サーバントリーダーシップの概念について、これまでの研究系譜や実践例から検討する。） ・サーバントリーダーシップ概説３：地域社会との関連（サーバントリーダーシップを、地域社会との関わりにおいて概説する。サーバントリーダーのあり方について、幅広い観点から地域の現状を俯瞰しつつ、地域の課題と可能性を見出すための手だてについて検討する。） ・サーバントリーダーと地域貢献（地域の発展に貢献することができるサーバントリーダーの基本的な視点、資質、目指すべき方向性について解説する。） ・インドネシア社会とサーバントリーダー（東南アジア・インドネシアの地域社会の現状と課題を説明し、地域協働の重要性を解説する。） ・インドネシアの農山村で活躍するサーバントリーダー（インドネシアの農山村に関する現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、農村社会で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・インドネシアの漁村で活躍するサーバントリーダー（インドネシアの漁村に関する現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、漁村社会で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・インドネシアの都市で活躍するサーバントリーダー（インドネシアの都市に関する現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、都市社会で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・まとめ（本講義のふりかえりを行い、学生各自が目指すサーバントリーダー像（活躍場所、取り組む課題など）を発表して共有する。）	オムニバス方式・共同（一部）・専任補充予定
	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	フィールドワーク入門	本学部の主眼となる地域社会をどのようにとらえるかの実習に先立ち、その調査の準備に関する講義をおこなう。実例を元に、フィールドワークに入る心構えやコミュニケーションのあり方、観察の方法、まとめ方を学ぶ。とくに、情報収集、課題発見、アポイント取り、ヒアリング、調査票の作成と記録・整理など、必要なスキルを身につけるとともに、コミュニケーション力、観察力、積極性、表現力および説明力などの汎用的スキルを育成する。 （オムニバス方式／全１５回） （3　山口　由等／３回） ・イントロダクション（社会共創学部とフィールドワーク） ・企業のＱＣサークルの手法から学ぶ課題発見の方法 ・地域資料の現地調査とアーカイブ作りによる地域への還元 （⑯　淡野　寧彦／２回） ・主題図のルールと活用方法 ・アンケートの設計と分析 （⑲　小田　清隆／２回） ・農山漁村地域の生活、生業、地域活動、資源、課題を可視化する方法の学習 ・住民への還元方法と学生の成果の取得方法の学習 （⑤　藤川　健／２回） ・企業調査はどのように行えばよいのか ・地域の企業が抱える問題を考えよう （117　山本　智規／２回） ・産業分野におけるフィールドワークの手法 ・産業分野におけるフィールドワークの具体例 （24　大森　浩二／２回） ・地域自然調査の準備の学習 ・自然環境調査の立案と実施（救命講習等の野外において必要な技術的訓練を含む）	オムニバス方式・兼任補充予定

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	フィールド基礎実習	「フィールド実習」のプレ・ステージとして位置づけられ、身近な地域社会に出て「人・地域社会・自然環境」とふれあうための少人数のアクティブ・ラーニングに取り組む。教員の支援のもと、学生自身が計画し、行動の自立と他者との協働、学びの言語化を通して、地域社会への興味・関心を高め、主体的・能動的な態度を身につける。①産業、②自然環境、③文化・歴史、④観光・スポーツの４領域から成るフィールドが実習先となる。学生は学科の異なる学生同士の６人チーム（事前に担当教員が名簿からグルーピングする）によって、グループワークで４フィールドを選択し、行程・行動計画を立案し訪問視察する。 訪問先をあらかじめ学生がサイト等で情報を入手しやすい先とすることで、事前学習を促し、実習効果を高める。また、行程・行動計画書の作成に加え、チームでの学習内容を学修ポートフォリオに記録（アクティビティ・ログ）し、教員からのコメント（コメント・シート）により、自らの学びの振り返りと改善を促す。 （5　岡本　隆）産業の領域における行程・行動計画の指導及び情報産業論の観点から報告書の作成指導を行う。 （10　谷本　貴之）産業の領域における行程・行動計画の指導及びマーケティング論の観点から報告書の作成指導を行う。 （117　山本　智規）ものづくり企業での実習における行程・行動計画の指導及び地場産業の特色を明らかにするという観点から報告書の作成指導を行う。 （23　松村　暢彦）松山市興居島などの里島や肱川水系などの里川における行程・行動計画の指導及び地域環境デザインの観点から報告書の作成指導を行う。 （121　入江　賀子）再生可能エネルギー・プロジェクトにおける行程・行動計画の指導及び地域エネルギー・環境デザインの観点から報告書の作成指導を行う。 （32　牛山　眞貴子）観光・スポーツ資源をテーマとする調査の行程・行動計画の指導及び健康・スポーツ科学と地域コミュニティの観点から報告書の作成指導を行う。 （28　野口　一人） 観光・スポーツ資源をテーマとする調査の行程・行動計画の指導及びICTの活用と情報処理の観点から報告書の作成指導を行う。 （⑦　野澤　一博） 産業の領域における行程・行動計画の指導及び地域経済学の観点から報告書の作成指導を行う。	共同
			フィールド実習	フィールド基礎実習で習得したチームでプロジェクトを進める能力をいかし、地域の多様なステークホルダーとのディスカッションやフィールド調査をチームで行い、地域の活動や資源、課題等を調査、把握する。把握した内容を地域のステークホルダーも含めた場で発表し、住民と学生で共有する。これらの活動を通して、地域のステークホルダーが地域社会を持続、変革することの意義と姿勢を学び、地域社会に向かう自分のスタンスを形成する。フィールドは、四国中央市、西条市、松山市、西予市とし、48人ずつ4グループに分かれて各地域へ配置、さらに1グループを8チーム（6人／班）に分ける。学生は、チームでの学習内容を学修ポートフォリオに記録（アクティビティ・ログ）し、教員からのコメント（コメント・シート）により、自らの学びの振り返りと改善を促すことが可能となる。 （23　松村　暢彦）市民まちづくり活動による中心市街地の活性化の観点から、調査及び報告書の作成指導 （5　岡本　隆）地域に存在する企業の情報産業論の観点から調査及び報告書の作成指導 （10　谷本　貴之）地域産業を構成する企業や組織のマーケティング論の観点からの調査及び報告書の作成指導 （㉑　笠松　浩樹）農山漁村におけるフィールドワークの観点から、地元学の手法を用い、聞き取り調査、踏査、結果の集約、地元住民との結果の共有方法を指導 （115　福垣内　暁）製紙科学や機能紙科学、材料化学、紙産業振興を通じた地域活性化の観点から、四国中央市における製紙産業、地域の調査および報告書作成の指導 （117　山本　智規）地場産業の理解を通じた地域活性化の観点から、ものづくり産業の調査および報告書作成の指導 （⑬　深堀　秀史）製紙科学や機能紙科学、紙産業振興を通じた地域活性化の観点から、四国中央市における製紙産業、地域の調査および報告書作成の指導 （234　秀野　晃大）バイオマス変換利用としての製紙科学を軸とし、四国中央市における製紙産業の観点から、製紙工程、原理、歴史などの調査及び報告書の作成指導 （3　山口　由等）鉄道遺産を通じた地域再生活動を核とする産業観光の振興の観点から、調査及び報告書の作成指導 （7　崔　英靖）地域産業を構成する地元企業の経営の観点から調査及び報告書の作成指導 （⑳　片岡　由香）地域の歴史や景観を資源とした観光振興の観点から、現地踏査や地元住民、まちづくりの関係主体へのヒアリング調査の指導、および提案書作成の指導 （26　寺谷　亮司）飲食文化や産業などの地域資源を活かしたまちづくりや地域振興に関する調査及び報告書の作成指導	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	プロジェクト基礎演習	地域・組織等におけるプロジェクトにチームで取り組む。フィールド実習で修得した地域のステークホルダーと協働してプロジェクトの企画を立案する能力をいかして、「よりよい地域・組織等」を地域のステークホルダーともに考え、その実現のためのプロジェクトを企画する。プロジェクトのテーマについては、課題設定能力を育成するため、大枠を与える程度とし（たとえば、地域の持続可能性を高める商店街の活性化を図るなど）、そこから課題を的確に設定する能力を育成する。地域のステークホルダーとの積極的なディスカッションやテーマに関する情報収集等による地域・組織等の現状分析を通して、課題を発見し、絞り込む。絞り込んだ課題に対して、地域・組織等の強みを活かした解決策を企画する。課題の設定や解決策を考える際に、チームとして地域に対して何ができるのかを考え、必要があれば自ら新しい分野の知識を修得するなど積極的に取り組む姿勢を身につける。受講者はプロジェクトを企画書としてチームでまとめ、プレゼンテーション会で発表するとともに、他のチームの発表に対して、よりよい地域・組織等に向けた実践企画になるように評価、コメントを行う。演習の過程において、3年生ともディスカッションをしながら進めていくこととする。 具体的には、「プロジェクト実践演習」「プロジェクト応用演習」に必要な専門知識およびプロジェクト遂行能力を育成した上で、地元企業や地域産業の課題解決に貢献できるプロジェクトの企画を提案する。受講生の関心領域などに応じてグルーピングを行った後、指導教員の専門領域に基づいた事前学習を行いながら、地域のステークホルダーとの協働を通じて地域についての理解を深める。その後、自主調査などを実施した上で、地域のステークホルダーに対してプロジェクト企画のプレゼンテーション（企画提案）を行う。 （①　西村　勝志）ステークホルダーの観点からの地元企業における会計情報の信頼性・有用性の確保に関する学習・調査・企画に係わる指導 （2　徐　祝旗）地域企業の生産・物流活動の合理化・効率化をはかり，生産性と競争力を高めるための学習・調査・企画に係わる指導 （3　山口　由等）鉄道遺産を通じた地域再生活動を核とする産業観光の振興の観点からの学習・調査・企画に係わる指導 （(1)　川口　和仁）計量経済学的なデータ分析に基づく地域振興政策立案のための学習・調査・企画に係わる指導 （②　岡本　直之）企業組織内あるいは組織間の関係について管理会計や原価計算の観点からの学習・調査・企画に係わる指導 （5　岡本　隆）地域の産業を情報の観点から調査し地域活性化策を立案するための学習・調査・企画に係わる指導 （6　曽我　亘由）「地域企業への聞き取り調査」と「経済統計指標」による企業が直面する経済環境および経営問題の把握・解決のための学習・調査・企画に係わる指導 （7　崔　英靖）戦略的経営の観点からの地方企業の経営戦略および組織についての学習・調査・企画に係わる指導 （10　谷本　貴之）企業やその他の組織のマーケティング活動に関する学習・調査・企画に係わる指導 （11　折戸　洋子）地域に関する諸問題に対する経営情報システムや組織情報化の観点からの学習・調査・企画に係わる指導 （⑤　藤川　健）地域に根差した中小企業の経営革新に関する学習・調査・企画に係わる指導 （⑧　山口　信夫）地域商業と地域コミュニティの相互関係に着目した学習・調査・企画に係わる指導 （15　広垣　光紀）消費者行動とマーケティング・リサーチの観点からの学習・調査・企画に係わる指導 （(2)　園田　雅江）企業やその他の組織における人材育成とキャリア形成の観点からの学習・調査・企画に係わる指導	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	プロジェクト実践演習	2年次のプロジェクト基礎演習で企画した提案をステークホルダーと協働して、ものづくり、ことづくり、しくみづくりの実現可能性について詳細に検討を行う。チームは、2年次のプロジェクト基礎演習と同じ編成とする。自分の専門分野の知識をフィールドに応用したり、複数の学問分野を横断的に展開したりして、実践知に高めることで、テーマに応じてより広い分野と地域の人々を巻き込んでいきながら、社会に「ものづくり」「ことづくり」「しくみづくり」を働きかける企画案のプロセスをデザインする。ステークホルダー等に対して、中間プレゼンテーション会を開催し、その際に出た意見を反映することを通して、提案内容をチームで改善する。 具体的には、地域のステークホルダーとの協議によって地域からの課題と企画のマッチングを行った上で、地元企業や地域産業の課題解決に貢献できるプロジェクト（新製品・サービス案や業務改善案の提案、市場調査や企業・産業分析など）を実施する。 企業・団体への訪問・調査によって課題を理解した上で、資料分析・各種調査・結果分析などを行い、その成果について地域のステークホルダーに対してプレゼンテーション（中間報告）を行う。 プロジェクトの遂行を通じて課題の本質を明らかにするための調査・分析力と、課題の背景にある理論やメカニズムについて多面的に考察するための思考・判断力の向上を目指す。 （①　西村　勝志）ステークホルダーの観点からの地元企業における会計情報の信頼性・有用性の確保に関する調査及び分析に係わる指導 （2　徐　祝旗）地域企業の生産・物流活動の合理化・効率化をはかり，生産性と競争力を高めるための調査及び分析に係わる指導 （3　山口　由等）鉄道遺産を通じた地域再生活動を核とする産業観光の振興の観点からの調査及び分析に係わる指導 （(1)　川口　和仁）計量経済学的なデータ分析に基づく地域振興政策立案のための調査及び分析に係わる指導 （②　岡本　直之）企業組織内あるいは組織間の関係について管理会計や原価計算の観点からの調査及び分析に係わる指導 （5　岡本　隆）地域の産業を情報の観点から調査し地域活性化策を立案するための調査及び分析に係わる指導 （6　曽我　亘由）「地域企業への聞き取り調査」と「経済統計指標」による企業が直面する経済環境および経営問題の把握・解決のための調査及び分析に係わる指導 （7　崔　英靖）戦略的経営の観点からの地方企業の経営戦略および組織についての調査及び分析に係わる指導 （10　谷本　貴之）企業やその他の組織のマーケティング活動に関する調査及び研究論文の作成指導 （11　折戸　洋子）地域に関する諸問題に対する経営情報システムや組織情報化の観点からの調査及び分析に係わる指導 （⑤　藤川　健）地域に根差した中小企業の経営革新に関する調査及び分析に係わる指導 （⑧　山口　信夫）地域商業と地域コミュニティの相互関係に着目した調査及び分析に係わる指導 （15　広垣　光紀）消費者行動とマーケティング・リサーチの観点からの調査及び分析に係わる指導 （(2)　園田　雅江）企業やその他の組織における人材育成とキャリア形成の観点からの調査及び分析に係わる指導	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	プロジェクト応用演習	プロジェクト実践演習で企画した提案をステークホルダーと協働してものづくり、ことづくり、しくみづくりを実践する。チームは、プロジェクト実践演習と同じ編成とする。多様な分野と地域の人々を巻き込んでいきながら、社会に「ものづくり」「ことづくり」「しくみづくり」を働きかけ提言力・調整力・マネジメント力を身に付ける。また、2年次学生(プロジェクト基礎演習受講学生)に適切なタイミングで助言、指導する役割を担うことでリーダーシップスキルを育成する。受講者はプロジェクトの成果をプレゼンテーション会において発表するとともに、他プロジェクトの計画・行動に対してアドバイスを行うことで、他者に対して協調的かつ主体的に関与する姿勢を身につける。 具体的には、プロジェクト実践演習から継続して、中間発表のフィードバックに基づいて追加調査・結果分析・提案検討などを行い、その成果について地域のステークホルダーに対してプレゼンテーション（最終報告）を行う。プロジェクトの遂行を通じて課題の解決につながるようなエビデンスに基づいた提言・企画を行い、より良い解決策をステークホルダーと共に創りあげていくことを目指す。 （①　西村　勝志）ステークホルダーの観点からの地元企業における会計情報の信頼性・有用性の確保に関する調査・分析・提案に係わる指導 （2　徐　祝旗）地域企業の生産・物流活動の合理化・効率化をはかり，生産性と競争力を高めるための調査・分析・提案に係わる指導 （3　山口　由等）鉄道遺産を通じた地域再生活動を核とする産業観光の振興の観点からの調査・分析・提案に係わる指導 （②　岡本　直之）企業組織内あるいは組織間の関係について管理会計や原価計算の観点からの調査・分析・提案に係わる指導 （5　岡本　隆）地域の産業を情報の観点から調査し地域活性化策を立案するための調査・分析・提案に係わる指導 （6　曽我　亘由）「地域企業への聞き取り調査」と「経済統計指標」による企業が直面する経済環境および経営問題の把握・解決のための調査・分析・提案に係わる指導 （7　崔　英靖）戦略的経営の観点からの地方企業の経営戦略および組織についての調査・分析・提案に係わる指導 （(1)　川口　和仁）計量経済学的なデータ分析に基づく地域振興政策立案のための調査・分析・提案に係わる指導 （10　谷本　貴之）企業やその他の組織のマーケティング活動に関する調査・分析・提案に係わる指導 （11　折戸　洋子）地域に関する諸問題に対する経営情報システムや組織情報化の観点からの調査・分析・提案に係わる指導 （⑤　藤川　健）地域に根差した中小企業の経営革新に関する調査・分析・提案に係わる指導 （⑧　山口　信夫）地域商業と地域コミュニティの相互関係に着目した調査・分析・提案に係わる指導 （15　広垣　光紀）消費者行動とマーケティング・リサーチの観点からの調査・分析・提案に係わる指導 （(2)　園田　雅江）企業やその他の組織における人材育成とキャリア形成の観点からの調査・分析・提案に係わる指導	共同
			海外フィールド実習	アジア（台湾、ベトナム、インドネシア、ネパール）等の地域に関連する研究素材（社会、経済、文化、自然科学、工学、環境、災害など）に関して、自ら課題を発見・解決の方向性を探求する課題発見・解決型プログラムである。学生が訪問国の大学の学生と共同で課題解決に取り組むジョイント・リサーチを行うことによって、国際コミュニケーション能力・国際性・協調性・社会性・問題解決能力を身に着ける。実習期間は3週間とし、国内での事前調査・ガイダンス、現地での事前打ち合わせ・調査設計・調査実施、最終報告を行う。	共同・集中・兼任補充予定
		インターンシップ科目	インターンシップ入門	地域における企業、団体、NPO、地域コミュニティなどのなかに入り、ジョブシャドウイング型インターンシップを行うことで、構成する多様な社会人の就労の現場を体感し、自らの職業観・就労観を養う。インターンシップ前には、社会で求められるビジネスマナー、スキル等を演習することにより身に付ける。演習は学内外のゲストを招きより実践的に行う。第1段階として、地元企業などで形成されるコミュニティに参加し多様な企業を調査・インタビューすることで、自分の興味や専門にとらわれない幅広い分野・業種を認識し、業務内容や就労の実情を把握する。第2段階として、地元の中堅中小企業やNPOなどを実習先とし、実際に職場に入って業務を体験すると同時に、経営者層から従業員まで幅広い就労者にインタビュー・企業調査を行う。第3段階として、実習・インタビュー・調査の結果を分析し整理した結果をレポートにまとめ、受け入れ企業等に報告する。これらの過程により、多様な企業・NPOなどに対する理解が深まり、就労に対する意識が醸成され、自分の適性や自己実現の方向性を見つけることにつながる。 インターンシップは１チーム６人で１６時間の実習とし、６人の教員が、実習の状況、レポート内容等の指導にあたる。	共同・集中
			海外インターンシップ	多様な国際経験を通じてグローバルな視野を涵養することによって、今後各地域に到来するいわゆる「グローバル化の波」の中で地域の課題を解決する就業意識・判断力・創造力・行動力・危機管理力を身に着けた地域社会で役立つ人材を育成することを目的とした海外インターンシップ実習である。本プログラムは「事前ミーティング」（全3回）、「事前文献調査」、「現地インターンシップ（２～３週間）」、「事後指導ミーティング」および「学内公開セミナー」からなる。実習先につき２人の教員が指導にあたるほか、本授業の円滑な実施と教育効果を高めることを目的として提携企業の担当者と本学部の教員間で「事前担当者ミーティング」を実施する。	共同・集中

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	実践力育成発展科目	インターンシップ実践	自治体、企業、団体などでの就労体験を通し、業務内容を理解・遂行すると共に、「働く」ということを実感する。同時に、社会が求める能力や資質についての理解を深め、自分の適性や自己実現の方向性を見つける。これまでに履修したインターンシップ入門やフィールド科目で養った「現場」「社会」の感覚と講義等で身につけた知識を融合させ、それらを実社会の就労の場で実践することで、社会の中での位置づけを推し量り、自分自身の適切な職業選択およびキャリア設計に生かすことができる実践的な水準にキャリア意識を高める。さらには実際の就労体験を通して、ビジネス社会において必須であるコミュニケーション能力、協調性などの重要性を身をもって学ぶ。また他の様々な授業で学んだ知識・スキルの実社会における応用・適用の仕方を身に付け、不足している能力を認識することで、学業への目的意識を高める。実習後には成果をプレゼンテーションする報告会を行い、他の学生との議論を通して体験を共有する。インターンシップは２週間程度の実習とし、２人の教員が隔年で、実習の状況、プレゼンテーション等の指導にあたる。	共同・集中
			初年次プロジェクト演習	地域のステークホルダーから実際に直面している課題を提示してもらい、それに対して解決策を提案するプロジェクトを実行することを通じて、社会で働くために必要な力と自分の力のギャップを認識する。また、グループでのプロジェクト実行を通じて、他者とコミュニケーションを行いながら成果を出すために必要な能力や姿勢を身につける。 なお、初回のPDCAサイクルから学んだ教訓を二回目のプロジェクトに活かすことができるように、プロジェクトは内容の異なる二回に分けて実施される。	共同
			基礎データ処理	社会調査を円滑かつ適切に行い、調査結果に対する統計的分析を可能にすることを意図して、PCの利用、とりわけ表計算ソフトに関する知識を学び、その実践スキルを身につけることを目的とする。 具体的には、学生は3つのクラス（1クラス20～25名で3クラスに分かれ、担当者のうち3名が1クラスずつ開講する(担当者はローテーションで交代)。各クラスでは、統計資料や各種データの整理方法について学んだ上で、表計算ソフトを用いて、1基礎的な記述統計量の算出、2関数、3データベース機能、4ピボットテーブル機能(クロス集計)、5統計データ処理機能(因果関係、相関関係の分析、検定)について実習し、社会調査や研究のためのデータ処理・分析を行う。	共同・集中
			社会調査Ⅰ	調査の企画から実際に調査を実践し報告書を作成するまでの全てのプロセスを体験的に学び、社会調査士の資格取得の要件を満たす社会調査に関する基礎的なスキルと倫理観を習得する。自らの問題意識に基づいて社会調査を行い完結させることで、現状分析力、問題発見能力、問題解決能力を高める。具体的には、グループ討議を通しての調査テーマの選定、調査票の設計、プレテスト、調査票の確定までを行う。 担当教員は、それぞれの専門的視点から指導を行ない、かつ互いの専門性を補い合うことで指導効果を高める。 （2　徐　祝旗）地域産業の生産管理の側面からの視点 （3　山口　由等）地域再生活動を核とする産業観光振興の視点 （5　岡本　隆）地域産業と情報の関連についての視点 （10　谷本　貴之）企業やその他の組織のマーケティング活動の視点 （⑤　藤川　健）地域に根ざした中小企業の経営革新に関する視点 （⑧　山口　信夫）流通論およびまちづくりの視点 （15　広垣　光紀）定量的な手法を用いたマーケティングに関する視点 （155　橘　惠昭）地域産業における情報通信の技術的な側面からの視点 （⑦　野澤　一博）地域産業の経済学的分析の側面からの視点	共同
			社会調査Ⅱ	「社会調査Ⅰ」を通じて得られた社会調査に関する基礎的なスキルと倫理観を実践的に活用するために、問題発見・問題解決のための社会調査を企画することから実際に調査を実践し報告書を作成するまでの全てのプロセスを体験的に学び、社会調査士の資格取得の要件を満たす社会調査に関する実践的なスキルと倫理観を習得する。社会調査の実践を通して，現状分析力、問題発見能力、問題解決能力を高める。 なお社会調査IIでは、社会調査Ⅰの履修を前提とし、確定した調査票をもとにした調査スケジュールの設計、調査実施、データ集計および分析、仮説の検証、既存データとの比較検討および一般化、報告書作成、報告会の実施までを行なう。担当教員は、それぞれの専門的視点から指導を行ない、かつ互いの専門性を補い合うことで指導効果を高める。 （2　徐　祝旗）地域産業の生産管理の側面からの視点 （5　岡本　隆）地域産業と情報の関連についての視点 （⑧　山口　信夫）流通論およびまちづくりの視点 （155　橘　惠昭）地域産業における情報通信の技術的な側面からの視点 （⑦　野澤　一博）地域産業の経済学的分析の側面からの視点	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	課題解決思考力育成科目群	質的データの収集と分析	地域における社会事象を定性的に分析するための質的データの収集法と分析法を解説する。質的調査に関する基本的な手法を解説しながら、それぞれの調査技法のメリット・デメリットを具体的な実践例をもとに紹介し、的確な調査が実施できるようにする。特に、質的調査の特性を踏まえた上で、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析、参与観察データ分析を取り上げて、その実施方法や整理・分析・活用法について検討し、調査能力や分析能力を身につける。 （オムニバス方式／15回） （⑨　若林　良和／2回） 第1回　ガイダンス ・授業の目的と概要、進め方 第2回　社会共創学と質的調査 ・社会共創に向けた具体的手段としての質的調査の特性 ・質的調査と定性分析 ・質的調査のメリット・デメリット ・社会調査士資格の動向と意義 （⑯　淡野　寧彦／5回） 第3～7回　ドキュメント分析 ・ドキュメント分析の調査手順 ・ドキュメント分析の実例 （地域社会・地域文化の事例） （123　渡邉　敬逸／5回） 第8～12回　ライフヒストリー分析 ・ライフヒストリー分析の調査手順 ・ライフヒストリー分析の実例 （地域環境の事例） （119　羽鳥　剛史／3回） 第13～14回　参与観察データ分析 ・参与観察法の調査手順 ・参与観察データ分析の実例 （地域デザインの事例） 第15回　総括：データ整理と分析 ・これからの社会調査としての質的調査	オムニバス方式
		地域経済学	各地域はグローバル化する市場経済の影響を受け、大きな変化を余儀なくされている。このような地域経済の変化を理解するためには、地域経済に関する仕組みを理解し、定量的分析により実体を客観的に把握する必要がある。そこで、本講義では地域経済における諸課題を解決するための理論および政策の枠組みを体系的に学ぶと同時に、地域経済に関する政府統計の読み方と地域経済の現況を分析する能力を身に着けることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	課題解決思考力育成科目群	地域産業概論	愛媛県における地域産業の全体像と特性を概説した上で、県内３地域で環境・社会・経済・歴史・風土に根ざして立地する代表的な産業（南予地域の水産業、中予地域のものづくり産業、東予地域の紙産業）を取り上げて、それらの現状を把握し、抱える問題を抽出する。特に、愛媛県という地域における基幹産業としての発展プロセスを踏まえて、その伝統性や革新性に着目しながら、地域産業の実相について多面的な視点で検討を加える。 （オムニバス方式：全15回） （16　松原　孝博／1回） 南予地域の水産業に関する現状と課題（水産生物） （⑨　若林　良和／2回） プロローグ：ガイダンス（授業の趣旨と進め方）、愛媛県の産業特性 南予地域の水産業に関する現状と課題（水産物流通・消費） （113　太田　耕平／2回） 南予地域の水産業に関する現状と課題（海洋環境） エピローグ：まとめ（地域産業の将来：学生レポート発表と教員講評） （114　後藤　理恵／1回） 南予地域の水産業に関する現状と課題（海洋生産技術） （18　内村　浩美／2回） 東予地域の紙産業に関する現状と課題（四国中央市の紙産業の特色） 東予地域の紙産業に関する現状と課題（研究開発と求められる人材） （115　福垣内　暁／1回） 東予地域の紙産業に関する現状と課題（自治体との連携） （⑬　深堀　秀史／3回） 東予地域の紙産業に関する現状と課題（世界と日本の紙産業） 東予地域の紙産業に関する現状と課題（四国中央市の紙産業の歴史） エピローグ：まとめ（地域産業の将来：学生レポート発表と教員講評） （⑩　高橋　学／2回） プロローグ：ガイダンス（授業の趣旨と進め方）、愛媛県の産業特性 中予地域のものづくり産業に関する現状と課題（エネルギー関連技術） （21　八木　秀次／2回） 中予地域のものづくり産業に関する現状と課題（加工技術） 中予地域のものづくり産業に関する現状と課題（造船技術） （117　山本　智規／2回） 中予地域のものづくり産業に関する現状と課題（電気・機械・自動化技術） エピローグ：まとめ（地域産業の将来：学生レポート発表と教員講評）	オムニバス方式・共同（一部）
		産業イノベーション論	地域発のイノベーションを牽引するための基礎的な知見を把握する。地域産業の問題解決に導くために、地域の中小企業をはじめ産学官民連携による共同研究、先端技術開発が不可欠であり、それらは地域発のイノベーションを誘発し、地域産業の育成に貢献することを理解する。多様な連携による取り組み事例を紹介しながら、地域産業のイノベーションと発展を支える３つの要素（技術・人材・地域）から総合的な検討を展開する。 （オムニバス形式：全15回） （⑨　若林　良和／7回） 第１回　プロローグ 授業概要：授業の趣旨と進め方、成績評価に関するガイダンスを実施する。 【第１セッション：これからの水産業の発展と地域イノベーション】 第２回　水産業の技術 授業概要：水産生物の資源管理、最新の水産増養殖技術などを紹介しながら、環境に優しい持続可能な水産業を念頭に置いて、これからの水産技術について考える。 第３回　水産業の人材と地域 授業概要：地域水産業の活性化やグローバル化に対して求められる技術者・経営管理者と技術開発・人材育成・地域連携を推し進める手段について考える。 第４回　水産業技術の普及 授業概要：社会と連携して研究・開発したイノベーション技術の事例をもとに普及手段について考える。 第５回　水産業イノベーションのグループワーク 授業概要：水産業の講義から、グループ毎に課題を設定し、水産業にイノベーションを起こす方策を話し合い発表する。 第14，１５回　エピローグ 授業概要：まとめ（産業イノベーションの方向性：学生レポート発表と教員講評）	オムニバス方式・共同（一部）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	課題解決思考力育成科目群	産業イノベーション論	(⑩　高橋　学／7回) 第１回　プロローグ 授業概要：授業の趣旨と進め方、成績評価に関するガイダンスを実施する。 【第２セッション：これからのものづくり産業の発展と産業イノベーション】 第６回　ものづくり産業の技術 授業概要：加工技術、ロボット制御技術、エネルギー関連技術などを紹介しながら、ものづくりと人間・社会・環境の関係に注目して、これからのものづくり技術について考える。 第７回　ものづくり産業の人材と地域 授業概要：地域に存在するものとして、グローバル社会に対応できる技術者、経営管理者の素養と技術開発・人材育成・グローバル経営を推し進める手段について考える。 第８回　ものづくり産業技術の普及 授業概要：社会と連携して研究・開発したイノベーション技術の事例をもとに普及手段について考える。 第９回　ものづくり産業イノベーションのグループワーク 授業概要：ものづくり産業の講義から、グループ毎に課題を設定し、ものづくり産業にイノベーションを起こす方策を話し合い発表する。 第14，１５回　エピローグ 授業概要：まとめ（産業イノベーションの方向性：学生レポート発表と教員講評） (⑬　深堀　秀史／7回) 第１回　プロローグ 授業概要：授業の趣旨と進め方、成績評価に関するガイダンスを実施する。 【第３セッション：これからの紙産業の発展と産業イノベーション】 第10回　紙産業の技術 授業概要：機能性シート開発を紹介しながら、これからの紙産業について考える。 第11回紙産業の地域と人材 授業概要：地域の基幹産業が活性化するために、企業や公設試験場との連携と技術の実用化、産学官や異業種の連携を実行するために、どのような人材が求められているかを考える。 第12回　　紙産業技術の普及 授業概要：社会と連携して研究・開発したイノベーション技術の事例をもとに普及手段について考える。 第13回　紙産業イノベーションのグループワーク 授業概要：紙産業の講義から、グループ毎に課題を設定し、紙産業にイノベーションを起こす方策を話し合い発表する。 第14，１５回　エピローグ 授業概要：まとめ（産業イノベーションの方向性：学生レポート発表と教員講評）	オムニバス方式・共同（一部）
		持続可能性科学	人と自然のかかわりが創りだす地球システムが重大な転換期を迎えていることをさまざまな学際的研究に基づいて説明し、持続可能な社会の構築のために必要とされる総合的な知識について解説します。地球システムの複雑性に対応するための学際的なアプローチ、さらにはこれまでに社会共創学概論などを通じて学んできた社会の多様なステークホルダーとの協働によるトランスディシプリナリーアプローチの重要性と特徴を、具体的な持続可能性科学の研究成果に基づいて説明し、理解を深めます。持続可能性の実現に向けた社会の転換を促すさまざまな社会技術について、具体的な事例に基づいて検討します。 　テーマを定めて行う熟議ワークショップを通じて、私たちが直面している持続可能性にかかわる課題、自分の専門分野を超えた学際的視点の意義、トランスディシプリナリーアプローチによる社会との協働が意味するもの、持続可能な社会への転換を実現するための具体的な社会技術について自ら調べ、議論し、考えを深めます。それを通じて、持続可能な社会の実現に関するさまざまな課題とその対策を総合的に理解し、持続可能な地域社会の構築に役立つ実践的な技術の基礎を身に付けます。	
		社会心理学	社会的ジレンマとは、個人の私的利益と社会全体の公共的利益とが対立する状況を指す（例えば、自転車の放置駐輪は、自分一人にとっては都合が良い行動であるが、社会全体にとっては望ましくない）。本講義では、様々な社会問題の根本に社会的ジレンマの問題が存在していることを理解するとともに、いかにすれば社会的ジレンマの問題を解消することが出来るかについて、社会心理学の諸知見を学びながら、各自の考えを深めていくことを目的とする。さらに、まちづくり問題や合意形成問題等の社会問題を取り上げて、社会心理学的な観点から、その問題の特徴や解決すべき課題について理解を深めることを目指す。	
		統計学	社会調査に必要な基礎的な統計的な知識とスキル、社会事象の分析の考え方を学ぶ。主な内容として、度数分布とグラフ、基本統計量（平均，標準偏差，分散，　歪度）、確率論の基礎（標本空間、事象、確率変数、確率分布、二項分布、正規分布、標準正規分布）、推定（点推定、区間推定、信頼区間）、検定　（帰無仮説と対立仮説、棄却域と両側・片側検定、t検定、平均や比率の差の検定、独立性の検定）、抽出法概説（単純無作為・層化・系統・多段）、　相関（属性相関係数、偏相関係数、変数のコントロール）、回帰分析の基礎を扱う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	課題解決思考力育成科目群		地域社会論	学生や教員にとって、なるべく身近な内容を複数取り上げる。ただしこれらは、社会の動きの中で多くの共通点を持っている。授業ではまず、誰もが普段から経験している買物や食べるという行為に注目する。われわれが当たり前と考え、さほど意識しないこれらの行為が、社会のどのような動きと関係していたり、社会の変化の中でどのように変わったのか、そして地域社会のあり方とどのように関係しているのかといった視点へと結び付けていく。そのうえで、地域社会における産業の立地やその動向、あるいは人間の意識からみた地域社会の諸特徴などについて、具体例を挙げながら解説する。このなかでは、授業中に学生らが回答した内容も含めることにより、学生自身と地域社会との関係性をつねに意識してもらえるようにする。これらを通じて、地域社会における様々な課題の発見とその解決策の検討について、学生自身が主体的に意識しながら実施しうる能力の育成を目指す。	
	専門力育成科目群	学科科目	経済学概論	この授業では、「経済学」的な視点で現象を分析する力を養うことを目的とする。そして、経済問題はもちろんのこと、それ以外の身近な問題の本質を分析する。まず、われわれが暮らしている社会について、一国全体を概観する方法（マクロ経済学）、個人や企業の選択行動、価格を通じた市場メカニズム（ミクロ経済学）、データを用いて客観的に理論を検証する方法（計量経済学）の導入的な授業を行う。これらの経済現象間に成立する法則性について学習することで、地域社会の経済構造を分析する際に必要な専門的手法を会得するため、その前提となる基本的な経済の見方、経済的なものの考え方を身につけることを目標とする。	
			企業システム論	本講義では、企業がなぜ存在するのかを考えることから始め、その企業活動を「日本的経営の特徴」や「日本企業の環境変化への対応」の両面から学ぶ。まず、「日本的経営の特徴」では、日本の生産システムや取引関係、人材制度など日本企業特有の仕組みを学習する。そして、「日本企業の環境変化への対応」では、近年の環境変化の中でも象徴的な国際化や情報化、地域経済の担い手として求められている姿などへの日本企業の対応策を確認する。	
			マーケティング概論	マーケティングとは、製品やサービスが売れる仕組みをつくることであり、そのもっとも基本的な内容として、顧客志向の考え方と、市場細分化（STP）戦略やマーケティング・ミックス戦略（製品戦略、価格戦略、流通戦略、コミュニケーション戦略）などがある。この授業では、こうしたマーケティングの基本的な考え方や知識を習得したうえで、企業やその他の組織、さらに地域がいかに市場（顧客）に効果的に対応していくのかという課題に対して、各自が解決策を提示できるようになることを目指す。	
		履修コース科目	ミクロ経済学Ⅰ	経済問題はもちろんのこと、経済問題にとらわれず、われわれの周りに存在するさまざまな問題をミクロ経済学的視点で捉えることを目標とし、問題の本質を経済学的にとらえる力を養っていく。ミクロ経済学Iでは市場均衡、消費者理論、交換経済に関する授業を行う。市場均衡については高校で学んだことがある問題が多分に含まれるが、それまでに消費者行動の理論を理解するための準備をする。消費者行動理論や交換経済については効用最大化問題を学び、最適化問題の基礎を学ぶと同時に、需要曲線の導出について学ぶ。	
			ミクロ経済学Ⅱ	われわれが暮らしている社会について、経済学的視点に基づいた分析能力を養う。ミクロ経済学IIでは生産者行動の理論を最適化問題として理解し、利潤最大化行動という問題をとおして供給曲線の導出を学ぶ。授業は講義形式の授業を1～3回程度行い、その授業内容に関するディスカッションを行う。このプロセスを繰り返すことで、経済学的分析能力を養い、最終的には自身の周りで観察される現象を経済学的視点で分析できることを目標とする。	
			数理的思考	数学的思考の基礎→行列・微分計算とその応用→確率論→ゲーム理論の基礎の順に講義を進めていく。 文理融合学部の数学科目として、文系的な課題に数学的手法を用いてアプローチできる能力の育成を目指す。まず、論理的かつ集合論的なものの見方、考え方を、パズルやゲームを活用してしっかり身につける。次に、数式処理ソフトを利用して行列と微分の考え方、計算方法について学ぶ。さらに、現代的な確率の概念を導入し、仮説検定が、形式論理に確率を取り入れた実証テクニックであることを理解する。最後に、代表的な社会問題への数学の応用例としてゲーム論的な思考法を身につける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	地域産業論	愛媛県の主要産業の現状について、事実とその背景を正しく理解し、今後のあるべき姿を描くことができる能力を身につけるのがこの授業の目的である。講義では、調査活動の成果や資料等を活用して現場の視点から地域の産業についての知識を獲得し、理解する。さらにその知識を応用し、各産業の直面する課題および対応策について考察するとともに、愛媛県経済の実態について理解を深め、積極的な関心を持ち続ける素養を身につける。なお最新の情報に接するために、必要に応じて、愛媛県内の産業に詳しいいよぎん地域経済研究センターの方をゲストスピーカーとして招く。 （オムニバス方式/全15回） （5　岡本　隆/15回） 情報の視点から地域産業を分析する専門性のもとで講義のコーディネートと授業課題を担当する。 （④　山崎　正人/2回） ２名の専任教員が、愛媛県をはじめとした地域産業の経済分析に関する専門性（山崎）および情報の視点から地域産業を分析する専門性（岡本）のもとで講義およびゲストスピーカーのコーディネートを担当する。	オムニバス方式・共同（一部）
			情報産業論	インターネットを利用することが当たり前になっている今日、情報産業はこれからの経済成長の鍵を握ると考えられているが、情報産業の特徴を理論的に理解し、他の産業との違いを把握することを目標とする。特にネットワークの経済的な意味に着目し、「規格・標準」をキーワードとして情報産業が持つ独特の特徴を明らかにする。また理論的な考察に加えて、情報産業に関する最近の事例をとりあげ、学んだ理論を確かめる。	
			情報経済論	まずは、情報の非対称性やエージェンシー問題についての理論について説明する。情報の経済学の基礎理論を理解した後、授業時間外にこれらの理論に関連する事例を調査・分析し、それについてのプレゼンテーションの準備をグループ単位で行う。それと並行して、インセンティブ設計についての知見を学び、身近な課題を解決するためのインセンティブ設計を提案し、グループ単位でプレゼンテーションを行う。	
			情報処理論	本科目では、現代社会に深く浸透しているコンピュータやネットワークなどの情報通信技術(ICT)の基本を学ぶ。具体的には、ICTの基礎となっているデジタルの概念や、コンピュータの構成(ソフトウエアとハードウエア)、動作原理と動作させる方法としてのプログラムの初歩等を学ぶ。外面的な機能や使用法だけでなく、内面の原理についても基本を理解することによって、ICTをより安全かつ有効に使いこなすための知識を深め、また、社会における影響について妥当な判断を行えるようになることを目的とする。	
			プログラミング	本科目では、コンピュータをより高度に使いこなすための手段としてプログラミングを学ぶ。具体的には、プログラミング言語や開発ツールの利用法などの基本的なプログラミングの手順と、問題の分析およびコンピュータでの処理方法に関する考え方としてのアルゴリズムやデータ構造について学ぶ。また、これらの学習を通じて、コンピュータの原理や利用可能性についての理解を深め、さらには問題やその解決過程を明確化する重要性を理解することを目的とする。	
			数理経済学		兼任補充予定
			中小企業論	本講義では、日本経済における中小企業の役割を理解し、今日の日本の中小企業の在り方を学習することを目的としている。具体的に述べれば、本講義では、①日本が中小企業を支えるためにどのような政策を行ってきたのか（中小企業政策）、②日本の中小企業はどのような構造で成り立ってきたのか（中小企業構造）、③中小企業がどのような経営を行ってきたのか（中小企業経営）の3点を総合的に学ぶ。	
			日本経済史	世界有数の経済大国である日本経済・社会にみられる問題を、都市化・都市社会化という側面から理解するために、近代東京の都市問題と経済政策を学ぶ。そして、大正バブル、慢性不況、準戦時体制、戦時統制、高度成長などの時代の変化と共に、日本社会の性格がどのように移り変わってきたか説明できるようになることを目的とする。	
			日本経営史	日本の企業・ビジネスについて日本経済史その他の入門的科目の内容を踏まえたより高度な理解をめざす。近現代の日本経済を、企業やビジネスという側面から振り返ったときにどのような特徴があるかを企業や経営者の側面から理解し、時代に応じた特色の変化や代表的な経営者の事績を知り、将来の自らの行動や企業の社会貢献について論じることができるようになることを目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	産業立地論	地域経済は、企業の立地選択とそれにともなう産業集積に多いに影響を受けている。そのため、地域経済の理解のためには企業立地と産業集積の理解が不可欠である。そこで本講義では、企業立地と産業集積に関する理論を体系的に学ぶことにより、地域経済の構造と動態を理解し、地域の多様性および諸課題について考察を深める。	
			地域・中小企業家論	中小企業は日本の企業数の99%以上を占め、決定的に大きな役割を果たしているが、その実像はあまり理解されず、非常に大きな誤解を受けている。本科目では、中小企業の全体像（歴史、魅力、役割、強み、弱み）を理解することを通じて、生きた経済や経営を実践的に学ぶことを目的としている。そのため、中小企業の経営者などをゲストスピーカーとして招き、中小企業の経営における独自の論理と価値観についての講義と、その内容に基づくグループ討論等のワークを行う。 （6　曽我　亘由）地域経済・地域産業の動向分析の観点からの講義および各回のワークの指導 （244　鎌田　哲雄）中小企業の活動支援の現場の観点からの講義およびゲストスピーカーのコーディネート	共同
			ビジネスプランニング	ビジネスプランの作成するためには、変化する外部環境を的確にとらえる必要がある。大きく変化している現在社会を理解するとともに、演習（グループディスカッション）を通じて環境変化をとらえる力を身につけることを目標とする。 また、ビジネスプランを作成するために、「バランススコアカード」を用いたビジネスプランの作成方法を学習する。経営の方向性を示し、目標を設定し、顧客の視点で商品開発（サービスを提供）し、人材・組織を駆使して行わなければならないことを学ぶ。	集中
			サービス・マーケティング論	マーケティングの基本的かつ応用的な知識を習得したうえで、とりわけサービス組織がいかに市場（顧客）に効果的に対応していくのかという課題に対して、各自が解決策を提示できるようになることを目指す。本科目では、まず担当教員による講義を通じて、マーケティングやサービス・マーケティングに関する理論的な知識を習得し、そのうえで受講者自身によるグループ・プレゼンテーションを行うことで、多様な組織におけるマーケティング実践例について自ら調査・研究し、その成果を発表する機会をもてるようにする。	
			流通論	生産と消費を円滑に結びつけることが流通の基本的な使命である。そのために、各々の流通主体は日夜研鑽を重ねている。本講義では、流通を理解するための基礎的概念や重要度の高い学説について学習するとともに、教員の提示する事例や新聞なども活用しながら、現代流通の動きについて学ぶ。	
			地域商業論	生産と消費を効率的に結びつけることが商業・流通の基本的使命である。しかし、こうした説明だけでは、地域社会の生活基盤それ自体を支える地域密着型の商業を十全に評価していくことは難しい。本講義では、「生産と消費の効率的架橋」といったオーソドックスな流通課業認識からはいったん距離をおき、商業（とくに小売商業）が地域社会の生活基盤の維持にどのように貢献できるのかといった観点から、新時代の商業・流通のあり方を考えていく。	
			マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチは、企業のマーケティング活動の様々な段階で行われる調査・分析活動である。消費者に対して適切な調査を設計しリサーチを実施することは、マーケティング戦略の成功確率を高め、実施主体（企業など）の持続可能性を高めることにつながる。この講義では、調査企画・設計の方法や仮説構成、サンプリングの方法など社会調査の理論・方法論を踏まえながら、マーケティングリサーチに必要な基礎内容を、さまざまな事例を交えながら解説する。マーケティング目的に沿った資料・データ収集、それらを分析可能な形へと加工・整理し分析してゆく方法・プロセスについて習得することを目標とする。	
			消費者行動論	モノ余りといわれる時代の中、企業は継続的な利益獲得のため、工夫をこらして自社の製品・サービスを差別化しようとしている。そのためには、ターゲットとする消費者の行動やその心理を深く洞察し、さまざまな「仕掛け」を考えなければならない。この講義では、消費者の購買意思決定プロセスをはじめとした消費者行動に関する基礎理論を中心に、ケーススタディを交えながら解説する。講義を通じ、いかにして消費者に有効なメッセージを発信し、コミュニケーションを行えばよいかについて、消費者行動理論をベースに考察できるようになることを目標とする。	
			簿記原理	企業で広く一般に用いられている簿記は、組織的・秩序的な記帳技術の複式簿記であるが、簿記原理は、その複式簿記の意味・目的及びその基本的な会計処理方法を中心に、より高度な簿記の理解を深めること、そして企業経営の諸活動を計数的に把握する能力と姿勢を身につけることを目的とした科目である。日商簿記検定の資格取得に適した内容となっている。	
			会計学原理Ⅰ	株式会社で広く一般に用いられている会計は、記録面では組織的・秩序的な記帳技術の複式簿記に基づいて行われている。しかし、会計行為は、記録のみにとどまらず認識・測定・表示といった行為に及ぶ。記録面では複式簿記を基礎に置きながらも、その背後にある会計理論がなければ、財務諸表の存在意義を理解することはできない。この財務諸表の作成原理を対象とした科目が「会計学原理Ⅰ」である。この科目は、「簿記原理」科目の上位科目として位置づけられる。この科目を受講した学生は、「簿記原理」科目によって、基本的な会計処理・表示方法を理解しているので、より高度的な会計処理方法を中心に、簿記と会計との関係性を把握するとともに、その背後にある会計理論と制度を体系的に整理することで、財務諸表制度の体系や財務諸表の作成原理の解明、今後の会計動向など、外部報告会計（財務会計）の奥深さを理解することができる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	会計学原理Ⅱ	企業を取り巻くステークホルダーの中心は、株主をはじめ債権者など投資者である。こうしたステークホルダーにとって共通した関心対象は、投資意思決定情報であり、具体的には、当該会社の財政状態及び経営成績などの財務諸表の記載内容そのものである。企業外部者である投資者からみて、この財務諸表をどう分析すべきかに焦点をあてた科目が、この「会計学原理Ⅱ」である。これは、「会計学原理Ⅰ」科目の上位科目として位置づけられる。この科目を受講する学生は、「会計学原理Ⅰ」科目により、すでに高度な会計処理・表示に関する会計理論と制度を体系的に把握しているので、地域企業の財務諸表を分析するにあたって、活用される各種指標の数値から、現実の地域企業社会で生起する会計的課題を浮き彫りにし、地域企業の今後の動向までを理解することができる。	隔年
			原価計算論	工業簿記および制度としての原価計算、すなわち原価計算基準に則った原価計算制度について解説し、それぞれの原価計算方法について学ぶことを中心とする。 　具体的に原価計算とは、生産に投入された原価財を費目別、部門別、製品別に集計し、製品単位原価を算定するプロセスである。この授業では、費目別計算や部門別計算、また製品別計算として個別原価計算、総合原価計算といった実際原価計算について学ぶとともに、標準原価計算、直接原価計算について学ぶ。 　また、活動基準原価計算について解説することを通じて、原価計算と管理会計とのつながりを学ぶ。	
			意思決定会計	企業内部での会計情報の活用、特に意思決定会計において利用される分析・評価手法について、表計算アプリケーションを用いながらそれら手法の利用方法を演習形式で学ぶ。 具体的には、回帰分析による原価分解およびその結果を用いた短期利益計画としての損益分岐点分析といった原価計算論で学んだ手法の演習や、設備投資プロジェクトの主要評価方法の演習など、意思決定会計における計算手法について演習形式で学ぶ。	
			管理会計論	管理会計は、経営管理者に有用な情報を提供することを目的とした会計である。財務会計が企業の外部利害関係者に情報を提供することに焦点をあてているのに対して、管理会計の目的は、企業で行われる様々な経営意思決定や業績管理に有用な会計情報を提供することにある。そのため、管理会計は制度会計の基本的な仕組みと関連があるとともに、経営学の知識とも結びつきがある。 　本授業は、管理会計の概要や、業績評価あるいは意思決定を行う際に活用される管理会計ツールの考え方・理論を理解することを目的としており、管理会計の基礎概念、原価管理手法、長期経営計画、設備投資計画、利益計画、予算管理、分権化組織の業績管理、バランスト・スコアカードなどについて学ぶ。	隔年・集中
			ビジネスファイナンス	ビジネスに必要なファイナンスの専門知識を身につけ、企業財務の諸問題に適切に対応できる人材を育成することを目的とする。 金融システムの概要を学び、企業の資金調達方法の実務や銀行が企業のどこを見て融資判断をしているかという実務的な内容を学ぶ。	
			組織デザイン論	まずは、歴史的発展経緯に基づいて、組織に関する様々な学説とそれに関連する諸領域の基礎理論について説明する。 組織に関する基礎理論を理解した後、現実世界での組織をめぐる動きを分析できるようになるため、環境および戦略との適合関係を実現する組織デザインについて学ぶ。	
			戦略的経営	まずは、経営戦略論における各種の学説および分析フレームワークについて説明する。 経営戦略に関する基礎理論を理解した後、授業時間外に実際の企業の経営行動を調査・分析し、それについてのプレゼンテーションの準備をグループ単位で行う。 それに並行して、戦略実行のためのツール（BSCなど）や戦略策定・実行に影響を与える組織文化、そして戦略・組織・プロセスの変革についての知見を学ぶ。	
			生産管理論	生産システムは，原材料から製品への変換に関する物の流れと情報の流れ等から構成される．生産管理とは，生産システムを合理的に設計し，生産システムの基本要素を効率よく管理・運営するための方法や技術である。本講義では，企業経営の本質とともに生産システムの仕組みを理解し，効率的な生産方式，数理技術，情報システムなどの技法を取り入れた生産管理の基本的知識を学習する。また，生産管理のテーマや諸問題を自ら発見し，論理的に分析・考察できる能力を養うことも本講義の狙いである。	
			経営工学	企業の経営活動を取り巻く環境が大きく変化している。グローバル化・情報化が進む中，論理的思考力，情報処理技術を持った人材が求められている。経営工学とは，工学的なアプローチや論理的な思考方法を用いて経営の効率化と合理化を図るための理論及び実践である。この授業では，在庫・輸送問題を中心にいくつかの身近な問題を取り上げ，論理的思考力を養うとともに問題の発見・分析などに基づく創造的・統合的な問題解決・提案能力を高めることを目的とする。	
			経営情報システム論Ⅰ	近年の情報通信技術（ICT）の開発・利用動向をふまえつつ、これまで、どのようにして企業組織が情報システムを開発および構築し、それを経営活動に活用してきたのかについて理解することを目的とする。経営情報システムの技術や関連する経営用語を含む基本的知識をベースに、現在に至るまでの経営情報システム概念がどのように変遷し、現在の多様な経営情報システムが実現されてきたのかについて学習する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目		経営情報システム論Ⅱ	現代的な経営情報システムの実態やインターネットをベースとしたビジネスやサービスの現状と、その利用がもたらす社会的影響についての基礎的知識を得ることをを目的とする。具体的には、クラウドコンピュータリングやシステムインテグレーション、プラットフォームビジネスなど、最新の経営情報システムを理解する上で不可欠な概念に対する理解を深め、それに関わる組織の課題や経営情報システムの社会的影響、今後の方向性について学習する。	
				人事労務管理論	企業は、生産性を上げ、成長し続けること、企業価値を高めていくことが求められています。企業価値の源泉は「人」にあります。企業にとって大切で重要な経営資源の一つである人的資源ですが、他の経営資源と異なり「人」は、多様な感情や価値観を保有しています。そこで人的資源のマネジメントにおいては、維持向上のために「人」をどう育成していくか？が重要な経営課題です。従って、人事労務管理においては、様々な角度から「人」にアプローチし、環境整備や制度の充実、育成プログラムの実施などをおこない、貢献度を高めていく必要があります。 「人事労務管理論」では、人事労務に関する法律、組織構造や企業経営の基本の理解とともに、人的資源の自律的成長のための能力開発の角度から学びます。さらに、時代とともに変化してきた人事労務管理を学び、将来の人事労務管理についても考察します。 「仕事とは何か？」についての考察からスタートし、組織における「人」に関する法律や制度の概要を理解し、具体的な人事労務の実務の一部に触れながら、課題や問題点を探求します。事例研究やグループ討議を実施し、自ら考察し課題発見と解決策について議論しながら、将来の企業の在り方を「人」を通して展望していきます。	
				キャリアデザイン論	人が生涯にわたってたどる軌跡、すなわち、歩いてきた、あるいはこれから歩いていこうとする「みち」のすべてがキャリアです。キャリアデザイン論では、一人ひとりにとってかけがえのない人生＝キャリアを主体的に「デザイン」（設計・再設計）していくことを学び、どこに一歩踏み出すかを考え、自分の「みち」を探します。 時代とともに変化していく、暮らし方、学び方、働き方をめぐる社会の仕組みを理解し、その変化に柔軟に対応し、自立／自律的に学び、考え、行動できる力＝キャリアデザインの力を身につけます。キャリアの基本フレーム（MUST/CAN/WILL）に沿って、自己理解、価値観の把握、期待役割の考察をし、期待役割や貢献を探求し、自分にとって最も適したワークライフバランスを考えながら、キャリアパスを作成します。「なりたい自分」像を明らかにし、そこに向かうための具体的なアクションプランを作り、実践します。	
		履修コース科目	他学科科目	住民参加と合意形成	公共事業の事例から合意形成の必要性について説明するとともに、合意形成による公共事業推進事例を紹介する。つぎに合意形成のための技法を述べるとともに、実課題を用い、演習を通じて合意形成スキルを身につける。 （オムニバス方式/全16回） （118　二神　透/8回） ・合意形成、合意形成技術とは ・公共事業と合意形成 ・ブレーンストーミング、KJ法 ・集団合意形成、コンセンサスビルディング ・ワークショップによる合意形成事例 ・諸外国における合意形成 （23　松村　暢彦/8回） ・プロジェクトサイクルマネジメントとは ・関係者分析、問題分析、目的分析 ・実課題とプロジェクトサイクルマネジメント	オムニバス方式
				社会資本の整備と運用	「土木」とは、道路や橋梁、鉄道やダム等の「社会資本」を整備し、それを「運用」していくことを通じて、我々の社会をより良い社会へと少しずつ改善していこうとする社会的な営みを意味する。本講義では、「土木」という営みを通じて、「社会資本」を整備・運用する上での諸々の問題を、「公共経済学」の観点から検討し、「社会資本」を適切に整備・運用するための基礎的知識を習得する。	
				地域防災実践学	国，都道府県，市町村は，連携しながら，あるいは単独で避難訓練や，水防パトロール，土砂災害危険個所パトロール等を実践している。そこで，本講義では，各行政が行っている避難訓練・パトロール計画のプロセスを学ぶ．また，地域の減災に向けて，行政と住民が行っているリスク・コミュニケーションのプロセスを学ぶとともに，ＤＩＧ（災害図上訓練）や避難訓練・各種災害パトロールに参加し実践力を養う。	
				地域活性化論	地域づくりの目的と手法は様々であり幅が広い。従って、目標設定、計画策定、実践方法の構築、関係者間の意思疎通、実践の手法を地域の実情を通して身につける必要がある。本科目では、産業振興を中心とした地域づくりの事例、過疎・高齢化が進む地域にありながら産業の推進や交流・定住につながっている事例などを取り上げ、地域資源を活用した経済循環の創出を学ぶことにより、地域の問題点と実績を整理し、地域に関わる意欲喚起と実践知識の深化を促す。	集中
				観光地形成論	観光まちづくりとは、地域が主体となって自然、文化、歴史、産業、人材など、地域のあらゆる資源を活かすことによって、地域内外の交流を促進し、活力あるまちを実現していく活動である。つまり、地域の固有性、多様性が、観光客にとって異なる地域で触れる「非日常性」（観光対象としての魅力）であり、観光地におけるまちづくりと観光の持続的な発展が重要となる。本講義は、様々な地域における観光地形成を通して、観光まちづくりの基礎的な考え方を習得し、地域社会の発展と呼応したサステイナブル・ツーリズムの実践について学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	他学科科目	観光文化論	地域の文化は、社会的・文化的背景のもと、ツーリスト（観光を消費する者）、プロデューサー（観光を制作する者）、地域住民との間で展開する相互作用を経ながら、観光の対象として新たな意味が生み出される。本講義では、観光文化研究の基盤となる観光学の基礎知識を学んだうえで、観光文化論をめぐる近年の研究動向を通して、「観光文化」の諸現象、および地域文化と観光をめぐる課題や可能性について学ぶ。	
				農業起業論	「起業」には、様々な体系が存在する。そこで本講義では、まず、「起業」の概念についてマネジメント論とマーケティング論を関連させて整理する。次に、地域・食品・経済をキーワードとした起業の事例を紹介し、食料・農業分野での起業について説明する。また起業を実践しているゲスト講師による体験談を含め起業に係る諸問題について解説する。これらを踏まえて学生相互で起業する上でのビジネスプランを策定し、意見交換を行うことで、起業のあり方について考察する。	
				農林漁業団体論	この授業では、農林漁業諸団体（農協、漁協、森林組合、農業共済組合、土地改良区、農業委員会等）の成り立ち、組織形態、事業内容、経営構造、行政との関係等を理解し、これからの産業・地域問題の解決のために果たしうる農林漁業団体の役割を考える力を養うことを目的とする。	
				ソフトツーリズム論	近年、人口構造と産業構造の転換の中で、観光による地域活性化に対する期待が高まっている。しかし、その一方で、技術と市場（マーケット）の変化に伴い、観光はそのあり方の見直しを求められている。いずれにせよ、旧来の観光振興や観光地づくりとは異なった方向を模索する機運が生まれているのだといえる。 本講義では、社会環境の変化の中で成立した、マスツーリズムとは別様な観光形態としてのソフトツーリズムについて論じる。とくに、地域サイドと観光者サイドが地域資源を主体的かつ創造的に発見・活用する側面に焦点を当てて講義を進める。	
				観光コミュニケーション論	グローバル化・情報化した現代社会において、観光現象は多様化しつつあり、観光を「ゲスト」（観光客）と「ホスト」（もてなす地域側）の２軸では捉えることができなくなった。ゲストもまた、地域活動を支援する主体の一人であり、ホストもまた着地型観光を通してみるとプロデューサーであり、観光客でもある。またゲストとホスト間のコミュニケーション技術（旅行の情報化）の進化により、観光を通して、様々な主体に新たな関係性が生まれつつある。本講義では、ホストとゲストとの関係性を踏まえたうえで、観光行動、ニューツーリズム、旅行の意思決定、観光経験など様々なテーマを通して、観光コミュニケーションについて学ぶ。	
			他学部科目	財政学Ⅰ	財政学とは、政府が社会の安定・発展に向けてどのような役割を果たしているのかを、経済的側面から考えていく学問である。この授業では、特に中央政府（国）の財政活動を中心に取り扱う。具体的には、財政が果たす役割についての基礎理論・予算論・歳出論（公共サービスのあり方）・歳入論（租税論・公債論）・その他（公的金融・地方財政）をそれぞれ取り上げ、講義形式により基本的な知識の習得、および財政の現状を評価する上で、また今後のあり方を考える上で必要となる基本的な考え方の習得を身につけることを目標とする。	
				財政学Ⅱ	財政学とは、政府が社会の安定・発展に向けてどのような役割を果たしているのかを、経済的側面から考えていく学問である。この授業では、特に地方自治体の財政活動を中心に取り扱う。具体的には、財政が果たす役割の復習ののち、中央政府（国）と地方自治体の役割分担についての基礎理論・地方歳出論（地方公共サービスのあり方）・地方歳入論（地方税・財政調整制度・地方債）・その他（地方公営企業等）をそれぞれ取り上げ、講義形式により基本的な知識の習得、および地方財政の現状を評価する上で、また今後のあり方を考える上で必要となる基本的な考え方の習得を身につけることを目標とする。	
				観光経済論	地域における観光について、経済学の観点から捉えその基本を理解する。観光とは、観光客にとって日頃の生活を離れて楽しむことで人生を豊かにするものである一方で、受け入れる地域にとっても地域経済を支える大事な仕組みである。その観光の経済について、市場構造をまず理解し業種ごとに分析する。また地域における観光の費用便益や経済波及効果について理解し、持続可能な観光開発と環境保全について体系的に学ぶ。	隔年
				観光まちづくり論	「観光」と「まちづくり」は相互に関連しあっています。観光資源は地域に住む人々の生活や生業によって維持保全されるものであり、また創造・発掘されるものです。逆に観光事業に取り組むことによって、地域を活気づけ、発展させるなどの効果も期待できます。本授業では、「観光まちづくり」という考え方が登場するにいたった経緯や背景について、海外の動きも含めて学びます。また具体的な事例から、「観光まちづくり」の芽や育つプロセスを発見・考察できる力を獲得することを目指します。	隔年

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業マネジメント学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	他学部科目	金融論	金融論は経済学を構成する各論のひとつと考えられるが，金融のメカニズムが理解できていないと経済学のモデルが破綻する可能性が指摘できる。実際に，現在の経済学が貨幣供給量あるいは物価上昇率に関して現状を説けないでいるのは，貨幣供給メカニズムをはじめとする金融理論と経済学との間で融合が十分に実現できていないからである。こうした問題意識に基づいて，この講義では学部生として理解しておくことが必要と思われる初心者向けの知識・理論を身につけた上で，現実と理論の両面をバランス良く扱い，現実の金融問題が一般論によって説明できない事例を挙げながら，矛盾点を把握できるようにします。経済活動を下支えする金融は，単に知識を覚えるのではなく，社会との関わりや理論的整合性の検証についても興味を持てるよう，アクティブラーニングを考慮した講義形式で進めます。 具体的な到達目標は，①金融用語が理解でき，金融商品の利回り・借入時の利息計算ができるようになること。②金融に関わる新聞やニュース等の解説が，時に根拠を持たず，時にミスリーディングであることを理解し，自身で論理的に思考できるようになること。③企業活動および家計と金融との関わりを理解することで，マクロ経済と金融との関係を捉えること，以上の３点とする。なお，扱うキーワードは，銀行の歴史／決済システムの概要／金融機関の種別と機能／貨幣供給理論の考察／金融政策で可能なこと不可能なこと／証券価格と金利構造／円高は本当に悪いのか／金融商品の知識とする。	隔年
				民法総論	民法は、われわれの日常生活に関連する、身近で、そして重要な法である。 本授業では、民法に関する基礎的な知識を習得するとともに、法的な思考能力を養うことを目標とする。 授業では、はじめに、民法全般に関する解説（民法の意義、特色、沿革等）を行った後、物権法、債権法、家族法の各分野について概説する。	
				企業法政策（ファイナンス）	わが国の企業システムはもちろん，地域産業界においても株式会社がその重要な地位を占めているため，株式会社のマネジメントに関する法制度を知ることは必要不可欠である。本講義では，株式会社が事業を行うために把握すべき会社法のルールのうち，会社の起業・創業に関する法ルール，株式や社債といった企業財務に関する法ルール，会社の経営成果や財務状況を開示する企業会計に関する法ルールのしくみとその運用実態について知り，なぜそのようなルールが採用されたのかを政策的な観点から考えることを目標とする。	
				企業法政策（ガバナンス）	わが国の企業システムはもちろん，地域産業界においても株式会社がその重要な地位を占めているため，株式会社のマネジメントに関する法制度を知ることは必要不可欠である。本講義では，株式会社が事業を行うために把握すべき会社法のルールのうち，会社の業務執行とそれに対する監査・監督といった企業統治に関する法ルール，会社の合併・分割・買収といったＭ＆Ａに関する法ルールのしくみとその運用実態について知り，なぜそのようなルールが採用されたのかを政策的な観点から考えることを目標とする。	
				競争法政策	市場における公正で自由な競争の実現を目指す法律は一般に「競争法」と呼称され、わが国における競争法の中核法は「独占禁止法」である。本講義においては独占禁止法の目指す公正かつ自由な競争とはいかなるものであるかについての理解を深めることに主眼を置く。より具体的には独占禁止法の主たる禁止行為である私的独占・不当な取引制限・不公正な取引方法について審決・判決を踏まえて講義することにより、同法の基礎的知識を習得させ、あるべき競争法について政策提言する能力を涵養する。	
				知的財産法	知的財産法とは、発明・考案・意匠・商標・著作物等の「知的財産」を保護する諸法律の総称である。本講義においては知的財産制度及びこれを保護する知的財産法制度全体の基礎知識を習得することに主眼を置く。より具体的には、個々の知的財産の権利化のための要件及びその取得手続、権利侵害があった場合の救済方法等について講義することにより、知的財産法制度の今日的な重要性を理解させる。	隔年
				労働法	労働法は、職場にかかわる問題を規律する法関係である。学生の多くは、卒業と同時に企業等に就職する。その際、あるいはその後の職業生活において、知っておくべき法律関係について、概観するものである。労働時間制度や解雇法制など、知識を得ることによって、紛争を解決する能力を身につけるのみならず、来るべき職業生活に対する不安を払拭し、困難に立ち向かう勇気を養うことを目的としている。	
	学位認定科目群			社会共創演習Ⅰ	社会共創学部の全授業科目や授業外での様々な活動を通じて身に付けるべき知識・技能や資質能力について、現時点での習得・獲得状況を確認するものであり、今後の「大学における学び」を方向づけるための科目である。 担当教員の指導の下、これまでの正課教育・準正課教育・正課外活動での学修成果の振り返りを行う。 その上で、「文才理魂を有する産業マネジメント人材」となるために必要な要素の現状を認識し、不足している知識や技能等を補うための今後の学修内容について検討する。	共同
				社会共創演習Ⅱ	社会共創学部の全授業科目や授業外での様々な活動を通じて身に付けた知識・技能や資質能力が、学位認定に相応しいレベルにまで形成されているかについて、所属コースのディプロマ・ポリシーで示される到達目標に照らし合わせて最終的に確認するものであり、「大学における学びの集大成」として位置付けられる科目である。 担当教員の指導の下、これまでの正課教育・準正課教育・正課外活動での学修成果の振り返りを行う。 その上で、今後、「文才理魂を有する産業マネジメント人材」として社会に貢献するに際しての自らの課題を認識し、不足している知識や技能等を補うための今後の方略について検討する。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （社会共創学部産業マネジメント学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学位認定科目群	自由課題研究	担当教員の指導の下、自らのこれまでの経験の棚卸しをした上で、現在の問題意識と目指すべき将来像に基づいたプロジェクトを設定し、プロジェクト計画書を作成する。その後、計画に従ってプロジェクトを遂行していく。その際、担当教員に適宜報告・相談を行いながら、必要であれば、状況に合わせてのプロジェクトの軌道修正を行う。プロジェクトの終了後、そのプロセスと成果についての報告書を作成し、報告会にてプレゼンテーションを行う。	共同
		卒業研究	担当教員の指導の下、自らの問題意識と専門知識に基づいた調査・研究プロジェクトを設定し、それを実践する。 その後、計画に従ってプロジェクトを遂行していく。その際、担当教員に適宜報告・相談を行いながら、必要であれば、状況に合わせてのプロジェクトの軌道修正を行う。 プロジェクトの成果物として卒業論文を作成し、報告会にてプレゼンテーションを行う。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初年次科目	新入生セミナーA	大学において知的活動の基本である「スタディ・スキル」と、学生生活を支える「ソーシャル・スキル」を習得する。第1回 オリエンテーション・カルト問題対策・大学生活上の規則とマナー、第2回 コミュニケーション1、 第3回 コミュニケーション2、第4回 大学での学び入門、第5回 キャンパスハラスメント防止研修、第6回 ノートのとり方、第7回 大学図書館における情報収集、ならびに、第8回 男女共同参画研修を教育企画室、図書館、ダイバーシティ推進本部女性未来育成センターが担当、第9回から15回まで学部での学びに必要な基礎知識を担当する。 (オムニバス方式／全15回) （81　野本　ひさ／2回） オリエンテーション・カルト問題対策・大学生活上の規則とマナー キャンパスハラスメント防止研修 （247　清水　栄子／1回） コミュニケーション1 （236　村田　晋也／1回） コミュニケーション2 （231　阿部　光伸／2回） 大学での学び入門 ノートのとり方 （228　仲道　雅輝／2回） 大学での学び入門 ノートのとり方 （223　平尾　智隆／1回） キャンパスハラスメント防止研修 （210　郡司島　宏美／1回） 男女共同参画研修 （①　松原　孝博・②　若林　良和・⑤　高橋　学・⑥　八木　秀次・⑦　太田　耕平・⑧　後藤理恵・⑪　山本　智規／7回） 大学図書館における情報収集、情報の整理方法、読解の基礎(1)　、読解の基礎(2)、レポート・論文の基礎(1)、レポート・論文の基礎(2)、口頭発表の基礎（1)、口頭発表の基礎（2)・まとめ	オムニバス方式・共同（一部）
		新入生セミナーB	近年、地域に関する諸課題は多様化・複雑化している。しかし、単純には課題解決できない実情がある。そうした課題を解決するために求められる能力・スキルが社会共創力である。本講義では、まず課題解決に向けて求められる社会共創力とは何かを理解する。次に、地域社会の実情と課題について地域ステークホルダーの立場から考える。立場の違いから課題の見え方が異なる点も十分に理解する。さらに、グループワークにより、エリアごとの課題及び協働の在り方を整理し合う。そうする中で、社会共創に関する基礎的な考え方とステークホルダーとの協働を実現するために求められる能力・スキルの基礎を学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) （⑬　西村　勝志／4回） ガイダンス　－社会共創とは何か－ 学部ＤＰと社会共創学との関係をした上で、習得すべき知識や技能を説明する 地域ステークホルダーの種類と地域社会の諸課題及び諸課題の相互関連性を理解する ポスターセッション （①　松原　孝博／3回） 南予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（1) 南予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（2) ポスターセッション （⑧　後藤　理恵／6回） 南予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（1) 南予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（2) 南予ステークホルダーによる事例報告 グループディスカッション（1) グループディスカッション（2) ポスターセッション （24　大森　浩二・124　二神　透／6回） 中予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（1) 中予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（2) 中予ステークホルダーによる事例報告 グループディスカッション（1) グループディスカッション（2) ポスターセッション （31　浅井　英典／3回） 東予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（1) 東予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（2) ポスターセッション （130　山中　亮／4回） 中予ステークホルダーによる事例報告 グループディスカッション（1) グループディスカッション（2) ポスターセッション	オムニバス方式・共同（一部）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初年次科目	こころと健康	生活の基盤である健康に対する考え方は，身体的側面のみならず，健全なこころや食生活のあり方を含め，昨今ますます多様化の傾向にある。このような状況の下，大学生活を開始する新入生が最低限必要な教養として健康に対する基本的な知識とライフスキルを学び，心身ともに健全な生活を継続的に送るための手がかりが得られるよう，「青年期のこころ」（心理学），「生活の医学」（医学），「食と健康」（食育），「スポーツ」の４つの学問分野により授業を展開する。 （オムニバス方式/全１５回） （81　野本　ひさ/２回（共同２回） オリエンテーション・メンタルヘルス/まとめ （153　庭﨑　隆/２回（共同２回） オリエンテーション・メンタルヘルス/まとめ （108　橋本　巌/３回） 青年期のこころ （90　小林　直人/２回） 生活の医学 （237　加藤　亜希/２回） 生活の医学 （244　垣原　登志子/２回） 食と健康 （29　藤原　誠/2回） スポーツ （60　田中　雅人/１回） スポーツ （234　上田　敏子/１回） スポーツ	オムニバス方式・共同（一部）
		スポーツ	初回は本授業の目標，指導内容等のガイダンスを行い，受講生の希望を基にクラス分けを行う。2回目の授業では体力測定（敏捷性，筋持久力，全身持久力）を行い，現在の体力の現状を把握する。3・4回目は基礎的な体づくり，5・6回目は，基礎的な動きづくりを行い，それらの改善を図る。7～13回目は，各教員の専門性を活かした発展的体づくり運動を行う。14回目では，再度体力測定を行い，受講期間中の体力の改善状況を把握する。以上の3～14回目の授業では，履修効果を高めるための冊子を基にライフスキルの涵養を図る講義も並行して行う。最終回はライフスキルに関する小テスト及び15回にわたる授業の振り返りを行う。	
	基礎科目	英語Ⅰ	大学生として必要な基礎的英語コミュニケーション能力を定着させるための授業である。英語を使って情報を入手し，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力を身につける。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。特に，自分の考えを明瞭，かつ，簡潔に英語で表現し，会話や議論に積極的に参加できるようになることを目指す。	
		英語Ⅱ	大学生として必要な基礎的英語コミュニケーション能力を定着させるための授業である。英語を使って情報を入手し，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力を身につける。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。特に，様々な状況で耳にする英語による情報を，正しく把握し，適切に対応できる能力を身につけることを目指す。	
		英語Ⅲ	大学生として必要な基礎的英語コミュニケーション能力を定着させるための授業である。英語を使って情報を入手し，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力を身につける。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。特に，自分の考えを明瞭，かつ，論理的に，英語で書き表すことができるようになることを目指す。	
		英語Ⅳ	大学生として必要な基礎的英語コミュニケーション能力を定着させるための授業である。英語を使って情報を入手し，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力を身につける。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。特に，様々な手段で視覚的に入手する英語による情報を，正しく把握し，適切に対応できる能力を身につけることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎科目	情報リテラシー入門Ⅰ	コンピュータやネットワークなどの仕組みを理解し，コンピュータを日常の道具として活用するために，(1)情報リテラシー，(2)情報検索，(3)情報表現，(4)情報倫理について学ぶことにより，コンピュータに関する基礎的な知識・技能を身につけ，高度情報化社会に対応する能力を養成する。情報リテラシー入門Iでは，情報倫理・セキュリティ，電子メールとWeb，日本語ワープロ，プレゼンテーションについて講義と演習を交えて学習する。	
		情報リテラシー入門Ⅱ	コンピュータやネットワークなどの仕組みを理解し，コンピュータを日常の道具として活用するために，(1)情報リテラシー，(2)情報検索，(3)情報表現，(4)情報倫理について学ぶことにより，コンピュータに関する基礎的な知識・技能を身につけ，高度情報化社会に対応する能力を養成する。情報リテラシー入門IIでは，情報倫理・セキュリティ，ネットワークとネットサービス，コンピュータ，情報の表現，表計算について講義と演習を交えて学習する。	
		社会力入門	人間が社会を形成し，維持していくために不可欠な資質・能力を“社会力”という。この授業は，大学生活を通して「オトナ」になるための基礎的な学びとしての“社会力”を修得することを目指したキャリア教育である。授業は，「労働と社会」「グローバル社会」「人間関係」「安全衛生」の4つの学際的観点から実施される。また，今後の自身のキャリア形成を支えるツールとなるキャリア・ポートフォリオの作成を行う。本講のキャリア教育は単なる就職支援ではなく，人生の新しい段階（社会）へと移行する若者の成長を支える教育として位置付けている。 （オムニバス方式/全８回） （223　平尾　智隆/４回） 労働と社会 グローバル社会 （81　野本　ひさ/２回） 人間関係 （38　田中　寿郎/２回） 安全衛生	オムニバス方式
		科学技術リテラシー入門	「科学する心」の育成は，科学の時代である現代の市民に必須の教養である。現在の入試制度のもとでは，文系の学部・学科に入学してくる学生には，自然科学や技術に関する素養が乏しい学生が多い。本講義は，文系学部・学科の学生に科学的な見方や考え方を習得させる事を目指し，1単位の科目として開講する。講義は①科学技術の考え方を事例をもとに講義し，②その知識を基にして正解の無い問題をアクティブ・ラーニングの手法を用いて自分なりに科学的に解を求める事を通して，科学的な素養を身につけさせるものである。	
		愛媛学	文部科学省に採択された「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」における「地域志向教育カリキュラム」のベース科目として位置づけられるCOCコア科目である。日本の縮図，日本社会の将来像ともいえる「愛媛県」の「歴史・文化」「自然・環境」及び「観光・まちづくり・産業」等を概観し，地域が抱える課題について理解を深め，地域内のイノベーションの創出方法について学ぶ。これらを通して，基本的な地域意識を涵養することを目的とする。 （オムニバス方式/全８回） （231　阿部　光伸/２回（共同２回） ガイダンス/総括討論 （136　秋丸　國廣/２回（共同２回） ガイダンス/総括討論 （116　松本　賢哉/２回） 東予における地域課題 （117　前田　眞/２回） 中予における地域課題 （105　坂本　世津夫/２回） 南予における地域課題	オムニバス方式・共同（一部）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	主題探究型科目	環境を考える	環境学は，自然環境，社会環境，都市環境など，人間の生活を取り巻く環境とその人間，動植物への影響について，物理学，化学，生物学，地学，社会科学，人文科学等の基礎科学からのアプローチにより研究を行う学問分野である。本授業では，教員が環境学にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			倫理と思想を考える	倫理学は，一般に行動の規範となる物事の道徳的な評価を理解しようとする哲学の研究領域の一つである。思想とは，人間が自分自身および自分の周囲について，あるいは自分が感じ思考できるものごとについて抱く，あるまとまった考えのことである。本授業では，教員が倫理学と思想にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			歴史を考える	歴史学は，過去の史料を評価・検証する過程を通して歴史の事実，及びそれらの関連を研究する学問分野である。本授業では，教員が歴史学にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			ことばの世界	文学は，言語表現による芸術作品について研究する学問分野であり，言語学は，人類が使用する言語の本質や構造を科学的に研究する学問分野である。本授業では，教員が文学や言語学にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			芸術の世界	芸術とは，表現者あるいは表現物と，鑑賞者とが相互に作用し合うことなどで，精神的・感覚的な変動を得ようとする活動をいい，文芸（言語芸術），美術（造形芸術），音楽（音響芸術），演劇・映画（総合芸術）などを指す。本授業では，教員が芸術にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			地域と世界	グローカル化（localization）とは，全世界を同時に巻き込んでいく流れ（globalization）と，地域の特色や特性を考慮していく流れ（localization）の2つの言葉を組み合わせた混成語である。「地球規模で考えながら，自分の地域で活動する」（Think globally, act locally。）とも関連する言葉である。本授業では，教員が地域と世界にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			社会のしくみを考える	社会学は，社会現象の実態や，現象の起こる原因に関するメカニズム（因果関係）を解明するために研究する学問分野である。本授業では，教員が社会学にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			現代社会の諸問題	現代社会とは，時代の変化と共に社会に生じる変化を強調し，現在存在する社会を過去の社会と区別するために用いられている。本授業では，教員が現代社会がかかえている諸問題について探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			現代と科学技術	自然科学とは，自然に属するもろもろの対象を取り扱い，その法則性を明らかにするため，観測可能な対象やプロセスを解明し理解する学問分野である。物理学，化学，生物学，地学は自然科学の一分野である。本授業では，教員が自然科学に基づいた科学技術にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			自然のしくみ	物理学は自然界の現象とその性質について，化学は原子・分子レベルでの物質の構造や性質について，地学は地球について研究する学問分野である。本授業では，教員が物理学・化学・地学に基づいた自然のしくみにかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			生命の不思議	生物学は，生命現象を研究する自然科学の一分野であり，生物やその存在様式を研究対象としている。化学は，原子・分子レベルで物質の構造や性質を解明し，また新しい物質を構築する学問分野である。本授業では，教員が生物学や化学に基づいた生命にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	学問分野別科目	総合分野	環境学入門	環境学は，自然環境，社会環境，都市環境など，人間の生活を取り巻く環境とその人間，動植物への影響について，物理学，化学，生物学，地学，社会科学，人文科学等の基礎科学からのアプローチにより研究を行う学問分野である。環境学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。環境学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				人間科学入門	人間科学は，「人間とは何か」という問題を科学的に研究し，なんらかの意味と解釈を得えようとする，学際的，総合的に研究を行う学問分野である。人間科学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。人間科学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				生活科学入門	生活科学は，人間生活における人間と環境の相互作用について，人的・物的両面から，自然・社会・人文の諸科学を基盤として研究し，生活の向上とともに人類の福祉に貢献する実践的総合的に研究を行う学問分野である。生活科学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。生活科学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
			人文学分野	哲学入門	哲学は，語義的には「愛智」を意味する学問的活動である。古代ギリシアでは学問一般を意味していたが，近代における諸科学の分化・独立によって，諸科学の基礎づけを目ざす学問や，世界・人生の根本原理を追及する学問となった。哲学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。哲学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				文学入門	文学は，詩・小説・戯曲・随筆・文芸評論などの言語表現による芸術作品について研究する学問分野である。文学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。文学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				言語学入門	言語学は，人類が使用する言語の本質や構造を科学的に研究する学問分野である。音声学，音韻論，形態論，統語論，談話分析，意味論，語彙論，語用論，手話言語学などの研究分野がある。言語学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。言語学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				歴史学入門	歴史学は，過去の史料を評価・検証する過程を通して歴史の事実，及びそれらの関連を研究する学問分野である。歴史学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。歴史学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				考古学入門	考古学は，人類が残した痕跡（例えば，遺物，遺構など）の研究を通し，人類の活動とその変化を研究する学問分野である。考古学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。考古学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				地理学入門	地理学は，空間ならびに自然と，経済・社会・文化等との関係を対象にして研究する学問分野である。地理学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。地理学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	学問分野別科目	社会科学分野	法学入門	法学は，法律学ともいう。法および法現象を専門的に研究する学問分野である。法および法現象の経験科学的，理論的な解明を直接の目的とする理論法学や，立法，行政，裁判に役立つ法原理，法的技術を中心に体系化されている実用法学などがある。法学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。法学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				政策科学入門	政策科学は，政策研究や政策分析ともいう。政府などの公的機関が行う政策を改善するために研究する学問分野である。政策科学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。政策科学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				経済学入門	経済学は，この世において有限な資源から，いかに価値を生産し分配していくか，社会全般の経済活動を対象に研究する学問分野である。経済学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。経済学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				社会学入門	社会学は，社会現象の実態や，現象の起こる原因に関するメカニズム（因果関係）を解明するために，研究する学問分野である。社会学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。社会学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				心理学入門	心理学は，人の心のはたらき，あるいは人や動物の行動を研究する学問分野である。科学的経験主義の立場から観察・実験・調査等の方法によって一般法則の探求を推し進める基礎心理学，基礎心理学の知見を活かして現実生活上の問題の解決や改善に寄与することを目指す応用心理学などに大別される。心理学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。心理学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				日本国憲法	日本国憲法は，現在の日本の国家形態，統治組織，統治作用を規定している，1947年5月3日に施行された日本の現行憲法である。日本国憲法における，基本理念・原理，及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。日本国憲法全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
			自然科学分野	数学入門	ギリシャ語に語源をもつ数学（Mathematics）は，必ずしも「数の学問」ではなく，その研究対象はとても広い。代数学，幾何学，解析学，統計学などの研究分野がある。数学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。数学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				物理学入門	物理学は，自然科学の一分野であり，自然界に見られる現象には普遍的な法則があると考え，自然界の現象とその性質を解明し理解する学問分野である。物理学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。物理学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				化学入門	化学は，物質の性質を原子や分子のレベルで解明し，化学反応を用いて新しい物質を作り出すことを設計，追求する学問分野である。化学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。化学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				生物学入門	生物学は，生命現象を研究する自然科学の一分野であり，生物やその存在様式を研究対象としている。生物学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。生物学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				地学入門	地学は，地球を研究対象とした自然科学の一分野であり，地球磁気圏から地球内部の核に至るまで，地球の構造や環境，歴史などを対象とした学問分野である。地学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。地学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				工学入門	工学は，数学と自然科学を基礎とし，ときには人文社会科学の知見を用いて，公共の安全，健康，福祉のために有用な事物や快適な環境を構築することを目的とする学問分野である。工学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。工学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				農学入門	農学は，農業・林業・水産業・畜産業などに関わる応用的な学問分野である。数学，物理学，化学，生物学，地学，社会科学などを基礎として研究を行う学問である。農学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。農学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	初修外国語	初級ドイツ語Ⅰ	初修外国語の「初級ドイツ語I～IV」は，ドイツ語とドイツ語圏の事情に関する初級授業である。「初級ドイツ語I」はその入門部分に当たり，ここでは挨拶・自己紹介などの基本的なコミュニケーションの基礎を養う。文法事項としては，綴りと発音の規則に始まり，動詞の人称変化などを中心に学ぶ。「聴く・読む・話す・書く」のバランスの取れた技能の習得を目標とする。	
			初級ドイツ語Ⅱ	「初級ドイツ語I」の基礎の上に，ドイツ語全般の理解に必要となる基本的な知識・技能を習得する授業である。日常的な状況におけるコミュニケーションや表現力の基礎を養う。文法事項もやや高度になり，必要な語彙も少しずつ増加し，動詞や冠詞類の変化など，ドイツ語を運用する上での必須事項を引き続き学ぶ。クラス・教員によって力点の置き方に差はあるが，ここでも目標は「聴く・読む・書く・話す」のバランスのとれた技能の習得である。言語とともに，ドイツ語圏の事情についての知識も身に着けることを目指す。	
			初級ドイツ語Ⅲ	「初級ドイツ語I・II」で学んだ基礎的な知識・技能の上に，より幅広く高度な表現力を習得する授業である。日常的なコミュニケーションや表現力をより豊かにする力を養う。文法事項のレベルも高くなり，さらに多くの語彙を学ぶ。引き続き「聴く・読む・書く・話す」のバランスの取れた技能の習得を目標とし，より複雑な表現にも対応できるようになることを目指す。さらに，ドイツ語という言語に関する知識にとどまらず，ドイツ語圏における文化・習慣・思考などの特徴もより深く理解できるようになる。	
			初級ドイツ語Ⅳ	「初級ドイツ語I・II・III」で学んだ知識や技能に基づき，日常生活において必要なコミュニケーションや表現に対する応用力を養う授業である。より高度な文法事項を含んだ複雑な構文の文章に取り組むことで長文読解力の基礎も習得し，これまでに学んだ事柄を生かす力を養う。ドイツ語圏の事情についての知識も増やすことにより，より円滑なコミュニケーションや表現力の育成を目指す。「初級ドイツ語I」～「初級ドイツ語IV」を通年で受講することによって，ドイツ語検定試験4級程度のレベルに到達することが可能である。	
			初級フランス語Ⅰ	初修外国語の「初級フランス語I～IV」は，フランス語とフランス語圏の事情に関する初級である。「初級フランス語I」はその入門部分である。挨拶・自己紹介などの基本的なコミュニケーションの基礎を養う。文法事項としては，綴りと発音の規則に始まり，動詞の人称変化などを中心に学ぶ。「聴く・読む・話す・書く」のバランスの取れた技能の習得を目標とする。	
			初級フランス語Ⅱ	「初級フランス語I」の基礎の上に，フランス語全般の理解に必要となる基本的な知識・技能を習得する。日常的な状況におけるコミュニケーションや表現力の基礎を養う。文法事項もやや高度になり，必要な語彙も少しずつ増加し，動詞や冠詞類の変化など，フランス語を運用する上での必須事項を引き続き学ぶ。「聴く・読む・書く・話す」のバランスのとれた技能の習得が目標である。言語とともに，フランス語圏の事情について学習する。	
			初級フランス語Ⅲ	「初級フランス語I・II」で学んだ基礎的な知識・技能の上に，より幅広く高度な表現力を習得する授業である。日常的なコミュニケーションや表現力をより豊かにする力を養う。文法事項のレベルも高くなり，さらに多くの語彙を学ぶ。「聴く・読む・書く・話す」のバランスの取れた技能の習得し，より複雑な表現を学習する。さらに，フランス語だけでなく，フランス語圏における文化・習慣・思考などの特徴もより深く理解できるようになる。	
			初級フランス語Ⅳ	「初級フランス語I・II・III」で学んだ知識や技能に基づき，より高度な文法事項の習得とより複雑な構文の文章の理解に取り組む。日常生活において必要なコミュニケーションや表現に対する応用力を養う。フランス語圏の事情についての知識も増やし，より円滑なコミュニケーションや表現力の学習する。「初級フランス語I」～「初級フランス語IV」を通年で受講することによって，フランス語検定試験4級程度のレベルに到達することが可能である。	
			初級中国語Ⅰ	初めて中国語を学ぶものを対象とした中国語の入門授業。四技能のうち「話す」と「聞く」に重点を置く。最初の五回の授業で発音の基礎とピンイン（中国語の表音ローマ字）の読み方と綴り方を集中的に学習する。その後，発音のトレーニングを継続しながら，動詞述語文，形容詞述語文，名詞述語文，主述述語文，構造助詞「的」の用法を学ぶ。単語については２５０語の習得を目標とする。授業終了時には，中国語検定試験準４級の半分程度のレベルに受講生は到達する。	
			初級中国語Ⅱ	「初級中国語Ⅰ」の基礎に立ち，四技能のうち「話す」と「聞く」と重点的に鍛える。発音のトレーニングを継続しながら，数量補語，各種疑問文，指示代名詞，所有表現，親族名称，場所表現，数量詞，動詞連続，完了態，変化態について学ぶ。単語については５００語の習得を目標とする。授業終了時には，中国語検定試験準４級のレベル，すなわち，中国語学習を進めていく上での最低限の基礎知識を習得したレベルに受講生は到達する。	
			初級中国語Ⅲ	「初級中国語Ⅰ・Ⅱ」の基礎に立ち，四技能のうち「話す」と「聞く」を引き続き重点的に鍛える。同時に，「読む」と「書く」を徐々に導入する。発音のトレーニングも継続する。経験態，可能を表す助動詞，進行態，程度副詞，比較表現，年月日時刻曜日の表現，金額の表現，複雑な連体修飾語，前置詞，複雑な連用修飾語を学ぶ。単語については７５０語の習得を目標とする。授業終了時には，中国語検定試験準４級と４級の中間レベルに受講生は到達する。	
			初級中国語Ⅳ	「初級中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の基礎に立ち，四技能のうち「話す」と「聞く」に重点を置きながらも，「読む」と「書く」も平行して習得していく。発音のトレーニングも継続する。程度補語，数量補語，結果補語，方向補語，可能補語，願望を表す助動詞，必要・義務を表す助動詞，禁止表現，受動態，使役表現，「把」構文，存現文を学ぶ。単語については１０００語の習得を目標とする。授業終了時には，中国語検定試験準４級のレベル，すなわち，中国語の基礎をマスターし，平易な中国語を聞き，話すことができるレベルに受講生は到達する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	初修外国語	初級朝鮮語Ⅰ	初修外国語の「初級朝鮮語I～IV」は，朝鮮語の初心者を対象とした授業である。「初級朝鮮語Ⅰ」は，ゼロから朝鮮語の文字（ハングル）や発音に習熟し，日常生活における初歩的なコミュニケーションができることを到達目標とする。たとえばあいさつや自己紹介をしたり，住んでいるところ，好き嫌い，学生生活などについて話せるようにする。授業では，「読む・書く・聞く・話す」の４つの技能をバランスよく習得できるようにし，学生同士の対話練習や発表の時間を多く持つ予定である。	
			初級朝鮮語Ⅱ	「初級朝鮮語Ⅰ」に引き続き，「初級朝鮮語Ⅱ」では，朝鮮語の文字（ハングル）や発音を習得できるようにし，ハングルでパソコン入力ができるようにする。また，「初級朝鮮語Ⅱ」では，描写力の基本を身に付けることを目標とする。具体的には，物のあるなしや位置関係，さらには，一日の生活や一週間の生活を話せるようにし，人や物の特徴についても言えるようにする。授業では，話す技能とともに，聞く能力，書く技能も同様に伸ばすようにする。	
			初級朝鮮語Ⅲ	「初級朝鮮語Ⅰ」「初級朝鮮語Ⅱ」に引き続き，「初級朝鮮語Ⅲ」では様々なコミュニケーションの場に応じた表現を身につける。具体的には，相手に働きかける表現を中心として，頼む・指示する・勧める，意向・欲求を言う，誘う・提案といった，日常生活において事態をを一歩進める表現ができるようにする。さらには，敬語表現を学ぶことによって，人間関係に応じた言葉づかいができるようにする。これらの表現は，対話練習と書く練習，聞く練習によって習熟するようにする。	
			初級朝鮮語Ⅳ	「初級朝鮮語Ⅰ」「初級朝鮮語Ⅱ」「初級朝鮮語Ⅲ」に引き続き，「初級朝鮮語Ⅳ」ではより円滑なコミュニケーションが図れるような表現を身につける。たとえば，時間表現，過去のことやこれからのことが話せるようにする。さらには，理由・目的・対立の表現を学んで因果関係を表したり，推測・仮定，可能，不可能の表現ができるようにする。さらには，対話練習や作文練習に加えて，短い文章を多く読むことを通じて，読解能力を伸ばすことも目指す。	
			初級フィリピノ語Ⅰ	フィリピノ語のアルファベットの読み方，発音から始め，簡単な挨拶，自己紹介ができるようにする。具体的には，初歩的な読み・書き・話すの３技能を獲得するため，初学者用の教科書に沿って，フィリピノ語の単語についての基礎知識，フィリピノ語の述部＋主部からなる基本文型を習得して，フィリピノ語の特徴を理解するとともに，語順，前節語（人称代名詞，小辞）についても理解する。これらに習熟するために音声教材を利用し，繰返し発音するとともに，書取りも行い，上記の技能の定着を図る。	
			初級フィリピノ語Ⅱ	「初級フィリピノ語I」で習得した内容を定着させ，さらに継続発展を行うため「初級フィリピノ語I」で使用した教科書および音声教材を引続き使用する。語彙力の強化とともに文法力の強化によって表現の幅を広げるため，フィリピノ語における標識辞の機能を理解し，これに習熟するために主題を示すang形を理解するとともに，所有等を表すng形を理解する。また修飾・被修飾の関係を示す繋辞の機能についても理解する。これらを通じて，基本的な読み書き話すの３技能の強化を行う。	
			初級フィリピノ語Ⅲ	「初級フィリピノ語II」で習得した内容を定着させ，語学力を系統的に涵養するため「初級フィリピノ語I」「初級フィリピノ語II」で使用した教科書・音声教材に準拠しながら，さらに多様な表現力および読解力を身につける。具体的には，基本文型の一つである同位文，標識辞のsa形の機能，形容詞の副詞的用法を理解する。さらに動詞の活用と相（アスペクト）を理解する。まずは行為者焦点動詞の重点的な習熟を図る。これらにより，日常的な行為についてフィリピノ語による口頭表現，文章表現を可能にする。	
			初級フィリピノ語Ⅳ	「初級フィリピノ語I」「初級フィリピノ語II」「初級フィリピノ語III」で習得したことをもとに，一通りのフィリピノ語の初級文法を理解することによって，旅行に出た時に必要となる基本的な表現力を身につけるとともに簡単な文章の読解力を身につける。具体的には，引き続き教科書・音声教材を活用しつつ，動詞については多様な「非行為者焦点動詞」に習熟するとともに「行為者焦点動詞」との対応や関係を理解し，かつ動詞のモードを理解することで，同一事象に関しての多様な表現の可能性を知り，フィリピノ語の特徴を把握する。	
		高年次教養科目	文系主題科目	初年次を中心として開講している教養教育科目は，高校卒業程度の知識レベルを基礎としている。そのため，その教育内容は，現代社会で必要とされる内容には十分ではない。そこで，ある程度専門教育を受けた2年次後期以降に，文系の学問領域に関する種々の主題を例として，文系の高度な教養を身につける事を目的とした講義である。現代社会が直面する課題を認識しその解決に貢献できる人材が備えているべき文系の素養の育成を目指す。講義形式は座学やe-ラーニングを有効に活用し，選択科目として開講する。	
			理系主題科目	初年次を中心として開講している教養教育科目は，高校卒業程度の知識レベルを基礎としている。そのため，その教育内容は，現代社会で必要とされる内容には十分ではない。そこで，ある程度専門教育を受けた2年次後期以降に，理系の学問領域に関する種々の主題を例として，理系の高度な教養を身につける事を目的とした講義である。現代社会が直面する課題を認識しその解決に貢献できる人材が備えているべき理系の素養の育成を目指す。講義形式は座学やe-ラーニングを有効に活用し，選択科目として開講する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	発展科目	英語プロフェッショナル養成コースに関する科目	Oral Communication	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なオーラルコミュニケーション・スキルを涵養するための授業である。日常生活や旅行などの過去の個人的経験を基にした会話，公共機関や職場といった社会的な場等，様々な文脈での実践的コミュニケーションの場面において，かなり詳細な内容の英語を正確に聞き取り，それに対して，自分の意見を効果的に述べられることを到達目標としている。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。	
			Speaking & Reading Strategies	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なリーディング・スキルを涵養するための授業である。多読・速読用のテキストを活用する共に，英字新聞やインターネット上の英語で書かれた社会的な問題を扱った記事を速読し，その内容を正しく理解し，自らの批評的意見に基づき，発展的な議論を展開できることを到達目標としている。毎回の授業では，ICTを活用して最新の記事にアクセスし，話題提供を行うとともに，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。	
			Effective Presentations	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なプレゼンテーション・スキルを涵養するための授業である。各自の研究や様々な社会問題をテーマにして，インターネットなどを活用して必要な資料収集を行い，効果的な英語表現を使ったスライドを作成できること，さらに，視覚的に理解しやすいスライドに仕上げること，そしてそれらを効果的に英語で発表できることを到達目標としている。毎回の授業では英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。	
			Writing Workshop	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なライティング・スキルを涵養するための授業である。自分の興味のある話題について，文献だけでなくインターネットや簡単なフィールドワークなどを利用したリサーチ・プロジェクトを遂行できること，さらにその調査の結果を論理的に説得力のある小論文（エッセイ）としてまとめることを到達目標としている。毎回の授業では英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式と，作文の添削指導を行うチュータリング形式を用いた学習活動を行う。	
			Academic Reading	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なアカデミック・リーディング・スキルを涵養するための授業である。英語で書かれた学術出版物を理解できること，興味のある学術分野について説明することができること，読み手に配慮した大学院進学志望書を書くことができることを到達目標としている。毎回の授業では，講義形式で話題提供を行い，その後ディスカッション形式で意見交換を行う学習内容となっている。なお，志望書の添削指導を行うチュータリング形式を用いた学習活動も行う。	
			Writing Strategies	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なアカデミック・ライティング・スキルを涵養するための授業である。リサーチ・ペーパーの構造を理解し説明できること，正しい引用方法を用いて，興味のある分野の内容に関して期末レポートをまとめられることを到達目標としている。毎回の授業では英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式と，レポート作成に際して，添削指導を行うチュータリング形式を併用した学習活動を行う。	
			Discussion Skills	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なディスカッション・スキルを涵養するための授業である。現代社会の様々な問題を認識し，自分の意見を明確に，流暢さをもって述べられること，他人の意見に対して正当な理由をもって賛成，または反対の意見を述べられることを到達目標としている。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式，及び意見交換・討論を行うディスカッション形式の学習活動を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	発展科目	英語プロフェッショナル養成コースに関する科目	English For Academic Research	基礎科目として学んだ英語を基に，学術研究のための汎用的な英語運用能力を涵養するための授業である。比較的専門的な内容の英文（雑誌記事や論文等）を読解できること，授業で扱ったテーマについてエッセイを書くことができること，そしてそれらの内容について批判的思考ができることを到達目標としている。毎回の授業では，講義形式で話題提供を行い，その後，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式を用いた学習活動を行う。	
			Business English	基礎科目として学んだ英語を基に，ビジネスのための英語運用能力を涵養するための授業である。ビジネス英語の語彙に習熟できること，ビジネス場面で使用される英語表現を理解し，使用できること，そしてビジネスに関する時事的な話題について議論できることを到達目標としている。毎回の授業では，講義形式で話題提供を行い，その後，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式，及びディスカッション形式の学習活動を行う。	
			Introducing Japanese Culture in English	基礎科目として学んだ英語を基に，日本文化を紹介するための英語運用能力を涵養するための授業である。日本に特有な行動様式について理解し，英語で丁寧に説明できること，日本固有の文化（衣・食・住・祭等に関する様々なテーマ）について英語で説明できることを到達目標としている。毎回の授業では，講義形式で話題提供を行い，その後，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式，及びプレゼンテーション形式の学習活動を行う。	
			Oral Performance	基礎科目として学んだ英語を基に，発展的なオーラル・パフォーマンス能力を涵養するための授業である。演劇やミュージカル，落語（英語小噺も含む），芝居，パブリック・スピーキングなどの様式を用いて，より豊かな英語表現力を身につけることを到達目標としている。毎回の授業では，自宅でのリハーサルトレーニングの成果を発表し，学生同士相互評価を行う。なお，英語の4技能のみならず，身体表現なども活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動も行う。	
			Introductory Interpretation	基礎科目として学んだ英語を基に，通訳技法の基礎を学ぶための授業である。精通しているトピックについて日・英の両言語で丁寧に説明できること，日・英の両言語で素早くノート・テークができること，さらに架空の状況で，学んだ通訳技法を教室環境で披露できることを到達目標としている。毎回の授業では，講義形式による話題提供の他，シャドーイングなどの通訳訓練法，さらに英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。	
			Studying English Abroad Ⅰ	前期集中科目として，英語プロフェッショナル養成コース所属の学生を対象として開講される科目。夏季休業中における海外での短期語学研修に参加した学生に対して，研修先より発行された修了証等を確認し，一定の単位を認定する授業である。なお，事前・事後指導の受講が義務づけられており，それらを適切に受講していない場合は，単位認定は行われない。特に，事前指導では，渡航先での安全・危機管理面の講習を，事後指導では発表会と海外研修レポートの執筆・提出という課題が用意されている。	
			Studying English Abroad Ⅱ	後期集中科目として，英語プロフェッショナル養成コース所属の学生を対象として開講される科目。春季休業中における海外での短期語学研修に参加した学生に対して，研修先より発行された修了証等を確認し，一定の単位を認定する授業である。なお，事前・事後指導の受講が義務づけられており，それらを適切に受講していない場合は，単位認定は行われない。特に，事前指導では，渡航先での安全・危機管理面の講習を，事後指導では発表会と海外研修レポートの執筆・提出という課題が用意されている。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	発展科目	愛媛大学リーダーズ・スクールに関する科目	愛媛大学リーダーズ・スクール	本科目は，組織や社会を牽引するリーダー及びそれをサポートすることで組織の有効性を増すフォロワーに必要な知識・行動・態度の修得を目的とするものであり，リーダーシップの理論学習に止まらず，グループワークやプレゼンテーション等を含むアクティブな授業を実施する事で学んだ事柄を試行・実践する機会を設けている。複数のスタッフによる体系的・段階的・継続的な支援・教育を通じ，本人の人間的な成長の促進，大学の活性化，卒業後の社会貢献に資するプログラムを提供している。	
			グローバル・リーダーシップⅠ	急速にグローバル化が進む現代社会においては，国内外の多様な人々と円滑なコミュニケーションをとりつつ協働する能力が求められている。本科目では，通常の講義に加え，韓国の大学との共同研修等を通して，価値観や文化的背景が異なるメンバー同士がお互いの主張を認め，協力して一つの物事に取り組む上で必須となる態度やスキルについて学ぶ。受講生らが，今後わが国の経済を担う国際的な人材となる上で役立つ意思疎通能力や主体性等を養成することをねらいとする。	
			グローバル・リーダーシップⅡ	ボーダーレス化する現代社会においては，異なる言語・文化・習慣を持つ多様な人材と意思の疎通を図りつつ協働する力が必須となる。本科目では，海外（サイパン）の小・中・高等学校の生徒たちを相手にした授業を作成し実施すると共に，現地教員からの助言を受け，彼らと議論を重ねることで授業の改良・改善に取り組む。加えて，現地の生徒を相手とした日本文化の紹介活動についてもチームで企画・立案し実施する。これらを通じ，受講生たちが国際的な人材となる上で必須の積極的コミュニケーションや，リーダーシップの発揮について学ぶことを目的とする。	
		サーバント・リーダー養成に関する科目	地域未来創成入門	本講義では，一次産業を中心とした未来社会の持続的発展に貢献できるサーバント・リーダー（地域社会で献身的に活動するリーダー）としての素養を身につける。授業を通じて自らが目指すサーバント・リーダーのあり方について説明すること，持続不可能な地域と世界の現状について，自然・社会文化・経済の視点から説明すること，　一次産業を中心とした持続可能な未来社会像について説明すること，地域において学習・調査活動に関わることのできるフィールドワーク手法と危機管理方法について説明することができるようになることをめざす。	
			カルチャーシェアリング	日本・インドネシアの言語・文化を理解し，多様な主体との協調を通じて地域の未来ビジョンを語る能力を身につける。本授業は，国内サービスラーニングと同時期に実施する。講義では，インドネシアの学生とともに，相手の文化を理解・尊重しながら，協力しあう能力，英語またはインドネシア語で，自国の生活・文化を説明する能力，英語またはインドネシア語で，自らの未来ビジョンを語る能力を身につけることをめざす。SUIJIサーバント・リーダー養成に関する科目「国内サービスラーニング」の受講を希望する学生を対象とする。	
			ベーシック国内サービスラーニング	四国3大学（愛媛・香川・高知大学）が設定するフィールドにおいて，四国3大学とインドネシア3大学双方の学生と協働で，地域の課題と可能性を発掘して課題を解決する方策を見いだす地域貢献活動を行う。本授業は，自ら発掘した地域の課題と可能性を説明することができる，地域から世界の未来を開拓する方法を説明することができる，長期にわたって国内の僻地で持続的に活動するための方法を説明し，実践することができる，言語，文化理解に基づき多様な主体との協調を通じて地域の未来ビジョンを発表することができる能力を習得する。	
			アドバンスド国内サービスラーニング	四国3大学（愛媛・香川・高知大学）が設定するフィールドにおいて，四国3大学とインドネシア3大学双方の学生と協働で，地域の課題と可能性を発掘して課題を解決する方策を見いだす地域貢献活動を行う。本授業は，学生が地元住民など多様な主体と協働しながら，地域の課題解決を目指し，地域の未来可能性を活用した地域貢献活動を実践する為に必要な，ベーシック国内サービスラーニングにおいて習得する能力に加えて，地域課題を解決し，地域のポテンシャルを活用した行動を示すことができる能力を習得する。	
			ベーシック海外サービスラーニング	インドネシア3大学（ガジャマダ・ボゴール農業・ハサヌディン大学）が設定するフィールドに出向き，四国3大学とインドネシア3大学双方の学生と協働で，地域の課題と可能性を発掘して課題を解決する方策を見いだす活動を行う。本授業は，自ら発掘した地域の課題と可能性を説明する，地域から世界の未来を開拓する方法を説明する，長期にわたって国内の僻地で持続的に活動するための方法を説明し実践する，言語，文化理解に基づき多様な主体との協調を通じて地域の未来ビジョンを発表することができる能力を習得する。	
			アドバンスド海外サービスラーニング	インドネシア3大学（ガジャマダ・ボゴール農業・ハサヌディン大学）が設定するフィールドに出向き，四国3大学とインドネシア3大学双方の学生と協働で，地域の課題と可能性を発掘して課題を解決する方策を見いだす活動を行う。本授業は，学生が地元住民など多様な主体と協働しながら，地域の課題解決を目指し，地域の未来可能性を活用した地域貢献活動を実践する為に必要な，ベーシック海外サービスラーニングにおいて習得する能力に加えて，地域課題を解決し，地域のポテンシャルを活用した行動を示すことができる能力を習得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	発展科目	環境ＥＳＤ指導者養成講座に関する科目	持続可能な社会づくり（ＥＳＤ）	本講義では，愛媛大学環境ESD指導者養成カリキュラムの基礎として，自然環境，社会文化，経済分野を横断的に学び，地域からグローバルな地域的広がりにおいて現状を理解し，様々な事象の連関性に気づき，理解するために分析する力を身につけることを目的とする。さらに，人々の意識を変革するために有効な学びの場を企画し提供するという，自ら行動する姿勢を身につけることを目指す。授業は，ESD教材を実際に使いながらグループワーク形式で実施する。	
			環境ＥＳＤ指導者養成講座Ⅰ	持続可能な社会づくりのための環境教育（環境ESD）の指導者に必要な知識と技能を修得する。講義では実際にフィールドに出向き，地域住民，NPO代表者などと関わりながら，地域の自然環境，社会文化，経済の持続不可能な事柄を探求し，持続可能な資源の発掘を行うための技能を身につける。グループワークを通じて，より持続可能な社会を目指した，環境ESDを企画するための知識と技能を学ぶ。本講義は，フィールド実習と合わせて学内外の講師陣から提供される分野横断型の知識と技能を習得することを目指す。	
			環境ＥＳＤ指導者養成講座Ⅱ	本講義は，環境ESD指導者養成講座Iの履修を通じて学んだ持続可能な社会づくりのための環境教育（環境ESD）の指導者に必要な知識と技能をベースに，学生自らが環境ESD活動を企画・運営を行い，学習成果を地域社会に還元する手法を学ぶ。さらに，地域で持続可能な社会づくりを実践している実践者を講師陣に向かえ，実践に結びつく知識と技能を習得することを目指す。講義では，グループワークを通じて，より持続可能な社会を目指した，環境ESDを企画するための知識と技能を学ぶ。	
			環境ＥＳＤ指導者養成演習Ⅰ	本講義の受講生は，環境ESD（持続可能な社会づくりのための環境教育）に関連する活動を行っている諸団体等でのインターンシップを通じて，環境ESDの企画運営に関する実務を学ぶ。持続可能な社会づくりを意識した活動を体験しながら，地域に密着した人的・物的資源を発掘することと，環境ESD指導者II種を取得するまでに学んだ知識と経験を，インターンシップ先の活動を通じて，地域社会に還元することを目的としている。インターンシップ期間は原則60時間とする。	
			環境ＥＳＤ指導者養成演習Ⅱ	本講義の受講生は，環境ESD指導者養成演習Ⅰを受講していることが条件である。環境ESD（持続可能な社会づくりのための環境教育）に関連する活動を行っている諸団体等でのインターンシップを通じて，環境ESDの企画運営に関する実務を学ぶ。持続可能な社会づくりを意識した活動を体験しながら，地域に密着した人的・物的資源を発掘することと，環境ESD指導者II種を取得するまでに学んだ知識と経験を，インターンシップ先の活動を通じて，地域社会に還元することを目的としている。インターンシップ期間は原則60時間とする。	
		スキルアップ科目	英語Ｓ１	前期集中科目として，全学部学生を対象とした科目。夏季休業中における海外での短期語学研修に参加した学生に対して，研修先より発行された修了証等を確認し，一定の単位を認定する授業である。なお，事前・事後指導の受講が義務づけられており，それらを適切に受講していない場合は，単位認定は行われない。特に，事前指導では，渡航先での安全・危機管理面の講習を，事後指導では発表会と海外研修レポートの執筆・提出という課題が用意されている。	
			英語Ｓ２	後期集中科目として，全学部学生を対象とした科目。春季休業中における海外での短期語学研修に参加した学生に対して，研修先より発行された修了証等を確認し，一定の単位を認定する授業である。なお，事前・事後指導の受講が義務づけられており，それらを適切に受講していない場合は，単位認定は行われない。特に，事前指導では，渡航先での安全・危機管理面の講習を，事後指導では発表会と海外研修レポートの執筆・提出という課題が用意されている。	
			英語Ｓ３	英語のスピーキング・リスニング・ライティング・リーディングの技能間の連携を意識した学習を通して，高度な英語コミュニケーション力の習得を目指す授業である。英語で情報を入手し，その情報を基に英語で自分の考えを構築し，発信する能力を身に付ける。ペアワーク・グループワーク・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行い，積極的に英語を使い議論に参加できるだけでなく，明瞭かつ簡潔な英語表現で自分の意見を伝えるようになることを目指す。	
			ライフスポーツ	初心者を対象にした水泳及びスキーを内容とする集中授業を開講している。水泳は，特に教員免許状の取得を目指す学生を中心にして授業を行っている。夏季に正規のクロール，平泳ぎの泳法と指導方法を理解し，息継ぎをしながら泳ぐことができることを目指す。スキーは，冬季にスキー場において授業を行う。主に初心者を対象に受講生の経験の少ない自然環境下で，共同生活をしながら初～中級者レベルのスキルの獲得を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	発展科目	食育士プログラムに関する科目	食育入門	「食」は，人が健やかに生きていくための源であり，生涯を通じて健全な心身を保ち，豊かな人間性をはぐくむためには，健全な食生活が不可欠である。我が国の食生活は，海外からの食料輸入の増大に加え，食の外部化や生活様式の多様化が進み，若年層の生活習慣病増加や，食料資源の浪費等の諸問題が顕在化している。現在食に関してどのような問題点があるのか，またなぜ食育が今必要なのかを考える。また，現代の食生活がどのように形成されたのか，食文化から考える。	
			食育総論	今日の日本の食は，物的にはきわめて豊かになった。しかし，その一方で，世界人口増加に比例して食料不足や貧困問題が深刻化している。日本国内でも食料自給率の低下や農家の高齢化，後継者不足など，農に関する様々な問題が発生している。そうした中で，食と農の間に大きな断絶があり，新たな関係構築の必要性が指摘されている。本講義では，食と農に関わる現状や問題点について，作物学，森林科学，水産学，社会学など各視点から考えるとともに，日本の食と農の関係について明らかにする。	
		防災エキスパートに関する科目	環境防災学	防災士の取得を前提とした講義であり，防災士（ぼうさいし）とは，特定非営利活動法人日本防災士機構による民間資格である。本講義は，防災士機構の認定に基づく講義であり，災害に関する一般的知識との習得と，松山消防局職員による救命講習の実技からなる。講義で補うことができない内容については，レポート課題として補完する。本講義単位取得者は，日本防災士機構の資格試験に合格すれば，防災士の資格を取得することができる。	
		教員免許に関する科目	スポーツと教育	教員免許状取得を目指す学生を対象にして開講する。小～高等学校の公式行事として，保健体育関係の行事等は複数あり，将来的にそれらに円滑に対応することができることを目指して本授業で経験を積む。授業内容を以下に示す３つのパートに区分し，３もしくは４回にわたり各パートを順次受講する。１）児童・生徒間の親睦を図るレクリエーション種目の実践，２）科学的根拠に基づいた運動系のクラブ活動の指導，３）運動会やクラスマッチの企画・運営の実践。	
		自律学習プログラムに関する科目	知の最前線に学ぶ	本学では知の最前線の著名な担い手を国内外から招聘し，様々な講演会やシンポジウムを随時開催している。学生は，①これらの学術講演会のうち5件を選択して聴講し，②それぞれの講演会で学んだことをレポートとして提出するとともに，③これら一連の講演会を通して得られた学修の成果についてロ頭試問を受けることにより，1単位を取得できる。本科目の取り組み期間は随意で，学期・年度を越えてもよい。学生が自律的に最先端の科学に触れる機会を見いだし，自らの知的可能性を広げる原動力となることを目的とする。	
			プロジェクト学習	学生が個人またはグループ単位で自由にテーマを設定し，自主的にその研究プロジェクトに取り組むことを主眼とする科目である。自らが発想したテーマについて，自律的に課題発見・解決に取り組むことを通して，汎用的能力と知の技法を身につけることを目的としている。プロジェクトの学習期間は随意で，学期・年度を越えてもよい。所定の活動成果報告書が提出された時点でプロジェクトが終了したものと扱われ，成績評価が行われる。1プロジェクトにつき，2単位が付与される。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	留学生対象科目	日本語科目	アカデミックジャパニーズ１	本科目の目的は，大学での学習に必要な総合的な日本語能力の向上および習熟を図ることであり，到達目標は，１.大量の日本語情報から，一定時間内で大意を的確に把握し，２.それに基づいて自らの意見形成を行い，３.日本語で表現できるようになることである。文法的な正確さはある程度まで求めるが，伝達能力をより重視する。授業は聴解主体の回と読解主体の回を交互に繰り返す。読解，聴解とも生教材を主に使用する。	
			アカデミックジャパニーズ２	本科目の目的は，大学での学習に必要な総合的な日本語能力の向上および習熟を図ることであり，到達目標は，１.大量の日本語情報から，一定時間内で大意を的確に把握し，２.それに基づいて自らの意見形成を行い，３.日本語で表現できるようになることである。文法的な正確さはある程度まで求めるが，伝達能力をより重視する。授業は生教材を用いての聴解が主体となる。また，グループワークの比重が高くなる。	
			アカデミックジャパニーズ３	本科目の目的は，大学生活の中でよくあるケースを基本に，相手や機能によって適切なメールの書き方と表現を学び，今後の人間関係を良好にしていけるようなメールが書けることである。具体的な到達目標は，１）日本語学習者に多い誤用例や，誤解を生みやすい表現について理解し，適切な表現を正しく使えるようになる，２）相手や場合にふさわしいメールを書くことができるようになる，である。そのため，実際にメールを送る課題を通じ，知識の定着をはかる。	
			アカデミックジャパニーズ４	本科目の目的は，将来専門課程で必要とされる口頭発表・またその後の質疑応答が可能になるような日本語表現力ー「描写」「説明」「意見のサポート」方法ーを身につけることである。そのため，大学生として適切な口頭発表を行うために必要な手順を，具体的に理解し，実践できることを目指す。その手段として，授業中は留学生同士また日本人ボランティアとのピア活動を積極的に行い，ピアによる発表原稿や口頭発表の見直し・振り返りを通して，ピアサポートの方法を知る。	
			日本語Ａ１	前学期に開講する本科目の目的は，日本語初級前半レベルの４技能（話す・聞く・読む・書く）を総合的に学習し，大学生活における日本人とのコミュニケーションに役立てることである。到達目標は，日常生活に必要な語彙・文型を覚え，実際の場面でそれらを使って日本人と会話できることである。授業は，日本語初級教科書に基づいて進め，毎回宿題を課し，定期的にテストを実施する。受講生は，ひらがな・カタカナをすでに学習していることを前提とし，基本的に日本語で行う。また必ず予習・復習を必要とする。	
			日本語Ａ２	後学期に開講する本科目の目的は，日本語初級前半レベルの４技能（話す・聞く・読む・書く）を総合的に学習し，大学生活における日本人とのコミュニケーションに役立てることである。到達目標は，日常生活に必要な語彙・文型を覚え，実際の場面でそれらを使って日本人と会話できることである。授業は，日本語初級教科書に基づいて進め，毎回宿題を課し，定期的にテストを実施する。受講生は，ひらがな・カタカナをすでに学習していることを前提とし，基本的に日本語で行う。また必ず予習・復習を必要とする。	
			日本語Ｂ１	前学期に開講する本科目の目的は，日本語初級後半レベルの４技能（話す・聞く・読む・書く）を総合的に学習し，大学生活における日本人とのコミュニケーションに役立てることである。到達目標は，１．日本語の動詞や形容詞の活用を正しい形で使用できる，２．教科書に出てくる語彙や文法を用いて，４技能をまんべんなく習得する，３．実際の場面で，学習した語彙・文法を使って日本人と会話できる，の３点である。授業は，日本語初級教科書に基づいて進め，毎回宿題を課し，定期的にテストを実施する。また必ず予習・復習を必要とする。	
			日本語Ｂ２	後学期に開講する本科目の目的は，日本語初級後半レベルの４技能（話す・聞く・読む・書く）を総合的に学習し，大学生活における日本人とのコミュニケーションに役立てることである。到達目標は，１．日本語の動詞や形容詞の活用を正しい形で使用できる，２．教科書に出てくる語彙や文法を用いて，４技能をまんべんなく習得する，３．実際の場面で，学習した語彙・文法を使って日本人と会話できる，の３点である。授業は，日本語初級教科書に基づいて進め，毎回宿題を課し，定期的にテストを実施する。また必ず予習・復習を必要とする。	
			日本語口頭表現Ｃ１	前学期に開講する本科目の目的は，初級で学習した文法や語彙の復習をし，単文から複文へとより高度な表現を学習することにより，物事を詳細に説明する能力，論理的な意見の交換，発表するための口頭表現能力を身につけることである。また，到達目標は，１．日本と自国の社会・文化等の共通点や相違点を理解してスピーチすることができる，２．提起されたテーマについて，J-support（日本人学生・社会人）と話し合うことができる，３．話し合ったことを文章にまとめ，発表することができる，　の３点である。授業は，教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語口頭表現Ｃ２	後学期に開講する本科目の目的は，初級で学習した文法や語彙の復習をし，単文から複文へとより高度な表現を学習することにより，物事を詳細に説明する能力，論理的な意見の交換，発表するための口頭表現能力を身につけることである。また，到達目標は，１．日本と自国の社会・文化等の共通点や相違点を理解してスピーチすることができる，２．提起されたテーマについて，J-support（日本人学生・社会人）と話し合うことができる，３．話し合ったことを文章にまとめ，発表することができる の３点である。授業は，教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語読解作文Ｃ１	前学期に開講する本科目の目的は，１．初級の基礎的な学習を踏まえ，より高い総合的技能の習得を目指す，２．日本語の基礎的構造を知り，それを運用する能力を身に付ける，３．自律的な学習スタイルを習得する，の３点である。また，到達目標は，１．初級の文型表現を運用することができる，２．自分の考えを短文で表現できる，３．日本語能力試験３級程度の語彙（特に漢字）を理解し使用できる，の３点である。授業は，教材プリント(事前配布)に基づいて進行する。	
			日本語読解作文Ｃ２	後学期に開講する本科目の目的は，１．初級の基礎的な学習を踏まえ，より高い総合的技能の習得を目指す，２．日本語の基礎的構造を知り，それを運用する能力を身に付ける，３．自律的な学習スタイルを習得する，の３点である。また，到達目標は，１．初級の文型表現を運用することができる，２．自分の考えを短文で表現できる，３．日本語能力試験３級程度の語彙（特に漢字）を理解し使用できる，の３点である。授業は教材プリント(事前配布)に基づいて進行する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	留学生対象科目	日本語科目	日本語口頭表現Ｄ１	前学期に開講する本科目の目的は，クラスメートやJ-support（日本人学生・社会人）の対話を通して，文化や社会，人間などについて考える力と，それをスピーチで表現したり，グループで話し合ったりする日本語力を身に付けることである。また，到着目標は，１．自分の体験や意見を日本語で表現できる，２．相手の意見を聞いて理解できる。３．考え方や価値観が異なる相手と対話して，自分の考えを深めたり，新しい考えを創設したりできる，の３点である。授業は教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語口頭表現Ｄ２	後学期に開講する本科目の目的は，クラスメートやJ-support（日本人学生・社会人）の対話を通して，文化や社会，人間などについて考える力と，それをスピーチで表現したり，グループで話し合ったりする日本語力を身に付けることである。また，到着目標は，１．自分の体験や意見を日本語で表現できる，２．相手の意見を聞いて理解できる，３．考え方や価値観が異なる相手と対話して，自分の考えを深めたり，新しい考えを創設したりできる，の３点である。授業は教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語読解作文Ｄ１	前学期に開講する本科目の目的は，大学での学びに必要となる読解のスキルとレポートを書く時のルールを学ぶことである。読解は，必要な情報を的確に把握できるよう，接続表現や文末表現など着目すべき点を学び，文と文，段落と段落の関係を正しくとらえる能力の養成を目指す。また，他者に分かりやすく伝えられるよう，レポートを書く時のルール，文型，表現を身につける。合わせて教材にある語彙の定着も目指す。授業は教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語読解作文Ｄ２	後学期に開講する本科目の目的は，大学での学びに必要となる読解のスキルとレポートを書く時のルールを学ぶことである。読解は，必要な情報を的確に把握できるよう，接続表現や文末表現など着目すべき点を学び，文と文，段落と段落の関係を正しくとらえる能力の養成を目指す。また，他者に分かりやすく伝えられるよう，レポートを書く時のルール，文型，表現を身につける。合わせて教材にある語彙の定着も目指す。授業は教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語口頭表現Ｅ１	前学期に開講する本科目の目的は，場面に応じた「適切な待遇表現」を学び，日本人を招くビジターセッション（インタビュー）運営等を通して，場面に応じた待遇表現運用力の向上を目指す。また到着目標は，１．ビジターに接するとき，相手にふさわしい話し方や表現を使って，質疑応答ができる，２．考え方や価値観が異なる相手と対話して，自分の考えを深めたり，新しい考えを創設したりできる，３．テーマを理解するために必要な情報・知識を適切な方法を使って入手できる，の３点である。	
			日本語口頭表現Ｅ２	後学期に開講する本科目の目的は，場面に応じた「適切な待遇表現」を学び，日本人を招くビジターセッション（インタビュー）運営等を通して，場面に応じた待遇表現運用力の向上を目指す。また到着目標は，１．ビジターに接するとき，相手にふさわしい話し方や表現を使って，質疑応答ができる，２．考え方や価値観が異なる相手と対話して，自分の考えを深めたり，新しい考えを創設したりできる，３．テーマを理解するために必要な情報・知識を適切な方法を使って入手できる，の３点である。	
			日本語読解作文Ｅ１	前学期に開講する本科目の目的は，日本語表現全般に通じる基礎的な方法を習得するため，表現を「通信・案内・伝達」「記録・報告」「意見・主張」の三部に分け，ジャンル・形式別の日本語表現方法を身に付けることである。到達目標は，１．文章を書く場合の一般的な手順や基本を理解する，２．場面や相手に応じた適切な手段で自己表現ができる，３．情報を収集・整理し，正確かつ簡潔に伝える文章にまとめる方法について理解する，４論理的な文章を読み，全体の構成や論旨を読み取る力がつく，５．日本語の特徴を理解する，の５点である。	
			日本語読解作文Ｅ２	後学期に開講する本科目の目的は，日本語表現全般に通じる基礎的な方法を習得するため，表現を「通信・案内・伝達」「記録・報告」「意見・主張」の三部に分け，ジャンル・形式別の日本語表現方法を身に付けることである。到達目標は，１．文章を書く場合の一般的な手順や基本を理解する，２．場面や相手に応じた適切な手段で自己表現ができる，３．情報を収集・整理し，正確かつ簡潔に伝える文章にまとめる方法について理解する，４論理的な文章を読み，全体の構成や論旨を読み取る力がつく，５．日本語の特徴を理解する，の５点である。	
			日本語総合Ｅ１	前学期に開講する本科目の目的は，単なる言葉の理解だけでなく，ビジネス知識，習慣など，社会的文化的背景を含めた，総合的な理解力，判断力をつけ，あらゆるビジネス場面で日本語による十分なコミュニケーションができるようにすることである。到達目標は，１．日本語に関する正確な知識と運用能力が身につく，２．どのようなビジネス会話でも正確に理解できる，３．会議，商談，電話の応対などで相手の話すことが正確に理解できる，４．対人関係に応じた言語表現の使い分けが適切にできる，５．日本のビジネス慣習を十分理解できる，の５点である。	
			日本語総合Ｅ２	後学期に開講する本科目の目的は，単なる言葉の理解だけでなく，ビジネス知識，習慣など，社会的文化的背景を含めた，総合的な理解力，判断力をつけ，あらゆるビジネス場面で日本語による十分なコミュニケーションができるようにすることである。到達目標は，１．日本語に関する正確な知識と運用能力が身につく，２．どのようなビジネス会話でも正確に理解できる，３．会議，商談，電話の応対などで相手の話すことが正確に理解できる，４．対人関係に応じた言語表現の使い分けが適切にできる，５．日本のビジネス慣習を十分理解できる，の５点である。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	留学生対象科目	日本語科目	日本語漢字Ａ１	前学期に開講する本科目の目的は，ひらがな・カタカナ・漢字（323字）の読み書きを身につけることである。到着目標は，１．正しい書き順でひらがな・カタカナ・漢字が書ける，２．学習した漢字で書かれた漢字仮名交じり文が読める，３．学習した漢字を使って，日本語の文を漢字仮名交じり文で表記できる，の３点である。授業は，テキスト『Write Now! Kanji for Beginners』に基づいて進行する。	
			日本語漢字Ａ２	後学期に開講する本科目の目的は，ひらがな・カタカナ・漢字（323字）の読み書きを身につけることである。到着目標は，１．正しい書き順でひらがな・カタカナ・漢字が書ける，２．学習した漢字で書かれた漢字仮名交じり文が読める，３．学習した漢字を使って，日本語の文を漢字仮名交じり文で表記できる，の３点である。授業は，テキスト『Write Now! Kanji for Beginners』に基づいて進行する。	
			日本語漢字表記Ｂ１	前学期に開講する本科目の目的は，自律的な学習を通して，自分のレベルの一段階上の漢字とその使い方を覚え，漢字力特に正しい表記力を身につけることである。到達目標は，１．読み手に誤解されない字形等，正しく漢字が書けるようになる，２．授業開始時に設定した目標のレベルまでの漢字を正しく表記が行え，意味がわかるようになる，の２点である。また，場合によっては，ひらがなカタカナの書字指導も行う。授業は，それぞれのレベルに合う教材を使って漢字表記方法を中心に漢字学習を行う。	
			日本語漢字表記Ｂ２	後学期に開講する本科目の目的は，自律的な学習を通して，自分のレベルの一段階上の漢字とその使い方を覚え，漢字力特に正しい表記力を身につけることである。到達目標は，１．読み手に誤解されない字形等，正しく漢字が書けるようになる，２．授業開始時に設定した目標のレベルまでの漢字を正しく表記が行え，意味がわかるようになる，の２点である。また，場合によっては，ひらがなカタカナの書字指導も行う。授業は，それぞれのレベルに合う教材を使って漢字表記方法を中心に漢字学習を行う。	
			日本語漢字語彙Ｂ１	前学期に開講する本科目の目的は，自律的な学習を通して，自分のレベルの一段階上の漢字と漢字語彙の使い方を覚え，漢字力とそれに伴う語彙力を身につけることである。到達目標は，１．読み手に誤解されない字形，正しい書き方で漢字が書けるようになる，２．授業開始時に設定した目標のレベルまでの漢字と漢字語彙の読み書きができ，意味がわかるようになる，の２点である。授業は，それぞれのレベルに合う教材を使って漢字語彙の使い方を中心に漢字学習を行う。	
			日本語漢字語彙Ｂ２	後学期に開講する本科目の目的は，自律的な学習を通して，自分のレベルの一段階上の漢字と漢字語彙の使い方を覚え，漢字力とそれに伴う語彙力を身につけることである。到達目標は，１．読み手に誤解されない字形，正しい書き方で漢字が書けるようになる，２．授業開始時に設定した目標のレベルまでの漢字と漢字語彙の読み書きができ，意味がわかるようになる，の２点である。授業は，それぞれのレベルに合う教材を使って漢字語彙の使い方を中心に漢字学習を行う。	
		日本事情に関する科目	日本事情Ａ１	本科目の目的は，日本の大学ではじめて大学生活を送る学部外国人留学生が，教室内外の活動を通じて，日本文化への理解を深めることである。教室内では，担当教員の講義等により，伝統的な日本文化や今日的な日本マナーを学ぶ。教室外活動としては，松山城，道後温泉，石手寺等の具体的な歴史名所への訪問を行うことで，地元愛媛（特に松山）の歴史を知る。また，伊予かすり会館や地元企業見学等を通じて，地元愛媛（特に松山）の産業等への知識も得る。	
			日本事情Ａ２	この授業では現代日本の様々な社会問題（食の安全，原子力等）を取り上げ，日本語によるグループディスカッションを行う。本科目の目的は，１.現代日本の話題を知ってそれについて日本語で自分の意見を述べる，２.日本社会や文化を様々な視点で考える，の２点である。到達目標は，１.日本語でディスカッションができる，２.日本に話題になっているトピックスについて日本語で意見が述べられる，３.日本語で情報収集ができる，の３点である。	
			日本事情Ｂ１	日本の大学で初めて大学生活を送る外国人留学生が，大学の仕組み・日本の社会の仕組み・日本の文化・日本の言葉など，専門的な学問以前の常識として保持しておきたい基本的な知識を習得する。さらに，日常生活・大学生活で気付いた疑問点について，授業のなかで互いに紹介し合い，討論を行うことにより，実践的な日本語コミュニケーション能力を培う。単に日本の問題点を紹介するだけでなく，同じ事項に関する留学生の母国の様子も紹介しあい，比較対照しながら，立体的に検討していく。	
			日本事情Ｂ２	本来,「日本事情」が扱うべき主題はきわめて多岐に渡る。本科目では戦後期日本を中心に,日本社会への理解を深め,基礎的な判断材料となるような知識の習得を目指す。到達目標は,1.日本での生活・学習の基礎的な判断材料となるような知識を習得する,2.日本が単一なものではなく,「いくつもの日本文化・いくつもの日本社会」があることを例を挙げて説明できる,3.授業で取り上げた諸問題に関し,自国の状況と比較して見解を述べることができる,ことである。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎力育成科目群	社会共創学概論	この授業は、社会共創学という学問の起点となる科目で、社会共創学の学問的性質、社会の課題およびその発見の視点、トランスディシプリナリー研究の在り方ならびに科学と社会の連携による「知の統合」とそれによる地域の新しい価値創造までのプロセスについて学びます。その際に重要なるサーバントリーダーシップの重要性およびその修得法について学びます。講義では、地域社会が抱える複雑な課題を解決する国内外の事例も交え、かつグループ・ディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを活用して学ぶことによって、課題設定・解決への学習意欲を高めます。 （オムニバス方式／全15回） （⑮　榊原　正幸／11回） ガイダンス　－社会共創学の学問的性質－ 地域社会の諸問題　―科学と現実社会が交わるトランス・サイエンス― トランスディシプリナリティの概念　－学と社会の連携による「知の統合」と協働－ トランスディシプリナリティの実践　－欧米および日本におけるトランスディシプリナリー研究の実践例－ トランスディシプリナリー研究におけるステークホルダー論 課題解決のための分野横断的思考 トランスディシプリナリー研究におけるサーバントリーダーシップの重要性と修得 グループ・ディスカッション「地域社会の課題解決のためのプロセスとその手法」 地域社会の課題とトランスディシプリナリー研究の萌芽 その5　－インドネシアにおける貧困問題を背景とします水銀汚染とトランスディシプリナリー・アプローチによる地域社会の変容－ 社会共創学がもたらす社会の変容 グループ・ディスカッション「自分が住んでいる地域社会におけるトランスディシプリナリティ」 （②　若林　良和／1回） 地域社会の課題とトランスディシプリナリー研究の萌芽 その１　－地場産業に関する多面的分析－ （㉘　笠松　浩樹／1回） 地域社会の課題とトランスディシプリナリー研究の萌芽 その2　－愛媛県の農山漁村振興－ （㉑　井口　梓／1回） 地域社会の課題とトランスディシプリナリー研究の萌芽 その3　－地域づくりと文化－ （㉗　片岡　由香／1回） 地域社会の課題とトランスディシプリナリー研究の萌芽 その4　－協働の空間デザイン－	オムニバス方式
		地域調査方法入門	現代社会において、地域調査は、企業・行政・団体や研究機関など地域の様々な主体（ステークホルダー）によって実施され、地域社会の実態把握と問題点の追求、諸課題解決の可能性の検討を考える重要な方法のひとつとして位置づけられる。本授業では、地域の様々な人々とともに地域の課題について検討するために、地域調査の一連の方法を学ぶ。地域社会の多様な実態を明らかにするのに必要となる問題発見能力や調査能力、分析能力の基礎を身につける。具体的には、地域調査に関する基本的な手法を紹介するとともに、演習によって調査実施のノウハウを体得し、その結果をもとに、地域社会の実態を明らかにする。 （オムニバス方式／全15回） （②　若林　良和／1回） 第１回　ガイダンス（授業の目的と概要・進め方、社会調査の目的と意義、社会調査の歴史、社会調査の倫理、社会共創学における地域調査の意義） （18　曽我　亘由・123　広垣　光紀／６回）（共同） 第３～８回　量的調査：アンケート調査（統計データをもとに明らかになる事項の解説、データ解析演習、アンケート調査のメリット・デメリットの解説、【演習】調査票作成と調査実施、結果の集約と分析） （125　羽鳥　剛史／4回） 第２回　社会調査の設計（調査の企画、実施方法及び現地調査計画の検討、対象地域の選定、アポイントメント調整） 第９～11回　質的調査：インタビュー調査の要点の解説、インタビュー調査のメリット・デメリット、【演習】調査項目作成と調査実施、結果の集約と分析） （㉑　井口　梓／2回） 第12～13回　地域調査の実際①：地域情報の収集と読解（地図・文献（郷土史資料）、行政資料（地域の計画書・統計書など）様々な資料の紹介、【演習】地図の読解） （㉘　笠松　浩樹・⑩　深堀　秀史／2回）（共同） 第14回　地域調査の実際②：多角的なアプローチとしての地域調査法（景観観察、土地利用調査、行動調査、発掘調査など様々な調査の特徴について解説） 第15回　総括：地域調査の方途	オムニバス方式・共同（一部）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎力育成科目群	経営入門	本講義では、企業システムを体系的に学ぶために、企業（経営）の基礎知識を習得するとともに、具体的なビジネスモデルを製販統合やコンビニエンスストアなどの事例を通じて理解することを目的とする。具体的には、①株式会社などの企業形態について基本的な事柄②会社組織の基本的な仕組み、企業と企業に関わる利害関係者（債権者、顧客、地域住民など）との関係、③具体的なビジネスモデルについて学んでいく。 （オムニバス方式／全15回） （19　崔　英靖／8回）ガイダンス(1回・共同）を行った後、企業経営の基礎知識について、創業から株式公開までの流れに沿って説明する。 （119　折戸　洋子／8回）ガイダンス（1回・共同）を行った後、競争とビジネスモデルについて、チェーンストアやコンビニの事例などを用いて説明する。	オムニバス方式・共同（一部）
		サーバントリーダーシップ入門	この授業は、社会共創学という学問を具現化していくための基本科目と位置付けられ、地域の諸課題解決に取り組むための基礎的な資質・能力であるリーダーシップのあり方を学修します。特に、地域のステークホルダーとの協働において重視されるサーバントリーダーシップについて、具体的、かつ、実践的な取り組みを紹介しながら、系統的に学びます。授業は、２コマ連続で実施し、担当教員による講義とグループワーク（１グループ10名×18グループ）を織り交ぜながら実施します。課題は、グループ毎に３分の動画にまとめ、Moodle/Facebook にアップロードして提出し、教員と受講者間で共有し、授業で活用します。 （オムニバス方式／全15回） （②　若林　良和／4回） ・ガイダンス（授業の目的と概要、到達目標およびグループワークの手法と課題提出の方法、評価方法について説明する。） ・社会共創学とサーバントリーダーシップ（社会共創学とサーバントリーダーシップの関係、さらにその意義について解説する。） ・リーダーシップと地域社会（地域の諸課題解決に必要なリーダーシップの重要性とあり方を概説した上で、既存のリーダーシップの機能や効果を理論的に検討する。） ・まとめ（本講義のふりかえりを行い、学生各自が目指すサーバントリーダー像（活躍場所、取り組む課題など）を発表して共有する。） （㉘　笠松　浩樹／7回） ・ガイダンス（授業の目的と概要、到達目標およびグループワークの手法と課題提出の方法、評価方法について説明する。） ・社会共創学とサーバントリーダーシップ（社会共創学とサーバントリーダーシップの関係、さらにその意義について解説する。） ・リーダーシップと地域社会（地域の諸課題解決に必要なリーダーシップの重要性とあり方を概説した上で、既存のリーダーシップの機能や効果を理論的に検討する。） ・日本の里山で活躍するサーバントリーダー（国内の里山の現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、国内の里山で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・日本の里海で活躍するサーバントリーダー（国内の里海の現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、国内の里海で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・日本の都市で活躍するサーバントリーダー（国内の都市の現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、国内の都市で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・まとめ（本講義のふりかえりを行い、学生各自が目指すサーバントリーダー像（活躍場所、取り組む課題など）を発表して共有する。）	オムニバス方式・共同（一部）・兼任補充予定

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎力育成科目群	サーバントリーダーシップ入門	（㉓　小林　修／5回） ・ガイダンス（授業の目的と概要、到達目標およびグループワークの手法と課題提出の方法、評価方法について説明する。） ・サーバントリーダーシップ概説１：サーバントリーダーシップの概念（サーバントリーダーシップの概念について、これまでの研究系譜や実践例から検討する。） ・サーバントリーダーシップ概説３：地域社会との関連（サーバントリーダーシップを、地域社会との関わりにおいて概説する。サーバントリーダーのあり方について、幅広い観点から地域の現状を俯瞰しつつ、地域の課題と可能性を見出すための手だてについて検討する。） ・サーバントリーダーと地域貢献（地域の発展に貢献することができるサーバントリーダーの基本的な視点、資質、目指すべき方向性について解説する。） ・まとめ（本講義のふりかえりを行い、学生各自が目指すサーバントリーダー像（活躍場所、取り組む課題など）を発表して共有する。） （㉔　島上　宗子／11回） ・ガイダンス（授業の目的と概要、到達目標およびグループワークの手法と課題提出の方法、評価方法について説明する。） ・社会共創学とサーバントリーダーシップ（社会共創学とサーバントリーダーシップの関係、さらにその意義について解説する。） ・リーダーシップと地域社会（地域の諸課題解決に必要なリーダーシップの重要性とあり方を概説した上で、既存のリーダーシップの機能や効果を理論的に検討する。） ・サーバントリーダーシップ概説１：サーバントリーダーシップの概念（サーバントリーダーシップの概念について、これまでの研究系譜や実践例から検討する。） ・サーバントリーダーシップ概説３：地域社会との関連（サーバントリーダーシップを、地域社会との関わりにおいて概説する。サーバントリーダーのあり方について、幅広い観点から地域の現状を俯瞰しつつ、地域の課題と可能性を見出すための手だてについて検討する。） ・サーバントリーダーと地域貢献（地域の発展に貢献することができるサーバントリーダーの基本的な視点、資質、目指すべき方向性について解説する。） ・インドネシア社会とサーバントリーダー（東南アジア・インドネシアの地域社会の現状と課題を説明し、地域協働の重要性を解説する。） ・インドネシアの農山村で活躍するサーバントリーダー（インドネシアの農山村に関する現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、農村社会で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・インドネシアの漁村で活躍するサーバントリーダー（インドネシアの漁村に関する現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、漁村社会で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・インドネシアの都市で活躍するサーバントリーダー（インドネシアの都市に関する現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、都市社会で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・まとめ（本講義のふりかえりを行い、学生各自が目指すサーバントリーダー像（活躍場所、取り組む課題など）を発表して共有する。）	オムニバス方式・共同（一部）・兼任補充予定

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	フィールドワーク入門	本学部の主眼となる地域社会をどのようにとらえるかの実習に先立ち、その調査の準備に関する講義をおこなう。実例を元に、フィールドワークに入る心構えやコミュニケーションのあり方、観察の方法、まとめ方を学ぶ。とくに、情報収集、課題発見、アポイント取り、ヒアリング、調査票の作成と記録・整理など、必要なスキルを身につけるとともに、コミュニケーション力、観察力、積極性、表現力および説明力などの汎用的スキルを育成する。 (オムニバス方式／全１５回) （15　山口　由等／３回） ・イントロダクション（社会共創学部とフィールドワーク） ・企業のＱＣサークルの手法から学ぶ課題発見の方法 ・地域資料の現地調査とアーカイブ作りによる地域への還元 （㉒　淡野　寧彦／２回） ・主題図のルールと活用方法 ・アンケートの設計と分析 （㉖　小田　清隆／２回） ・農山漁村地域の生活、生業、地域活動、資源、課題を可視化する方法の学習 ・住民への還元方法と学生の成果の取得方法の学習 （120　藤川　健／２回） ・企業調査はどのように行えばよいのか ・地域の企業が抱える問題を考えよう （⑪　山本　智規／２回） ・産業分野におけるフィールドワークの手法 ・産業分野におけるフィールドワークの具体例 （24　大森　浩二／２回） ・地域自然調査の準備の学習 ・自然環境調査の立案と実施（救命講習等の野外において必要な技術的訓練を含む）	オムニバス方式・兼任補充予定
			フィールド基礎実習	「フィールド実習」のプレ・ステージとして位置づけられ、身近な地域社会に出て「人・地域社会・自然環境」とふれあうための少人数のアクティブ・ラーニングに取り組む。教員の支援のもと、学生自身が計画し、行動の自立と他者との協働、学びの言語化を通して、地域社会への興味・関心を高め、主体的・能動的な態度を身につける。①産業、②自然環境、③文化・歴史、④観光・スポーツの４領域から成るフィールドが実習先となる。学生は学科の異なる学生同士の６人チーム（事前に担当教員が名簿からグルーピングする）によって、グループワークで４フィールドを選択し、行程・行動計画を立案し訪問視察する。 訪問先をあらかじめ学生がサイト等で情報を入手しやすい先とすることで、事前学習を促し、実習効果を高める。また、行程・行動計画書の作成に加え、チームでの学習内容を学修ポートフォリオに記録（アクティビティ・ログ）し、教員からのコメント（コメント・シート）により、自らの学びの振り返りと改善を促す。 （17　岡本　隆）産業の領域における行程・行動計画の指導及び情報産業論の観点から報告書の作成指導を行う。 （118　谷本　貴之）産業の領域における行程・行動計画の指導及びマーケティング論の観点から報告書の作成指導を行う。 （⑪　山本　智規）ものづくり企業での実習における行程・行動計画の指導及び地場産業の特色を明らかにするという観点から報告書の作成指導を行う。 （23　松村　暢彦）松山市興居島などの里島や肱川水系などの里川における行程・行動計画の指導及び地域環境デザインの観点から報告書の作成指導を行う。 （127　入江　賀子）再生可能エネルギー・プロジェクトにおける行程・行動計画の指導及び地域エネルギー・環境デザインの観点から報告書の作成指導を行う。 （32　牛山　眞貴子）観光・スポーツ資源をテーマとする調査の行程・行動計画の指導及び健康・スポーツ科学と地域コミュニティの観点から報告書の作成指導を行う。 （28　野口　一人） 観光・スポーツ資源をテーマとする調査の行程・行動計画の指導及びICTの活用と情報処理の観点から報告書の作成指導を行う。 （⑲　野澤　一博） 産業の領域における行程・行動計画の指導及び地域経済学の観点から報告書の作成指導を行う。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	フィールド実習	フィールド基礎実習で習得したチームでプロジェクトを進める能力をいかし、地域の多様なステークホルダーとのディスカッションやフィールド調査をチームで行い、地域の活動や資源、課題等を調査、把握する。把握した内容を地域のステークホルダーも含めた場で発表し、住民と学生で共有する。これらの活動を通して、地域のステークホルダーが地域社会を持続、変革することの意義と姿勢を学び、地域社会に向かう自分のスタンスを形成する。フィールドは、四国中央市、西条市、松山市、西予市とし、48人ずつ4グループに分かれて各地域へ配置、さらに1グループを8チーム（6人／班）に分ける。学生は、チームでの学習内容を学修ポートフォリオに記録（アクティビティ・ログ）し、教員からのコメント（コメント・シート）により、自らの学びの振り返りと改善を促すことが可能となる。 （23　松村　暢彦）市民まちづくり活動による中心市街地の活性化の観点から、調査及び報告書の作成指導 （17　岡本　隆）地域に存在する企業の情報産業論の観点から調査及び報告書の作成指導 （118　谷本　貴之）地域産業を構成する企業や組織のマーケティング論の観点からの調査及び報告書の作成指導 （㉘　笠松　浩樹）農山漁村におけるフィールドワークの観点から、地元学の手法を用い、聞き取り調査、踏査、結果の集約、地元住民との結果の共有方法を指導 （⑨　福垣内　暁）製紙科学や機能紙科学、材料化学、紙産業振興を通じた地域活性化の観点から、四国中央市における製紙産業、地域の調査および報告書作成の指導 （⑪　山本　智規）地場産業の理解を通じた地域活性化の観点から、ものづくり産業の調査および報告書作成の指導 （⑩　深堀　秀史）製紙科学や機能紙科学、紙産業振興を通じた地域活性化の観点から、四国中央市における製紙産業、地域の調査および報告書作成の指導 （⑫　秀野　晃大）バイオマス変換利用としての製紙科学を軸とし、四国中央市における製紙産業の観点から、製紙工程、原理、歴史などの調査及び報告書の作成指導 （15　山口　由等）鉄道遺産を通じた地域再生活動を核とする産業観光の振興の観点から、調査及び報告書の作成指導 （19　崔　英靖）地域産業を構成する地元企業の経営の観点から調査及び報告書の作成指導 （㉗ 片岡　由香）地域の歴史や景観を資源とした観光振興の観点から、現地踏査や地元住民、まちづくりの関係主体へのヒアリング調査の指導、および提案書作成の指導 （26　寺谷　亮司）飲食文化や産業などの地域資源を活かしたまちづくりや地域振興に関する調査及び報告書の作成指導	共同
			プロジェクト基礎演習	地域・組織等におけるプロジェクトにチームで取り組む。フィールド実習で修得した地域のステークホルダーと協働してプロジェクトの企画を立案する能力をいかして、「よりよい地域・組織等」を地域のステークホルダーともに考え、その実現のためのプロジェクトを企画する。プロジェクトのテーマについては、課題設定能力を育成するため、大枠を与える程度とし（たとえば、地域の持続可能性を高める商店街の活性化を図るなど）、そこから課題を的確に設定する能力を育成する。地域のステークホルダーとの積極的なディスカッションやテーマに関する情報収集等による地域・組織等の現状分析を通して、課題を発見し、絞り込む。絞り込んだ課題に対して、地域・組織等の強みを活かした解決策を企画する。課題の設定や解決策を考える際に、自分の専門分野にこだわるのではなく、チームとして地域に対して何ができるのかを考え、必要があれば自ら新しい分野の知識を修得するなど積極的に取り組む姿勢を身につける。プロジェクトを企画書としてまとめ、プレゼンテーション会で発表するとともに、他のチームの発表に対して、よりよい地域・組織等に向けた実践企画になるように評価、コメントを行う。同じフィールドで実践している3年生ともディスカッションをしながら進めていくこととする。 （①　松原　孝博）水産における養殖技術開発の観点から、調査及び報告書の作成指導 （②　若林　良和）水産における社会構造と生活文化の観点から、調査及び報告書の作成指導 （⑤　髙橋　学）加工品の材料強度と安全性・信頼性の観点から、調査および報告書の作成指導 （⑥　八木　秀次）現場知として、ものづくりの現場を経験することにより、設計・製図およびそれに基づく加工の知識の内容についての、調査および報告書の作成指導 （⑦　太田　耕平）水産養殖における有害生物の防除の観点から、調査及び報告書の作成指導 （⑧　後藤　理恵）水産養殖における新魚種開発の観点から、調査及び報告書の作成指導 （⑨　福垣内　暁）製紙・紙加工技術、機能紙開発、紙産業の課題解決のための産官学連携研究推進の観点から、現状調査・課題設定・解決策立案に関する助言、企画書作成、報告書の作成指導 （⑩　深堀　秀史）製紙技術、機能紙開発、学際的研究推進の観点から、現状調査・課題設定・解決策立案に関する助言、企画書作成、報告書の作成指導 （⑪　山本　智規）メカトロニクス・オートメーションの観点から、調査および報告書の作成指導	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	プロジェクト実践演習	2年次のプロジェクト基礎演習で企画した提案をステークホルダーと協働して、ものづくり、ことづくり、しくみづくりの実現可能性について詳細に検討を行う。チームは、2年次のプロジェクト基礎演習と同じ編成とする。自分の専門分野の知識をフィールドに応用したり、複数の学問分野を横断的に展開したりして、実践知に高めることで、テーマに応じてより広い分野と地域の人々を巻き込んでいきながら、社会に「ものづくり」「ことづくり」「しくみづくり」を働きかける企画案のプロセスをデザインする。ステークホルダー等に対して、中間プレゼンテーション会を開催し、その際に出た意見を反映することを通して、提案内容を改善する。 （①　松原　孝博）水産における養殖技術開発の観点から、調査及びプロジェクトの企画に係る指導 （②　若林　良和）水産における社会構造と生活文化の観点から、調査及びプロジェクトの企画に係る指導 （⑤　髙橋　学）加工部品の材料強度と安全性・信頼性の観点から、調査及びプロジェクトの企画に係る指導 （⑥　八木　秀次）設計・製図およびそれに基づくものづくりに必要な知識や技術を、現場で実際に有用化する観点から、プロジェクトの企画、課題解決および実施に関わる指導 （⑦　太田　耕平）水産養殖における有害生物の防除の観点から、調査及びプロジェクトの企画に係る指導 （⑧　後藤　理恵）水産養殖における新魚種開発の観点から、調査及びプロジェクトの企画に係る指導 （③　内村　浩美）製紙・紙加工技術、機能紙開発、地域産業連携の観点から、現状調査・課題設定・解決策立案に関する助言、企画書作成、報告書の作成指導 （④　薮谷　智規）基礎科学、機能性材料開発・付与・応用、学際的研究推進の観点から、現状調査・課題設定・解決策立案に関する助言、企画書作成、報告書の作成指導 （⑪　山本　智規）メカトロニクス・オートメーションの観点から、調査およびプロジェクトの企画に係る指導	共同
			プロジェクト応用演習	プロジェクト実践演習で企画した提案をステークホルダーと協働してものづくり、ことづくり、しくみづくりを実践する。チームは、プロジェクト実践演習と同じ編成とする。多様な分野と地域の人々を巻き込んでいきながら、社会に「ものづくり」「ことづくり」「しくみづくり」を働きかけ提言力・調整力・マネジメント力を身に付ける。また、同じフィールドの2年次学生(プロジェクト基礎演習受講学生)に適切なタイミングで助言、指導する役割を担うことでリーダーシップスキルを育成する。プロジェクトの成果は、プレゼンテーション会において発表されるとともに、他プロジェクトの計画・行動に対してアドバイスを行うことで、他者に対して協調的かつ主体的に関与する姿勢を身につける。 （①　松原　孝博）水産における養殖技術開発の観点から、調査、企画及び提言書の作成指導 （②　若林　良和）水産における社会構造と生活文化の観点から、調査、企画及び提言書の作成指導 （④　薮谷　智規）基礎科学、機能性材料開発・付与・応用、学際的研究推進の観点から、現状調査・課題設定・解決策立案に関する助言、企画書作成、報告書の作成指導 （⑤　髙橋　学）加工品の材料強度と安全性・信頼性の観点から、調査、企画及び提言書の作成指導 （⑥　八木　秀次）設計・製図およびそれに基づくものづくりの立場からのこれまでの経験を基に、新しい技術やプロセスの創造を提案することを目標とした提言書の作成・指導 （⑦　太田　耕平）水産養殖における有害生物の防除の観点から、調査、企画及び提言書の作成指導 （⑧　後藤　理恵）水産養殖における新魚種開発の観点から、調査、企画及び提言書の作成指導 （⑪　山本　智規）メカトロニクス・オートメーションの観点から、調査、企画および提言書の作成指導 （⑫　秀野　晃大）バイオマス変換利用としての製紙科学を軸とし、四国中央市における製紙産業の観点から、現状調査・課題設定・解決策立案に関する助言、企画書作成、報告書の作成指導	共同
			海外フィールド実習	アジア（台湾、ベトナム、インドネシア、ネパール）等の地域に関連する研究素材（社会、経済、文化、自然科学、工学、環境、災害など）に関して、自ら課題を発見・解決の方向性を探求する課題発見・解決型プログラムである。学生が訪問国の大学の学生と共同で課題解決に取り組むジョイント・リサーチを行うことによって、国際コミュニケーション能力・国際性・協調性・社会性・問題解決能力を身に着ける。実習期間は3週間とし、国内での事前調査・ガイダンス、現地での事前打ち合わせ・調査設計・調査実施、最終報告を行う。	共同・集中・兼任補充予定
		インターンシップ科目	インターンシップ入門	地域における企業、団体、NPO、地域コミュニティなどのなかに入り、ジョブシャドウイング型インターンシップを行うことで、構成する多様な社会人の就労の現場を体感し、自らの職業観・就労観を養う。インターンシップ前には、社会で求められるビジネスマナー、スキル等を演習することにより身に付ける。演習は学内外のゲストを招きより実践的に行う。第1段階として、地元企業などで形成されるコミュニティに参加し多様な企業を調査・インタビューすることで、自分の興味や専門にとらわれない幅広い分野・業種を認識し、業務内容や就労の実情を把握する。第2段階として、地元の中堅中小企業やNPOなどを実習先とし、実際に職場に入って業務を体験すると同時に、経営者層から従業員まで幅広い就労者にインタビュー・企業調査を行う。第3段階として、実習・インタビュー・調査の結果を分析し整理した結果をレポートにまとめ、受け入れ企業等に報告する。これらの過程により、多様な企業・NPOなどに対する理解が深まり、就労に対する意識が醸成され、自分の適性や自己実現の方向性を見つけることにつながる。 インターンシップは１チーム６人で１６時間の実習とし、６人の教員が、実習の状況、レポート内容等の指導にあたる。	共同・集中

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	インターンシップ科目	海外インターンシップ	多様な国際経験を通じてグローバルな視野を涵養することによって、今後各地域に到来するいわゆる「グローバル化の波」の中で地域の課題を解決する就業意識・判断力・創造力・行動力・危機管理力を身に着けた地域社会で役立つ人材を育成することを目的とした海外インターンシップ実習である。本プログラムは「事前ミーティング」（全3回）、「事前文献調査」、「現地インターンシップ（２～３週間）」、「事後指導ミーティング」および「学内公開セミナー」からなる。実習先につき２人の教員が指導にあたるほか、本授業の円滑な実施と教育効果を高めることを目的として提携企業の担当者と本学部の教員間で「事前担当者ミーティング」を実施する。	共同・集中
		実践力育成発展科目	インターンシップ実践	本科目は、専門的知識・技術の運用に関する業務を対象としてインターンシップを実施する。地域の企業や行政機関等における業務の中で、専門的な知識や技術を必要とする業務を体験することで、授業で修得した知識がどのように活用されているかを学ぶ。また、業務中に発生する課題に対して、受入先と協力して解決策を見出すことで、知識の運用能力の向上と協調性の重要性を学ぶ。就業期間は１週間程度とし、就業対象として、民間企業、行政機関、公設試験場、ＮＰＯ法人等を予定している。	共同・集中
			インターンシップ応用	本科目は、学生自身が卒業後に就労を検討している組織または就労が決定した組織において就労体験を行い、その組織や業界を専門的に深く学習する。さらに配属されるであろう部課内での就労意識、協働意識をさらに高め、地域・環境・社会の持続可能性の取り組みに対して貢献する心構えを涵養する。	共同・集中
			産業イノベーションセミナーⅠ	各コースにおいて、地域産業のイノベーションとなる地域の課題に関連する先端知識・技術等の情報収集力の学習、または基礎技術の総合的な理解と応用について学習する。 （セミナーはコース毎で実施する。） ○海洋生産科学コース：地域の水産業の構造は多様化・複雑化しており、それらの抱える課題は多岐にわたることから、水産生命科学、水産環境科学、水産社会科学のそれぞれの領域やそれらの融合による、多角的および多元的な視点から解決策を導き出すことが必要となる。本セミナーを通して、地域の水産業が抱える課題に関連する基本的かつ共通的な理論や技術、さらには最先端・最前線の知識を収集し、取り纏めるとともに、それを活用するための実験・実習を行う。 （オムニバス方式／全30回） （①　松原　孝博／8回）：水産生物、資源管理、新養殖種開発に関する解説 （②　若林　良和／8回）：水産社会、漁村と漁業、水産物の価値向上、水産物流通に関する解説 （⑦　太田　耕平／8回）：海洋環境、遺伝子解析技術、有害生物被害防除に関する解説 （⑧　後藤　理恵／6回）：養殖技術、種苗生産、新たな育種技術に関する解説 ○紙産業コース：「紙産業界の課題解決のため、文献等を利用して最先端の研究について学習する。製紙や紙加工のみならず、基礎科学、セルロース科学、高分子科学、機能性材料等の材料科学、複合材料などの境界領域科学も含めて、紙産業に関する全ての分野を対象とする。 （オムニバス方式／全30回） （③　内村　浩美／6回）：製紙、紙加工、基礎科学、材料科学、境界領域科学に関する解説 （④　薮谷　智規／6回）：基礎科学、材料科学、境界領域科学に関する解説 （⑨　福垣内　暁／6回）：製紙、紙加工、基礎科学、材料科学、境界領域科学に関する解説 （⑩　深堀　秀史／6回）：基礎科学、材料科学、境界領域科学に関する解説 （⑫　秀野　晃大／6回）：基礎科学、材料科学、境界領域科学に関する解説 ○ものづくりコース：ロボットキットを題材に、プログラミング実習、機構学および電子デバイスの基礎を総合的に学んだ上で、実際に応用することを念頭に置き、新たに機能を創造することを必須とする。新たな創造においては、工業材料の基礎知識を基に、機械部品として機能するためにものづくり設計における設計手法を有効に活用し、その表現手段としてCAD製図を用いる。さらに製作加工を行う。その有効性を確かめるため、例えば、四国地区ロボット大会 のエキシビジョンゲームに出場したり、応用を想定した現場での実際の稼動の可能性を探る。これらのことを通し交流を図りながらものづくりと学問の関係性について説明する場を提供する。 （共同） （⑤　高橋　学）：材料、強度シミュレーションに関する解説 （⑥　八木　秀次）：CAD、加工、製作に関する解説 （⑪　山本　智規）：プログラミング、電子デバイスに関する解説	オムニバス方式・共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	実践力育成発展科目	産業イノベーションセミナーⅡ	産業イノベーションセミナーⅠに引き続き、情報収集能力および技能の高度化や説明能力、ディスカッション力を体得する。 （セミナーはコース毎で実施する。） ○海洋生産科学コース：産業イノベーションセミナーⅠで経験した、地域の水産業が抱える課題に関連する基本的かつ共通的な理論や技術、さらには最先端・最前線の知識を実現場において活用し、問題解決に向けた取り組みを行うことを目的とする。セミナーⅠで修得した理論や技術、知識の活用、その結果をもとに他者との意見交換や討議などを通じて課題解決に導くため情報の取り纏め、知識や理論の深化、技術の発展に繋げる。 （オムニバス方式／全30回） （①　松原　孝博／8回）：水産生物、資源管理、新養殖種開発に関する解説 （②　若林　良和／8回）：水産社会、漁村と漁業、水産物の価値向上、水産物流通に関する解説 （⑦　太田　耕平／8回）：海洋環境、遺伝子解析技術、有害生物防除技術に関する解説 （⑧　後藤　理恵／6回）：養殖技術、種苗生産、新たな育種技術に関する解説 ○紙産業コース：紙産業界の課題解決のため、文献等を利用して最先端の情報収集に努めるとともに、情報の整理と取捨選択、得られた情報の活用法も検討する。製紙や紙加工のみならず、物理・化学・分析等の基礎科学、セルロース科学、高分子科学、機能性材料等の材料科学、複合材料などの境界領域科学も含めて、紙産業に関する全ての論文を対象とする。 （オムニバス方式／全30回） （③　内村　浩美／6回）：製紙、紙加工、材料科学、境界領域科学における知見・技術・応用事例の解説 （④　薮谷　智規／6回）：材料科学、境界領域科学における知見・技術・応用事例の解説 （⑨　福垣内　暁／6回）：製紙、紙加工、材料科学、境界領域科学における知見・技術・応用事例の解説 （⑩　深堀　秀史／6回）：材料科学、境界領域科学における知見・技術・応用事例の解説 （⑫　秀野　晃大／6回）：材料科学、境界領域科学における知見・技術・応用事例の解説 ○ものづくりコース：産業イノベーションセミナーⅠで経験した、ものづくりに関わるプロセス、またそこで生じる問題点を解決する手法を、実現場で応用することを目的とする。実現場での応用を優先した課題においては、問題点や改善点を調べることで課題を抽出し、それまでに修得したものづくりに関わる科目である材料・設計・製図関係の講義科目を中心とし、さらにインターンシップなどの実習経験をもとに、課題を解決していく。特に、フィールドワークとして問題点を収集かつ具体的に抽出し、その優先順位などを考察する経験をすることで、社会と技術者の関わりを理解できるようになる。また、大学ロボコンに出場することで、ものづくりの重要性を説明するとともに、四国地区ロボット大会の運営に関わり、実行委員会や参画企業と競技関係者のサーバントリーダーとしての信頼の獲得を試みる。 （共同） （⑤　高橋　学）：材料、強度シミュレーションに関する解説 （⑥　八木　秀次）：CAD、加工、製作に関する解説 （⑪　山本　智規）：プログラミング、電子デバイスに関する解説	オムニバス方式・共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	課題解決思考力育成科目群	質的データの収集と分析	地域における社会事象を定性的に分析するための質的データの収集法と分析法を解説する。質的調査に関する基本的な手法を解説しながら、それぞれの調査技法のメリット・デメリットを具体的な実践例をもとに紹介し、的確な調査が実施できるようにする。特に、質的調査の特性を踏まえた上で、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析、参与観察データ分析を取り上げて、その実施方法や整理・分析・活用法について検討し、調査能力や分析能力を身につける。 （オムニバス方式／15回） （②　若林　良和／2回） 第1回　ガイダンス ・授業の目的と概要、進め方 第2回　社会共創学と質的調査 ・社会共創に向けた具体的手段としての質的調査の特性 ・質的調査と定性分析 ・質的調査のメリット・デメリット ・社会調査士資格の動向と意義 （㉒　淡野　寧彦／5回） 第3～7回　ドキュメント分析 ・ドキュメント分析の調査手順 ・ドキュメント分析の実例 （地域社会・地域文化の事例） （129　渡邉　敬逸／5回） 第8～12回　ライフヒストリー分析 ・ライフヒストリー分析の調査手順 ・ライフヒストリー分析の実例 （地域環境の事例） （125　羽鳥　剛史／3回） 第13～14回　参与観察データ分析 ・参与観察法の調査手順 ・参与観察データ分析の実例 （地域デザインの事例） 第15回　総括：データ整理と分析 ・これからの社会調査としての質的調査	オムニバス方式
		地域経済学	各地域はグローバル化する市場経済の影響を受け、大きな変化を余儀なくされている。このような地域経済の変化を理解するためには、地域経済に関する仕組みを理解し、定量的分析により実体を客観的に把握する必要がある。そこで、本講義では地域経済における諸課題を解決するための理論および政策の枠組みを体系的に学ぶと同時に、地域経済に関する政府統計の読み方と地域経済の現況を分析する能力を身に着けることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	課題解決思考力育成科目群	産業イノベーション論	地域発のイノベーションを牽引するための基礎的な知見を把握する。地域産業の問題解決に導くために、地域の中小企業をはじめ産学官民連携による共同研究、先端技術開発が不可欠であり、それらは地域発のイノベーションを誘発し、地域産業の育成に貢献することを理解する。多様な連携による取り組み事例を紹介しながら、地域産業のイノベーションと発展を支える３つの要素（技術・人材・地域）から総合的な検討を展開する。 （オムニバス形式：全15回） （②　若林　良和／7回） 第１回　プロローグ 授業概要：授業の趣旨と進め方、成績評価に関するガイダンスを実施する。 【第１セッション：これからの水産業の発展と地域イノベーション】 第２回　水産業の技術 授業概要：水産生物の資源管理、最新の水産増養殖技術などを紹介しながら、環境に優しい持続可能な水産業を念頭に置いて、これからの水産技術について考える。 第３回　水産業の人材と地域 授業概要：地域水産業の活性化やグローバル化に対して求められる技術者・経営管理者と技術開発・人材育成・地域連携を推し進める手段について考える。 第４回　水産業技術の普及 授業概要：社会と連携して研究・開発したイノベーション技術の事例をもとに普及手段について考える。 第５回　水産業イノベーションのグループワーク 授業概要：水産業の講義から、グループ毎に課題を設定し、水産業にイノベーションを起こす方策を話し合い発表する。 第14，１５回　エピローグ 授業概要：まとめ（産業イノベーションの方向性：学生レポート発表と教員講評） (⑤　高橋　学／7回) 第１回　プロローグ 授業概要：授業の趣旨と進め方、成績評価に関するガイダンスを実施する。 【第２セッション：これからのものづくり産業の発展と産業イノベーション】 第６回　ものづくり産業の技術 授業概要：加工技術、ロボット制御技術、エネルギー関連技術などを紹介しながら、ものづくりと人間・社会・環境の関係に注目して、これからのものづくり技術について考える。 第７回　ものづくり産業の人材と地域 授業概要：地域に存在するものとして、グローバル社会に対応できる技術者、経営管理者の素養と技術開発・人材育成・グローバル経営を推し進める手段について考える。 第８回　ものづくり産業技術の普及 授業概要：社会と連携して研究・開発したイノベーション技術の事例をもとに普及手段について考える。 第９回　ものづくり産業イノベーションのグループワーク 授業概要：ものづくり産業の講義から、グループ毎に課題を設定し、ものづくり産業にイノベーションを起こす方策を話し合い発表する。 第14，１５回　エピローグ 授業概要：まとめ（産業イノベーションの方向性：学生レポート発表と教員講評） (⑩　深堀　秀史／7回) 第１回　プロローグ 授業概要：授業の趣旨と進め方、成績評価に関するガイダンスを実施する。 【第３セッション：これからの紙産業の発展と産業イノベーション】 第10回　紙産業の技術 授業概要：機能性シート開発を紹介しながら、これからの紙産業について考える。 第11回紙産業の地域と人材 授業概要：地域の基幹産業が活性化するために、企業や公設試験場との連携と技術の実用化、産学官や異業種の連携を実行するために、どのような人材が求められているかを考える。 第12回　　紙産業技術の普及 授業概要：社会と連携して研究・開発したイノベーション技術の事例をもとに普及手段について考える。 第13回　紙産業イノベーションのグループワーク 授業概要：紙産業の講義から、グループ毎に課題を設定し、紙産業にイノベーションを起こす方策を話し合い発表する。 第14，１５回　エピローグ 授業概要：まとめ（産業イノベーションの方向性：学生レポート発表と教員講評）	オムニバス方式・共同（一部）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	課題解決思考力育成科目群	持続可能性科学	人と自然のかかわりが創りだす地球システムが重大な転換期を迎えていることをさまざまな学際的研究に基づいて説明し、持続可能な社会の構築のために必要とされる総合的な知識について解説します。地球システムの複雑性に対応するための学際的なアプローチ、さらにはこれまでに社会共創学概論などを通じて学んできた社会の多様なステークホルダーとの協働によるトランスディシプリナリーアプローチの重要性と特徴を、具体的な持続可能性科学の研究成果に基づいて説明し、理解を深めます。持続可能性の実現に向けた社会の転換を促すさまざまな社会技術について、具体的な事例に基づいて検討します。 　テーマを定めて行う熟議ワークショップを通じて、私たちが直面している持続可能性にかかわる課題、自分の専門分野を超えた学際的視点の意義、トランスディシプリナリーアプローチによる社会との協働が意味するもの、持続可能な社会への転換を実現するための具体的な社会技術について自ら調べ、議論し、考えを深めます。それを通じて、持続可能な社会の実現に関するさまざまな課題とその対策を総合的に理解し、持続可能な地域社会の構築に役立つ実践的な技術の基礎を身に付けます。	
		社会心理学	社会的ジレンマとは、個人の私的利益と社会全体の公共的利益とが対立する状況を指す（例えば、自転車の放置駐輪は、自分一人にとっては都合が良い行動であるが、社会全体にとっては望ましくない）。本講義では、様々な社会問題の根本に社会的ジレンマの問題が存在していることを理解するとともに、いかにすれば社会的ジレンマの問題を解消することが出来るかについて、社会心理学の諸知見を学びながら、各自の考えを深めていくことを目的とする。さらに、まちづくり問題や合意形成問題等の社会問題を取り上げて、社会心理学的な観点から、その問題の特徴や解決すべき課題について理解を深めることを目指す。	
		統計学	社会調査に必要な基礎的な統計的な知識とスキル、社会事象の分析の考え方を学ぶ。主な内容として、度数分布とグラフ、基本統計量（平均，標準偏差，分散，　歪度）、確率論の基礎（標本空間、事象、確率変数、確率分布、二項分布、正規分布、標準正規分布）、推定（点推定、区間推定、信頼区間）、検定　（帰無仮説と対立仮説、棄却域と両側・片側検定、t検定、平均や比率の差の検定、独立性の検定）、抽出法概説（単純無作為・層化・系統・多段）、　相関（属性相関係数、偏相関係数、変数のコントロール）、回帰分析の基礎を扱う。	
		地域社会論	学生や教員にとって、なるべく身近な内容を複数取り上げる。ただしこれらは、社会の動きの中で多くの共通点を持っている。授業ではまず、誰もが普段から経験している買物や食べるという行為に注目する。われわれが当たり前と考え、さほど意識しないこれらの行為が、社会のどのような動きと関係していたり、社会の変化の中でどのように変わったのか、そして地域社会のあり方とどのように関係しているのかといった視点へと結び付けていく。そのうえで、地域社会における産業の立地やその動向、あるいは人間の意識からみた地域社会の諸特徴などについて、具体例を挙げながら解説する。このなかでは、授業中に学生らが回答した内容も含めることにより、学生自身と地域社会との関係性をつねに意識してもらえるようにする。これらを通じて、地域社会における様々な課題の発見とその解決策の検討について、学生自身が主体的に意識しながら実施しうる能力の育成を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	学科科目	地域産業概論	愛媛県における地域産業の全体像と特性を概説した上で、県内３地域で環境・社会・経済・歴史・風土に根ざして立地する代表的な産業（南予地域の水産業、中予地域のものづくり産業、東予地域の紙産業）を取り上げて、それらの現状を把握し、抱える問題を抽出する。特に、愛媛県という地域における基幹産業としての発展プロセスを踏まえて、その伝統性や革新性に着目しながら、地域産業の実相について多面的な視点で検討を加える。 （オムニバス方式：全15回） （①　松原　孝博／1回） 南予地域の水産業に関する現状と課題（水産生物） （②　若林　良和／2回） プロローグ：ガイダンス（授業の趣旨と進め方）、愛媛県の産業特性 南予地域の水産業に関する現状と課題（水産物流通・消費） （⑦　太田　耕平／2回） 南予地域の水産業に関する現状と課題（海洋環境） エピローグ：まとめ（地域産業の将来：学生レポート発表と教員講評） （⑧　後藤　理恵／1回） 南予地域の水産業に関する現状と課題（海洋生産技術） （③　内村　浩美／2回） 東予地域の紙産業に関する現状と課題（四国中央市の紙産業の特色） 東予地域の紙産業に関する現状と課題（研究開発と求められる人材） （⑨　福垣内　暁／1回） 東予地域の紙産業に関する現状と課題（自治体との連携） （⑩　深堀　秀史／3回） 東予地域の紙産業に関する現状と課題（世界と日本の紙産業） 東予地域の紙産業に関する現状と課題（四国中央市の紙産業の歴史） エピローグ：まとめ（地域産業の将来：学生レポート発表と教員講評） （⑤　高橋　学／2回） プロローグ：ガイダンス（授業の趣旨と進め方）、愛媛県の産業特性 中予地域のものづくり産業に関する現状と課題（エネルギー関連技術） （⑥　八木　秀次／2回） 中予地域のものづくり産業に関する現状と課題（加工技術） 中予地域のものづくり産業に関する現状と課題（造船技術） （⑪　山本　智規／2回） 中予地域のものづくり産業に関する現状と課題（電気・機械・自動化技術） エピローグ：まとめ（地域産業の将来：学生レポート発表と教員講評）	オムニバス方式・共同（一部）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	学科科目	産業技術調査	愛媛県内の主要産業の技術を学ぶため、水産業、紙産業、ものづくり産業が盛んな南予・東予・中予地域を訪問する。大学の研究拠点、企業、行政施設等で最新の研究や技術開発、産官学連携の施策を調査し、身に付けるべき知識や素養について認識するとともに、分野の異なる産業地域を比較することで、各産業の技術の特色を把握する。同時に、産業の起こりや歴史、地域と産業の結び付き方を学ぶ。 （オムニバス方式／全30回） （①　松原　孝博・⑦　太田　耕平・⑧　後藤　理恵／12回）（共同） 第2-3回　八幡浜市の水産関連施設見学（八幡浜市の市場や水産関連施設を見学し、自治体や企業の取り組みについて学ぶ） 第4-6回　宇和島市の水産関連施設見学（宇和島市の企業や水産関連施設を見学し、自治体や企業の取り組みについ学ぶ） 第7-9回　愛南町の水産関連施設見学（愛南町の企業や水産関連施設を見学し、自治体や企業の取り組みについて学ぶ） 第10-12回　愛媛県農林水産研究所水産研究センター施設見学（愛媛県水産研究センターを見学し、愛媛県の水産業に関する取り組みについて学ぶ） 第13回　愛南町海洋資源開発センター施設見学（愛南町海洋資源開発センターを見学し、自治体の水産業に関する取り組みについて学ぶ） （②　若林　良和／3回） 第2-3回　八幡浜市の水産関連施設見学（八幡浜市の市場や水産関連施設を見学し、自治体や企業の取り組みについて学ぶ） 第13回　愛南町海洋資源開発センター施設見学（愛南町海洋資源開発センターを見学し、自治体の水産業に関する取り組みについて学ぶ） （③　内村　浩美・④　薮谷　智規／2回）（共同） 第22-23回　愛媛大学紙産業イノベーションセンターの概要説明（紙産業イノベーションセンターの概要やバイオマス利用、機能紙について説明する。） （⑨　福垣内　暁／1回） 第1回　ガイダンス：現場見学の目的とスケジュールの説明、注意事項の周知 （⑩　深堀　秀史／9回） 第20-21回　四国中央市内の見学（四国中央市内を見学し、まちや臨海部の製紙工場群の様子を把握する。） 第24回　愛媛県産業技術研究所紙産業技術センターの見学（公的機関による地域産業支援について学習する。） 第25-27回　抄紙体験（一般的なパルプを用いて抄紙を行い、紙の作製手順や使用機器について学習する。） 第28-30回　紙質分析体験（紙の評価基準や特性評価方法および試験機器について学習する。） （⑫　秀野　晃大／7回） 第24回　愛媛県産業技術研究所紙産業技術センターの見学（公的機関による地域産業支援について学習する。） 第25-27回　抄紙体験（一般的なパルプを用いて抄紙を行い、紙の作製手順や使用機器について学習する。） 第28-30回　紙質分析体験（紙の評価基準や特性評価方法および試験機器について学習する。） （⑤　高橋　学／6回） 第1回　ガイダンス：現場見学の目的とスケジュールの説明、注意事項の周知 第15-16回　中予地区の製造業見学（地域の製造業２社を見学し、生産加工工程について説明する） 第17-18回　愛媛県産業技術研究所見学（研究所を見学し，歴史と役割について説明する） 第19回 学内の研究および研究施設の見学（研究センターおよび研究室を見学し，最先端研究について説明する） （⑥　八木　秀次／6回） 第14回　工具や加工機械について（工具や加工機械を紹介し，加工機械技術の変遷と製造業の役割について説明する） 第15-16回　中予地区の製造業見学（地域の製造業２社を見学し、生産加工工程について説明する） 第17-18回　愛媛県産業技術研究所見学（研究所を見学し，歴史と役割について説明する） 第19回 学内の研究および研究施設の見学（研究センターおよび研究室を見学し，最先端研究について説明する） （⑪　山本　智規／5回） 第15-16回　中予地区の製造業見学（地域の製造業２社を見学し、生産加工工程について説明する） 第17-18回　愛媛県産業技術研究所見学（研究所を見学し，歴史と役割について説明する） 第19回 学内の研究および研究施設の見学（研究センターおよび研究室を見学し，最先端研究について説明する）	オムニバス方式・共同（一部）・集中

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	学科科目	海洋生産科学概論	愛媛県を始めとする国内外の水産業の現状や諸課題についての総合的な理解を深める。水産生命科学、水産環境科学、水産社会科学の視点から、多角的かつ包括的に地域の水産業の実態をとらえ、生産から消費・普及までの各段階や各地域現場における諸課題と、それを解決に導くための取り組みや活動、さらには先端的研究の実例などを解説する。こうした幅広い事例に関する知識や理論を元に、今後の水産業の方向性や地域の重要性についての考察を行う。 （オムニバス方式／全15回） （①　松原　孝博／3回） 水産環境科学に関する現状と取り組み事例 （②　若林　良和／3回） 水産社会科学に関する現状と取り組み事例 （⑦　太田　耕平／3回） 水産生命科学に関する現状と取り組み事例 （⑧　後藤　理恵／2回） 水産先端技術に関する現状と取り組み事例 （177 竹ノ内　徳人／2回） 水産経済学に関する現状と取り組み事例 （172　高木　基裕／2回） 水産保全学に関する現状と取り組み事例	オムニバス方式
			紙産業概論	紙の起こりからその歴史、和紙・洋紙の製造技術と特徴、紙に用いられる代表的な繊維と製造方法、紙の基本的な構造と特性、評価方法、国内外の製紙・紙加工産業の現状を解説する。また、近代的な製紙産業は機械産業であるため、代表的な製紙マシンの概要と製造される紙製品の特徴、品質管理、廃棄物・排水処理の方法についても学習する。 （オムニバス方式／全15回） （③　内村　浩美／5回） 紙製品の拡がり、紙の機能、紙の歴史、和紙製造技術、未来の紙について （⑨　福垣内　暁／4回） 填料と製紙薬剤、紙質特性項目と測定方法、排水・廃棄物 （⑩　深堀　秀史／6回） 抄紙・紙加工技術、パルプの種類と調成方法、パルプの構成成分、古紙処理、機能紙	オムニバス方式
			ものづくり概論	世界・国内・地域の歴史的背景や科学技術の発展とものづくり産業との関連性を理解させ、地域のものづくり産業の近代史を紹介する。また、各地域のものづくり大企業および中小企業の役割を理解し、ものづくりを支える中小企業の現状と課題について説明し、国の施策、産学連携、新技術への挑戦などの実例を紹介する。最後に商品企画から研究開発、設計・資材調達・加工や組立の製造・生産管理・物流までのものづくりの一連の流れを解説し、ものづくりの大切さや面白さを理解させる。 （オムニバス方式／全16回） （⑪　山本　智規／5回） 産業と科学技術の発展（世界・国内・地域の歴史的背景） 地域のものづくり産業の近代史 （⑤　髙橋　学／5回） 各地域のものづくり大企業および中小企業の役割 中小企業の現状と課題 国の施策、産学連携、新技術の実例 （⑥　八木　秀次／6回） ものづくりの失敗と発展 創造とイノベーションの開発 総合試験	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	学科科目		産業経済論	持続可能な産業の発展のためには、その発祥・成長・発展のプロセスを念頭に置きながら、産業のイノベーションが経済社会に与える影響について考察する必要がある。本講義では、愛媛県の特色ある水産業・紙産業・ものづくり産業の具体的な事例をもとに、現実的なレベルから解説する。特に、地域のステークホルダーの講述（企業や行政、ＮＰＯ関係者などによる話題・情報の提供）をもとに、実務的な見地から諸事例を把握して論議した上で、これからの基幹産業と地域経済のあり方を検討する。 （オムニバス方式、全15回） （②　若林良和／２回） 第１回　ガイダンス（本講義の主旨、進め方） 第５回　総括（総合討論、講評） （①　松原孝博／５回） 第１回　ガイダンス（本講義の主旨、進め方） 第２回　水産業のケーススタディ１（行政担当者からの地域活性化策に関する話題提供） 第３回　水産業のケーススタディ２（養殖漁業者からの技術開発に関する話題提供） 第４回　水産業のケーススタディ３（水産加工業者からの商品開発に関する話題提供） 第５回　総括（総合討論、講評） （③　内村浩美／５回） 第６回　ガイダンス（本講義の主旨、進め方） 第７回　紙産業のケーススタディ１（行政担当者からの地域活性化策に関する話題提供） 第８回　紙産業のケーススタディ２（製紙業経営者からの企業経営に関する話題提供） 第９回　紙産業のケーススタディ３（製紙業技術者からの技術・技能開発に関する話題提供） 第１０回　総括（総合討論、講評） （⑥　八木秀次／５回） 第１１回ガイダンス（本講義の主旨、進め方） 第１２回ものづくり産業のケーススタディ１（行政担当者からの地域活性化策に関する話題提供） 第１３回ものづくり産業のケーススタディ２（製造業経営者からの企業経営に関する話題提供） 第１４回ものづくり産業のケーススタディ３（製造業技術者からの技術開発に関する話題提供） 第１５回総括（総合討論、講評）	オムニバス方式・共同（一部）・集中
				産業文化論	産業と生活文化の関わりについて、文化論（文化人類学や民俗学）的なアプローチをもとに分析し、これからの地域における産業や生活文化のあり方について解説する。愛媛県や四国地方の代表的な産業の一つである漁業を事例として取り上げ、時系列を念頭に置きながら、水産物のフードシステムを多面的に把握し、新たな価値創造の内容と方法を検討する。	
		履修コース科目	海洋生産科学系	水産社会学	水産業・漁村地域の現状と課題を社会学的に分析し、これからの地域水産業のあり方を展望する。日本における魚介類の生産（漁撈）～加工～流通～販売～消費の現状と課題について把握する。特に、水産業・漁村地域が持つ多面的機能を念頭に置きながら、新たな価値創造を目指して、水産業の振興、漁村地域の活性化に関する方途を社会学的な視点で論理的に考察できるようになることが目的である。	
				水産生物環境学	水産生物を取り巻く環境変化や生態系の悪化について概要を説明し、様々な問題に関する基礎知識を提供する。次に、環境変動や漁獲によるマグロ類をはじめとする重要水産資源の低迷に焦点を当て、各々について現象となぜそうしたことが起こったのか、メカニズムを説明し、国内あるいは国際的に行われてきた調査・研究について詳しく説明する。	
				水族生理学	海洋や河川に生息する水圏生物の生理特性について学ぶ。魚類をはじめとした様々な生物にみられる生態や形態の多様性や、それらの基盤となる細胞特性や形態形成、さらには生殖・発生・成長・恒常性維持・生体防御などに関する基礎知識を提供する。これらの生理メカニズムに関して、水圏生物に特徴的な機構や生命間で共通する機構を体系的に整理し、海洋生産の視点から様々な種の増養殖や資源管理、生物環境保全を行うための知識基盤を構築する。 （オムニバス方式／全15回） （⑦　太田　耕平／8回） 　海洋生命現象の基本原理（形態形成や細胞特性など）、成長、恒常性維持、生体防御等に関する解説を行う （⑧　後藤　理恵／7回） 　生殖、発生、遺伝、育種等に関する解説を行う	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	海洋生産科学系	水産経済論	水産経済論では、地域漁業・漁村各地の生産・流通・販売に関するブランド化、産地直売所、販路開拓などの取り組みを把握し、一方でケーススタディについてマーケティング論を軸に分析・評価することで、論理的な考察が出来るようになることを目的とする。また到達目標は、①日本の地域漁業の現状を理解できるようになること、②マーケティング論を使って地域漁業の活性化の取り組みを理論的に理解できるようになること、③地域漁業活性化の取り組みの効果と限界を推測できるになることとする。 なお、具体的には次のとおりとする。 1.日本の水産業について、ビデオ等の資料を用いながら現状を理解する。 2.水産経済学の領域から水産物流通の特殊な事情などを理解する。 3.マーケティング論に関する基本的な項目を理解する。 4.漁業地域で取り組んでいるブランド化、産地直売所、販路開拓などに関する事例とともに、それらをマーケティング論から分析・評価する。 （オムニバス方式／全15回） （②　若林　良和／5回） ガイダンス：スケジュール、内容など 日本水産業の現状と課題：日本の水産業 漁村の現状と活性化への取り組み（1） 漁村の現状と活性化への取り組み（2） 地域漁業の取り組みのまとめ （177　竹ノ内　徳人／10回） マーケティング原論と水産物・水産業への応用 水産物のブランド化（1）：概論 水産物のブランド化（2）：理論 水産物のブランド化（3）：ケーススタディ 水産物の産地直販市（1）：概論 水産物の産地直販市（2）：理論 水産物の産地直販市（3）：ケーススタディ 漁村地域の活性化：販売戦略（1）：概論 漁村地域の活性化：販売戦略（2）：理論 漁村地域の活性化：販売戦略（3）：ケーススタディ	オムニバス方式
				養殖学	水産業や水産資源を取り巻く国内外の状況の概要を説明し、重要水産資源の低迷など様々な問題に関する基礎知識を提供する。次に、養殖業に焦点を当て、歴史や技術的進歩、様々な問題点を説明し、将来に向けた改善策などを議論する。また、国内あるいは国際的に行われている研究について詳しく説明する。	
				養殖環境保全学	海洋環境の保全とそれに基づいた持続的な海洋生産活動を推進するための知識を学ぶ。海洋生物や海洋環境の特性に関する基礎的な知識と、水産養殖などの食料生産に有効利用していくための理論や方法を学ぶ。さらに、海洋生産の過程で生じる赤潮・魚病を始めとする様々な問題についての現状やそれに対する取り組みを理解する。 （オムニバス方式／全15回） （⑦　太田　耕平／8回） 海洋環境、海洋における生物生産の特性、赤潮・魚病等の各種有害生物とその防除技術等に関する解説を行う （⑧　後藤　理恵／7回） 各種養殖技術、先端技術に関する解説を行う	オムニバス方式
				水産生物学	無脊椎動物や脊椎動物を中心に水産生物の成り立ちから、その活動のための形態的及び生態的特徴を知ると共に、それらの多様性とそれを適切に理解するための分類、さらには生息環境、分布、回遊、生殖、成長、再生産、資源等の水産生物に関する基本的かつ包括的な知識を得る。これらの視点から海洋生産を立体的に捉えると共に、海洋生産を行う上で必要となる生物環境に立脚した各種生物の立ち位置や役割を理解し、これらの生物環境と人間との関わりについて考察する。 （オムニバス方式／全16回） （①　松原　孝博／7回） ガイダンス、脊椎動物の特徴、水産生物の体型、水産生物の生態、水産資源の推定と管理、試験、振り返り （⑦　太田　耕平／5回） 魚類の特徴、水産生物の生息特性、水産生物の生息環境、水産生物の分布、水産生物の回遊 （⑧　後藤　理恵／4回） 水産生物の生殖、水産生物の成長、水産生物の発生、水産生物の産卵	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	海洋生産科学系	次世代水産イノベーション論	これからの社会では、持続的且つ有効な水産資源の活用が求められる。そこでは新たな水産資源の管理と生産物の有効活用、未開発資源の利用、新たな技術による養殖など既存の体系にはあてはまらない様々な分野を融合した取り組みが必要となる。ここでは、そうした新技術や現在の水産業が抱える問題を理解し、将来に向けたイノベーション萌芽探索の方法論を体得する。授業の一環として外部講師やゲストスピーカーを招き、現在の水産業が抱える問題点を地域ステークホルダーと共に論議・整理し、アイデアをどのように具現化するかを検討する。 （オムニバス方式／全15回） （①　松原　孝博／9回） ガイダンス 新たな水産資源の管理技術－概論と事例説明 新たな水産養殖技術－閉鎖循環陸上養殖、複合養殖 生産物の有効活用技術－概論と事例説明 グループ討論・プレゼンテーション 地域ステークホルダー（漁業者講師）との論議－漁業 地域ステークホルダー（町役場講師）との論議－地域行政 地域ステークホルダー（水産加工業者講師）との論議－加工業 総合討論・レポート （⑦　太田　耕平／5回） 未開発資源の利用－概論 未開発資源の利用－薬品、医療 グループ討論・プレゼンテーション 地域ステークホルダー（養殖業者講師）との論議－養殖業 総合討論・レポート （⑧　後藤　理恵／5回） 革新的技術による養殖－これまでの育種 革新的技術による養殖－遺伝子組み換え、ゲノム編集 グループ討論・プレゼンテーション 地域ステークホルダー（漁業協同組合講師）との論議－流通・販売業 総合討論・レポート	オムニバス方式・共同（一部）・集中
				海洋生産科学Ⅰ	愛媛県を始めとして、国内や世界の水産業の現状や諸課題の背景として存在する技術的・生物環境的・社会環境的要因について水産生命科学、水産環境科学、水産社会科学による専門的な知識をもとに理解する。水産業の構造的特徴を知ると共に、地域や国内外の水産業が内包する生産から流通・消費までの多岐にわたる問題に対して、現在の取り組み状況を把握し、それぞれの専門分野の位置づけを理解することにより、問題解決の糸口や方向性を検討する。 （オムニバス方式／全15回） （①　松原　孝博／3回） 水産環境科学に関する概説 （②　若林　良和／3回） 水産社会科学に関する概説 （⑦　太田　耕平／3回） 水産生命科学に関する概説 （⑧　後藤　理恵／2回） 水産先端技術に関する概説 （177　竹ノ内　徳人／2回） 水産経済学に関する概説 （172　高木　基裕／2回） 水産保全学に関する概説	オムニバス方式
				海洋生産科学Ⅱ	国内外の水産業の現状や諸課題に対する取り組みについて最先端の知識を深める。水産生命科学、水産環境科学、水産社会科学に関する先進的かつ発展的な知識や実習をもとに、地域の水産業の抱える課題を顕在化し、それに関わる技術的・生物環境的・社会環境的な要因を考察すると共に、今後その解決に必要とされる先進的な知識や技術を修得する。水産環境、水産社会、水産生命、水産技術、水産経済、水産生物保全のそれぞれ立場から最先端の知識や今後必要となる技術を理解し、問題解決の方法を具体的に検討する。 （オムニバス方式／全15回） （①　松原　孝博／3回） 水産環境に関する新たな取り組み （②　若林　良和／3回） 水産社会に関する新たな取り組み （⑦　太田　耕平／3回） 水産生命に関する新たな取り組み （⑧　後藤　理恵／2回） 水産先端技術に関する新たな取り組み （177　竹ノ内　徳人／2回） 水産経済に関する新たな取り組み （172　高木　基裕／2回） 水産生物保全に関する新たな取り組み	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	海洋生産科学系	海洋生産科学セミナーⅠ	地域の水産業の抱える課題は多岐にわたる。本セミナーでは地域や水産現場で生起する様々な課題について、演習による体験型学習を通して、水産生命科学、水産環境科学、水産社会科学のそれぞれの立場から、解決の方向性を多角的に検討し、それに関わる基本的な生産技術、環境技術、水産流通学や水産社会学的方法などによる理論や技術を修得する。本セミナーⅠは基礎的な部分を中心に行い、次に行うセミナーⅡに引き継がれる。	共同
				海洋生産科学セミナーⅡ	海洋生産科学セミナーⅠに引き続き、その発展的・応用的な演習として本セミナーII を行う。水産生命科学、水産環境科学、水産社会科学のそれぞれの立場から、生産技術、環境技術、水産流通学や水産社会学的方法などの海洋生産に関連する最先端・最前線の理論や技術を修得する。さらに、これらを活用し、その結果に対する評価・考察を通じて修得した理論や技術を深化させ、地域の水産業の抱える諸課題の解決に向けた取り組みに繋げていく。	共同
			紙産業系	製紙技術論	紙は主にパルプ繊維を主体とし、無機填料と製紙薬剤で構成される比較的シンプルな材料であるが、これら原材料の種類、処理方法、配合割合、紙の調製方法の違いによって、全く異なる性質を有する。紙の設計または改良のためには、製紙原料の特性に加えて、原料の処理方法や抄紙および紙加工工程について学習する必要がある。本講義においては、パルプ化・叩解等の繊維処理法、各種抄紙工程の特徴と得られる紙質との相関、塗工等の後工程における材料の付与方法と付与される機能について、実際の製紙工場の流れを意識しながら解説する。	
				製紙材料論Ⅰ	紙の主原料である木材パルプに関して、木材と構造、パルプの製造方法、パルプの特性を紹介する。また、木材の構成成分の1つであるセルロース、ヘミセルロース、リグニンの構造と特性、木材細胞中での分布、ミクロフィブリルの状態についても解説し、繊維の前処理によって繊維の状態がどのように変化するか、さらに、紙質に対してどのように影響するかを学習する。	
				分析化学Ⅰ	製紙を含めたものつくりの基本である化学の基礎、特に分析化学の分野について知識を深める。さまざまな物質・試料を構成する化学種の同定（定性）、その濃度を定量することが化学分析である。そのための体系的な学問が分析化学である。紙産業においても原材料、加工品の物性評価、品質管理などとの密接な関係を有している。分析操作の基本である濃度計算、単位、分析値の取り扱い、試料採取、調製について習得し、定性、定量に関わる化学平衡の基礎について理解を深める。	
				製紙材料論Ⅱ	紙は有機物であるパルプ繊維を主な構成成分とする材料であるが、白色度や不透明度、インク受理性の向上やコスト削減のため、炭酸カルシウムやクレイ等の無機填料が付与されており、填料は製紙産業において欠かすことのできない材料である。本科目では、填料の種類と基礎的な性質、紙への付与方法とその特徴、填料や填料含有紙の分析・評価方法について解説する。また、製紙業界の課題である製紙スラッジの処理問題も填料使用に深く関係するため、製紙スラッジ処理の概要と課題、解決のための研究事例についても併せて紹介する。	
				科学英語Ⅰ	最先端の情報の収集や成果の外部公表のためには、英文書籍・論文の講読や英語による論文発表および論文作成の必要がある。科学英語Ⅰでは、主に製紙や材料科学に関する英書や英語論文を教材とし、専門用語や英語構文の解説、英文和訳を通じて英文に慣れることを目的とする。また、英語のみを使用した講義を実施し、リスニング、スピーキング能力の向上を図る。	
				紙産業セミナーⅠ	紙産業界の課題解決のため、製紙研究に関する文献調査および輪読等を行うことで、現行の技術および研究開発動向について情報を収集する。基本的に演習形式を取るが、必要に応じて講演会や学会への参加、講師の招聘等により、紙産業に関する情報を収集する。 （オムニバス方式／全15回） （③　内村　浩美／4回） 製紙、紙加工、基礎科学、材料科学、境界領域科学に関する解説 （④　薮谷　智規／4回） 基礎科学、材料科学、境界領域科学に関する解説 （⑨　福垣内　暁／4回） 製紙、紙加工、基礎科学、材料科学、境界領域科学に関する解説 （⑩　深堀　秀史／3回） 基礎科学、材料科学、境界領域科学に関する解説	オムニバス方式
				紙加工技術論	紙は電気・電子分野、自動車分野、医療・福祉・介護分野、食品分野等、様々な分野で使用されており、用途に応じて適した材料や加工法が用いられている。代表的な紙製品を題材として、原紙の種類や加工法、さらにそのための加工機械について学習する。また、原料素材と加工技術は密接に関連していることから、原紙の物理特性と加工適性の関連についても合わせて講義する。	
				製紙化学I	製紙で重要なウェットエンドケミストリー（紙料調製時の化学）について学習する。紙を作る上で欠かせない水に関する科学や、パルプや基本的な試薬に関する構造と特性、試薬の使用方法と効果、固体表面の静電的な特性を左右する因子、繊維や填料等の固体表面や製紙薬剤のように溶解している物質の分析方法等について解説する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	紙産業系	製紙化学工学	化学工学は化学工業における生産に関連する学問である。化学工学に含まれる移動現象、単位操作、エネルギー変換などの学習分野は紙、パルプ、繊維の生産とも密接に関連している。本講義では、化学工学の中でも製紙に関連した流体、圧力、伝熱、拡散、ろ過、膜分離などについて講義を行う。	
				科学英語Ⅱ	最先端の情報の収集や成果の外部公表のためには、英文書籍・論文の講読や英語による論文発表および論文作成の必要がある。科学英語Ⅱでは、科学英語Ⅰでの学習内容をさらに深化させ、紙パルプに関する専門用語の習得と外国語文献等を理解できるようにする。特に、文献調査に有用なデータベース（Scifinder、Web of Science)の有効利用ができるようにする。	
				紙産業セミナーⅡ	紙産業界の課題解決のため、製紙研究に関する文献調査および輪読等を行うことで、現行の技術および研究開発動向について情報を収集するとともに、得られた知識の活用方法も検討する。基本的に演習形式を取るが、必要に応じて講演会や学会への参加、講師の招聘等により、紙産業に関する情報を収集する。 （オムニバス方式／全15回） （③　内村　浩美／4回） 製紙、紙加工、材料科学、境界領域科学における知見・技術・応用事例の解説 （④　薮谷　智規／4回） 材料科学、境界領域科学における知見・技術・応用事例の解説 （⑨　福垣内　暁／4回） 製紙、紙加工、材料科学、境界領域科学における知見・技術・応用事例の解説 （⑩　深堀　秀史／3回） 材料科学、境界領域科学における知見・技術・応用事例の解説	オムニバス方式
				紙産業基礎演習	四国中央キャンパスにおいて、学習・研究活動を行う上で必要となる基礎的知識や技術を習得する。学習内容として、施設・機器の使用方法、パソコンの操作、試薬調製や秤量などの化学基礎技術、JISに準じた抄紙や紙質測定などの技術、研究の進め方、書類作成方法など、基礎的な技術を習得する。 （③　内村　浩美）抄紙、紙質分析、研究の進め方、書類作成方法に関する解説 （④　薮谷　智規）化学実験、研究の進め方、書類作成方法に関する解説 （⑩　深堀　秀史）抄紙、紙質分析、書類作成方法に関する解説 （⑫　秀野　晃大）化学実験、書類作成方法に関する解説	共同
				工場見学Ⅰ	製紙企業・紙加工企業・周辺企業（原料・薬品・機械・インフラ等）を見学することにより、製造現場の実情を学習するとともに、紙製品が様々な分野に展開しており、一般生活用以外にも工業用、医療用、住宅・建築用等に多く利用されていることを理解する。紙の種類に応じてどのような生産方式が採用されているか、機械の構造と製造される紙の特性とを相関付けて学習する。 （オムニバス方式／全30回） （③　内村　浩美／8回） 製紙、紙加工の方法および設備に関する解説 （④　薮谷　智規／8回） 化学薬品の使用方法および設備、化学繊維に関する解説 （⑩　深堀　秀史／6回） 化学薬品の使用方法および排水・廃棄物処理に関する解説 （⑫　秀野　晃大／8回） パルプ化、バイオマス資源の利用方法および設備に関する解説	オムニバス方式
				有機化学	有機化学は炭素を中心とした分子群の反応、合成に関わる学問分野である。紙、繊維を形成する物質としても不可欠な材料に関連しており、木材の主構成成分であるセルロースやリグニンの構造や物性、蒸解や漂白等の化学反応機構、乾燥・湿潤紙力増強剤やサイズ剤等の製紙用薬剤の構造と作用機構、古紙の脱墨処理や排水処理の機構を理解する上で非常に有用な知識である。本講義では、上記現象を理解する上で特に重要な有機化合物の基本的な構造・性質について平易に講義する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	紙産業系	分析化学Ⅱ	パルプの原料となる木材の化学的理解を深める事を目的として、木材およびパルプの化学分析について、原理および分析法ならびに得られたデータの扱いについて学ぶ。主に構成糖およびリグニンの定量について、日本工業規格（JIS）やTAPPI(Technical Association of the Pulp and Paper Industry)、NREL(National Renewable Energy Laboratory)のLAPs(Laboratory analytical procedures)で規格化された手法について学ぶ。	
				製紙化学Ⅱ	製紙で重要なウェットエンドケミストリー（紙料調製時の化学）について学習する。製紙化学Ⅰで学習する基本的な製紙薬剤の使用方法について解説する。抄紙系は水の再利用や古紙の使用などにより、共存物質が多量に含まれている。また、複数種の薬剤を利用する場合、薬剤間の相互作用もあることから、使用する順序やタイミング等によっても効果が大きく異なる。製紙工程での実例を基に、ウェットエンドケミストリーの応用例について学習する。	
				工場見学Ⅱ	製紙企業・紙加工企業・周辺企業を見学し、設備の構造や機能について理解を深める。単に機械の構造を知るだけではなく、機械の長所・短所や使用する上でのノウハウについても学習する。また、現場における安全衛生に関する態勢や職場改善運動、品質向上や研究開発に関する取り組みを通じて、企業の特色についても学習する。 （オムニバス方式／全30回） （③　内村　浩美／8回） 製紙、紙加工の方法および研究開発に関する解説 （④　薮谷　智規／8回） 化学薬品の使用方法および設備、安全衛生、分析機器に関する解説 （⑩　深堀　秀史／6回） 化学薬品の使用方法および排水・廃棄物処理に関する解説 （⑫　秀野　晃大／8回） パルプ化、バイオマス資源の利用方法およびノウハウに関する解説	オムニバス方式
				科学英語Ⅲ	最先端の情報の収集や成果の外部公表のためには、英文書籍・論文の講読や英語による論文発表および論文作成の必要がある。科学英語Ⅲでは、主に製紙や材料科学を対象として、英語によるプレゼンテーションを行うための文章作成の訓練を行い、成果や考えを英語により発表できるようにする。また、英語による会話を通じてコミュニケーション能力の向上を図るとともに、資料やスライド等の作成方法についても学習する。	
				科学英語Ⅳ	最先端の情報の収集や成果の外部公表のためには、英文書籍・論文の講読や英語による論文発表および論文作成の必要がある。科学英語Ⅳでは、主に製紙や材料科学もしくは自身の研究内容を対象とし、英語によるプレゼンテーションを行うことで、英語による情報収集能力、文書・資料作成能力、会話能力を総合的に育成する。	
			ものづくり系	微積分	1変数関数の微積分の基礎をリメディアルするとともに、微積分の意味や工学的な意義を理解する。微積分の考え方、基礎的な計算ができることを目指す。微積分に関する次のような概念について、e-Learningを利用して学習する。 （1）　微積分の基礎に関する理解を深めることができる。 （2）　具体的な関数に関する微積分の正確な計算力を修得することができる。 （3）　テイラーの定理とその応用を習得することができる。 （4）　級数に関する基本事項とべき級数への応用を習得することができる。	
				線形代数	線形代数はさまざまな応用分野で基礎学問として重要である。高校で学習した知識を復習しながら、新たに外積と行列式の概念を導入し、行列式の性質を利用して、連立1次方程式を解けるようにすることを目的とする。線形代数に関する次のような概念について講義する。 （1）ベクトルの基本演算、内積、外積などが計算でき、直線や平面の方程式の記述が理解できる。 （2）行列の基本演算、正則性が理解でき、正則行列の逆行列が計算できる。 （3）定義に従って行列式を「展開することができる。 （4）行列式の性質を利用して、連立1次方程式を解くことができる。	
				基礎電磁気学	電磁気学は理工系の基礎科目として極めて重要な位置を占めており、これらを理解することは、技術者として重要である。本講義では、電気・電子回路、情報通信工学などの理解に必要な基礎知識を習得する。ここでいう、基礎知識とは、荷電粒子、電場、磁場、電流（荷電粒子運動）の基本的関係（法則）のことである。具体的な学習内容としては、まず電荷と電場について解説する。次に、電流と磁場の関係や、電磁誘導などについて解説する。	
				工業力学	物体の運動と働く力の関係を理解し、解析するために基礎になる学問である。そのため、基礎的な学力を身につける。物体を質点にモデル化して問題を解くことができるようになる。物体の運動に係わる様々な力の役割を理解できるようになる。 （1）運動の基礎法則であるニュートンの運動方程式を使い、運動と力の関係を示す。 （2）種々の力の働きを理解する・・重力、弾性力、束縛力・抗力、摩擦力・抵抗力 （3）物体の運動・・等速運動、加速度運動、直線運動、円運動、単振動、衝突 （4）保存則・・エネルギー保存則、運動量保存則、角運動量保存則	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	ものづくり系	制御工学	制御工学ではロボットなどの自動機械や化学プラントなどのシステムを数学モデルで表現し、システムを安定かつ効率的に運用することを目的とする。 まず、自動制御の基礎となるフィードバック制御系の基本概念を説明し、数学モデルの構成に必要なラプラス変換について学習する。次に、伝達関数とブロック線図によるシステムの構成法を説明し、システムの入力や、外乱に対する応答特性の解析について解説する。そして、システムの安定性について、フルビッツ、ナイキスト、ボード線図を用いた判別方法について解説する。	
				材料と強度	機械や構造物の各部位の強さや変形に対して定量的に解析することができるようにするために、材料力学の基礎を理解し、使用される材料の強度に対する試験・解析評価のための基礎知識を講義する。本講義によってものづくりに必要な部品寸法形状の理論的検証が可能となる。 （1）応力とひずみの関係が理解できる。 （2）安全率と許容応力について理解できる。 （3）せん断力図・曲げモーメント図が描ける。 （4）断面二次モーメントおよび曲げ応力と断面係数について理解できる。 （5）最大たわみが計算できる。	
				加工学	機械・構造物は、素材から所定の寸法・形状、精度に加工された数多くの部品の組立によって構成されている。それらの部品加工の工程は、設計図面に基づき、素材の塑性変形や溶融・半溶融状態を経た成形（鋳造、鍛造、板金プレス、溶接）によって大まかな寸法・形状が効率的に形成され、次いで、目標機能の確保のために高い加工精度が必要な部分に対して除去加工（切削、研削、砥粒加工）が施される。本講義では、各加工法の、原理・特徴、実際的な作業方法、適用事例・製品等に関して説明し、部品加工・生産の目的に応じた技術の適用法、留意事項を説明する。	
				ものづくり実験	ものづくりの基本的な課題に関する実験を通じて、現象を科学的に検証・考察することの出来る分析的能力を高める。さらに、実験結果のまとめ方や第三者への意見伝達のトレーニングを行い、表現能力を習得する。 （オムニバス方式／全16回） （⑤　高橋　学／６回）安全教育（１）、レポートの書き方（１）、ＲＬＣ電気回路実験（２）、オペアンプによる各種電子回路の特性（２） （⑪　山本　智規／６回）安全教育（１）、レポートの書き方（１）、ＲＬＣ電気回路実験（２）、PLCを用いたシーケンス制御実験（２） （62　豊田　洋通／2回）　旋盤による切削加工時の平均剪断応力の測定 （188　李　在勲／2回）　２自由度ロボットアームの位置制御実験 （218　堤　三佳／2回）　はりのひずみとたわみの計測 （243　松下　正史／2回）　金属の引っ張り試験	オムニバス方式・共同（一部）
				ものづくり実習	ものづくりは、関係する全ての事項を考慮し決定した形状を具現化するプロセスであり、その過程を経験することは、特に重要である。そこで、実習工場において、各種切削用工作機械の操作および加工実習を実施し、加工技能を体得する。さらに3DCADよりNC工作機械による加工および3Dプリンタを利用した鋳型を作成し、鋳造行程を経験する。	共同
				ものづくりセミナーⅠ	産業イノベーションセミナーⅠおよびⅡで経験した，ものづくりに関わる実践的な基本知識を用いた応用，またそこで生じる問題点を解決する手法を，実現場で応用することを目的とする。実現場での応用を優先した課題においては，問題点や改善点を調べることで課題を抽出し，それまでに修得したものづくりに関わる科目である材料・設計・製図関係の講義科目を中心とし，さらにインターンシップなどの実習経験をもとに，課題を解決していく。特に，フィールドワークとして問題点を収集かつ具体的に抽出し，その優先順位などを考察する経験をすることで，社会と技術者の関わりを理解できるようになる。また，大学ロボコンに出場することで、ものづくりの重要性を説明するとともに、四国地区ロボット大会の運営に関わり、実行委員会や参画企業と競技関係者のサーバントリーダーとしての信頼の獲得を試みる。 （⑤　高橋　学）材料，強度シミュレーションに関する解説 （⑥　八木　秀次）CAD，加工，製作に関する解説 （⑪　山本　智規）プログラミング，電子デバイスに関する解説	共同
				ものづくりセミナーⅡ	ものづくり産業が抱える課題に関連する基本的かつ共通的な理論や技術、さらには最先端・最前線の知識を実現場において活用し、問題解決に向けた取り組みを行うことを目的とする。産業イノベーションセミナーⅠ，ⅡおよびものづくりセミナーⅠで修得・体験した理論や技術、知識の活用、その結果をもとに他者との意見交換や討議などを通じて課題解決に導くため情報の取り纏め、知識や理論の深化、技術の発展に繋げる。 （⑤　高橋　学）材料強度学に関する解説 （⑥　八木　秀次）生産システム学に関する解説 （⑪　山本　智規）自動制御システム学に関する解説	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	ものづくり系	メカトロニクス学	メカトロニクスはメカニクス（機械）とエレクトロニクス（電子）の複合語である。我々の身近にある家電製品や自動車、航空機、ロボットなど、メカトロニクスを利用した製品を例に、メカトロニクスの要素技術について解説する。 まず、機械要素を組み合わせた機構、モーターや油空圧シリンダなどのアクチュエータについて学習する。 また、センサや制御回路などの、制御要素について解説する。 そして、それらを組み合わせた機械システムの制御法について、マイコンを利用した動作実験をおこない理解を深める。	
				CAD製図	製図はものづくりとしての、実体を表現する最終の過程であり、媒体の如何を問わず、必須の工程である。本授業では、その製図をコンピュータ化し、かつそのバーチャル化機能（シミュレーション）を有効に取り入れた、3D-CADを用いることで、CADの操作を通して、その特徴を生かした製図法を体験したり、CADの機能とデータ構造との関連などを理解したり、 実際の機械と図面との関連の理解を深める。 そして、 コンピュータによる図形処理について説明できること、機械部品の寸法を実測して製図通則にしたがって製図できること、CADのソフトウエアの機能を理解し、それらを利用して設計・製図ができることを目標とする。 授業実施において、手書きによる、基本的製図通則に続き、3D-CADソフトウェアを利用し、創作およびその製図過程を理解する。そこでは、製図過程における、種々の応用例を学習する。さらに、3D-CADの生産過程における重要性についても理解する。	
				ものづくり設計	”ものづくり”としての設計においては、機構、熱・流体、材料に関連する学問を用い形状を具体化する。そのなかで、ねじや軸などは、基本的要素として必ず含まれ、また重要な役割を担う。そのため本授業における内容は、設計者が必ず身につけておかねばならない。 まず次のことを理解するための講義を行う。 （1）許容応力、標準規格、公差など、機械設計に関する基本事項を理解する。 （2）ねじ、軸、歯車など、基本的な機械要素の原理や設計法の基礎を理解する。 次に、理解した機械要素に対して、多くの実際的例題を取り上げ説明する。さらに、具体的な演習的問題を取り上げ、計算等を行い理解度を確認するとともに深める。	
				工業材料	各種材料を設計素材として利用する場合、各材料の基本特性を理解した上で最適な材料を選択する必要がある。産業分野で実用化されている身近な工業材料を話題に取り上げ、金属、無機、高分子、複合材料の基本特性と加工法、それらの選択のポイントについて講義する。 （1）各種材料の基本性質を把握することができる。 （2）材料試験について材料の機械的性質を調べる方法が説明できる。 （3）環境や力学的条件に対して多くの材料から適切な材料を選択できる。	
				CAE基礎および演習	ものづくり設計、CAD製図、材料と強度の発展科目として、変位、応力、温度などのパラメータを用いて設計時の性能や強度予測、障害発生時の原因解明等に用いるCAEの解析フローと結果の判断方法の講義、およびその演習を実施する。 (1)強度解析シミュレーションの概念を理解できる。 (2)解析モデルを作成し、メッシュ作成ができる。 (3)部材の拘束条件を正確に把握し、シミュレーションに適用できる。 (4)得られた解析データに基づき、結果の妥当性を見極めることができる。	
				設計工学	実際の設計は、どのような過程で進行するのか、そのとき、設計者はどんなことを考えどのような手段を使うのか、そしてどのようなことを考えておくべきかを具体的に示す。 （1）定型的設計、創造的設計における思考方法を身につける。 （2）設計において失敗は不可避であることを理解し、どのようなことを学び伝承すべきかを身につける。 （3）技術と社会の関わりあいにおいて、単にコストだけでなく社会において負うべき責任について理解する。 これらを、身につけることにより、自然との調和、人間と機械および社会との協調について、多面的な視点から考えて実践することができる。	
			他学科科目	数理的思考	数学的思考の基礎→行列・微分計算とその応用→確率論→ゲーム理論の基礎の順に講義を進めていく。 文理融合学部の数学科目として、文系的な課題に数学的手法を用いてアプローチできる能力の育成を目指す。まず、論理的かつ集合論的なものの見方、考え方を、パズルやゲームを活用してしっかり身につける。次に、数式処理ソフトを利用して行列と微分の考え方、計算方法について学ぶ。さらに、現代的な確率の概念を導入し、仮説検定が、形式論理に確率を取り入れた実証テクニックであることを理解する。最後に、代表的な社会問題への数学の応用例としてゲーム論的な思考法を身につける。	
				情報産業論	インターネットを利用することが当たり前になっている今日、情報産業はこれからの経済成長の鍵を握ると考えられているが、情報産業の特徴を理論的に理解し、他の産業との違いを把握することを目標とする。特にネットワークの経済的な意味に着目し、「規格・標準」をキーワードとして情報産業が持つ独特の特徴を明らかにする。また理論的な考察に加えて、情報産業に関する最近の事例をとりあげ、学んだ理論を確かめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	他学科科目	情報処理論	本科目では、現代社会に深く浸透しているコンピュータやネットワークなどの情報通信技術(ICT)の基本を学ぶ。具体的には、ICTの基礎となっているデジタルの概念や、コンピュータの構成(ソフトウエアとハードウエア)、動作原理と動作させる方法としてのプログラムの初歩等を学ぶ。外面的な機能や使用法だけでなく、内面の原理についても基本を理解することによって、ICTをより安全かつ有効に使いこなすための知識を深め、また、社会における影響について妥当な判断を行えるようになることを目的とする。	
				地域・中小企業家論	中小企業は日本の企業数の99%以上を占め、決定的に大きな役割を果たしているが、その実像はあまり理解されず、非常に大きな誤解を受けている。本科目では、中小企業の全体像（歴史、魅力、役割、強み、弱み）を理解することを通じて、生きた経済や経営を実践的に学ぶことを目的としている。そのため、中小企業の経営者などをゲストスピーカーとして招き、中小企業の経営における独自の論理と価値観についての講義と、その内容に基づくグループ討論等のワークを行う。 （18　曽我　亘由）地域経済・地域産業の動向分析の観点からの講義および各回のワークの指導 （250　鎌田　哲雄）中小企業の活動支援の現場の観点からの講義およびゲストスピーカーのコーディネート	共同
				流通論	生産と消費を円滑に結びつけることが流通の基本的な使命である。そのために、各々の流通主体は日夜研鑽を重ねている。本講義では、流通を理解するための基礎的概念や重要度の高い学説について学習するとともに、教員の提示する事例や新聞なども活用しながら、現代流通の動きについて学ぶ。	
				マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチは、企業のマーケティング活動の様々な段階で行われる調査・分析活動である。消費者に対して適切な調査を設計しリサーチを実施することは、マーケティング戦略の成功確率を高め、実施主体（企業など）の持続可能性を高めることにつながる。この講義では、調査企画・設計の方法や仮説構成、サンプリングの方法など社会調査の理論・方法論を踏まえながら、マーケティングリサーチに必要な基礎内容を、さまざまな事例を交えながら解説する。マーケティング目的に沿った資料・データ収集、それらを分析可能な形へと加工・整理し分析してゆく方法・プロセスについて習得することを目標とする。	
				簿記原理	企業で広く一般に用いられている簿記は、組織的・秩序的な記帳技術の複式簿記であるが、簿記原理は、その複式簿記の意味・目的及びその基本的な会計処理方法を中心に、より高度な簿記の理解を深めること、そして企業経営の諸活動を計数的に把握する能力と姿勢を身につけることを目的とした科目である。日商簿記検定の資格取得に適した内容となっている。	
				会計学原理Ⅰ	株式会社で広く一般に用いられている会計は、記録面では組織的・秩序的な記帳技術の複式簿記に基づいて行われている。しかし、会計行為は、記録のみにとどまらず認識・測定・表示といった行為に及ぶ。記録面では複式簿記を基礎に置きながらも、その背後にある会計理論がなければ、財務諸表の存在意義を理解することはできない。この財務諸表の作成原理を対象とした科目が「会計学原理Ⅰ」である。この科目は、「簿記原理」科目の上位科目として位置づけられる。この科目を受講した学生は、「簿記原理」科目によって、基本的な会計処理・表示方法を理解しているので、より高度的な会計処理方法を中心に、簿記と会計との関係性を把握するとともに、その背後にある会計理論と制度を体系的に整理することで、財務諸表制度の体系や財務諸表の作成原理の解明、今後の会計動向など、外部報告会計（財務会計）の奥深さを理解することができる。	
				原価計算論	工業簿記および制度としての原価計算、すなわち原価計算基準に則った原価計算制度について解説し、それぞれの原価計算方法について学ぶことを中心とする。 具体的に原価計算とは、生産に投入された原価財を費目別、部門別、製品別に集計し、製品単位原価を算定するプロセスである。この授業では、費目別計算や部門別計算、また製品別計算として個別原価計算、総合原価計算といった実際原価計算について学ぶとともに、標準原価計算、直接原価計算について学ぶ。 また、活動基準原価計算について解説することを通じて、原価計算と管理会計とのつながりを学ぶ。	
				ビジネスファイナンス	ビジネスに必要なファイナンスの専門知識を身につけ、企業財務の諸問題に適切に対応できる人材を育成することを目的とする。 金融システムの概要を学び、企業の資金調達方法の実務や銀行が企業のどこを見て融資判断をしているかという実務的な内容を学ぶ。	
				組織デザイン論	まずは、歴史的発展経緯に基づいて、組織に関する様々な学説とそれに関連する諸領域の基礎理論について説明する。 組織に関する基礎理論を理解した後、現実世界での組織をめぐる動きを分析できるようになるため、環境および戦略との適合関係を実現する組織デザインについて学ぶ。	
				生産管理論	生産システムは，原材料から製品への変換に関する物の流れと情報の流れ等から構成される．生産管理とは，生産システムを合理的に設計し，生産システムの基本要素を効率よく管理・運営するための方法や技術である。本講義では，企業経営の本質とともに生産システムの仕組みを理解し，効率的な生産方式，数理技術，情報システムなどの技法を取り入れた生産管理の基本的知識を学習する。また，生産管理のテーマや諸問題を自ら発見し，論理的に分析・考察できる能力を養うことも本講義の狙いである。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	他学科科目	経営工学	企業の経営活動を取り巻く環境が大きく変化している。グローバル化・情報化が進む中，論理的思考力，情報処理技術を持った人材が求められている。経営工学とは，工学的なアプローチや論理的な思考方法を用いて経営の効率化と合理化を図るための理論及び実践である。この授業では，在庫・輸送問題を中心にいくつかの身近な問題を取り上げ，論理的思考力を養うとともに問題の発見・分析などに基づく創造的・統合的な問題解決・提案能力を高めることを目的とする。	
				人事労務管理論	企業は、生産性を上げ、成長し続けること、企業価値を高めていくことが求められています。企業価値の源泉は「人」にあります。企業にとって大切で重要な経営資源の一つである人的資源ですが、他の経営資源と異なり「人」は、多様な感情や価値観を保有しています。そこで人的資源のマネジメントにおいては、維持向上のために「人」をどう育成していくか？が重要な経営課題です。従って、人事労務管理においては、様々な角度から「人」にアプローチし、環境整備や制度の充実、育成プログラムの実施などをおこない、貢献度を高めていく必要があります。 「人事労務管理論」では、人事労務に関する法律、組織構造や企業経営の基本の理解とともに、人的資源の自律的成長のための能力開発の角度から学びます。さらに、時代とともに変化してきた人事労務管理を学び、将来の人事労務管理についても考察します。 「仕事とは何か？」についての考察からスタートし、組織における「人」に関する法律や制度の概要を理解し、具体的な人事労務の実務の一部に触れながら、課題や問題点を探求します。事例研究やグループ討議を実施し、自ら考察し課題発見と解決策について議論しながら、将来の企業の在り方を「人」を通して展望していきます。	
				技術・環境倫理学	グローバル化した現代の倫理問題は、我々のだれもが当事者でありえつつ、特定の個人や職域だけでは問題を解決できないという特徴をもつ。だが現実に問題への対応を迫られるのは現場にいあわせている当事者にほかならず、さらに大きな社会的影響力を有する技術専門職には問題への主体的な取組みじたいが社会的に要請されつつある。こうした現状に鑑みて本講義では、現場と状況に即した倫理指針をそのつど主導的に示しながら関係者と協同して問題の解決と予防にあたる倫理コーディネーターとしての技術者育成をめざす。なかでも、独創的な科学・技術知の源泉であるのみならず、自己と他者とを結びつける倫理性の源泉でもある豊かな想像力を養う。	集中
				環境修復学	今日、世界の多くの国々は、環境破壊や環境汚染という人間社会の発展に伴う「負の遺産」を抱えており、それは「地球の限界」を迎えつつある。本授業では、我が国および海外におけるそれらの現状およびその環境問題を修復するための技術とその原理、ならびにそれらの課題を紹介し、どのようにして持続可能な地域社会を構築するための道筋を探索するかを考える。特に、発展途上国に対する持続可能な修復技術についてその実例を含めて紹介する。	
				環境ガバナンス論	現代の環境問題はその発生や解決のメカニズムが複雑であるため、その解決において多様なステークホルダーがお互いの多様性を認めながら積極的に合意形成していく必要があります。本授業では、多くの事例からその合意形成の仕組み（環境ガバナンス）を理解します。すなわち環境ガバナンスにおける政府、企業、市民社会など多様なステークホルダー各々の役割及び、環境ガバナンスに大きな影響を与える市場、規制、規範の役割を理解します。	兼任補充予定
				生物多様性保全学	世界標準の英語版教科書を用いて基礎生態学を学び、それを基礎として生物多様性に関する国際誌論文を読解する。また、その内容をポスター発表させる。　１．基礎生態学：環境と種の分布・種の生理的特性・種個体群の動態・種間相互作用。　２．論文読解：国際誌から各人に論文を与え読解させる。３．論文内容のプレゼンテーション：最終的な成果として発表を行う。	
				環境統計学	環境フィールドワーク論文で扱う官庁統計やその他統計資料を分析・理解できることを目的とし、基本的な資料とデータの分析について、具体例を通して学ぶ。 主な内容として、量的データと質的データの意味、記述統計データとグラフ（単純集計、クロス集計、度数分布、代表値、ヒストグラム）、主要な記述統計量 （平均、分散、標準偏差）、質的データの理解（観察法、インタビュー、ドキュメント分析）、基礎的統計概念（散布図、相関関係、相関係数、因果関 係と相関関係の区別、擬似相関など）、環境統計（官庁統計、官庁調査報告）を扱う。	
				住民参加と合意形成	公共事業の事例から合意形成の必要性について説明するとともに、合意形成による公共事業推進事例を紹介する。つぎに合意形成のための技法を述べるとともに、実課題を用い、演習を通じて合意形成スキルを身につける。 （オムニバス方式／全16回） （124　二神　透／8回） ・合意形成、合意形成技術とは ・公共事業と合意形成 ・ブレーンストーミング、KJ法 ・集団合意形成、コンセンサスビルディング ・ワークショップによる合意形成事例 ・諸外国における合意形成 （23　松村　暢彦／8回） ・プロジェクトサイクルマネジメントとは ・関係者分析、問題分析、目的分析 ・実課題とプロジェクトサイクルマネジメント	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	他学科科目	地域活性化論	地域づくりの目的と手法は様々であり幅が広い。従って、目標設定、計画策定、実践方法の構築、関係者間の意思疎通、実践の手法を地域の実情を通して身につける必要がある。本科目では、産業振興を中心とした地域づくりの事例、過疎・高齢化が進む地域にありながら産業の推進や交流・定住につながっている事例などを取り上げ、地域資源を活用した経済循環の創出を学ぶことにより、地域の問題点と実績を整理し、地域に関わる意欲喚起と実践知識の深化を促す。	集中
				地域農林漁業論	農林漁業の意義、課題、歴史、将来展望について学習する。地域との関連性を意識することで、過疎高齢化の問題状況の中にある農林漁業の実態を把握する。また、暮らし、生業、文化、共同体組織等の面で多様性に富む農山漁村を基盤とした総合的な資源生産の現場を理解する。 （オムニバス形式／全16回） （㉖　小田　清隆／6回） 愛媛県の農林漁業の特質に着目し、水稲や野菜を中心とした農村、林業や果樹等の兼業による山村、漁業から柑橘への転換が行われた漁村での農業について解説する。 （㉘　笠松　浩樹／6回） 森林の基本的な機能を解説し、原木生産と林業の担い手、木材加工と製品流通、住宅における木材利用の変化について解説する。 （177　竹ノ内　徳人／4回） 昭和30年代までの漁獲中心の漁業と、その後の漁獲高の低迷、その対応として発展してきた養殖など、漁業の変遷と現状について解説する。	オムニバス方式
				農業起業論	「起業」には、様々な体系が存在する。そこで本講義では、まず、「起業」の概念についてマネジメント論とマーケティング論を関連させて整理する。次に、地域・食品・経済をキーワードとした起業の事例を紹介し、食料・農業分野での起業について説明する。また起業を実践しているゲスト講師による体験談を含め起業に係る諸問題について解説する。これらを踏まえて学生相互で起業する上でのビジネスプランを策定し、意見交換を行うことで、起業のあり方について考察する。	
				農業構造論	この授業では、生産活動としての農業について、歴史的な転換状況とその要因について把握するとともに、今後のあり方について考察することを目的とする。我が国の農業構造は、農地制度を中心とする政策のあり方、全産業における農業の位置づけに伴って変化しており、あわせて生産部門や地域によって展開が異なることを理解していく。	
				農林漁業団体論	この授業では、農林漁業諸団体（農協、漁協、森林組合、農業共済組合、土地改良区、農業委員会等）の成り立ち、組織形態、事業内容、経営構造、行政との関係等を理解し、これからの産業・地域問題の解決のために果たしうる農林漁業団体の役割を考える力を養うことを目的とする。	
			他学部科目	水族発生学	卵と精子が出会い受精する事により、新しい生命が始まる。本授業では、その受精卵が、胚発生を行うことにより個体を形成して行く過程を生殖細胞に着目して学習する。まず発生過程のどの時期に、生殖細胞が体細胞と区別することが出来るようになるかを、様々な動物を例として理解する。その後、卵および精子を作る配偶子過程を詳細に学習することにより、生命の連続性を担うために重要な仕組みである有性生殖を理解する。また、無性生殖を含めた生物の発生学の基礎的な知識を学ぶことにより、生命活動の仕組みを理解する。更に、本発生学を学習することにより、種苗生産などの水産業の理解を深めるための基礎的な知識や能力を習得する。	集中
				水圏動物生理学	海洋、河川、湖沼、すなわち水圏域から生産される食料資源は、人類の生存にとって必要不可欠であり、持続的に守り育てていかなければならない。本講義では、水圏動物資源の持続可能な生産を実現するために必要な、様々な生物学に関する基礎知識を理解することを目的とする。具体的には、動物の成長、成熟、発生の分子制御メカニズムや消化・代謝・免疫などの基礎生物学の知識、種苗生産・育種・飼料栄養などの応用技術の知識、および水圏生物生産が直面する地球環境・生物資源の問題とそれを解決するため方策について論議し学習する。	
				基礎生物化学	本授業科目では（１）タンパク質とは何か（２）細胞とは何か（３）細胞はどのような仕組みで生命維持に関わるのかを学び、生命現象の本質を理解し、タンパク質の構造と機能、細胞がおこなうエネルギー変換・物質輸送・代謝調節・情報伝達について基礎知識を獲得する。	
				環境化学	環境中の物質循環に関する基礎知識とともに、公害の歴史やオゾン層破壊などの地球環境問題、残留性有機汚染物質、ダイオキシン類、内分泌かく乱物質などによる環境汚染や生態影響を解説し、重金属や人工的に合成あるいは非意図的に生成する環境汚染物質について、その発生挙動や環境動態、地球規模でのゆくえ、ヒトおよび野生生物に対する影響とリスク評価の考え方などを学ぶ。	
				木材化学	私たちは自然界に生育している樹木を木質バイオマス資源として利用し、木材の文化を築き林産資源として衣食住で広く利用してきた。木質バイオマス資源である木材は化石資源の枯渇に伴って注目され広く工業原料として利用されている。ここでは木質バイオマス資源の１つ木材抽出成分の化学的性質について学習する。また、主要な木質バイオマス資源利用で我々の生活に必要な紙・パルプを製造するときのパルプ化学についても講義する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	他学部科目	木質バイオマス変換利用学	本授業では、バイオマス資源の現状とバイオマスエネルギーの利用のあり方について論ずるとともに、最新のバイオマスのエネルギーへの変換技術について解説する。バイオマスエネルギーの特徴とその効果的な使い方について述べるとともに、技術開発のあるべき方向性についても意見を述べることができることを到達目標とする。	
				木質高分子化学	私たちは自然界に生育している樹木を木質バイオマス資源として利用し、木材の文化を築いてきた。木質とは高等植物が産み出す細胞壁の実体であり、木質高分子化合物やその他の二次代謝物の複合体である。本講義では、天然高分子化合物の特性を習得するために、高分子化学の基礎知識や木質生産の場である樹木内の木質高分子化合物の分離、反応性やこれらの誘導体について学習し、天然高分子化合物を理解することで木質バイオマス資源化学の入門とする。	
				森林資源化学	本授業では、木材資源の現状と含有する化学成分の概要について解説するとともに、木材の腐朽または劣化する原因と劣化の原因と対策について重点を置いて説明する。木材の化学成分の特徴と利用法について述べ、腐朽または劣化した木材を観察し、その原因と対策について述べることができることを到達目標とする。	
				知的財産法	知的財産法とは、発明・考案・意匠・商標・著作物等の「知的財産」を保護する諸法律の総称である。本講義においては知的財産制度及びこれを保護する知的財産法制度全体の基礎知識を習得することに主眼を置く。より具体的には、個々の知的財産の権利化のための要件及びその取得手続、権利侵害があった場合の救済方法等について講義することにより、知的財産法制度の今日的な重要性を理解させる。	隔年
				技術マネジメント	技術的な優位性が必ずしもビジネスとしてのイニシアチブ獲得に繋がっていない我が国の今日的状況の中で、技術を的確にマネジメントする手法としての技術マネジメント的な考え方を学び、技術の分かる経営スタッフ、経営の分かるエンジニアと成るための基礎的な素養を習得するため、技術マネジメントの基本的な考え方とともに、技術マネジメントの中心的なテーマであるイノベーションやマーケティング、マネジメントの本質を講義する。さらに、技術マネジメントと密接な関係がある産学官連携活動の現場で活躍している人達の事例を通じて、実践的な手法や考え方を学び、実社会で戦力となる人材と成るための素養について講義する。	
				電気回路	電気電子工学の根幹をなす基礎科目のひとつである電気回路論を理解することが目的である。講義形式での授業を通じて、以下の目標を達成する。 （1）電圧、電位、電位差、電流、電力、電圧源、電流源、インピーダンス、力率などの重要な言葉の定義を理解している。 （2）回路要素（抵抗、キャパシタ、インダクタ）の性質を理解し、キルヒホッフの法則を用いて回路方程式を立てることができる。 （3）基本的な直流回路を解析することができる。 （4）フェーザ法を用いて交流回路の定常解析ができる。 （5）交流回路における電力計算ができる。	
				電気電子計測	電気電子工学における計測に伴う誤差の評価、計測器および計測法の原理について学び、種々の物理量、化学量の測定法を習得する。始めに誤差論と計測結果の表現方法について学ぶ。計測に伴う誤差について真値と観測値の関係から最確値の求め方を考察し最小２乗法に至る過程を学び、測定精度を評価する確率誤差や信頼検定を習得する。グラフの書き方、物理単位等について学ぶ。絶対測定、電気標準器について学んだ後、各種計測器の構造、動作原理、誤差とその補償法について学習する。電気磁気基礎測定として交流、直流の計測法を学ぶ。ティジタル計測や波形の計測、伝送線路について学ぶ。	
				アナログ電子回路	ほとんどの電子機器がディジタル化された今日、それらを支える要素技術にアナログ電子回路がある。本授業では、自然界に存在する音声（音響）、視覚（映像）などの微弱な信号の増幅を中心にして、① トランジスタ及び基本増幅回路の等価回路が書け、その動作を説明することができる② 負帰還について理解し、動作及び特性の安定化技術を修得する③演算増幅器の動作を理解し、演算増幅器を用いて様々なアナログ回路を設計できることを目標にして講義する。	
				機械力学	振動・衝撃や安定性などの機械の動力学的特性を理解し、機械を設計する際に必要な動力学の知見を修得することが目的である。具体的には、１自由度系および２自由度系の運動方程式の誘導が確実に出来るようにするとともに、固有振動数、自由振動、減衰振動、強制振動などの基本的性質を理解する。	
				ディジタル電子回路	情報社会、エレクトロニクス時代のキーワードはディジタルである。このディジタル技術を支える電子回路を自在に設計でき るようになることを目的とする授業である。 授業の到達目標は下記のとおり。 （1）設計に必要なブール代数が理解できる （2）各種論理ゲートおよびフリップフロップの機能が理解できる （3）組合せ回路を最小限の論理回路で設計できる （4）順序回路を最小限の論理回路で設計できる （5）これらを通じて、ディジタル電子回路の製作 やシステムづくりに活用できる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部産業イノベーション学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	他学部科目	熱力学	熱力学は、各種の熱機関の原理やエネルギ変換または温度変化を伴う物理現象を考えるための基礎となる力学で、地球環境・エネルギー問題に対する解決策を導きうる重要な基礎学問の一つでもある。本講義では、まず状態量、エネルギーの保存則である熱力学の第１法則、エネルギーの移動則である第２法則、非可逆過程とエントロピについて熱力学の基礎的事項を学習する。さらに、熱機関サイクルを理解するための基礎となる理想気体や蒸気の性質、理想気体の状態変化時の状態量の変化や仕事と熱の出入りについても学習する。	
				電気機器	電気工学の根幹を成す電気機器の原理、試験方法、利用法などの基礎知識を習得する。大別して、直流機、変圧器、誘導機、同期機の4項目について学ぶ。各項目について、その原理を学び、その原理を元に、各機器の特性の試験方法について学ぶ。最後に、その機器の利用方法について学ぶ。	
				船舶工学入門	海に囲まれた我が国では、船舶による輸送が大きなウェイトを占める。国際物流ネットワーク上で活躍する船舶は、長さ数百mにわたる巨大構造物であるにもかかわらず航行運動をするため、その設計にあたっては船舶特有の工学的知識を必要とする。そこで本授業では、はじめに、船の基礎知識として、船の種類や基礎的な用語を学習する。次に、船を壊さないために必要な知識として、船体構造や構造材料および作用荷重について学習する。最後に、船の性能を決定するために必要な知識として、船の復原性および抵抗・推進について学習する。 （オムニバス方式／全15回） （150　柳原　大輔／10回） ・船の種類、規則、基礎的用語 ・船体構造と材料 ・船の建造と溶接、メンテナンス ・船に作用する荷重と強度、動揺と振動 （101　土岐　直二／5回） ・浮体静力学 ・船体運動 ・船が受ける抵抗と推進器	オムニバス方式
				流体力学	流体力学は液体や気体の運動を取り扱う学問であり、工学の各分野の基礎となる学問である。本講義では、一次元の流体力学を中心として流体の運動の概念を把握し、管路系の設計や流れの中にある物体の受ける力の計算に必要な基礎を習得する。流れの基礎的な現象に興味を持たせるため、講述だけではなく、日常観察し経験する身近な流体運動を例にとりあげたビデオ映像などを用いるとともに、簡単な実験を行うことで流体力学の基礎を十分に理解できるようにする。	
	学位認定科目群			社会共創演習Ⅰ	これまでの正課教育・準正課教育・正課外活動での学修成果の振り返りを行い、社会共創学部の全授業科目や授業外の様々な活動を通じて身に着けた知識・技術や資質能力について，現時点での習得・獲得状況を確認し、今後の「大学における学び」を方向づけるための科目である。また，担当教員の指導の下，卒業研究等に関する課題発見・課題解決に向けたプレゼンテーション、解説またはグループ討論を行い，その解決への道筋を確立する。	共同
				社会共創演習Ⅱ	卒業認定へ向けて正課教育・準正課教育・正課外活動での学修成果の振り返りを行い、社会共創学部の全授業科目や授業外の様々な活動を通じて身に着けた知識・技術や資質能力について，卒業時での習得・獲得状況を最終確認する。そして、卒業研究の発表もしくは自由課題研究の修了へ向け、担当教員の指導の下，卒業研究に関しては成果発表に向けたプレゼンテーション、解説またはグループ討論を行い、その準備を進める。また、自由課題研究に関しては、修了へ向けて成果をまとめる。	共同
				自由課題研究	担当教員の指導の下、自らのこれまでの経験の棚卸しをした上で、現在の問題意識と目指すべき将来像に基づいたプロジェクトを設定し、プロジェクト計画書を作成する。その後、計画に従ってプロジェクトを遂行していく。その際、担当教員に適宜報告・相談を行いながら、必要であれば、状況に合わせてのプロジェクトの軌道修正を行う。プロジェクトの終了後、そのプロセスと成果についての報告書を作成し、報告会にてプレゼンテーションを行う。	共同
				卒業研究	地域の産業界が抱える課題を研究テーマとして、研究計画の立案（現状把握・要因分析・仮説提案、又は、要求仕様・制約条件・設計仕様の明確化と検討）と、それに対する研究活動（検証、進捗管理、実験、フィールド活動など）又は設計プロセス(構想設計，基本設計，詳細設計)に基づき、実験・解析・試作・評価等を通じて論文や報告書を作成することによって、課題解決能力や論理的思考力、文書作成能力等を養成する。各研究室の方針に従い、所定の時期までに取りまとめる。	共同

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初年次科目	新入生セミナーA	大学において知的活動の基本である「スタディ・スキル」と、学生生活を支える「ソーシャル・スキル」を習得する。第1回 オリエンテーション・カルト問題対策・大学生活上の規則とマナー、第2回 コミュニケーション1、 第3回 コミュニケーション2、第4回 大学での学び入門、第5回 キャンパスハラスメント防止研修、第6回 ノートのとり方、第7回 大学図書館における情報収集、ならびに、第8回 男女共同参画研修を教育企画室、図書館、ダイバーシティ推進本部女性未来育成センターが担当、第9回から15回まで学部での学びに必要な基礎知識を担当する。 (オムニバス方式／全15回) （80　野本　ひさ／2回） オリエンテーション・カルト問題対策・大学生活上の規則とマナー キャンパスハラスメント防止研修 （247　清水　栄子／1回） コミュニケーション1 （236　村田　晋也／1回） コミュニケーション2 （231　阿部　光伸／2回） 大学での学び入門 ノートのとり方 （228　仲道　雅輝／2回） 大学での学び入門 ノートのとり方 （223　平尾　智隆／1回） キャンパスハラスメント防止研修 （209　郡司島　宏美／1回） 男女共同参画研修 （①　榊原　正幸・②　松村　暢彦・③　大森　浩二・④　佐藤　哲・⑤　二神　透・⑥　羽鳥　剛史・⑦　ネトラ・プラカシュ・バンダリ・⑧　入江　賀子・⑩　渡邉　敬逸・⑪　片岡　由香／7回） 大学図書館における情報収集、情報の整理方法、読解の基礎(1)　、読解の基礎(2)、レポート・論文の基礎(1)、レポート・論文の基礎(2)、口頭発表の基礎（1)、口頭発表の基礎（2)・まとめ	オムニバス方式・共同（一部）・兼任補充予定
		新入生セミナーB	近年、地域に関する諸課題は多様化・複雑化している。しかし、単純には課題解決できない実情がある。そうした課題を解決するために求められる能力・スキルが社会共創力である。本講義では、まず課題解決に向けて求められる社会共創力とは何かを理解する。次に、地域社会の実情と課題について地域ステークホルダーの立場から考える。立場の違いから課題の見え方が異なる点も十分に理解する。さらに、グループワークにより、エリアごとの課題及び協働の在り方を整理し合う。そうする中で、社会共創に関する基礎的な考え方とステークホルダーとの協働を実現するために求められる能力・スキルの基礎を学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) （12　西村　勝志／4回） ガイダンス　－社会共創とは何かー 学部ＤＰと社会共創学との関係をした上で、習得すべき知識や技能を説明する 地域ステークホルダーの種類と地域社会の諸課題及び諸課題の相互関連性を理解する ポスターセッション （19　松原　孝博／3回） 南予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（1) 南予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（2) ポスターセッション （125　後藤　理恵／6回） 南予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（1) 南予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（2) 南予ステークホルダーによる事例報告 グループディスカッション（1) グループディスカッション（2) ポスターセッション （③　大森　浩二・⑤　二神　透／6回） 中予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（1) 中予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（2) 中予ステークホルダーによる事例報告 グループディスカッション（1) グループディスカッション（2) ポスターセッション （29　浅井　英典／3回） 東予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（1) 東予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（2) ポスターセッション （129　山中　亮／4回） 中予ステークホルダーによる事例報告 グループディスカッション（1) グループディスカッション（2) ポスターセッション	オムニバス方式・共同（一部）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初年次科目	こころと健康	生活の基盤である健康に対する考え方は，身体的側面のみならず，健全なこころや食生活のあり方を含め，昨今ますます多様化の傾向にある。このような状況の下，大学生活を開始する新入生が最低限必要な教養として健康に対する基本的な知識とライフスキルを学び，心身ともに健全な生活を継続的に送るための手がかりが得られるよう，「青年期のこころ」（心理学），「生活の医学」（医学），「食と健康」（食育），「スポーツ」の４つの学問分野により授業を展開する。 （オムニバス方式/全１５回） （80　野本　ひさ/２回（共同２回） オリエンテーション・メンタルヘルス/まとめ （151　庭﨑　隆/２回（共同２回） オリエンテーション・メンタルヘルス/まとめ （108　橋本　巌/３回） 青年期のこころ （90　小林　直人/２回） 生活の医学 （237　加藤　亜希/２回） 生活の医学 （243　垣原　登志子/２回） 食と健康 （28　藤原　誠/2回） スポーツ （60　田中　雅人/１回） スポーツ （234　上田　敏子/１回） スポーツ	オムニバス方式・共同（一部）
		スポーツ	初回は本授業の目標，指導内容等のガイダンスを行い，受講生の希望を基にクラス分けを行う。2回目の授業では体力測定（敏捷性，筋持久力，全身持久力）を行い，現在の体力の現状を把握する。3・4回目は基礎的な体づくり，5・6回目は，基礎的な動きづくりを行い，それらの改善を図る。7～13回目は，各教員の専門性を活かした発展的体づくり運動を行う。14回目では，再度体力測定を行い，受講期間中の体力の改善状況を把握する。以上の3～14回目の授業では，履修効果を高めるための冊子を基にライフスキルの涵養を図る講義も並行して行う。最終回はライフスキルに関する小テスト及び15回にわたる授業の振り返りを行う。	
	基礎科目	英語Ⅰ	大学生として必要な基礎的英語コミュニケーション能力を定着させるための授業である。英語を使って情報を入手し，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力を身につける。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。特に，自分の考えを明瞭，かつ，簡潔に英語で表現し，会話や議論に積極的に参加できるようになることを目指す。	
		英語Ⅱ	大学生として必要な基礎的英語コミュニケーション能力を定着させるための授業である。英語を使って情報を入手し，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力を身につける。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。特に，様々な状況で耳にする英語による情報を，正しく把握し，適切に対応できる能力を身につけることを目指す。	
		英語Ⅲ	大学生として必要な基礎的英語コミュニケーション能力を定着させるための授業である。英語を使って情報を入手し，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力を身につける。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。特に，自分の考えを明瞭，かつ，論理的に，英語で書き表すことができるようになることを目指す。	
		英語Ⅳ	大学生として必要な基礎的英語コミュニケーション能力を定着させるための授業である。英語を使って情報を入手し，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力を身につける。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。特に，様々な手段で視覚的に入手する英語による情報を，正しく把握し，適切に対応できる能力を身につけることを目指す。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎科目	情報リテラシー入門Ⅰ	コンピュータやネットワークなどの仕組みを理解し，コンピュータを日常の道具として活用するために，(1)情報リテラシー，(2)情報検索，(3)情報表現，(4)情報倫理について学ぶことにより，コンピュータに関する基礎的な知識・技能を身につけ，高度情報化社会に対応する能力を養成する。情報リテラシー入門Iでは，情報倫理・セキュリティ，電子メールとWeb，日本語ワープロ，プレゼンテーションについて講義と演習を交えて学習する。	
		情報リテラシー入門Ⅱ	コンピュータやネットワークなどの仕組みを理解し，コンピュータを日常の道具として活用するために，(1)情報リテラシー，(2)情報検索，(3)情報表現，(4)情報倫理について学ぶことにより，コンピュータに関する基礎的な知識・技能を身につけ，高度情報化社会に対応する能力を養成する。情報リテラシー入門IIでは，情報倫理・セキュリティ，ネットワークとネットサービス，コンピュータ，情報の表現，表計算について講義と演習を交えて学習する。	
		社会力入門	人間が社会を形成し，維持していくために不可欠な資質・能力を“社会力”という。この授業は，大学生活を通して「オトナ」になるための基礎的な学びとしての“社会力”を修得することを目指したキャリア教育である。授業は，「労働と社会」「グローバル社会」「人間関係」「安全衛生」の4つの学際的観点から実施される。また，今後の自身のキャリア形成を支えるツールとなるキャリア・ポートフォリオの作成を行う。本講のキャリア教育は単なる就職支援ではなく，人生の新しい段階（社会）へと移行する若者の成長を支える教育として位置付けている。 （オムニバス方式/全８回） （223　平尾　智隆/４回） 労働と社会 グローバル社会 （80　野本　ひさ/２回） 人間関係 （35　田中　寿郎/２回） 安全衛生	オムニバス方式
		科学技術リテラシー入門	「科学する心」の育成は，科学の時代である現代の市民に必須の教養である。現在の入試制度のもとでは，文系の学部・学科に入学してくる学生には，自然科学や技術に関する素養が乏しい学生が多い。本講義は，文系学部・学科の学生に科学的な見方や考え方を習得させる事を目指し，1単位の科目として開講する。講義は①科学技術の考え方を事例をもとに講義し，②その知識を基にして正解の無い問題をアクティブ・ラーニングの手法を用いて自分なりに科学的に解を求める事を通して，科学的な素養を身につけさせるものである。	
		愛媛学	文部科学省に採択された「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」における「地域志向教育カリキュラム」のベース科目として位置づけられるCOCコア科目である。日本の縮図，日本社会の将来像ともいえる「愛媛県」の「歴史・文化」「自然・環境」及び「観光・まちづくり・産業」等を概観し，地域が抱える課題について理解を深め，地域内のイノベーションの創出方法について学ぶ。これらを通して，基本的な地域意識を涵養することを目的とする。 （オムニバス方式/全８回） （231　阿部　光伸/２回（共同２回） ガイダンス/総括討論 （135　秋丸　國廣/２回（共同２回） ガイダンス/総括討論 （117　松本　賢哉/２回） 東予における地域課題 （118　前田　眞/２回） 中予における地域課題 （105　坂本　世津夫/２回） 南予における地域課題	オムニバス方式・共同（一部）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	主題探究型科目	環境を考える	環境学は，自然環境，社会環境，都市環境など，人間の生活を取り巻く環境とその人間，動植物への影響について，物理学，化学，生物学，地学，社会科学，人文科学等の基礎科学からのアプローチにより研究を行う学問分野である。本授業では，教員が環境学にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			倫理と思想を考える	倫理学は，一般に行動の規範となる物事の道徳的な評価を理解しようとする哲学の研究領域の一つである。思想とは，人間が自分自身および自分の周囲について，あるいは自分が感じ思考できるものごとについて抱く，あるまとまった考えのことである。本授業では，教員が倫理学と思想にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			歴史を考える	歴史学は，過去の史料を評価・検証する過程を通して歴史の事実，及びそれらの関連を研究する学問分野である。本授業では，教員が歴史学にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			ことばの世界	文学は，言語表現による芸術作品について研究する学問分野であり，言語学は，人類が使用する言語の本質や構造を科学的に研究する学問分野である。本授業では，教員が文学や言語学にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			芸術の世界	芸術とは，表現者あるいは表現物と，鑑賞者とが相互に作用し合うことなどで，精神的・感覚的な変動を得ようとする活動をいい，文芸（言語芸術），美術（造形芸術），音楽（音響芸術），演劇・映画（総合芸術）などを指す。本授業では，教員が芸術にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			地域と世界	グローカル化（glocalization）とは，全世界を同時に巻き込んでいく流れ（globalization）と，地域の特色や特性を考慮していく流れ（localization）の2つの言葉を組み合わせた混成語である。「地球規模で考えながら，自分の地域で活動する」（Think globally, act locally。）とも関連する言葉である。本授業では，教員が地域と世界にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			社会のしくみを考える	社会学は，社会現象の実態や，現象の起こる原因に関するメカニズム（因果関係）を解明するために研究する学問分野である。本授業では，教員が社会学にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			現代社会の諸問題	現代社会とは，時代の変化と共に社会に生じる変化を強調し，現在存在する社会を過去の社会と区別するために用いられている。本授業では，教員が現代社会がかかえている諸問題について探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			現代と科学技術	自然科学とは，自然に属するもろもろの対象を取り扱い，その法則性を明らかにするため，観測可能な対象やプロセスを解明し理解する学問分野である。物理学，化学，生物学，地学は自然科学の一分野である。本授業では，教員が自然科学に基づいた科学技術にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			自然のしくみ	物理学は自然界の現象とその性質について，化学は原子・分子レベルでの物質の構造や性質について，地学は地球について研究する学問分野である。本授業では，教員が物理学・化学・地学に基づいた自然のしくみにかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			生命の不思議	生物学は，生命現象を研究する自然科学の一分野であり，生物やその存在様式を研究対象としている。化学は，原子・分子レベルで物質の構造や性質を解明し，また新しい物質を構築する学問分野である。本授業では，教員が生物学や化学に基づいた生命にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	学問分野別科目	総合分野	環境学入門	環境学は，自然環境，社会環境，都市環境など，人間の生活を取り巻く環境とその人間，動植物への影響について，物理学，化学，生物学，地学，社会科学，人文科学等の基礎科学からのアプローチにより研究を行う学問分野である。環境学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。環境学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				人間科学入門	人間科学は，「人間とは何か」という問題を科学的に研究し，なんらかの意味と解釈を得えようとする，学際的，総合的に研究を行う学問分野である。人間科学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。人間科学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				生活科学入門	生活科学は，人間生活における人間と環境の相互作用について，人的・物的両面から，自然・社会・人文の諸科学を基盤として研究し，生活の向上とともに人類の福祉に貢献する実践的総合的に研究を行う学問分野である。生活科学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。生活科学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
			人文学分野	哲学入門	哲学は，語義的には「愛智」を意味する学問的活動である。古代ギリシアでは学問一般を意味していたが，近代における諸科学の分化・独立によって，諸科学の基礎づけを目ざす学問や，世界・人生の根本原理を追及する学問となった。哲学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。哲学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				文学入門	文学は，詩・小説・戯曲・随筆・文芸評論などの言語表現による芸術作品について研究する学問分野である。文学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。文学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				言語学入門	言語学は，人類が使用する言語の本質や構造を科学的に研究する学問分野である。音声学，音韻論，形態論，統語論，談話分析，意味論，語彙論，語用論，手話言語学などの研究分野がある。言語学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。言語学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				歴史学入門	歴史学は，過去の史料を評価・検証する過程を通して歴史の事実，及びそれらの関連を研究する学問分野である。歴史学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。歴史学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				考古学入門	考古学は，人類が残した痕跡（例えば，遺物，遺構など）の研究を通し，人類の活動とその変化を研究する学問分野である。考古学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。考古学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				地理学入門	地理学は，空間ならびに自然と，経済・社会・文化等との関係を対象にして研究する学問分野である。地理学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。地理学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	学問分野別科目	社会科学分野	法学入門	法学は，法律学ともいう。法および法現象を専門的に研究する学問分野である。法および法現象の経験科学的，理論的な解明を直接の目的とする理論法学や，立法，行政，裁判に役立つ法原理，法的技術を中心に体系化されている実用法学などがある。法学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。法学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				政策科学入門	政策科学は，政策研究や政策分析ともいう。政府などの公的機関が行う政策を改善するために研究する学問分野である。政策科学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。政策科学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				経済学入門	経済学は，この世において有限な資源から，いかに価値を生産し分配していくか，社会全般の経済活動を対象に研究する学問分野である。経済学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。経済学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				社会学入門	社会学は，社会現象の実態や，現象の起こる原因に関するメカニズム（因果関係）を解明するために，研究する学問分野である。社会学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。社会学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				心理学入門	心理学は，人の心のはたらき，あるいは人や動物の行動を研究する学問分野である。科学的経験主義の立場から観察・実験・調査等の方法によって一般法則の探求を推し進める基礎心理学，基礎心理学の知見を活かして現実生活上の問題の解決や改善に寄与することを目指す応用心理学などに大別される。心理学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。心理学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				日本国憲法	日本国憲法は，現在の日本の国家形態，統治組織，統治作用を規定している，1947年5月3日に施行された日本の現行憲法である。日本国憲法における，基本理念・原理，及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。日本国憲法全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
			自然科学分野	数学入門	ギリシャ語に語源をもつ数学（Mathematics）は，必ずしも「数の学問」ではなく，その研究対象はとても広い。代数学，幾何学，解析学，統計学などの研究分野がある。数学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。数学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				物理学入門	物理学は，自然科学の一分野であり，自然界に見られる現象には普遍的な法則があると考え，自然界の現象とその性質を解明し理解する学問分野である。物理学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。物理学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				化学入門	化学は，物質の性質を原子や分子のレベルで解明し，化学反応を用いて新しい物質を作り出すことを設計，追求する学問分野である。化学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。化学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				生物学入門	生物学は，生命現象を研究する自然科学の一分野であり，生物やその存在様式を研究対象としている。生物学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。生物学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				地学入門	地学は，地球を研究対象とした自然科学の一分野であり，地球磁気圏から地球内部の核に至るまで，地球の構造や環境，歴史などを対象とした学問分野である。地学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。地学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				工学入門	工学は，数学と自然科学を基礎とし，ときには人文社会科学の知見を用いて，公共の安全，健康，福祉のために有用な事物や快適な環境を構築することを目的とする学問分野である。工学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。工学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				農学入門	農学は，農業・林業・水産業・畜産業などに関わる応用的な学問分野である。数学，物理学，化学，生物学，地学，社会科学などを基礎として研究を行う学問である。農学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。農学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	初修外国語	初級ドイツ語Ⅰ	初修外国語の「初級ドイツ語I～IV」は，ドイツ語とドイツ語圏の事情に関する初級授業である。「初級ドイツ語I」はその入門部分に当たり，ここでは挨拶・自己紹介などの基本的なコミュニケーションの基礎を養う。文法事項としては，綴りと発音の規則に始まり，動詞の人称変化などを中心に学ぶ。「聴く・読む・話す・書く」のバランスの取れた技能の習得を目標とする。	
			初級ドイツ語Ⅱ	「初級ドイツ語I」の基礎の上に，ドイツ語全般の理解に必要となる基本的な知識・技能を習得する授業である。日常的な状況におけるコミュニケーションや表現力の基礎を養う。文法事項もやや高度になり，必要な語彙も少しずつ増加し，動詞や冠詞類の変化など，ドイツ語を運用する上での必須事項を引き続き学ぶ。クラス・教員によって力点の置き方に差はあるが，ここでも目標は「聴く・読む・書く・話す」のバランスのとれた技能の習得である。言語とともに，ドイツ語圏の事情についての知識も身に着けることを目指す。	
			初級ドイツ語Ⅲ	「初級ドイツ語I・II」で学んだ基礎的な知識・技能の上に，より幅広く高度な表現力を習得する授業である。日常的なコミュニケーションや表現力をより豊かにする力を養う。文法事項のレベルも高くなり，さらに多くの語彙を学ぶ。引き続き「聴く・読む・書く・話す」のバランスの取れた技能の習得を目標とし，より複雑な表現にも対応できるようになることを目指す。さらに，ドイツ語という言語に関する知識にとどまらず，ドイツ語圏における文化・習慣・思考などの特徴もより深く理解できるようになる。	
			初級ドイツ語Ⅳ	「初級ドイツ語I・II・III」で学んだ知識や技能に基づき，日常生活において必要なコミュニケーションや表現に対する応用力を養う授業である。より高度な文法事項を含んだ複雑な構文の文章に取り組むことで長文読解力の基礎も習得し，これまでに学んだ事柄を生かす力を養う。ドイツ語圏の事情についての知識も増やすことにより，より円滑なコミュニケーションや表現力の育成を目指す。「初級ドイツ語I」～「初級ドイツ語IV」を通年で受講することによって，ドイツ語検定試験4級程度のレベルに到達することが可能である。	
			初級フランス語Ⅰ	初修外国語の「初級フランス語I～IV」は，フランス語とフランス語圏の事情に関する初級である。「初級フランス語I」はその入門部分である。挨拶・自己紹介などの基本的なコミュニケーションの基礎を養う。文法事項としては，綴りと発音の規則に始まり，動詞の人称変化などを中心に学ぶ。「聴く・読む・話す・書く」のバランスの取れた技能の習得を目標とする。	
			初級フランス語Ⅱ	「初級フランス語I」の基礎の上に，フランス語全般の理解に必要となる基本的な知識・技能を習得する。日常的な状況におけるコミュニケーションや表現力の基礎を養う。文法事項もやや高度になり，必要な語彙も少しずつ増加し，動詞や冠詞類の変化など，フランス語を運用する上での必須事項を引き続き学ぶ。「聴く・読む・書く・話す」のバランスのとれた技能の習得が目標である。言語とともに，フランス語圏の事情について学習する。	
			初級フランス語Ⅲ	「初級フランス語I・II」で学んだ基礎的な知識・技能の上に，より幅広く高度な表現力を習得する授業である。日常的なコミュニケーションや表現力をより豊かにする力を養う。文法事項のレベルも高くなり，さらに多くの語彙を学ぶ。「聴く・読む・書く・話す」のバランスの取れた技能の習得し，より複雑な表現を学習する。さらに，フランス語だけでなく，フランス語圏における文化・習慣・思考などの特徴もより深く理解できるようになる。	
			初級フランス語Ⅳ	「初級フランス語I・II・III」で学んだ知識や技能に基づき，より高度な文法事項の習得とより複雑な構文の文章の理解に取り組む。日常生活において必要なコミュニケーションや表現に対する応用力を養う。フランス語圏の事情についての知識も増やし，より円滑なコミュニケーションや表現力の学習する。「初級フランス語I」～「初級フランス語IV」を通年で受講することによって，フランス語検定試験4級程度のレベルに到達することが可能である。	
			初級中国語Ⅰ	初めて中国語を学ぶものを対象とした中国語の入門授業。四技能のうち「話す」と「聞く」に重点を置く。最初の五回の授業で発音の基礎とピンイン（中国語の表音ローマ字）の読み方と綴り方を集中的に学習する。その後，発音のトレーニングを継続しながら，動詞述語文，形容詞述語文，名詞述語文，主述述語文，構造助詞「的」の用法を学ぶ。単語については２５０語の習得を目標とする。授業終了時には，中国語検定試験準４級の半分程度のレベルに受講生は到達する。	
			初級中国語Ⅱ	「初級中国語Ⅰ」の基礎に立ち，四技能のうち「話す」と「聞く」と重点的に鍛える。発音のトレーニングを継続しながら，数量補語，各種疑問文，指示代名詞，所有表現，親族名称，場所表現，数量詞，動詞連続，完了態，変化態について学ぶ。単語については５００語の習得を目標とする。授業終了時には，中国語検定試験準４級のレベル，すなわち，中国語学習を進めていく上での最低限の基礎知識を習得したレベルに受講生は到達する。	
			初級中国語Ⅲ	「初級中国語Ⅰ・Ⅱ」の基礎に立ち，四技能のうち「話す」と「聞く」を引き続き重点的に鍛える。同時に，「読む」と「書く」を徐々に導入する。発音のトレーニングも継続する。経験態，可能を表す助動詞，進行態，程度副詞，比較表現，年月日時刻曜日の表現，金額の表現，複雑な連体修飾語，前置詞，複雑な連用修飾語を学ぶ。単語については７５０語の習得を目標とする。授業終了時には，中国語検定試験準４級と４級の中間レベルに受講生は到達する。	
			初級中国語Ⅳ	「初級中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の基礎に立ち，四技能のうち「話す」と「聞く」に重点を置きながらも，「読む」と「書く」も平行して習得していく。発音のトレーニングも継続する。程度補語，数量補語，結果補語，方向補語，可能補語，願望を表す助動詞，必要・義務を表す助動詞，禁止表現，受動態，使役表現，「把」構文，存現文を学ぶ。単語については１０００語の習得を目標とする。授業終了時には，中国語検定試験準４級のレベル，すなわち，中国語の基礎をマスターし，平易な中国語を聞き，話すことができるレベルに受講生は到達する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	初修外国語	初級朝鮮語Ⅰ	初修外国語の「初級朝鮮語I～IV」は，朝鮮語の初心者を対象とした授業である。「初級朝鮮語Ⅰ」は，ゼロから朝鮮語の文字（ハングル）や発音に習熟し，日常生活における初歩的なコミュニケーションができることを到達目標とする。たとえばあいさつや自己紹介をしたり，住んでいるところ，好き嫌い，学生生活などについて話せるようにする。授業では，「読む・書く・聞く・話す」の４つの技能をバランスよく習得できるようにし，学生同士の対話練習や発表の時間を多く持つ予定である。	
			初級朝鮮語Ⅱ	「初級朝鮮語Ⅰ」に引き続き，「初級朝鮮語Ⅱ」では，朝鮮語の文字（ハングル）や発音を習得できるようにし，ハングルでパソコン入力ができるようにする。また，「初級朝鮮語Ⅱ」では，描写力の基本を身に付けることを目標とする。具体的には，物のあるなしや位置関係，さらには，一日の生活や一週間の生活を話せるようにし，人や物の特徴についても言えるようにする。授業では，話す技能とともに，聞く能力，書く技能も同様に伸ばすようにする。	
			初級朝鮮語Ⅲ	「初級朝鮮語Ⅰ」「初級朝鮮語Ⅱ」に引き続き，「初級朝鮮語Ⅲ」では様々なコミュニケーションの場に応じた表現を身につける。具体的には，相手に働きかける表現を中心として，頼む・指示する・勧める，意向・欲求を言う，誘う・提案といった，日常生活において事態をを一歩進める表現ができるようにする。さらには，敬語表現を学ぶことによって，人間関係に応じた言葉づかいができるようにする。これらの表現は，対話練習と書く練習，聞く練習によって習熟するようにする。	
			初級朝鮮語Ⅳ	「初級朝鮮語Ⅰ」「初級朝鮮語Ⅱ」「初級朝鮮語Ⅲ」に引き続き，「初級朝鮮語Ⅳ」ではより円滑なコミュニケーションが図れるような表現を身につける。たとえば，時間表現，過去のことやこれからのことが話せるようにする。さらには，理由・目的・対立の表現を学んで因果関係を表したり，推測・仮定，可能，不可能の表現ができるようにする。さらには，対話練習や作文練習に加えて，短い文章を多く読むことを通じて，読解能力を伸ばすことも目指す。	
			初級フィリピノ語Ⅰ	フィリピノ語のアルファベットの読み方，発音から始め，簡単な挨拶，自己紹介ができるようにする。具体的には，初歩的な読み・書き・話すの３技能を獲得するため，初学者用の教科書に沿って，フィリピノ語の単語についての基礎知識，フィリピノ語の述部＋主部からなる基本文型を習得して，フィリピノ語の特徴を理解するとともに，語順，前節語（人称代名詞，小辞）についても理解する。これらに習熟するために音声教材を利用し，繰返し発音するとともに，書取りも行い，上記の技能の定着を図る。	
			初級フィリピノ語Ⅱ	「初級フィリピノ語I」で習得した内容を定着させ，さらに継続発展を行うため「初級フィリピノ語I」で使用した教科書および音声教材を引続き使用する。語彙力の強化とともに文法力の強化によって表現の幅を広げるため，フィリピノ語における標識辞の機能を理解し，これに習熟するために主題を示すang形を理解するとともに，所有等を表すng形を理解する。また修飾・被修飾の関係を示す繋辞の機能についても理解する。これらを通じて，基本的な読み書き話すの３技能の強化を行う。	
			初級フィリピノ語Ⅲ	「初級フィリピノ語II」で習得した内容を定着させ，語学力を系統的に涵養するため「初級フィリピノ語I」「初級フィリピノ語II」で使用した教科書・音声教材に準拠しながら，さらに多様な表現力および読解力を身につける。具体的には，基本文型の一つである同位文，標識辞のsa形の機能，形容詞の副詞的用法を理解する。さらに動詞の活用と相（アスペクト）を理解する。まずは行為者焦点動詞の重点的な習熟を図る。これらにより，日常的な行為についてフィリピノ語による口頭表現，文章表現を可能にする。	
			初級フィリピノ語Ⅳ	「初級フィリピノ語I」「初級フィリピノ語II」「初級フィリピノ語III」で習得したことをもとに，一通りのフィリピノ語の初級文法を理解することによって，旅行に出た時に必要となる基本的な表現力を身につけるとともに簡単な文章の読解力を身につける。具体的には，引き続き教科書・音声教材を活用しつつ，動詞については多様な「非行為者焦点動詞」に習熟するとともに「行為者焦点動詞」との対応や関係を理解し，かつ動詞のモードを理解することで，同一事象に関しての多様な表現の可能性を知り，フィリピノ語の特徴を把握する。	
		高年次教養科目	文系主題科目	初年次を中心として開講している教養教育科目は，高校卒業程度の知識レベルを基礎としている。そのため，その教育内容は，現代社会で必要とされる内容には十分ではない。そこで，ある程度専門教育を受けた2年次後期以降に，文系の学問領域に関する種々の主題を例として，文系の高度な教養を身につける事を目的とした講義である。現代社会が直面する課題を認識しその解決に貢献できる人材が備えているべき文系の素養の育成を目指す。講義形式は座学やe-ラーニングを有効に活用し，選択科目として開講する。	
			理系主題科目	初年次を中心として開講している教養教育科目は，高校卒業程度の知識レベルを基礎としている。そのため，その教育内容は，現代社会で必要とされる内容には十分ではない。そこで，ある程度専門教育を受けた2年次後期以降に，理系の学問領域に関する種々の主題を例として，理系の高度な教養を身につける事を目的とした講義である。現代社会が直面する課題を認識しその解決に貢献できる人材が備えているべき理系の素養の育成を目指す。講義形式は座学やe-ラーニングを有効に活用し，選択科目として開講する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	発展科目	英語プロフェッショナル養成コースに関する科目	Oral Communication	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なオーラルコミュニケーション・スキルを涵養するための授業である。日常生活や旅行などの過去の個人的経験を基にした会話，公共機関や職場といった社会的な場等，様々な文脈での実践的コミュニケーションの場面において，かなり詳細な内容の英語を正確に聞き取り，それに対して，自分の意見を効果的に述べられることを到達目標としている。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。	
			Speaking & Reading Strategies	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なリーディング・スキルを涵養するための授業である。多読・速読用のテキストを活用する共に，英字新聞やインターネット上の英語で書かれた社会的な問題を扱った記事を速読し，その内容を正しく理解し，自らの批評的意見に基づき，発展的な議論を展開できることを到達目標としている。毎回の授業では，ICTを活用して最新の記事にアクセスし，話題提供を行うとともに，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。	
			Effective Presentations	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なプレゼンテーション・スキルを涵養するための授業である。各自の研究や様々な社会問題をテーマにして，インターネットなどを活用して必要な資料収集を行い，効果的な英語表現を使ったスライドを作成できること，さらに，視覚的に理解しやすいスライドに仕上げること，そしてそれらを効果的に英語で発表できることを到達目標としている。毎回の授業では英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。	
			Writing Workshop	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なライティング・スキルを涵養するための授業である。自分の興味のある話題について，文献だけでなくインターネットや簡単なフィールドワークなどを利用したリサーチ・プロジェクトを遂行できること，さらにその調査の結果を論理的に説得力のある小論文（エッセイ）としてまとめることを到達目標としている。毎回の授業では英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式と，作文の添削指導を行うチュータリング形式を用いた学習活動を行う。	
			Academic Reading	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なアカデミック・リーディング・スキルを涵養するための授業である。英語で書かれた学術出版物を理解できること，興味のある学術分野について説明することができること，読み手に配慮した大学院進学志望書を書くことができることを到達目標としている。毎回の授業では，講義形式で話題提供を行い，その後ディスカッション形式で意見交換を行う学習内容となっている。なお，志望書の添削指導を行うチュータリング形式を用いた学習活動も行う。	
			Writing Strategies	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なアカデミック・ライティング・スキルを涵養するための授業である。リサーチ・ペーパーの構造を理解し説明できること，正しい引用方法を用いて，興味のある分野の内容に関して期末レポートをまとめられることを到達目標としている。毎回の授業では英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式と，レポート作成に際して，添削指導を行うチュータリング形式を併用した学習活動を行う。	
			Discussion Skills	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なディスカッション・スキルを涵養するための授業である。現代社会の様々な問題を認識し，自分の意見を明確に，流暢さをもって述べられること，他人の意見に対して正当な理由をもって賛成，または反対の意見を述べられることを到達目標としている。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式，及び意見交換・討論を行うディスカッション形式の学習活動を行う。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	発展科目	英語プロフェッショナル養成コースに関する科目	English For Academic Research	基礎科目として学んだ英語を基に，学術研究のための汎用的な英語運用能力を涵養するための授業である。比較的専門的な内容の英文（雑誌記事や論文等）を読解できること，授業で扱ったテーマについてエッセイを書くことができること，そしてそれらの内容について批判的思考ができることを到達目標としている。毎回の授業では，講義形式で話題提供を行い，その後，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式を用いた学習活動を行う。	
			Business English	基礎科目として学んだ英語を基に，ビジネスのための英語運用能力を涵養するための授業である。ビジネス英語の語彙に習熟できること，ビジネス場面で使用される英語表現を理解し，使用できること，そしてビジネスに関する時事的な話題について議論できることを到達目標としている。毎回の授業では，講義形式で話題提供を行い，その後，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式，及びディスカッション形式の学習活動を行う。	
			Introducing Japanese Culture in English	基礎科目として学んだ英語を基に，日本文化を紹介するための英語運用能力を涵養するための授業である。日本に特有な行動様式について理解し，英語で丁寧に説明できること，日本固有の文化（衣・食・住・祭等に関する様々なテーマ）について英語で説明できることを到達目標としている。毎回の授業では，講義形式で話題提供を行い，その後，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式，及びプレゼンテーション形式の学習活動を行う。	
			Oral Performance	基礎科目として学んだ英語を基に，発展的なオーラル・パフォーマンス能力を涵養するための授業である。演劇やミュージカル，落語（英語小噺も含む），芝居，パブリック・スピーキングなどの様式を用いて，より豊かな英語表現力を身につけることを到達目標としている。毎回の授業では，自宅でのリハーサルトレーニングの成果を発表し，学生同士相互評価を行う。なお，英語の4技能のみならず，身体表現なども活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動も行う。	
			Introductory Interpretation	基礎科目として学んだ英語を基に，通訳技法の基礎を学ぶための授業である。精通しているトピックについて日・英の両言語で丁寧に説明できること，日・英の両言語で素早くノート・テークができること，さらに架空の状況で，学んだ通訳技法を教室環境で披露できることを到達目標としている。毎回の授業では，講義形式による話題提供の他，シャドーイングなどの通訳訓練法，さらに英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。	
			Studying English Abroad Ⅰ	前期集中科目として，英語プロフェッショナル養成コース所属の学生を対象として開講される科目。夏季休業中における海外での短期語学研修に参加した学生に対して，研修先より発行された修了証等を確認し，一定の単位を認定する授業である。なお，事前・事後指導の受講が義務づけられており，それらを適切に受講していない場合は，単位認定は行われない。特に，事前指導では，渡航先での安全・危機管理面の講習を，事後指導では発表会と海外研修レポートの執筆・提出という課題が用意されている。	
			Studying English Abroad Ⅱ	後期集中科目として，英語プロフェッショナル養成コース所属の学生を対象として開講される科目。春季休業中における海外での短期語学研修に参加した学生に対して，研修先より発行された修了証等を確認し，一定の単位を認定する授業である。なお，事前・事後指導の受講が義務づけられており，それらを適切に受講していない場合は，単位認定は行われない。特に，事前指導では，渡航先での安全・危機管理面の講習を，事後指導では発表会と海外研修レポートの執筆・提出という課題が用意されている。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	発展科目	愛媛大学リーダーズ・スクールに関する科目	愛媛大学リーダーズ・スクール	本科目は，組織や社会を牽引するリーダー及びそれをサポートすることで組織の有効性を増すフォロワーに必要な知識・行動・態度の修得を目的とするものであり，リーダーシップの理論学習に止まらず，グループワークやプレゼンテーション等を含むアクティブな授業を実施する事で学んだ事柄を試行・実践する機会を設けている。複数のスタッフによる体系的・段階的・継続的な支援・教育を通じ，本人の人間的な成長の促進，大学の活性化，卒業後の社会貢献に資するプログラムを提供している。	
			グローバル・リーダーシップⅠ	急速にグローバル化が進む現代社会においては，国内外の多様な人々と円滑なコミュニケーションをとりつつ協働する能力が求められている。本科目では，通常の講義に加え，韓国の大学との共同研修等を通して，価値観や文化的背景が異なるメンバー同士がお互いの主張を認め，協力して一つの物事に取り組む上で必須となる態度やスキルについて学ぶ。受講生らが，今後わが国の経済を担う国際的な人材となる上で役立つ意思疎通能力や主体性等を養成することをねらいとする。	
			グローバル・リーダーシップⅡ	ボーダーレス化する現代社会においては，異なる言語・文化・習慣を持つ多様な人材と意思の疎通を図りつつ協働する力が必須となる。本科目では，海外（サイパン）の小・中・高等学校の生徒たちを相手にした授業を作成し実施すると共に，現地教員からの助言を受け，彼らと議論を重ねることで授業の改良・改善に取り組む。加えて，現地の生徒を相手とした日本文化の紹介活動についてもチームで企画・立案し実施する。これらを通じ，受講生たちが国際的な人材となる上で必須の積極的コミュニケーションや，リーダーシップの発揮について学ぶことを目的とする。	
		サーバント・リーダー養成に関する科目	地域未来創成入門	本講義では，一次産業を中心とした未来社会の持続的発展に貢献できるサーバント・リーダー（地域社会で献身的に活動するリーダー）としての素養を身につける。授業を通じて自らが目指すサーバント・リーダーのあり方について説明すること，持続不可能な地域と世界の現状について，自然・社会文化・経済の視点から説明すること， 一次産業を中心とした持続可能な未来社会像について説明すること，地域において学習・調査活動に関わることのできるフィールドワーク手法と危機管理方法について説明することができるようになることをめざす。	
			カルチャーシェアリング	日本・インドネシアの言語・文化を理解し，多様な主体との協調を通じて地域の未来ビジョンを語る能力を身につける。本授業は，国内サービスラーニングと同時期に実施する。講義では，インドネシアの学生とともに，相手の文化を理解・尊重しながら，協力しあう能力，英語またはインドネシア語で，自国の生活・文化を説明する能力，英語またはインドネシア語で，自らの未来ビジョンを語る能力を身につけることをめざす。SUIJIサーバント・リーダー養成に関する科目「国内サービスラーニング」の受講を希望する学生を対象とする。	
			ベーシック国内サービスラーニング	四国3大学（愛媛・香川・高知大学）が設定するフィールドにおいて，四国3大学とインドネシア3大学双方の学生と協働で，地域の課題と可能性を発掘して課題を解決する方策を見いだす地域貢献活動を行う。本授業は，自ら発掘した地域の課題と可能性を説明することができる，地域から世界の未来を開拓する方法を説明することができる，長期にわたって国内の僻地で持続的に活動するための方法を説明し，実践することができる，言語，文化理解に基づき多様な主体との協調を通じて地域の未来ビジョンを発表することができる能力を習得する。	
			アドバンスド国内サービスラーニング	四国3大学（愛媛・香川・高知大学）が設定するフィールドにおいて，四国3大学とインドネシア3大学双方の学生と協働で，地域の課題と可能性を発掘して課題を解決する方策を見いだす地域貢献活動を行う。本授業は，学生が地元住民など多様な主体と協働しながら，地域の課題解決を目指し，地域の未来可能性を活用した地域貢献活動を実践する為に必要な，ベーシック国内サービスラーニングにおいて習得する能力に加えて，地域課題を解決し，地域のポテンシャルを活用した行動を示すことができる能力を習得する。	
			ベーシック海外サービスラーニング	インドネシア3大学（ガジャマダ・ボゴール農業・ハサヌディン大学）が設定するフィールドに出向き，四国3大学とインドネシア3大学双方の学生と協働で，地域の課題と可能性を発掘して課題を解決する方策を見いだす活動を行う。本授業は，自ら発掘した地域の課題と可能性を説明する，地域から世界の未来を開拓する方法を説明する，長期にわたって国内の僻地で持続的に活動するための方法を説明し実践する，言語，文化理解に基づき多様な主体との協調を通じて地域の未来ビジョンを発表することができる能力を習得する。	
			アドバンスド海外サービスラーニング	インドネシア3大学（ガジャマダ・ボゴール農業・ハサヌディン大学）が設定するフィールドに出向き，四国3大学とインドネシア3大学双方の学生と協働で，地域の課題と可能性を発掘して課題を解決する方策を見いだす活動を行う。本授業は，学生が地元住民など多様な主体と協働しながら，地域の課題解決を目指し，地域の未来可能性を活用した地域貢献活動を実践する為に必要な，ベーシック海外サービスラーニングにおいて習得する能力に加えて，地域課題を解決し，地域のポテンシャルを活用した行動を示すことができる能力を習得する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	発展科目	環境ＥＳＤ指導者養成講座に関する科目	持続可能な社会づくり（ＥＳＤ）	本講義では，愛媛大学環境ESD指導者養成カリキュラムの基礎として，自然環境，社会文化，経済分野を横断的に学び，地域からグローバルな地域的広がりにおいて現状を理解し，様々な事象の連関性に気づき，理解するために分析する力を身につけることを目的とする。さらに，人々の意識を変革するために有効な学びの場を企画し提供するという，自ら行動する姿勢を身につけることを目指す。授業は，ESD教材を実際に使いながらグループワーク形式で実施する。	
			環境ＥＳＤ指導者養成講座Ⅰ	持続可能な社会づくりのための環境教育（環境ESD）の指導者に必要な知識と技能を修得する。講義では実際にフィールドに出向き，地域住民，NPO代表者などと関わりながら，地域の自然環境，社会文化，経済の持続不可能な事柄を探求し，持続可能な資源の発掘を行うための技能を身につける。グループワークを通じて，より持続可能な社会を目指した，環境ESDを企画するための知識と技能を学ぶ。本講義は，フィールド実習と合わせて学内外の講師陣から提供される分野横断型の知識と技能を習得することを目指す。	
			環境ＥＳＤ指導者養成講座Ⅱ	本講義は，環境ESD指導者養成講座Iの履修を通じて学んだ持続可能な社会づくりのための環境教育（環境ESD）の指導者に必要な知識と技能をベースに，学生自らが環境ESD活動を企画・運営を行い，学習成果を地域社会に還元する手法を学ぶ。さらに，地域で持続可能な社会づくりを実践している実践者を講師陣に向かえ，実践に結びつく知識と技能を習得することを目指す。講義では，グループワークを通じて，より持続可能な社会を目指した，環境ESDを企画するための知識と技能を学ぶ。	
			環境ＥＳＤ指導者養成演習Ⅰ	本講義の受講生は，環境ESD（持続可能な社会づくりのための環境教育）に関連する活動を行っている諸団体等でのインターンシップを通じて，環境ESDの企画運営に関する実務を学ぶ。持続可能な社会づくりを意識した活動を体験しながら，地域に密着した人的・物的資源を発掘することと，環境ESD指導者II種を取得するまでに学んだ知識と経験を，インターンシップ先の活動を通じて，地域社会に還元することを目的としている。インターンシップ期間は原則60時間とする。	
			環境ＥＳＤ指導者養成演習Ⅱ	本講義の受講生は，環境ESD指導者養成演習Ⅰを受講していることが条件である。環境ESD（持続可能な社会づくりのための環境教育）に関連する活動を行っている諸団体等でのインターンシップを通じて，環境ESDの企画運営に関する実務を学ぶ。持続可能な社会づくりを意識した活動を体験しながら，地域に密着した人的・物的資源を発掘することと，環境ESD指導者II種を取得するまでに学んだ知識と経験を，インターンシップ先の活動を通じて，地域社会に還元することを目的としている。インターンシップ期間は原則60時間とする。	
		スキルアップ科目	英語Ｓ１	前期集中科目として，全学部学生を対象とした科目。夏季休業中における海外での短期語学研修に参加した学生に対して，研修先より発行された修了証等を確認し，一定の単位を認定する授業である。なお，事前・事後指導の受講が義務づけられており，それらを適切に受講していない場合は，単位認定は行われない。特に，事前指導では，渡航先での安全・危機管理面の講習を，事後指導では発表会と海外研修レポートの執筆・提出という課題が用意されている。	
			英語Ｓ２	後期集中科目として，全学部学生を対象とした科目。春季休業中における海外での短期語学研修に参加した学生に対して，研修先より発行された修了証等を確認し，一定の単位を認定する授業である。なお，事前・事後指導の受講が義務づけられており，それらを適切に受講していない場合は，単位認定は行われない。特に，事前指導では，渡航先での安全・危機管理面の講習を，事後指導では発表会と海外研修レポートの執筆・提出という課題が用意されている。	
			英語Ｓ３	英語のスピーキング・リスニング・ライティング・リーディングの技能間の連携を意識した学習を通して，高度な英語コミュニケーション力の習得を目指す授業である。英語で情報を入手し，その情報を基に英語で自分の考えを構築し，発信する能力を身に付ける。ペアワーク・グループワーク・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行い，積極的に英語を使い議論に参加できるだけでなく，明瞭かつ簡潔な英語表現で自分の意見を伝えるようになることを目指す。	
			ライフスポーツ	初心者を対象にした水泳及びスキーを内容とする集中授業を開講している。水泳は，特に教員免許状の取得を目指す学生を中心にして授業を行っている。夏季に正規のクロール，平泳ぎの泳法と指導方法を理解し，息継ぎをしながら泳ぐことができることを目指す。スキーは，冬季にスキー場において授業を行う。主に初心者を対象に受講生の経験の少ない自然環境下で，共同生活をしながら初～中級者レベルのスキルの獲得を目指す。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	発展科目	食育士プログラムに関する科目	食育入門	「食」は，人が健やかに生きていくための源であり，生涯を通じて健全な心身を保ち，豊かな人間性をはぐくむためには，健全な食生活が不可欠である。我が国の食生活は，海外からの食料輸入の増大に加え，食の外部化や生活様式の多様化が進み，若年層の生活習慣病増加や，食料資源の浪費等の諸問題が顕在化している。現在食に関してどのような問題点があるのか，またなぜ食育が今必要なのかを考える。また，現代の食生活がどのように形成されたのか，食文化から考える。	
			食育総論	今日の日本の食は，物的にはきわめて豊かになった。しかし，その一方で，世界人口増加に比例して食料不足や貧困問題が深刻化している。日本国内でも食料自給率の低下や農家の高齢化，後継者不足など，農に関する様々な問題が発生している。そうした中で，食と農の間に大きな断絶があり，新たな関係構築の必要性が指摘されている。本講義では，食と農に関わる現状や問題点について，作物学，森林科学，水産学，社会学など各視点から考えるとともに，日本の食と農の関係について明らかにする。	
		防災エキスパートに関する科目	環境防災学	防災士の取得を前提とした講義であり，防災士（ぼうさいし）とは，特定非営利活動法人日本防災士機構による民間資格である。本講義は，防災士機構の認定に基づく講義であり，災害に関する一般的知識との習得と，松山消防局職員による救命講習の実技からなる。講義で補うことができない内容については，レポート課題として補完する。本講義単位取得者は，日本防災士機構の資格試験に合格すれば，防災士の資格を取得することができる。	
		教員免許に関する科目	スポーツと教育	教員免許状取得を目指す学生を対象にして開講する。小～高等学校の公式行事として，保健体育関係の行事等は複数あり，将来的にそれらに円滑に対応することができることを目指して本授業で経験を積む。授業内容を以下に示す３つのパートに区分し，３もしくは４回にわたり各パートを順次受講する。１）児童・生徒間の親睦を図るレクリエーション種目の実践，２）科学的根拠に基づいた運動系のクラブ活動の指導，３）運動会やクラスマッチの企画・運営の実践。	
		自律学習プログラムに関する科目	知の最前線に学ぶ	本学では知の最前線の著名な担い手を国内外から招聘し，様々な講演会やシンポジウムを随時開催している。学生は，①これらの学術講演会のうち5件を選択して聴講し，②それぞれの講演会で学んだことをレポートとして提出するとともに，③これら一連の講演会を通して得られた学修の成果について口頭試問を受けることにより，1単位を取得できる。本科目の取り組み期間は随意で，学期・年度を越えてもよい。学生が自律的に最先端の科学に触れる機会を見いだし，自らの知的可能性を広げる原動力となることを目的とする。	
			プロジェクト学習	学生が個人またはグループ単位で自由にテーマを設定し，自主的にその研究プロジェクトに取り組むことを主眼とする科目である。自らが発想したテーマについて，自律的に課題発見・解決に取り組むことを通して，汎用的能力と知の技法を身につけることを目的としている。プロジェクトの学習期間は随意で，学期・年度を越えてもよい。所定の活動成果報告書が提出された時点でプロジェクトが終了したものと扱われ，成績評価が行われる。1プロジェクトにつき，2単位が付与される。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	留学生対象科目	日本語科目	アカデミックジャパニーズ１	本科目の目的は，大学での学習に必要な総合的な日本語能力の向上および習熟を図ることであり，到達目標は，１.大量の日本語情報から，一定時間内で大意を的確に把握し，２.それに基づいて自らの意見形成を行い，３.日本語で表現できるようになることである。文法的な正確さはある程度まで求めるが，伝達能力をより重視する。授業は聴解主体の回と読解主体の回を交互に繰り返す。読解，聴解とも生教材を主に使用する。	
			アカデミックジャパニーズ２	本科目の目的は，大学での学習に必要な総合的な日本語能力の向上および習熟を図ることであり，到達目標は，１.大量の日本語情報から，一定時間内で大意を的確に把握し，２.それに基づいて自らの意見形成を行い，３.日本語で表現できるようになることである。文法的な正確さはある程度まで求めるが，伝達能力をより重視する。授業は生教材を用いての聴解が主体となる。また，グループワークの比重が高くなる。	
			アカデミックジャパニーズ３	本科目の目的は，大学生活の中でよくあるケースを基本に，相手や機能によって適切なメールの書き方と表現を学び，今後の人間関係を良好にしていけるようなメールが書けることである。具体的な到達目標は，１）日本語学習者に多い誤用例や，誤解を生みやすい表現について理解し，適切な表現を正しく使えるようになる，２）相手や場合にふさわしいメールを書くことができるようになる，である。そのため，実際にメールを送る課題を通じ，知識の定着をはかる。	
			アカデミックジャパニーズ４	本科目の目的は，将来専門課程で必要とされる口頭発表・またその後の質疑応答が可能になるような日本語表現力ー「描写」「説明」「意見のサポート」方法ーを身につけることである。そのため，大学生として適切な口頭発表を行うために必要な手順を，具体的に理解し，実践できることを目指す。その手段として，授業中は留学生同士また日本人ボランティアとのピア活動を積極的に行い，ピアによる発表原稿や口頭発表の見直し・振り返りを通して，ピアサポートの方法を知る。	
			日本語Ａ１	前学期に開講する本科目の目的は，日本語初級前半レベルの４技能（話す・聞く・読む・書く）を総合的に学習し，大学生活における日本人とのコミュニケーションに役立てることである。到達目標は，日常生活に必要な語彙・文型を覚え，実際の場面でそれらを使って日本人と会話できることである。授業は，日本語初級教科書に基づいて進め，毎回宿題を課し，定期的にテストを実施する。受講生は，ひらがな・カタカナをすでに学習していることを前提とし，基本的に日本語で行う。また必ず予習・復習を必要とする。	
			日本語Ａ２	後学期に開講する本科目の目的は，日本語初級前半レベルの４技能（話す・聞く・読む・書く）を総合的に学習し，大学生活における日本人とのコミュニケーションに役立てることである。到達目標は，日常生活に必要な語彙・文型を覚え，実際の場面でそれらを使って日本人と会話できることである。授業は，日本語初級教科書に基づいて進め，毎回宿題を課し，定期的にテストを実施する。受講生は，ひらがな・カタカナをすでに学習していることを前提とし，基本的に日本語で行う。また必ず予習・復習を必要とする。	
			日本語Ｂ１	前学期に開講する本科目の目的は，日本語初級後半レベルの４技能（話す・聞く・読む・書く）を総合的に学習し，大学生活における日本人とのコミュニケーションに役立てることである。到達目標は，１．日本語の動詞や形容詞の活用を正しい形で使用できる，２．教科書に出てくる語彙や文法を用いて，４技能をまんべんなく習得する，３．実際の場面で，学習した語彙・文法を使って日本人と会話できる，の３点である。授業は，日本語初級教科書に基づいて進め，毎回宿題を課し，定期的にテストを実施する。また必ず予習・復習を必要とする。	
			日本語Ｂ２	後学期に開講する本科目の目的は，日本語初級後半レベルの４技能（話す・聞く・読む・書く）を総合的に学習し，大学生活における日本人とのコミュニケーションに役立てることである。到達目標は，１．日本語の動詞や形容詞の活用を正しい形で使用できる，２．教科書に出てくる語彙や文法を用いて，４技能をまんべんなく習得する，３．実際の場面で，学習した語彙・文法を使って日本人と会話できる，の３点である。授業は，日本語初級教科書に基づいて進め，毎回宿題を課し，定期的にテストを実施する。また必ず予習・復習を必要とする。	
			日本語口頭表現Ｃ１	前学期に開講する本科目の目的は，初級で学習した文法や語彙の復習をし，単文から複文へとより高度な表現を学習することにより，物事を詳細に説明する能力，論理的な意見の交換，発表するための口頭表現能力を身につけることである。また，到達目標は，１．日本と自国の社会・文化等の共通点や相違点を理解してスピーチすることができる，２．提起されたテーマについて，J-support（日本人学生・社会人）と話し合うことができる，３．話し合ったことを文章にまとめ，発表することができる，　の３点である。授業は，教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語口頭表現Ｃ２	後学期に開講する本科目の目的は，初級で学習した文法や語彙の復習をし，単文から複文へとより高度な表現を学習することにより，物事を詳細に説明する能力，論理的な意見の交換，発表するための口頭表現能力を身につけることである。また，到達目標は，１．日本と自国の社会・文化等の共通点や相違点を理解してスピーチすることができる，２．提起されたテーマについて，J-support（日本人学生・社会人）と話し合うことができる，３．話し合ったことを文章にまとめ，発表することができる の３点である。授業は，教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語読解作文Ｃ１	前学期に開講する本科目の目的は，１．初級の基礎的な学習を踏まえ，より高い総合的技能の習得を目指す，２．日本語の基礎的構造を知り，それを運用する能力を身に付ける，３．自律的な学習スタイルを習得する，の３点である。また，到達目標は，１．初級の文型表現を運用することができる，２．自分の考えを短文で表現できる，３．日本語能力試験３級程度の語彙（特に漢字）を理解し使用できる，の３点である。授業は，教材プリント(事前配布)に基づいて進行する。	
			日本語読解作文Ｃ２	後学期に開講する本科目の目的は，１．初級の基礎的な学習を踏まえ，より高い総合的技能の習得を目指す，２．日本語の基礎的構造を知り，それを運用する能力を身に付ける，３．自律的な学習スタイルを習得する，の３点である。また，到達目標は，１．初級の文型表現を運用することができる，２．自分の考えを短文で表現できる，３．日本語能力試験３級程度の語彙（特に漢字）を理解し使用できる，の３点である。授業は教材プリント(事前配布)に基づいて進行する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	留学生対象科目	日本語科目	日本語口頭表現Ｄ１	前学期に開講する本科目の目的は，クラスメートやJ-support（日本人学生・社会人）の対話を通して，文化や社会，人間などについて考える力と，それをスピーチで表現したり，グループで話し合ったりする日本語力を身に付けることである。また，到着目標は，１．自分の体験や意見を日本語で表現できる，２．相手の意見を聞いて理解できる。３．考え方や価値観が異なる相手と対話して，自分の考えを深めたり，新しい考えを創設したりできる，の３点である。授業は教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語口頭表現Ｄ２	後学期に開講する本科目の目的は，クラスメートやJ-support（日本人学生・社会人）の対話を通して，文化や社会，人間などについて考える力と，それをスピーチで表現したり，グループで話し合ったりする日本語力を身に付けることである。また，到着目標は，１．自分の体験や意見を日本語で表現できる，２．相手の意見を聞いて理解できる，３．考え方や価値観が異なる相手と対話して，自分の考えを深めたり，新しい考えを創設したりできる，の３点である。授業は教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語読解作文Ｄ１	前学期に開講する本科目の目的は，大学での学びに必要となる読解のスキルとレポートを書く時のルールを学ぶことである。読解は，必要な情報を的確に把握できるよう，接続表現や文末表現など着目すべき点を学び，文と文，段落と段落の関係を正しくとらえる能力の養成を目指す。また，他者に分かりやすく伝えられるよう，レポートを書く時のルール，文型，表現を身につける。合わせて教材にある語彙の定着も目指す。授業は教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語読解作文Ｄ２	後学期に開講する本科目の目的は，大学での学びに必要となる読解のスキルとレポートを書く時のルールを学ぶことである。読解は，必要な情報を的確に把握できるよう，接続表現や文末表現など着目すべき点を学び，文と文，段落と段落の関係を正しくとらえる能力の養成を目指す。また，他者に分かりやすく伝えられるよう，レポートを書く時のルール，文型，表現を身につける。合わせて教材にある語彙の定着も目指す。授業は教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語口頭表現Ｅ１	前学期に開講する本科目の目的は，場面に応じた「適切な待遇表現」を学び，日本人を招くビジターセッション（インタビュー）運営等を通して，場面に応じた待遇表現運用力の向上を目指す。また到着目標は，１．ビジターに接するとき，相手にふさわしい話し方や表現を使って，質疑応答ができる，２．考え方や価値観が異なる相手と対話して，自分の考えを深めたり，新しい考えを創設したりできる，３．テーマを理解するために必要な情報・知識を適切な方法を使って入手できる，の３点である。	
			日本語口頭表現Ｅ２	後学期に開講する本科目の目的は，場面に応じた「適切な待遇表現」を学び，日本人を招くビジターセッション（インタビュー）運営等を通して，場面に応じた待遇表現運用力の向上を目指す。また到着目標は，１．ビジターに接するとき，相手にふさわしい話し方や表現を使って，質疑応答ができる，２．考え方や価値観が異なる相手と対話して，自分の考えを深めたり，新しい考えを創設したりできる，３．テーマを理解するために必要な情報・知識を適切な方法を使って入手できる，の３点である。	
			日本語読解作文Ｅ１	前学期に開講する本科目の目的は，日本語表現全般に通じる基礎的な方法を習得するため，表現を「通信・案内・伝達」「記録・報告」「意見・主張」の三部に分け，ジャンル・形式別の日本語表現方法を身に付けることである。到達目標は，１．文章を書く場合の一般的な手順や基本を理解する，２．場面や相手に応じた適切な手段で自己表現ができる，３．情報を収集・整理し，正確かつ簡潔に伝える文章にまとめる方法について理解する，４論理的な文章を読み，全体の構成や論旨を読み取る力がつく，５．日本語の特徴を理解する，の５点である。	
			日本語読解作文Ｅ２	後学期に開講する本科目の目的は，日本語表現全般に通じる基礎的な方法を習得するため，表現を「通信・案内・伝達」「記録・報告」「意見・主張」の三部に分け，ジャンル・形式別の日本語表現方法を身に付けることである。到達目標は，１．文章を書く場合の一般的な手順や基本を理解する，２．場面や相手に応じた適切な手段で自己表現ができる，３．情報を収集・整理し，正確かつ簡潔に伝える文章にまとめる方法について理解する，４論理的な文章を読み，全体の構成や論旨を読み取る力がつく，５．日本語の特徴を理解する，の５点である。	
			日本語総合Ｅ１	前学期に開講する本科目の目的は，単なる言葉の理解だけでなく，ビジネス知識，習慣など，社会的文化的背景を含めた，総合的な理解力，判断力をつけ，あらゆるビジネス場面で日本語による十分なコミュニケーションができるようにすることである。到達目標は，１．日本語に関する正確な知識と運用能力が身につく，２．どのようなビジネス会話でも正確に理解できる，３．会議，商談，電話の応対などで相手の話すことが正確に理解できる，４．対人関係に応じた言語表現の使い分けが適切にできる，５．日本のビジネス慣習を十分理解できる，の５点である。	
			日本語総合Ｅ２	後学期に開講する本科目の目的は，単なる言葉の理解だけでなく，ビジネス知識，習慣など，社会的文化的背景を含めた，総合的な理解力，判断力をつけ，あらゆるビジネス場面で日本語による十分なコミュニケーションができるようにすることである。到達目標は，１．日本語に関する正確な知識と運用能力が身につく，２．どのようなビジネス会話でも正確に理解できる，３．会議，商談，電話の応対などで相手の話すことが正確に理解できる，４．対人関係に応じた言語表現の使い分けが適切にできる，５．日本のビジネス慣習を十分理解できる，の５点である。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	留学生対象科目	日本語科目	日本語漢字Ａ１	前学期に開講する本科目の目的は，ひらがな・カタカナ・漢字（323字）の読み書きを身につけることである。到着目標は，１．正しい書き順でひらがな・カタカナ・漢字が書ける，２．学習した漢字で書かれた漢字仮名交じり文が読める，３．学習した漢字を使って，日本語の文を漢字仮名交じり文で表記できる，の３点である。授業は，テキスト『Write Now! Kanji for Beginners』に基づいて進行する。	
			日本語漢字Ａ２	後学期に開講する本科目の目的は，ひらがな・カタカナ・漢字（323字）の読み書きを身につけることである。到着目標は，１．正しい書き順でひらがな・カタカナ・漢字が書ける，２．学習した漢字で書かれた漢字仮名交じり文が読める，３．学習した漢字を使って，日本語の文を漢字仮名交じり文で表記できる，の３点である。授業は，テキスト『Write Now! Kanji for Beginners』に基づいて進行する。	
			日本語漢字表記Ｂ１	前学期に開講する本科目の目的は，自律的な学習を通して，自分のレベルの一段階上の漢字とその使い方を覚え，漢字力特に正しい表記力を身につけることである。到達目標は，１．読み手に誤解されない字形等，正しく漢字が書けるようになる，２．授業開始時に設定した目標のレベルまでの漢字を正しく表記が行え，意味がわかるようになる，の２点である。また，場合によっては，ひらがなカタカナの書字指導も行う。授業は，それぞれのレベルに合う教材を使って漢字表記方法を中心に漢字学習を行う。	
			日本語漢字表記Ｂ２	後学期に開講する本科目の目的は，自律的な学習を通して，自分のレベルの一段階上の漢字とその使い方を覚え，漢字力特に正しい表記力を身につけることである。到達目標は，１．読み手に誤解されない字形等，正しく漢字が書けるようになる，２．授業開始時に設定した目標のレベルまでの漢字を正しく表記が行え，意味がわかるようになる，の２点である。また，場合によっては，ひらがなカタカナの書字指導も行う。授業は，それぞれのレベルに合う教材を使って漢字表記方法を中心に漢字学習を行う。	
			日本語漢字語彙Ｂ１	前学期に開講する本科目の目的は，自律的な学習を通して，自分のレベルの一段階上の漢字と漢字語彙の使い方を覚え，漢字力とそれに伴う語彙力を身につけることである。到達目標は，１．読み手に誤解されない字形，正しい書き方で漢字が書けるようになる，２．授業開始時に設定した目標のレベルまでの漢字と漢字語彙の読み書きができ，意味がわかるようになる，の２点である。授業は，それぞれのレベルに合う教材を使って漢字語彙の使い方を中心に漢字学習を行う。	
			日本語漢字語彙Ｂ２	後学期に開講する本科目の目的は，自律的な学習を通して，自分のレベルの一段階上の漢字と漢字語彙の使い方を覚え，漢字力とそれに伴う語彙力を身につけることである。到達目標は，１．読み手に誤解されない字形，正しい書き方で漢字が書けるようになる，２．授業開始時に設定した目標のレベルまでの漢字と漢字語彙の読み書きができ，意味がわかるようになる，の２点である。授業は，それぞれのレベルに合う教材を使って漢字語彙の使い方を中心に漢字学習を行う。	
		日本事情に関する科目	日本事情Ａ１	本科目の目的は，日本の大学ではじめて大学生活を送る学部外国人留学生が，教室内外の活動を通じて，日本文化への理解を深めることである。教室内では，担当教員の講義等により，伝統的な日本文化や今日的な日本マナーを学ぶ。教室外活動としては，松山城，道後温泉，石手寺等の具体的な歴史名所への訪問を行うことで，地元愛媛（特に松山）の歴史を知る。また，伊予かすり会館や地元企業見学等を通じて，地元愛媛（特に松山）の産業等への知識も得る。	
			日本事情Ａ２	この授業では現代日本の様々な社会問題（食の安全，原子力等）を取り上げ，日本語によるグループディスカッションを行う。本科目の目的は，１.現代日本の話題を知ってそれについて日本語で自分の意見を述べる，２.日本社会や文化を様々な視点で考える，の２点である。到達目標は，１.日本語でディスカッションができる，２.日本に話題になっているトピックスについて日本語で意見が述べられる，３.日本語で情報収集ができる，の３点である。	
			日本事情Ｂ１	日本の大学で初めて大学生活を送る外国人留学生が，大学の仕組み・日本の社会の仕組み・日本の文化・日本の言葉など，専門的な学問以前の常識として保持しておきたい基本的な知識を習得する。さらに，日常生活・大学生活で気付いた疑問点について，授業のなかで互いに紹介し合い，討論を行うことにより，実践的な日本語コミュニケーション能力を培う。単に日本の問題点を紹介するだけでなく，同じ事項に関する留学生の母国の様子も紹介しあい，比較対照しながら，立体的に検討していく。	
			日本事情Ｂ２	本来,「日本事情」が扱うべき主題はきわめて多岐に渡る。本科目では戦後期日本を中心に,日本社会への理解を深め,基礎的な判断材料となるような知識の習得を目指す。到達目標は,1.日本での生活・学習の基礎的な判断材料となるような知識を習得する,2.日本が単一なものではなく,「いくつもの日本文化・いくつもの日本社会」があることを例を挙げて説明できる,3.授業で取り上げた諸問題に関し,自国の状況と比較して見解を述べることができる,ことである。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎力育成科目群	社会共創学概論	この授業は、社会共創学という学問の起点となる科目で、社会共創学の学問的性質、社会の課題およびその発見の視点、トランスディシプリナリー研究の在り方ならびに科学と社会の連携による「知の統合」とそれによる地域の新しい価値創造までのプロセスについて学びます。その際に重要なるサーバントリーダーシップの重要性およびその修得法について学びます。講義では、地域社会が抱える複雑な課題を解決する国内外の事例も交え、かつグループ・ディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを活用して学ぶことによって、課題設定・解決への学習意欲を高めます。 （オムニバス方式／全15回） （①　榊原　正幸／11回） ガイダンス　－社会共創学の学問的性質－ 地域社会の諸問題　―科学と現実社会が交わるトランス・サイエンス― トランスディシプリナリティの概念　－学と社会の連携による「知の統合」と協働－ トランスディシプリナリティの実践　－欧米および日本におけるトランスディシプリナリー研究の実践例－ トランスディシプリナリー研究におけるステークホルダー論 課題解決のための分野横断的思考 トランスディシプリナリー研究におけるサーバントリーダーシップの重要性と修得 グループ・ディスカッション「地域社会の課題解決のためのプロセスとその手法」 地域社会の課題とトランスディシプリナリー研究の萌芽 その5　－インドネシアにおける貧困問題を背景とします水銀汚染とトランスディシプリナリー・アプローチによる地域社会の変容－ 社会共創学がもたらす社会の変容 グループ・ディスカッション「自分が住んでいる地域社会におけるトランスディシプリナリティ」 （⑫　若林　良和／1回） 地域社会の課題とトランスディシプリナリー研究の萌芽 その１　－地場産業に関する多面的分析－ （㉒　笠松　浩樹／1回） 地域社会の課題とトランスディシプリナリー研究の萌芽 その2　－愛媛県の農山漁村振興－ （⑰　井口　梓／1回） 地域社会の課題とトランスディシプリナリー研究の萌芽 その3　－地域づくりと文化－ （⑪　片岡　由香／1回） 地域社会の課題とトランスディシプリナリー研究の萌芽 その4　－協働の空間デザイン－	オムニバス方式
		地域調査方法入門	現代社会において、地域調査は、企業・行政・団体や研究機関など地域の様々な主体（ステークホルダー）によって実施され、地域社会の実態把握と問題点の追求、諸課題解決の可能性の検討を考える重要な方法のひとつとして位置づけられる。本授業では、地域の様々な人々とともに地域の課題について検討するために、地域調査の一連の方法を学ぶ。地域社会の多様な実態を明らかにするのに必要となる問題発見能力や調査能力、分析能力の基礎を身につける。具体的には、地域調査に関する基本的な手法を紹介するとともに、演習によって調査実施のノウハウを体得し、その結果をもとに、地域社会の実態を明らかにする。 （オムニバス方式／全15回） （⑫　若林　良和／1回） 第１回　ガイダンス（授業の目的と概要・進め方、社会調査の目的と意義、社会調査の歴史、社会調査の倫理、社会共創学における地域調査の意義） （16　曽我　亘由・123　広垣　光紀／６回）（共同） 第３～８回　量的調査：アンケート調査（統計データをもとに明らかになる事項の解説、データ解析演習、アンケート調査のメリット・デメリットの解説、【演習】調査票作成と調査実施、結果の集約と分析） （⑥　羽鳥　剛史／4回） 第２回　社会調査の設計（調査の企画、実施方法及び現地調査計画の検討、対象地域の選定、アポイントメント調整） 第９～11回　質的調査：インタビュー調査の要点の解説、インタビュー調査のメリット・デメリット、【演習】調査項目作成と調査実施、結果の集約と分析） （⑰　井口　梓／2回） 第12～13回　地域調査の実際①：地域情報の収集と読解（地図・文献（郷土史資料）、行政資料（地域の計画書・統計書など）様々な資料の紹介、【演習】地図の読解） （㉒　笠松　浩樹・⑯　深堀　秀史／2回）（共同） 第14回　地域調査の実際②：多角的なアプローチとしての地域調査法（景観観察、土地利用調査、行動調査、発掘調査など様々な調査の特徴について解説） 第15回　総括：地域調査の方途	オムニバス方式・共同（一部）
		経営入門	本講義では、企業システムを体系的に学ぶために、企業（経営）の基礎知識を習得するとともに、具体的なビジネスモデルを製販統合やコンビニエンスストアなどの事例を通じて理解することを目的とする。具体的には、①株式会社などの企業形態について基本的な事柄②会社組織の基本的な仕組み、企業と企業に関わる利害関係者（債権者、顧客、地域住民など）との関係、③具体的なビジネスモデルについて学んでいく。 （オムニバス方式／全15回） （17　崔　英靖／8回）ガイダンス(1回・共同）を行った後、企業経営の基礎知識について、創業から株式公開までの流れに沿って説明する。 （120　折戸　洋子／8回）ガイダンス（1回・共同）を行った後、競争とビジネスモデルについて、チェーンストアやコンビニの事例などを用いて説明する。	オムニバス方式・共同（一部）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎力育成科目群	サーバントリーダーシップ入門	この授業は、社会共創学という学問を具現化していくための基本科目と位置付けられ、地域の諸課題解決に取り組むための基礎的な資質・能力であるリーダーシップのあり方を学修します。特に、地域のステークホルダーとの協働において重視されるサーバントリーダーシップについて、具体的、かつ、実践的な取り組みを紹介しながら、系統的に学びます。授業は、２コマ連続で実施し、担当教員による講義とグループワーク（１グループ10名×18グループ）を織り交ぜながら実施します。課題は、グループ毎に３分の動画にまとめ、Moodle/Facebook にアップロードして提出し、教員と受講者間で共有し、授業で活用します。 （オムニバス方式／全15回） （⑫　若林　良和／4回） ・ガイダンス（授業の目的と概要、到達目標およびグループワークの手法と課題提出の方法、評価方法について説明する。） ・社会共創学とサーバントリーダーシップ（社会共創学とサーバントリーダーシップの関係、さらにその意義について解説する。） ・リーダーシップと地域社会（地域の諸課題解決に必要なリーダーシップの重要性とあり方を概説した上で、既存のリーダーシップの機能や効果を理論的に検討する。） ・まとめ（本講義のふりかえりを行い、学生各自が目指すサーバントリーダー像（活躍場所、取り組む課題など）を発表して共有する。） （㉒　笠松　浩樹／7回） ・ガイダンス（授業の目的と概要、到達目標およびグループワークの手法と課題提出の方法、評価方法について説明する。） ・社会共創学とサーバントリーダーシップ（社会共創学とサーバントリーダーシップの関係、さらにその意義について解説する。） ・リーダーシップと地域社会（地域の諸課題解決に必要なリーダーシップの重要性とあり方を概説した上で、既存のリーダーシップの機能や効果を理論的に検討する。） ・日本の里山で活躍するサーバントリーダー（国内の里山の現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、国内の里山で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・日本の里海で活躍するサーバントリーダー（国内の里海の現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、国内の里海で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・日本の都市で活躍するサーバントリーダー（国内の都市の現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、国内の都市で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・まとめ（本講義のふりかえりを行い、学生各自が目指すサーバントリーダー像（活躍場所、取り組む課題など）を発表して共有する。） （⑲　小林　修／5回） ・ガイダンス（授業の目的と概要、到達目標およびグループワークの手法と課題提出の方法、評価方法について説明する。） ・サーバントリーダーシップ概説１：サーバントリーダーシップの概念（サーバントリーダーシップの概念について、これまでの研究系譜や実践例から検討する。） ・サーバントリーダーシップ概説３：地域社会との関連（サーバントリーダーシップを、地域社会との関わりにおいて概説する。サーバントリーダーのあり方について、幅広い観点から地域の現状を俯瞰しつつ、地域の課題と可能性を見出すための手だてについて検討する。） ・サーバントリーダーと地域貢献（地域の発展に貢献することができるサーバントリーダーの基本的な視点、資質、目指すべき方向性について解説する。） ・まとめ（本講義のふりかえりを行い、学生各自が目指すサーバントリーダー像（活躍場所、取り組む課題など）を発表して共有する。） （⑳　島上　宗子／11回） ・ガイダンス（授業の目的と概要、到達目標およびグループワークの手法と課題提出の方法、評価方法について説明する。） ・社会共創学とサーバントリーダーシップ（社会共創学とサーバントリーダーシップの関係、さらにその意義について解説する。） ・リーダーシップと地域社会（地域の諸課題解決に必要なリーダーシップの重要性とあり方を概説した上で、既存のリーダーシップの機能や効果を理論的に検討する。） ・サーバントリーダーシップ概説１：サーバントリーダーシップの概念（サーバントリーダーシップの概念について、これまでの研究系譜や実践例から検討する。） ・サーバントリーダーシップ概説３：地域社会との関連（サーバントリーダーシップを、地域社会との関わりにおいて概説する。サーバントリーダーのあり方について、幅広い観点から地域の現状を俯瞰しつつ、地域の課題と可能性を見出すための手だてについて検討する。）	オムニバス方式・共同（一部）・兼任補充予定

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎力育成科目群		サーバントリーダーシップ入門	・サーバントリーダーと地域貢献（地域の発展に貢献することができるサーバントリーダーの基本的な視点、資質、目指すべき方向性について解説する。） ・インドネシア社会とサーバントリーダー（東南アジア・インドネシアの地域社会の現状と課題を説明し、地域協働の重要性を解説する。） ・インドネシアの農山村で活躍するサーバントリーダー（インドネシアの農山村に関する現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、農村社会で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・インドネシアの漁村で活躍するサーバントリーダー（インドネシアの漁村に関する現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、漁村社会で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・インドネシアの都市で活躍するサーバントリーダー（インドネシアの都市に関する現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、都市社会で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・まとめ（本講義のふりかえりを行い、学生各自が目指すサーバントリーダー像（活躍場所、取り組む課題など）を発表して共有する。）	オムニバス方式・共同（一部）・兼任補充予定
専門教育科目	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	フィールドワーク入門	本学部の主眼となる地域社会をどのようにとらえるかの実習に先立ち、その調査の準備に関する講義をおこなう。実例を元に、フィールドワークに入る心構えやコミュニケーションのあり方、観察の方法、まとめ方を学ぶ。とくに、情報収集、課題発見、アポイント取り、ヒアリング、調査票の作成と記録・整理など、必要なスキルを身につけるとともに、コミュニケーション力、観察力、積極性、表現力および説明力などの汎用的スキルを育成する。 (オムニバス方式／全１５回) （14　山口　由等／３回） ・イントロダクション（社会共創学部とフィールドワーク） ・企業のＱＣサークルの手法から学ぶ課題発見の方法 ・地域資料の現地調査とアーカイブ作りによる地域への還元 （⑱　淡野　寧彦／２回） ・主題図のルールと活用方法 ・アンケートの設計と分析 （㉑　小田　清隆／２回） ・農山漁村地域の生活、生業、地域活動、資源、課題を可視化する方法の学習 ・住民への還元方法と学生の成果の取得方法の学習 （121　藤川　健／２回） ・企業調査はどのように行えばよいのか ・地域の企業が抱える問題を考えよう （128　山本　智規／２回） ・産業分野におけるフィールドワークの手法 ・産業分野におけるフィールドワークの具体例 （③　大森　浩二／２回） ・地域自然調査の準備の学習 ・自然環境調査の立案と実施（救命講習等の野外において必要な技術的訓練を含む）	オムニバス方式・兼任補充予定
専門教育科目	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	フィールド基礎実習	「フィールド実習」のプレ・ステージとして位置づけられ、身近な地域社会に出て「人・地域社会・自然環境」とふれあうための少人数のアクティブ・ラーニングに取り組む。教員の支援のもと、学生自身が計画し、行動の自立と他者との協働、学びの言語化を通して、地域社会への興味・関心を高め、主体的・能動的な態度を身につける。①産業、②自然環境、③文化・歴史、④観光・スポーツの４領域から成るフィールドが実習先となる。学生は学科の異なる学生同士の６人チーム（事前に担当教員が名簿からグルーピングする）によって、グループワークで４フィールドを選択し、行程・行動計画を立案し訪問視察する。 訪問先をあらかじめ学生がサイト等で情報を入手しやすい先とすることで、事前学習を促し、実習効果を高める。また、行程・行動計画書の作成に加え、チームでの学習内容を学修ポートフォリオに記録（アクティビティ・ログ）し、教員からのコメント（コメント・シート）により、自らの学びの振り返りと改善を促す。 （15　岡本　隆）産業の領域における行程・行動計画の指導及び情報産業論の観点から報告書の作成指導を行う。 （119　谷本　貴之）産業の領域における行程・行動計画の指導及びマーケティング論の観点から報告書の作成指導を行う。 （128　山本　智規）ものづくり企業での実習における行程・行動計画の指導及び地場産業の特色を明らかにするという観点から報告書の作成指導を行う。 （②　松村　暢彦）松山市興居島などの里島や肱川水系などの里川における行程・行動計画の指導及び地域環境デザインの観点から報告書の作成指導を行う。 （⑧　入江　賀子）再生可能エネルギー・プロジェクトにおける行程・行動計画の指導及び地域エネルギー・環境デザインの観点から報告書の作成指導を行う。 （30　牛山　眞貴子）観光・スポーツ資源をテーマとする調査の行程・行動計画の指導及び健康・スポーツ科学と地域コミュニティの観点から報告書の作成指導を行う。 （27　野口　一人） 観光・スポーツ資源をテーマとする調査の行程・行動計画の指導及びICTの活用と情報処理の観点から報告書の作成指導を行う。 （⑮　野澤　一博） 産業の領域における行程・行動計画の指導及び地域経済学の観点から報告書の作成指導を行う。	共同

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	フィールド実習	フィールド基礎実習で習得したチームでプロジェクトを進める能力をいかし、地域の多様なステークホルダーとのディスカッションやフィールド調査をチームで行い、地域の活動や資源、課題等を調査、把握する。把握した内容を地域のステークホルダーも含めた場で発表し、住民と学生で共有する。これらの活動を通して、地域のステークホルダーが地域社会を持続、変革することの意義と姿勢を学び、地域社会に向かう自分のスタンスを形成する。フィールドは、四国中央市、西条市、松山市、西予市とし、48人ずつ4グループに分かれて各地域へ配置、さらに1グループを8チーム（6人／班）に分ける。学生は、チームでの学習内容を学修ポートフォリオに記録（アクティビティ・ログ）し、教員からのコメント（コメント・シート）により、自らの学びの振り返りと改善を促すことが可能となる。 （②　松村　暢彦）市民まちづくり活動による中心市街地の活性化の観点から、調査及び報告書の作成指導 （15　岡本　隆）地域に存在する企業の情報産業論の観点から調査及び報告書の作成指導 （119　谷本　貴之）地域産業を構成する企業や組織のマーケティング論の観点からの調査及び報告書の作成指導 （㉒　笠松　浩樹）農山漁村におけるフィールドワークの観点から、地元学の手法を用い、聞き取り調査、踏査、結果の集約、地元住民との結果の共有方法を指導 （126　福垣内　暁）製紙科学や機能紙科学、材料化学、紙産業振興を通じた地域活性化の観点から、四国中央市における製紙産業、地域の調査および報告書作成の指導 （128　山本　智規）地場産業の理解を通じた地域活性化の観点から、ものづくり産業の調査および報告書作成の指導 （⑯　深堀　秀史）製紙科学や機能紙科学、紙産業振興を通じた地域活性化の観点から、四国中央市における製紙産業、地域の調査および報告書作成の指導 （239　秀野　晃大）バイオマス変換利用としての製紙科学を軸とし、四国中央市における製紙産業の観点から、製紙工程、原理、歴史などの調査及び報告書の作成指導 （14　山口　由等）鉄道遺産を通じた地域再生活動を核とする産業観光の振興の観点から、調査及び報告書の作成指導 （17　崔　英靖）地域産業を構成する地元企業の経営の観点から調査及び報告書の作成指導 （⑪　片岡　由香）地域の歴史や景観を資源とした観光振興の観点から、現地踏査や地元住民、まちづくりの関係主体へのヒアリング調査の指導、および提案書作成の指導 （25　寺谷　亮司）飲食文化や産業などの地域資源を活かしたまちづくりや地域振興に関する調査及び報告書の作成指導	共同
			プロジェクト基礎演習	地域・組織等におけるプロジェクトにチームで取り組む。フィールド実習で修得した地域のステークホルダーと協働してプロジェクトの企画を立案する能力をいかして、「よりよい地域・組織等」を地域のステークホルダーともに考え、その実現のためのプロジェクトを企画する。プロジェクトのテーマについては、課題設定能力を育成するため、大枠を与える程度とし（たとえば、地域の持続可能性を高める商店街の活性化を図るなど）、そこから課題を的確に設定する能力を育成する。地域のステークホルダーとの積極的なディスカッションやテーマに関する情報収集等による地域・組織等の現状分析を通して、課題を発見し、絞り込む。絞り込んだ課題に対して、地域・組織等の強みを活かした解決策を企画する。課題の設定や解決策を考える際に、自分の専門分野にこだわるのではなく、チームとして地域に対して何ができるのかを考え、必要があれば自ら新しい分野の知識を修得するなど積極的に取り組む姿勢を身につける。プロジェクトを企画書としてまとめ、プレゼンテーション会で発表するとともに、他のチームの発表に対して、よりよい地域・組織等に向けた実践企画になるように評価、コメントを行う。同じフィールドで実践している3年生ともディスカッションをしながら進めていくこととする。 （①　榊原　正幸）地域における環境汚染リスクに対する適応的応答とそれを向上させる地域社会の要素に関する調査・研究企画に関する指導 （②　松村　暢彦）持続可能なまちと交通の観点から、中心市街地活性化策の提言に向けた地域のステークホルダーへのヒアリング調査やアンケート調査及び報告書の作成指導 （③ 大森　浩二）地域社会存立の基礎となる流域における森川海の連携と流域物質循環をテーマにした野外実習において、自然環境の基本となる物理化学的環境の基礎分析と魚類調査に係る指導。 （④　佐藤　哲）多様な生態系サービスを地域資源として捉え、その現状と課題を地域のステークホルダーとともに検討し把握するためのワークショップなどの手法を指導 （⑤　二神　透）地域の災害リスクを知るための方法論として、まち歩きや、気づき、情報共有、賛同、訓練の一連のサイクルを通した地区防災計画の策定及び方法論の指導 （⑥　羽鳥　剛史）まちづくりや都市計画の観点から，調査や報告書の作成指導 （⑦　ネトラ・プラカシュ・バンダリ）地域防災やインフラ整備の観点から、調査や報告書の作成指導 （⑧　入江　賀子）地域エネルギー・環境デザインの観点からの、新規再生可能エネルギープロジェクトの実施に向けた、地域のステークホルダーへのヒアリング調査やアンケート調査及び報告書の作成指導 （⑩　渡邉　敬逸）過疎地域や被災地域などの条件不利地域における持続的な生活の獲得に向けた調査の企画、調査の実施、結果集約、報告書作成に係る指導 （⑪　片岡　由香）地域の歴史や景観を資源とした観光振興の観点から、現地踏査や地元住民、まちづくりの関係主体へのヒアリング調査や報告書の作成指導	共同・兼任補充予定

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	プロジェクト実践演習	2年次のプロジェクト基礎演習で企画した提案をステークホルダーと協働して、ものづくり、ことづくり、しくみづくりの実現可能性について詳細に検討を行う。チームは、2年次のプロジェクト基礎演習と同じ編成とする。自分の専門分野の知識をフィールドに応用したり、複数の学問分野を横断的に展開したりして、実践知に高めることで、テーマに応じてより広い分野と地域の人々を巻き込んでいきながら、社会に「ものづくり」「ことづくり」「しくみづくり」を働きかける企画案のプロセスをデザインする。ステークホルダー等に対して、中間プレゼンテーション会を開催し、その際に出た意見を反映することを通して、提案内容を改善する。 （①　榊原　正幸）地域における環境汚染リスクに対する適応的応答とそれを向上させる地域社会の要素に関する調査・研究実施に関する指導 （②　松村　暢彦）持続可能なまちと交通の観点から、中心市街地活性化策について調査及び地域のステークホルダーと協働したプロジェクトの企画に係る指導 （③　大森　浩二）森川海と流域物質循環をテーマにした野外実習における、自然環境の基本となる物理化学的環境の定量的分析とベントス調査に係る指導 （④　佐藤　哲）地域の生態系サービスにかかわる課題を解決し、地域資源を有効に活用した地域づくり推進するための将来ビジョンを、ステークホルダーと共創するための手法を指導 （⑤　二神　透）各種災害シミュレータの原理、操作活用といった、災害種別における備えとシミュレータの援用による地域住民の意識変化分析の指導 （⑥　羽鳥　剛史）まちづくりや都市計画の観点から、調査やプロジェクトの企画に関わる指導 （⑦　ネトラ・プラカシュ・バンダリ）地域防災やインフラ整備の観点から、調査やプロジェクトの企画に関わる指導 （⑧　入江　賀子）新規再生可能エネルギーシステムの地域エネルギー・環境デザイン上の効果と実施可能性に関する分析、および新規プロジェクトの企画に関する指導 （⑩　渡邉　敬逸）過疎地域や被災地域などの条件不利地域における持続的な生活の獲得に向けた調査の企画、調査の実施、結果集約、報告書作成に係る指導 （⑪　片岡　由香）地域の歴史や景観を資源とした観光振興の観点から、企画書および提案書作成の指導	共同・兼任補充予定
			プロジェクト応用演習	プロジェクト実践演習で企画した提案をステークホルダーと協働してものづくり、ことづくり、しくみづくりを実践する。チームは、プロジェクト実践演習と同じ編成とする。多様な分野と地域の人々を巻き込んでいきながら、社会に「ものづくり」「ことづくり」「しくみづくり」を働きかけ提言力・調整力・マネジメント力を身に付ける。また、同じフィールドの2年次学生(プロジェクト基礎演習受講学生)に適切なタイミングで助言、指導する役割を担うことでリーダーシップスキルを育成する。プロジェクトの成果は、プレゼンテーション会において発表されるとともに、他プロジェクトの計画・行動に対してアドバイスを行うことで、他者に対して協調的かつ主体的に関与する姿勢を身につける。 （①　榊原　正幸）地域における環境汚染リスクに対する適応的応答とそれを向上させる地域社会の要素に関する調査・研究結果検討に関する指導 （②　松村　暢彦）持続可能なまちと交通の観点から、中心市街地活性化策について調査及び地域のステークホルダーと協働したプロジェクトの実現、評価及び提言書の作成指導 （③　大森　浩二）森川海と流域物質循環をテーマにした野外実習における、自然環境の基本となる物理化学的環境のより詳細な分析とベントス調査に係る指導。 （④　佐藤　哲）地域の生態系サービスの課題と将来ビジョンに基づき、ビジョンの実現に向けた実行可能な小規模アクションを提案・実施するための手法を指導 （⑤　二神　透）地区防災計画を策定するための合意形成手法における、防災シミュレータの援用と、要援護者を地域で支える個別計画の策定にかかわる指導 （⑥　羽鳥　剛史）まちづくりや都市計画の観点から，調査，企画及び提言書の作成に関わる指導 （⑦　ネトラ・プラカシュ・バンダリ）地域防災やインフラ整備の観点から，調査，企画及び提言書の作成に関わる指導 （⑧　入江　賀子）新規再生可能エネルギープロジェクトの概要を地域ステークホルダーに提案し、これに対するフィードバックを得て、今後の検討課題を取りまとめることに係る指導 （⑩　渡邉　敬逸）過疎地域や被災地域などの条件不利地域における持続的な生活の獲得に向けた調査の企画、調査の実施、結果集約、報告書作成に係る指導 （⑪　片岡　由香）地域の歴史や景観を資源とした観光振興の観点から、現地踏査や地元住民、まちづくりの関係主体へのヒアリング調査の指導、および提案書作成の指導	共同・兼任補充予定
			海外フィールド実習	アジア（台湾、ベトナム、インドネシア、ネパール）等の地域に関連する研究素材（社会、経済、文化、自然科学、工学、環境、災害など）に関して、自ら課題を発見・解決の方向性を探求する課題発見・解決型プログラムである。学生が訪問国の大学の学生と共同で課題解決に取り組むジョイント・リサーチを行うことによって、国際コミュニケーション能力・国際性・協調性・社会性・問題解決能力を身に着ける。実習期間は3週間とし、国内での事前調査・ガイダンス、現地での事前打ち合わせ・調査設計・調査実施、最終報告を行う。	共同・集中・兼任補充予定

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	インターンシップ科目	インターンシップ入門	地域における企業、団体、NPO、地域コミュニティなどのなかに入り、ジョブシャドウイング型インターンシップを行うことで、構成する多様な社会人の就労の現場を体感し、自らの職業観・就労観を養う。インターンシップ前には、社会で求められるビジネスマナー、スキル等を演習することにより身に付ける。演習は学内外のゲストを招きより実践的に行う。第1段階として、地元企業などで形成されるコミュニティに参加し多様な企業を調査・インタビューすることで、自分の興味や専門にとらわれない幅広い分野・業種を認識し、業務内容や就労の実情を把握する。第2段階として、地元の中堅中小企業やNPOなどを実習先とし、実際に職場に入って業務を体験すると同時に，経営者層から従業員まで幅広い就労者にインタビュー・企業調査を行う。第3段階として，実習・インタビュー・調査の結果を分析し整理した結果をレポートにまとめ，受け入れ企業等に報告する。これらの過程により，多様な企業・NPOなどに対する理解が深まり，就労に対する意識が醸成され，自分の適性や自己実現の方向性を見つけることにつながる。 インターンシップは１チーム６人で１６時間の実習とし、６人の教員が、実習の状況、レポート内容等の指導にあたる。	共同・集中
			海外インターンシップ	多様な国際経験を通じてグローバルな視野を涵養することによって、今後各地域に到来するいわゆる「グローバル化の波」の中で地域の課題を解決する就業意識・判断力・創造力・行動力・危機管理力を身に着けた地域社会で役立つ人材を育成することを目的とした海外インターンシップ実習である。本プログラムは「事前ミーティング」（全3回）、「事前文献調査」、「現地インターンシップ（２～３週間）」、「事後指導ミーティング」および「学内公開セミナー」からなる。実習先につき２人の教員が指導にあたるほか、本授業の円滑な実施と教育効果を高めることを目的として提携企業の担当者と本学部の教員間で「事前担当者ミーティング」を実施する。	共同・集中
		実践力育成発展科目	インターンシップ実践	この授業は、地域における環境問題や地域デザインに関する業務を行う企業、団体、NPO、地域コミュニティなどと協働で企画される。希望する学生はその趣旨を理解し，履修する。本授業において、構成する多様な組織における社会人の就労の現場を体感することで自らの専門性を活かすための職業観・就労観を養うとともに、課題解決のために必要な知識・技術、協調性、思考力などを高める。 具体的には、事前学習(3回)、実習(5日～10日）及び実習終了後の振り返り・討論(2回)から構成される。事前学習では、事前調査に基づく実習先の決定、実習先の業務などに関する調査及び実習中での自己課題の設定などを行う。実習中は、自らの設定した課題を達成するために主体的に取り組むとともに、実習先の課題を見つけ出し、その解決策を考える。実習終了後の振り返り(2回)では、実習先で発見した課題に対する解決策を提案し、担当教員及び他の実習先に行った学生に対してプレゼンテーションを行い、討論を行う。その後、それらをまとめた報告書を作成する。	共同・集中・兼任補充予定
			環境デザインフィールド実習Ⅰ	環境デザインに関する県内の地域社会が直面する課題を取り上げ、事前文献調査とグループによる集中的なフィールド調査を行う。その結果をテーマに関する専門的知識に基づいて文系、理系の横断的な視点から整理、分析することによって地域課題を明らかにする。 第1回　ガイダンス 第2回　事前調査の方法 第3回　事前調査データのまとめ方 第4回　フィールド実習（２泊３日 ） 第5回　フィールド実習のまとめ 第6回　最終レポート作成の方法 （①　榊原　正幸）自然災害の発生メカニズムおよびそれに対する対策方法ならびにジオパーク全般に関するフィールド調査方法およびデータ解析手法の指導 （②　松村　暢彦）持続可能な地域社会の実現に向けた公共交通のプロセスマネジメントの観点から、調査、インタビューおよび討論手法指導 （③　大森　浩二）森川海と流域物質循環をテーマにした野外実習を河口・海域において行う。 （④　佐藤　哲）自然資源の持続可能な利用にかかわる地域社会の伝統的知識技術を収集し、現代社会における資源利用の課題と可能性を解明するためのフィールド調査およびインタビューなどの総合的調査手法を指導 （⑤　二神　透）地域防災力を高めるための関係者分析を行い、ステークホルダーを抽出し、ソーシャルネットワーク分析を行う。つぎに、ステークホルダーと関係者による地域防災力を目標としたワークショップのための各種防災シミュレータの活用について指導 （⑥　羽鳥　剛史）地域ガバナンスや社会的合意形成の観点から、地域ステークホルダーへのインタビュー調査やヒアリング調査、ワークショップ手法に関する指導 （⑦　ネトラ・プラカシュ・バンダリ）自然災害による地域環境の悪化を中心にフィールド実習を行い，レポート・報告書の作成指導を行う （⑧　入江　賀子）再生可能エネルギーによる地域環境政策のデザインの観点から、フィールド調査、インタビューおよび討論手法を指導 （⑩　渡邉　敬逸）条件不利地域における住民生活の維持にかかる課題について、事前調査、インタビューのデザイン、および課題解決に向けた議論の集約方法を指導する。 （⑪　片岡　由香）地域の歴史や文化的資源について、事前文献調査、住民へのヒアリング調査などを通じての資源抽出方法の指導。	共同・集中・兼任補充予定

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	実践力育成発展科目	環境デザインフィールド実習Ⅱ	環境デザインフィールド実習Ⅰに引き続き、県外の地域社会が直面する課題を取り上げ、グループによる集中的なフィールド調査を行う。特に地域のステークホルダーとの討論を重視し、対象地域の自然環境、社会環境と人間活動の関わり合いに留意して、文系、理系の横断的な視点から地域課題の解決に向けた将来ビジョンを策定、調整する。 第1回　ガイダンス 第2回　事前調査の方法 第3回　事前調査データのまとめ方 第4回　フィールド実習（２泊３日 ） 第5回　フィールド実習のまとめ 第6回　最終レポート作成の方法 （①　榊原　正幸）自然災害の発生メカニズムおよびそれに対する対策方法ならびにジオパーク全般に関するフィールド調査方法およびデータ解析手法の指導 （②　松村　暢彦）持続可能な地域社会の実現に向けた公共交通のプロセスマネジメントの観点から、調査、インタビューおよび討論手法指導 （③　大森　浩二）森川海と流域物質循環をテーマにした野外実習を河口・海域において行う。 （④　佐藤　哲）自然資源の持続可能な利用にかかわる地域社会の伝統的知識技術を収集し、現代社会における資源利用の課題と可能性を解明するためのフィールド調査およびインタビューなどの総合的調査手法を指導 （⑤　二神　透）地域防災力を高めるための関係者分析を行い、ステークホルダーを抽出し、ソーシャルネットワーク分析を行う。つぎに、ステークホルダーと関係者による地域防災力を目標としたワークショップのための各種防災シミュレータの活用について指導 （⑥　羽鳥　剛史）地域ガバナンスや社会的合意形成の観点から、地域ステークホルダーへのインタビュー調査やヒアリング調査、ワークショップ手法に関する指導 （⑦　ネトラ・プラカシュ・バンダリ）自然災害による地域環境の悪化を中心にフィールド実習を行い，レポート・報告書の作成指導を行う （⑧　入江　賀子）再生可能エネルギーによる地域環境政策のデザインの観点から、フィールド調査、インタビューおよび討論手法を指導 （⑩　渡邉　敬逸）条件不利地域における住民生活の維持にかかる課題について、事前調査、インタビューのデザイン、および課題解決に向けた議論の集約方法を指導する。 （⑪　片岡　由香）地域の歴史や文化的資源について、事前文献調査、住民へのヒアリング調査などを通じての資源抽出方法の指導。	共同・集中・兼任補充予定
			国際プレゼンテーション演習	グローバル化が進む中、今の大学教育には国際的に活躍できる人材の育成が求められる。本演習授業では英語を通じて、国際的アピールできるプレゼンテーションスキルや表現力等について学ぶ。学生たちが相手に対して複雑な事柄もより平易に説明し、質疑応答やディスカッションを簡単に行えるためのプレゼンテーション能力を身に付けることを目的とする。また、①相手に伝えるための必要十分な情報を収集し、②自分の理解を論理的な文章構成に組み立て、③パワーポイント等の媒体を通じて相手が理解しやすいように言うべきことを伝え、自分の理解した事象を的確に相手に伝える能力を開発することで、効果的なプレゼンテーション技術を修得する。	
			環境情報処理演習	人間社会の発展と人口増加に起因されている地球環境の悪化は近年大いに着目されており，その対策または環境保全は重要課題である．地球環境に関する時間的・空間的情報を科学的に収集・構築・解析する仕組みと技術を学び，多様な環境問題の分析と解決に役立てる．①地球環境に関する科学的な情報をコンピュータを用いて解析処理する手法を理解でき，②情報収集の仕組みと技術を理解し，問題の発見と解決に対処でき，③地球環境に関する時間的・空間的情報の構築方法を理解し，分析・解析できることを目的としている．	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	課題解決思考力育成科目群	質的データの収集と分析	地域における社会事象を定性的に分析するための質的データの収集法と分析法を解説する。質的調査に関する基本的な手法を解説しながら、それぞれの調査技法のメリット・デメリットを具体的な実践例をもとに紹介し、的確な調査が実施できるようにする。特に、質的調査の特性を踏まえた上で、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析、参与観察データ分析を取り上げて、その実施方法や整理・分析・活用法について検討し、調査能力や分析能力を身につける。 （オムニバス方式／15回） （⑫　若林　良和／2回） 第1回　ガイダンス ・授業の目的と概要、進め方 第2回　社会共創学と質的調査 ・社会共創に向けた具体的手段としての質的調査の特性 ・質的調査と定性分析 ・質的調査のメリット・デメリット ・社会調査士資格の動向と意義 （⑱　淡野　寧彦／5回） 第3～7回　ドキュメント分析 ・ドキュメント分析の調査手順 ・ドキュメント分析の実例 （地域社会・地域文化の事例） （⑩　渡邉　敬逸／5回） 第8～12回　ライフヒストリー分析 ・ライフヒストリー分析の調査手順 ・ライフヒストリー分析の実例 （地域環境の事例） （⑥　羽鳥　剛史／3回） 第13～14回　参与観察データ分析 ・参与観察法の調査手順 ・参与観察データ分析の実例 （地域デザインの事例） 第15回　総括：データ整理と分析 ・これからの社会調査としての質的調査	オムニバス方式
		地域経済学	各地域はグローバル化する市場経済の影響を受け、大きな変化を余儀なくされている。このような地域経済の変化を理解するためには、地域経済に関する仕組みを理解し、定量的分析により実体を客観的に把握する必要がある。そこで、本講義では地域経済における諸課題を解決するための理論および政策の枠組みを体系的に学ぶと同時に、地域経済に関する政府統計の読み方と地域経済の現況を分析する能力を身に着けることを目指す。	
		地域産業概論	愛媛県における地域産業の全体像と特性を概説した上で、県内３地域で環境・社会・経済・歴史・風土に根ざして立地する代表的な産業（南予地域の水産業、中予地域のものづくり産業、東予地域の紙産業）を取り上げて、それらの現状を把握し、抱える問題を抽出する。特に、愛媛県という地域における基幹産業としての発展プロセスを踏まえて、その伝統性や革新性に着目しながら、地域産業の実相について多面的な視点で検討を加える。 （オムニバス方式：全15回） （19　松原　孝博／1回） 南予地域の水産業に関する現状と課題（水産生物） （⑫　若林　良和／2回） プロローグ：ガイダンス（授業の趣旨と進め方）、愛媛県の産業特性 南予地域の水産業に関する現状と課題（水産物流通・消費） （124　太田　耕平／2回） 南予地域の水産業に関する現状と課題（海洋環境） エピローグ：まとめ（地域産業の将来：学生レポート発表と教員講評） （125　後藤　理恵／1回） 南予地域の水産業に関する現状と課題（海洋生産技術） （21　内村　浩美／2回） 東予地域の紙産業に関する現状と課題（四国中央市の紙産業の特色） 東予地域の紙産業に関する現状と課題（研究開発と求められる人材） （126　福垣内　暁／1回） 東予地域の紙産業に関する現状と課題（自治体との連携） （⑯　深堀　秀史／3回） 東予地域の紙産業に関する現状と課題（世界と日本の紙産業） 東予地域の紙産業に関する現状と課題（四国中央市の紙産業の歴史） エピローグ：まとめ（地域産業の将来：学生レポート発表と教員講評） （⑬　高橋　学／2回） プロローグ：ガイダンス（授業の趣旨と進め方）、愛媛県の産業特性 中予地域のものづくり産業に関する現状と課題（エネルギー関連技術） （24　八木　秀次／2回） 中予地域のものづくり産業に関する現状と課題（加工技術） 中予地域のものづくり産業に関する現状と課題（造船技術） （128　山本　智規／2回） 中予地域のものづくり産業に関する現状と課題（電気・機械・自動化技術） エピローグ：まとめ（地域産業の将来：学生レポート発表と教員講評）	オムニバス方式・共同（一部）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	課題解決思考力育成科目群	産業イノベーション論	地域発のイノベーションを牽引するための基礎的な知見を把握する。地域産業の問題解決に導くために、地域の中小企業をはじめ産学官民連携による共同研究、先端技術開発が不可欠であり、それらは地域発のイノベーションを誘発し、地域産業の育成に貢献することを理解する。多様な連携による取り組み事例を紹介しながら、地域産業のイノベーションと発展を支える３つの要素（技術・人材・地域）から総合的な検討を展開する。 （オムニバス形式：全15回） （⑫　若林　良和／7回） 第１回　プロローグ 授業概要：授業の趣旨と進め方、成績評価に関するガイダンスを実施する。 【第１セッション：これからの水産業の発展と地域イノベーション】 第２回　水産業の技術 授業概要：水産生物の資源管理、最新の水産増養殖技術などを紹介しながら、環境に優しい持続可能な水産業を念頭に置いて、これからの水産技術について考える。 第３回　水産業の人材と地域 授業概要：地域水産業の活性化やグローバル化に対して求められる技術者・経営管理者と技術開発・人材育成・地域連携を推し進める手段について考える。 第４回　水産業技術の普及 授業概要：社会と連携して研究・開発したイノベーション技術の事例をもとに普及手段について考える。 第５回　水産業イノベーションのグループワーク 授業概要：水産業の講義から、グループ毎に課題を設定し、水産業にイノベーションを起こす方策を話し合い発表する。 第14，１５回　エピローグ 授業概要：まとめ（産業イノベーションの方向性：学生レポート発表と教員講評） (⑬　高橋　学／7回) 第１回　プロローグ 授業概要：授業の趣旨と進め方、成績評価に関するガイダンスを実施する。 【第２セッション：これからのものづくり産業の発展と産業イノベーション】 第６回　ものづくり産業の技術 授業概要：加工技術、ロボット制御技術、エネルギー関連技術などを紹介しながら、ものづくりと人間・社会・環境の関係に注目して、これからのものづくり技術について考える。 第７回　ものづくり産業の人材と地域 授業概要：地域に存在するものとして、グローバル社会に対応できる技術者、経営管理者の素養と技術開発・人材育成・グローバル経営を推し進める手段について考える。 第８回　ものづくり産業技術の普及 授業概要：社会と連携して研究・開発したイノベーション技術の事例をもとに普及手段について考える。 第９回　ものづくり産業イノベーションのグループワーク 授業概要：ものづくり産業の講義から、グループ毎に課題を設定し、ものづくり産業にイノベーションを起こす方策を話し合い発表する。 第14，１５回　エピローグ 授業概要：まとめ（産業イノベーションの方向性：学生レポート発表と教員講評） (⑯　深堀　秀史／7回) 第１回　プロローグ 授業概要：授業の趣旨と進め方、成績評価に関するガイダンスを実施する。 【第３セッション：これからの紙産業の発展と産業イノベーション】 第10回　紙産業の技術 授業概要：機能性シート開発を紹介しながら、これからの紙産業について考える。 第１１回紙産業の地域と人材 授業概要：地域の基幹産業が活性化するために、企業や公設試験場との連携と技術の実用化、産学官や異業種の連携を実行するために、どのような人材が求められているかを考える。 第１２回　　紙産業技術の普及 授業概要：社会と連携して研究・開発したイノベーション技術の事例をもとに普及手段について考える。 第１３回　紙産業イノベーションのグループワーク 授業概要：紙産業の講義から、グループ毎に課題を設定し、紙産業にイノベーションを起こす方策を話し合い発表する。 第14，１５回　エピローグ 授業概要：まとめ（産業イノベーションの方向性：学生レポート発表と教員講評）	オムニバス方式・共同（一部）
		持続可能性科学	人と自然のかかわりが創りだす地球システムが重大な転換期を迎えていることをさまざまな学際的研究に基づいて説明し、持続可能な社会の構築のために必要とされる総合的な知識について解説します。地球システムの複雑性に対応するための学際的なアプローチ、さらにはこれまでに社会共創学概論などを通じて学んできた社会の多様なステークホルダーとの協働によるトランスディシプリナリーアプローチの重要性と特徴を、具体的な持続可能性科学の研究成果に基づいて説明し、理解を深めます。持続可能性の実現に向けた社会の転換を促すさまざまな社会技術について、具体的な事例に基づいて検討します。 　テーマを定めて行う熟議ワークショップを通じて、私たちが直面している持続可能性にかかわる課題、自分の専門分野を超えた学際的視点の意義、トランスディシプリナリーアプローチによる社会との協働が意味するもの、持続可能な社会への転換を実現するための具体的な社会技術について自ら調べ、議論し、考えを深めます。それを通じて、持続可能な社会の実現に関するさまざまな課題とその対策を総合的に理解し、持続可能な地域社会の構築に役立つ実践的な技術の基礎を身に付けます。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	課題解決思考力育成科目群		社会心理学	社会的ジレンマとは、個人の私的利益と社会全体の公共的利益とが対立する状況を指す（例えば、自転車の放置駐輪は、自分一人にとっては都合が良い行動であるが、社会全体にとっては望ましくない）。本講義では、様々な社会問題の根本に社会的ジレンマの問題が存在していることを理解するとともに、いかにすれば社会的ジレンマの問題を解消することが出来るかについて、社会心理学の諸知見を学びながら、各自の考えを深めていくことを目的とする。さらに、まちづくり問題や合意形成問題等の社会問題を取り上げて、社会心理学的な観点から、その問題の特徴や解決すべき課題について理解を深めることを目指す。	
			地域社会論	学生や教員にとって、なるべく身近な内容を複数取り上げる。ただしこれらは、社会の動きの中で多くの共通点を持っている。授業ではまず、誰もが普段から経験している買物や食べるという行為に注目する。われわれが当たり前と考え、さほど意識しないこれらの行為が、社会のどのような動きと関係していたり、社会の変化の中でどのように変わったのか、そして地域社会のあり方とどのように関係しているのかといった視点へと結び付けていく。そのうえで、地域社会における産業の立地やその動向、あるいは人間の意識からみた地域社会の諸特徴などについて、具体例を挙げながら解説する。このなかでは、授業中に学生らが回答した内容も含めることにより、学生自身と地域社会との関係性をつねに意識してもらえるようにする。これらを通じて、地域社会における様々な課題の発見とその解決策の検討について、学生自身が主体的に意識しながら実施しうる能力の育成を目指す。	
	専門力育成科目群	学科科目	環境デザイン概論	21世紀に入り、地域社会は、地球環境問題や巨大災害の頻発をはじめ、その持続性を根底から崩しかねない危機に直面している。こうした危機の時代にあって、人間と環境の共生のあり方、それを踏まえた地域社会のあり方、さらには科学技術の地域社会との関連性といった根本的な問題が改めて問われている。そこで、自然環境や社会環境の総合的デザイン、環境デザインに関わるトピックスの紹介を通じて、基礎的な知識を習得する。 （オムニバス方式/全15回） （①　榊原　正幸/3回） ・ガイダンス ・グローバルな環境汚染 ・試験および解説 （④　佐藤　哲/2回） ・社会生態系システムをデザインする ・里山里海における人と自然のかかわりのデザイン （②　松村　暢彦/2回） ・政策のデザイン ・関係性のデザイン （③　大森　浩二/1回） ・生態学・環境学および生物多様性保全学の概略を解説する （⑧　入江　賀子/1回） ・再生可能エネルギー・環境プロジェクトのデザインの概略を解説する （⑤　二神　透/1回） ・地区防災計画と減災 （⑥　羽鳥　剛史/1回） ・社会的合意形成の意義と課題 （⑦　ネトラ・プラカシュ・バンダリ/1回） ・地球環境・地域防災計画 （⑩　渡邉　敬逸/1回） ・人の生活における伝統的環境利用 （⑪　片岡　由香/1回） ・地域の歴史や景観を資源としたまちづくり手法について具体的事例の紹介を踏まえて解説する	オムニバス方式・兼任補充予定

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	学科科目	環境デザイン課題研究Ⅰ	環境デザインに関する特定のプロジェクトを選択し、文系、理系の横断的な課題解決思考力のもと、地域の観察調査やステークホルダーのヒアリング調査のデータにもとづいて、上級生や担当教員のサポートを受けながら、課題を適切に設定する。プロジェクトの遂行を通して、プロジェクトテーマに関する基礎的専門知識を習得し、専門知識に基づいたコミュニケーション能力と研究推進のための基礎力を習得し、実際に持続可能な社会を築くために適用できる能力を身につける。 （①　榊原　正幸）地球表層システムにおける相互作用の解明とその成果の地域社会への還元、特にステークホルダーのCo-designおよびCo-productionという観点からの学生の研究推進指導 （②　松村　暢彦）持続可能な地域社会の実現に向けた公共交通のプロセスマネジメントの観点から、研究推進手法を指導 （③　大森　浩二）森川海と流域物質循環をテーマにした野外における課題研究をおこなう準備として、論文の総説・研究計画をおこなう。 （④　佐藤　哲）持続可能な社会の実現に向けたコミュニティの変容を促すトランジション・マネジメントの手法の基本と、具体的な進め方について、地域課題を設定したシミュレーションとワークショップを通じて指導する。 （⑤　二神　透）上級生，担当教員とともに，計画したワークショップにおける各種防災シミュレータによって得られる効果のためのアンケート手法と分析方法を指導 （⑥　羽鳥　剛史）地域ガバナンスや社会的合意形成の観点から、地域ステークホルダー間のコンフリクト緩和に関わるプロジェクト企画の指導 （⑦　ネトラ・プラカシュ・バンダリ）自然災害による地域環境の悪化に関する課題研究を実施し，研究報告書にまとめるための研究推進指導を行う （⑧　入江　賀子）再生可能エネルギーによる地域環境政策のデザインの観点から、研究推進手法を指導 （⑩　渡邉　敬逸）条件不利地域における住民生活の持続性にかかる課題について、先行研究の精読やこれを基礎としたディスカッションを通じて研究推進手法を指導する （⑪　片岡　由香）地域資源を活かした持続的まちづくりの観点から、対象地域の課題解決方法や研究推進手法について指導を行う。	共同・兼任補充予定
			環境デザイン課題研究Ⅱ	環境デザイン課題研究Ⅰのプロジェクトを上級生や担当教員のサポートを受けながら引き続き担当し、地域課題の設定のみならず、地域のステークホルダーとの討議を通して実現可能性を高めた地域課題の解決策を協働で企画する。環境デザイン課題研究Ⅱではプロジェクトの遂行を通して、プロジェクトテーマに関する専門知識を習得し、専門知識に基づいたコミュニケーション能力を伸ばすとともに研究推進のための応用力を習得し、実際に持続可能な社会を築くために応用できる能力を身につける。 （①　榊原　正幸）地球表層システムにおける相互作用の解明とその成果の地域社会への還元、特にステークホルダーのCo-designおよびCo-productionという観点からの学生の研究推進指導 （②　松村　暢彦）持続可能な地域社会の実現に向けた公共交通のプロセスマネジメントの観点から、研究推進手法を指導 （③　大森　浩二）森川海と流域物質循環をテーマにした野外における課題研究をおこなう準備として、論文の総説・研究計画をおこなう。 （④　佐藤　哲）持続可能な社会の実現に向けたコミュニティの変容を促すトランジション・マネジメントの手法の基本と、具体的な進め方について、地域課題を設定したシミュレーションとワークショップを通じて指導する。 （⑤　二神　透）上級生，担当教員とともに，計画したワークショップにおける各種防災シミュレータによって得られる効果のためのアンケート手法と分析方法を指導 （⑥　羽鳥　剛史）地域ガバナンスや社会的合意形成の観点から、地域ステークホルダー間のコンフリクト緩和に関わるプロジェクト企画の指導 （⑦　ネトラ・プラカシュ・バンダリ）自然災害による地域環境の悪化に関する課題研究を実施し，研究報告書にまとめるための研究推進指導を行う （⑧　入江　賀子）再生可能エネルギーによる地域環境政策のデザインの観点から、研究推進手法を指導 （⑩　渡邉　敬逸）条件不利地域における住民生活の持続性にかかる課題について、先行研究の精読やこれを基礎としたディスカッションを通じて研究推進手法を指導する （⑪　片岡　由香）地域資源を活かした持続的まちづくりの観点から、対象地域の課題解決方法や研究推進手法について指導を行う。	共同・兼任補充予定

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	学科科目	環境デザインゼミナールⅠ	環境デザインに関する専門的な知識、技術を活かして、持続可能な社会の構築に関する特定テーマについて既往の研究や現地調査等を通じて課題を発見する。授業では、環境デザイン学科のコースごとに全教員が参加する。課題の明確化に関する発表と地域のステークホルダー・参加教員・学生との議論を通して、データ収集能力、専門知識に基づいたコミュニケーション力、論理的構築力およびディベート力を身に付ける。 （①　榊原　正幸）地球環境問題の原因の解明とその成果の地域社会への還元という観点からの学生の研究推進指導 （②　松村　暢彦）持続可能な地域社会の実現に向けた公共交通のプロセスマネジメントの観点から、調査・研究成果の発表・評価指導 （③　大森　浩二）生態学・環境学一般および生物多様性その他に関する英語論文紹介および課題研究・卒論研究の計画発表をおこなう。 （④　佐藤　哲）トランスディシプリナリー・アプローチによる地域課題解決の実践に関する基礎調査と、ステークホルダーとの協働による小規模アクションのデザインと試行を指導し、その成果発表と議論を通じて持続可能な社会へのトランジションを促すための多面的な能力を育成する （⑤　二神　透）地区防災計画を策定する上での，各種シミュレータの活用とリスク・コミュニケーションのための合意形成の手法とのコンビネーションとフィードバックのためのシステム的アプローチの指導 （⑥　羽鳥　剛史）地域ガバナンスや社会的合意形成の観点から、地域ステークホルダー間のコンフリクト緩和に関わるプロジェクト企画の遂行、評価及び提言書の作成指導 （⑦　ネトラ・プラカシュ・バンダリ）自然災害による地域環境の悪化について最新研究論文や書籍を中心にゼミナールを実施し，ゼミナール内容をグループごとにまとめた発表・議論等について指導を行う （⑧　入江　賀子）再生可能エネルギーによる地域環境政策のデザインの観点から、調査・研究成果の発表・評価指導 （⑩　渡邉　敬逸）条件不利地域における住民生活の持続性にかかる課題について、調査から得られた知見を他者と共有する手法を指導する。 （⑪　片岡　由香）地域資源を活かした持続的まちづくりの観点から、地域の課題解決に向けたプログラム提案の作成指導、および研究成果の発表について指導を行う。	共同・兼任補充予定
			環境デザインゼミナールⅡ	環境デザインゼミナールⅠで明確化された課題に対して、既往の研究や現地調査等を通じて課題の認識を深め、新たな課題解決の方向性を念頭に置きながら、調査・実験の計画を練る。授業では、環境デザイン学科のコースごとに全教員が参加する。調査・実験の計画に関する発表と地域のステークホルダー・参加教員・学生との議論を通して、データ収集能力、専門知識に基づいたコミュニケーション力、論理的構築力およびディベート力を身に付ける。 （①　榊原　正幸）地球環境問題の原因の解明とその成果の地域社会への還元という観点からの学生の研究推進指導 （②　松村　暢彦）持続可能な地域社会の実現に向けた公共交通のプロセスマネジメントの観点から、調査・研究成果の発表・評価指導 （③　大森　浩二）生態学・環境学一般および生物多様性その他に関する英語論文紹介および課題研究・卒論研究の計画発表をおこなう。 （④　佐藤　哲）トランスディシプリナリー・アプローチによる地域課題解決の実践に関する基礎調査と、ステークホルダーとの協働による小規模アクションのデザインと試行を指導し、その成果発表と議論を通じて持続可能な社会へのトランジションを促すための多面的な能力を育成する （⑤　二神　透）地区防災計画を策定する上での，各種シミュレータの活用とリスク・コミュニケーションのための合意形成の手法とのコンビネーションとフィードバックのためのシステム的アプローチの指導 （⑥　羽鳥　剛史）地域ガバナンスや社会的合意形成の観点から、地域ステークホルダー間のコンフリクト緩和に関わるプロジェクト企画の遂行、評価及び提言書の作成指導 （⑦　ネトラ・プラカシュ・バンダリ）自然災害による地域環境の悪化について最新研究論文や書籍を中心にゼミナールを実施し，ゼミナール内容をグループごとにまとめた発表・議論等について指導を行う （⑧　入江　賀子）再生可能エネルギーによる地域環境政策のデザインの観点から、調査・研究成果の発表・評価指導 （⑩　渡邉　敬逸）条件不利地域における住民生活の持続性にかかる課題について、調査から得られた知見を他者と共有する手法を指導する。 （⑪　片岡　由香）地域資源を活かした持続的まちづくりの観点から、地域の課題解決に向けたプログラム提案の作成指導、および研究成果の発表について指導を行う。	共同・兼任補充予定

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	学科科目	環境デザインゼミナールⅢ	環境デザインゼミナールⅡで計画された調査・実験によりデータを収集し、分析する。授業では、環境デザイン学科のコースごとに全教員が参加する。調査・実験によるデータの分析結果に関する発表と地域のステークホルダー・参加教員・学生との議論を通して、データ収集能力、専門知識に基づいたコミュニケーション力、論理的構築力およびディベート力を身に付ける。 （①　榊原　正幸）地球環境問題の原因の解明とその成果の地域社会への還元という観点からの学生の研究推進指導 （②　松村　暢彦）持続可能な地域社会の実現に向けた公共交通のプロセスマネジメントの観点から、調査・研究成果の発表・評価指導 （③　大森　浩二）生態学・環境学一般および生物多様性その他に関する英語論文紹介および課題研究・卒論研究の計画発表をおこなう。 （④　佐藤　哲）トランスディシプリナリー・アプローチによる地域課題解決の実践に関する基礎調査と、ステークホルダーとの協働による小規模アクションのデザインと試行を指導し、その成果発表と議論を通じて持続可能な社会へのトランジションを促すための多面的な能力を育成する （⑤　二神　透）地区防災計画を策定する上での，各種シミュレータの活用とリスク・コミュニケーションのための合意形成の手法とのコンビネーションとフィードバックのためのシステム的アプローチの指導 （⑥　羽鳥　剛史）地域ガバナンスや社会的合意形成の観点から、地域ステークホルダー間のコンフリクト緩和に関わるプロジェクト企画の遂行、評価及び提言書の作成指導 （⑦　ネトラ・プラカシュ・バンダリ）自然災害による地域環境の悪化について最新研究論文や書籍を中心にゼミナールを実施し，ゼミナール内容をグループごとにまとめた発表・議論等について指導を行う （⑧　入江　賀子）再生可能エネルギーによる地域環境政策のデザインの観点から、調査・研究成果の発表・評価指導 （⑩　渡邉　敬逸）条件不利地域における住民生活の持続性にかかる課題について、調査から得られた知見を他者と共有する手法を指導する。 （⑪　片岡　由香）地域資源を活かした持続的まちづくりの観点から、地域の課題解決に向けたプログラム提案の作成指導、および研究成果の発表について指導を行う。	共同・兼任補充予定
			環境デザインゼミナールⅣ	環境デザインゼミナールⅢで得られた調査・実験の分析結果を論理的な文章と図表にまとめて、地域のステークホルダー・参加教員・学生へのプレゼンテーションにより特定分野以外の技術者や実践者にも説明できるようにするとともに専門知識に基づいた討論を行う。授業では、環境デザイン学科のコースごとに全教員が参加する。研究成果に関する発表・議論を通して、データ収集能力、専門知識に基づいたコミュニケーション力、論理的構築力およびディベート力を身に付ける。 （①　榊原　正幸）地球環境問題の原因の解明とその成果の地域社会への還元という観点からの学生の研究推進指導 （②　松村　暢彦）持続可能な地域社会の実現に向けた公共交通のプロセスマネジメントの観点から、調査・研究成果の発表・評価指導 （③　大森　浩二）生態学・環境学一般および生物多様性その他に関する英語論文紹介および課題研究・卒論研究の計画発表をおこなう。 （④　佐藤　哲）トランスディシプリナリー・アプローチによる地域課題解決の実践に関する基礎調査と、ステークホルダーとの協働による小規模アクションのデザインと試行を指導し、その成果発表と議論を通じて持続可能な社会へのトランジションを促すための多面的な能力を育成する （⑤　二神　透）地区防災計画を策定する上での，各種シミュレータの活用とリスク・コミュニケーションのための合意形成の手法とのコンビネーションとフィードバックのためのシステム的アプローチの指導 （⑥　羽鳥　剛史）地域ガバナンスや社会的合意形成の観点から、地域ステークホルダー間のコンフリクト緩和に関わるプロジェクト企画の遂行、評価及び提言書の作成指導 （⑦　ネトラ・プラカシュ・バンダリ）自然災害による地域環境の悪化について最新研究論文や書籍を中心にゼミナールを実施し，ゼミナール内容をグループごとにまとめた発表・議論等について指導を行う （⑧　入江　賀子）再生可能エネルギーによる地域環境政策のデザインの観点から、調査・研究成果の発表・評価指導 （⑩　渡邉　敬逸）条件不利地域における住民生活の持続性にかかる課題について、調査から得られた知見を他者と共有する手法を指導する。 （⑪　片岡　由香）地域資源を活かした持続的まちづくりの観点から、地域の課題解決に向けたプログラム提案の作成指導、および研究成果の発表について指導を行う。	共同・兼任補充予定
			技術・環境倫理学	グローバル化した現代の倫理問題は、我々のだれもが当事者でありえつつ、特定の個人や職域だけでは問題を解決できないという特徴をもつ。だが現実に問題への対応を迫られるのは現場にいあわせている当事者にほかならず、さらに大きな社会的影響力を有する技術専門職には問題への主体的な取組みじたいが社会的に要請されつつある。こうした現状に鑑みて本講義では、現場と状況に即した倫理指針をそのつど主導的に示しながら関係者と協同して問題の解決と予防にあたる倫理コーディネーターとしての技術者育成をめざす。なかでも、独創的な科学・技術知の源泉であるのみならず、自己と他者とを結びつける倫理性の源泉でもある豊かな想像力を養う。	集中

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	学科科目	地球環境学	地球環境の変化のうち、人間活動に起因する地球上の生命の存続をおびやかしうる変化を、地球環境問題という。授業では、豊かな生物多様性と生態系サービスを支える地球環境の多様性を生物地理の観点から学び、地球環境問題の現状とその根源に横たわる南北問題について理解した上で、地球の管理者としての人類の責に立脚して、地域からグローバルまでのさまざまなレベルでの、地球環境問題の解決のための道筋を探る。	
			環境デザイン論	地球環境問題、地域環境問題の顕在化によって環境デザインのあり方が大きく変貌している。それは、地球温暖化や生物多様性保全といった自然環境の個別現象の進行や対策の影響のみならず、地域特性に応じた社会的環境や生活環境の複合的な環境や人々の思想・信条に影響を及ぼしている。都市地域、農村地域、災害地域、環境汚染地域、公害地域といった多様な地域における環境デザインの事例や公共施設や社会基盤施設の整備と環境デザインの事例を解説することによって、複雑な問題構造と地域問題の解決の難しさを理解する。そして、対立構造にある環境デザイン事例についてディベートを行う。 （オムニバス方式/全15回） （①　榊原　正幸/8回） 第４回：災害地域での環境デザイン 第５回：環境汚染地域での環境デザイン 第１１～１６回：ディベート （②　松村　暢彦/10回） 第１回：ガイダンス 第６回：公害地域での環境デザイン 第７回：社会基盤施設と環境デザイン 第１０回：ディベートのねらいと進め方 第１１～１６回：ディベート （⑧　入江　賀子/8回） 第８回：公共施設と環境デザイン 第９回：産業施設と環境デザイン 第１１～１６回：ディベート （⑪　片岡　由香/8回） 第２回：都市地域での環境デザイン 第３回：農村地域での環境デザイン 第１１～１６回：ディベート	オムニバス方式・共同（一部）
			地域デザイン論	地域デザイン論では、地域での暮らしをデザインする際に必要な基礎知識と姿勢を学ぶ。地域を取り囲む環境は、重層性（社会基盤・生活基盤、文化伝統、自然環境）を持ち、われわれの暮らしはそれらの社会共通資本によって影響を受けていることを概説する。さらに、主体的に社会基盤・生活基盤を通じて働きかけて、地域での暮らしをデザインするにあたっては、地域の人々とのコミュニケーションを通じて、空間のデザインとともに関係性のデザインの観点が重要であることを学ぶ。	
			統計学	社会調査に必要な基礎的な統計的な知識とスキル、社会事象の分析の考え方を学ぶ。主な内容として、度数分布とグラフ、基本統計量（平均，標準偏差，分散，　歪度）、確率論の基礎（標本空間、事象、確率変数、確率分布、二項分布、正規分布、標準正規分布）、推定（点推定、区間推定、信頼区間）、検定　（帰無仮説と対立仮説、棄却域と両側・片側検定、t検定、平均や比率の差の検定、独立性の検定）、抽出法概説（単純無作為・層化・系統・多段）、　相関（属性相関係数、偏相関係数、変数のコントロール）、回帰分析の基礎を扱う。	
			微積分	1変数関数の微積分の基礎をリメディアルするとともに、微積分の意味や工学的な意義を理解する。微積分の考え方、基礎的な計算ができることを目指す。微積分に関する次のような概念について、e-Learningを利用して学習する。 （１）　微積分の基礎に関する理解を深めることができる。 （２）　具体的な関数に関する微積分の正確な計算力を修得することができる。 （３）　テイラーの定理とその応用を習得することができる。 （４）　級数に関する基本事項とべき級数への応用を習得することができる。	
			線形代数	線形代数はさまざまな応用分野で基礎学問として重要である。高校で学習した知識を復習しながら、新たに外積と行列式の概念を導入し、行列式の性質を利用して、連立1次方程式を解けるようにすることを目的とする。線形代数に関する次のような概念について講義する。 (1) ベクトルの基本演算、内積、外積などが計算でき、直線や平面の方程式の記述が理解できる。 (2) 行列の基本演算、正則性が理解でき、正則行列の逆行列が計算できる。 (3) 定義に従って行列式を「展開することができる。 (4) 行列式の性質を利用して、連立1次方程式を解くことができる。	
			物理学	私たちの生活している現代社会は科学技術の上に成り立っており，その科学の基礎を知ることは本学科卒業者に対して重要である。本授業では、特に環境と自然災害に関連する基礎科学としての物理学について学び，物理学の基本的知識やその考え方の習得、それに基づいた自然に対する洞察力を涵養することができる。授業内容として，測定と単位，位置・変位ベクトル，速度と加速度，物体の運動と運動法則，運動エネルギーと仕事，力とモーメント，回転・転がり・トルク，衝突，重力などについての基礎概念の理解と環境変化と自然災害のプロセス理解への応用である。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	学科科目		化学	本授業では、伝統的な化学以外に、社会的、政治的、経済的、環境科学的および倫理的な絡み合いの中にある化学について、学生が知っておくべき原理を学ぶ。この授業において、科学の分野を専攻しない学生であっても、批判的思考力をはぐくみ、リスクと利便をより正しく評価するために必要な化学に関する知識および技術関連お事項に関して理解した上で合理的判断を下す能力を養う。	
				生物学	生物学の基礎知識に関する知的能力を高めておくことは、現代社会での生活をおくる上で必然のものとなっている。地球上に生きる多種多様な生き物たちの様々な活動の中で人間の生活も成り立っており、生物の多様性や生産力などその概要を知ることは社会の持続可能な発展を支えるうえで欠かせないものでる。現代においては、特に、分子生物学の発展が著しく、その人間社会での積極的な応用も深くまた広く浸透してきている。本授業では、生物学の基礎知識の再確認とともに現代生物学のエッセンスを学んでもらう。	
				地球科学	本講義では、まず、地球システム（岩石圏、水圏、大気圏、生物圏）の相互作用に関する基礎的知識、原理および現象をわかりやすい事例・実験・モデルを活用して解説する。そして、地球創生以来の地球と生物の共進化を地球史に沿って学ぶ。また、地球科学分野における最新の重要なトピックスも取り上げて説明する。	
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	環境サステナビリティ系	環境修復学	今日、世界の多くの国々は、環境破壊や環境汚染という人間社会の発展に伴う「負の遺産」を抱えており、それは「地球の限界」を迎えつつある。本授業では、我が国および海外におけるそれらの現状およびその環境問題を修復するための技術とその原理、ならびにそれらの課題を紹介し、どのようにして持続可能な地域社会を構築するための道筋を探索するかを考える。特に、発展途上国に対する持続可能な修復技術についてその実例を含めて紹介する。	
				環境ガバナンス論	現代の環境問題はその発生や解決のメカニズムが複雑であるため、その解決において多様なステークホルダーがお互いの多様性を認めながら積極的に合意形成していく必要があります。本授業では、多くの事例からその合意形成の仕組み（環境ガバナンス）を理解します。すなわち環境ガバナンスにおける政府、企業、市民社会など多様なステークホルダー各々の役割及び、環境ガバナンスに大きな影響を与える市場、規制、規範の役割を理解します。	兼任補充予定
				環境経済学	この授業では、初級の環境経済学の考え方と手法を理解することを目的とする。まず、ミクロ経済学の基礎を概括し、次に、環境経済学をどのように環境デザインの設計で利用するか、経済的手法とは何かを説明する。また、環境機能の経済評価手法である表明選好法の理論と手法について概説する。最後に、応用として、環境経済学による地域の環境デザインの基礎的な考え方を、再生可能エネルギープロジェクトの事例から具体的に説明する。授業では、環境省などの行政機関のホームページおよび新聞などを活用した具体例を多く取り扱う。	
				生物多様性保全学	世界標準の英語版教科書を用いて基礎生態学を学び、それを基礎として生物多様性に関する国際誌論文を読解する。また、その内容をポスター発表させる。　１．基礎生態学：環境と種の分布・種の生理的特性・種個体群の動態・種間相互作用。　２．論文読解：国際誌から各人に論文を与え読解させる。３．論文内容のプレゼンテーション：最終的な成果として発表を行う。	
				環境マネジメント論	今日多くの企業は環境への負荷を継続的に改善していくため積極的に様々な活動を行っています。本授業では、まず、多くの企業が現在行っている環境マネジメント活動の現状とその限界を理解します。その後、大量生産・大量消費・大量廃棄の現体制から脱却し、将来あるべき環境マネジメントの姿に関して議論します。	兼任補充予定
				環境統計学	環境フィールドワーク論文で扱う官庁統計やその他統計資料を分析・理解できることを目的とし、基本的な資料とデータの分析について、具体例を通して学ぶ。 主な内容として、量的データと質的データの意味、記述統計データとグラフ（単純集計、クロス集計、度数分布、代表値、ヒストグラム）、主要な記述統計量 （平均、分散、標準偏差）、質的データの理解（観察法、インタビュー、ドキュメント分析）、基礎的統計概念（散布図、相関関係、相関係数、因果関 係と相関 関係の区別、擬似相関など）、環境統計（官庁統計、官庁調査報告）を扱う。	
				水域環境保全	水域生態系のモデル解析に関するテーマを講義形式でをおこない、コンピュータシミュレーションによる実践を通して多様性保全において必要な手法の習得を目指す。　１．生態系の基礎：基礎生態系の各要素について解説を行い、複数の構成的要素からなるシステムの各要素の特性がシステム全体にどのような影響をもたらすかを解説する。　２．水域生態系解析：河川・湖沼・海洋生態系の解説をする。　３．Sttelaによるモデリング：生態系モデルを構築し解析する。　４．課題研究：各人にテーマを与えモデル開発を経験させる。	
				応用地球科学	環境関連企業の職員に必要な地球科学分野に関連する基礎的知識を修得する。特に、地形、土壌の成因と種類、地下水、物理探査、トンネル掘削のための地質調査、変動帯における斜面変動、地震災害、環境汚染と浄化技術および医療地質学に関連する基礎および応用的内容を事例を交えてわかりやすく解説する。また、実際の現場における多様な情報を交えて、参加学生と議論を行う。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	環境サステナビリティ系	地理情報システム学	現代社会において、地理情報の可視化やこれを用いた空間分析は、地域課題の発見、多様なステークホルダー間の合意形成、地域課題の解決に向けた取組の実行、そして、これらに関わる調査設計において重要な文理融合的な手法であり思考法でもある。本講義では地理情報の特性やその特性に応じた分析手法などの地理情報システムの全体像を理解し、地域課題に対する地理情報システムの応用事例を学ぶことを通して、地理情報システムを用いた空間分析と活用方法を習得する。	
				自然社会環境学	人間社会と自然環境との相互関係は、人間社会による自然環境利用、利用の負荷による自然環境の変化、そして、自然環境の変化による人間社会の変化など多岐にわたる。この相互関係の歴史的展開やその現代的課題を習得することは、人間社会と自然環境との共生を考えるうえで肝要である。本講義では人間社会と自然環境との相互関係に関わる基本的な思想と具体的な実例の理解を通じて、人間社会と自然環境とのバランスを重視した持続可能性のあり方を学ぶ。	
			地域デザイン・防災系	公共ガバナンス論	本講義では、社会基盤整備に関わるガバナンス（統治）のあり方について講述する。社会基盤整備に関わる関係者は、首長、行政、地域住民、専門家、企業、各種団体等、多種多様な主体から構成される。人々の価値観や利害関心が多様化する中、いかにして多様な関係者の間で可能な限り合意を形成し、社会基盤整備に関わる意思決定を適切に進めることができるかが問われている。本講義では、社会基盤整備に関わるガバナンスの基本原理を踏まえて、民主主義論、行政評価論、建設マネジメント論、災害危機管理論、市民参加と合意形成論等の関連テーマについて総合的な理解を深めることを目的とする。	
				景観デザイン	景観の基礎的知識を学ぶ。景観には、歴史的な背景など周囲の文脈との関係も含めたデザインが求められる。その土地に住む住民の暮らし、生活の質を向上させる公共空間の景観デザインの手法や効果、課題について広く学ぶ。	
				防災マネジメント学	安全でゆとりある国土や都市・地域の整備の仕方を、計画論的に検討していくためにはリスクマネジメントの科学が不可欠である。このような観点から、多様なリスクを伴う都市・地域における災害に対して、リスクコントロール視点を踏まえた総合的なリスクマネジメントの方法論について説明する。併せて、住民参加型の都市計画策定のプロセスを例にとりながら、計画のリスクを軽減するための合意形成の具体的な方法に関しても解説する。	
				住民参加と合意形成	公共事業の事例から合意形成の必要性について説明するとともに、合意形成による公共事業推進事例を紹介する。つぎに合意形成のための技法を述べるとともに、実課題を用い、演習を通じて合意形成スキルを身につける。 （オムニバス方式/全16回） （⑤　二神　透/8回） ・合意形成、合意形成技術とは ・公共事業と合意形成 ・ブレーンストーミング、KJ法 ・集団合意形成、コンセンサスビルディング ・ワークショップによる合意形成事例 ・諸外国における合意形成 （②　松村　暢彦/8回） ・プロジェクトサイクルマネジメントとは ・関係者分析、問題分析、目的分析 ・実課題とプロジェクトサイクルマネジメント	オムニバス方式
				社会資本の整備と運用	「土木」とは、道路や橋梁、鉄道やダム等の「社会資本」を整備し、それを「運用」していくことを通じて、我々の社会をより良い社会へと少しずつ改善していこうとする社会的な営みを意味する。本講義では、「土木」という営みを通じて、「社会資本」を整備・運用する上での諸々の問題を、「公共経済学」の観点から検討し、「社会資本」を適切に整備・運用するための基礎的知識を習得する。	
				防災情報社会学	防災情報には，気象庁から発信される気象情報・注意報・警報などがある．災害時に各市町村は，これらの情報と独自の判断により，災害対策本部を立ち上げ，避難準備情報，避難勧告，避難指示といった安全に避難するための情報を住民に発信する。しかし，多くの事例にみられるように，住民の避難率は極度に低い．そこで，本講義では，災害情報と住民の行動の事例，マスコミ等の災害情報の伝達方法と住民の受け止め方について学ぶ。	
				地域防災実践学	国，都道府県，市町村は，連携しながら，あるいは単独で避難訓練や，水防パトロール，土砂災害危険個所パトロール等を実践している。そこで，本講義では，各行政が行っている避難訓練・パトロール計画のプロセスを学ぶ．また，地域の減災に向けて，行政と住民が行っているリスク・コミュニケーションのプロセスを学ぶとともに，ＤＩＧ（災害図上訓練）や避難訓練・各種災害パトロールに参加し実践力を養う。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	地域デザイン・防災系	自然災害学	「災いは忘れた頃にやって来る」といわれている．また、災害は人間の豊かな社会の形成により、居住空間や活動範囲の拡大に伴う過程で自然を様々に利用・改変した結果，時代とともにその様態が変化しており，一度災害が発生すると多くの人的・経済的被害につながる恐れがある．この授業では、多種である自然災害のうち、主に「地質」と「気象」に関係する災害①土砂災害，②洪水，③地震，④火山などを中心に学ぶ。初めに，自然災害と人間社会全般について説明し，つぎに地球内外に起きる様々な現象がどのように自然災害を引起すのかについて，それぞれの自然災害の原因について学習する．そして、被害状況や災害対策について学習し、自然災害による危険性の認識から自らの生命・財産を守るという意識の向上から災害のない地域社会の発展を目指す。	
				国土形成史	現代までの各時代の社会状況と国土利用・インフラ整備の関係を時代毎に概観することと、インフラ整備、建設技術の発展を時系列で概観することにより、社会資本整備が社会の発展に果たしてきた役割を理解し、大型建設プロジェクトの是非をめぐる論争などに対して事実に基づく見解を有することができるようにするとともに、わが国の自然的条件や社会環境などをふまえて、社会資本整備の課題と今後のあり方を見直す国土マネジメントの視点を養う。 （オムニバス方式/全16回） （⑥　羽鳥　剛史/8回） ・「土木」の精神 ・国土形成に尽力した人たち ・国土の構造、社会資本整備の今日的課題 ・わが国の国土計画制度 ・住民参加の進展と合意形成 ・態度行動変容型計画理論 ・地域コミュニティの再生 （②　松村　暢彦/8回） ・国土と地域 ・国土地域マネジメントとは ・地域の変遷と社会資本 ・社会関係資本	オムニバス方式
			他学部科目	地球環境学序論	21世紀は、人類が地球温暖化に伴う気候や環境変動の問題に直面せざるをえない時代と言える。近い将来、問題を解決するために地球上のすべての人々が自らの生活様式や生活レベル、価値観を変えるような決断を迫られる場面に遭遇するかもしれない。将来を見据え、一人一人が自らの理解に基づいて論理的な判断を下していかなければならない。それには、地球システムと地球温暖化のメカニズムに対する理解が必要である。本授業では、地球の気候の歴史（古気候学）と地球環境科学の最新の知見に基づき地球温暖化のメカニズムを正しく理解する。	
				現代地球科学序論	最新地球科学に基づき地球と太陽系の成り立ちと地球の深部構造を学ぶ。地震学的観測や高温高圧実験の原理、これらによって明らかになった地球内部構造、そこで起こっているダイナミックな現象について学ぶとともに、最近のコンピュータの進歩が可能にした新たな地球科学の展開についても学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （183　西原　遊/10回） ・地球内部構造 ・地震学的不連続面 ・相転移 ・高温高圧実験 （181　亀山　真典/5回） ・地球内部ダイナミクス ・計算機による数値シミュレーション	オムニバス方式
				地質学概論	地球表層の歴史をひも解くには、地質学の基礎知識が必須である。この授業では、高校地学レベルの入門的基礎から大学レベルの専門基礎的地質学の内容をわかり易く解説し、各自が地球表層の地層や堆積岩から情報を読み取ることができる基本的事項を修得することを目的とする。主に、受講生が固体地球における表層循環、堆積岩の成立ち、地層の読み取りの基礎などについて理解し説明できるようになることが目標である。	
				鉱物学概論	鉱物学概論では、地球を構成する物質（鉱物）の結晶としての性質について学ぶ。講義内容は、第1回　授業のガイダンス、第2回　鉱物と原子・イオン、第3回　鉱物の分類、第4-5回　鉱物結晶の構造、第6-7回　鉱物結晶の幾何学、第8-9回　結晶の対称性、第10-11回　X線回折、第12-13回　、結晶欠陥、第15回　定期試験と解答の解説である。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	他学部科目	岩石学概論	地球を構成する岩石は、固体地球の内部の運動や流体地球との相互作用によって形成される。この授業は岩石学の入門的講義であり、「岩石とは何か？どのようにして岩石は形成されるのか？」を理解するための基礎的内容を知識として修得することを目的としている。講義では、主に火成岩と変成岩を取り上げ、岩石の分類、火成岩の組成と分類、火成岩の産状と組織、変成岩の分類、変成岩の組織と変形作用、変成相と変成相系列、岩石形成とそのテクトニクスについて解説する。	
				固体地球物理学概論	本概論では固体地球物理学とはどのような学問かを学ぶ。そしてこの授業を通して地球内部の構造を理解し、その重要な物理量や、その地球内部での分布について学ぶ。また、地球内部で起きている相転移現象について理解し、地球内部で起こっている現象の概略について学ぶ。以下が本講義の大まかな内容である。 （オムニバス方式/全15回） （32　山本　明彦/7回） 第1回　万有引力、地球の重力 第2回　地球内部の地震波速度分布 第3回　地球内部構造（1） 第4回　地球内部構造（2） 第5回　応力、歪、弾性体としての地球 第6回　地球内部の密度-重力-圧力分布 第7回　地球内部の熱（温度、地温勾配、地殻熱流量） （83　井上　徹/8回） 第8回　地球内部の物質 第9回　高圧実験から何がわかるか？ 第10回　地球内部での相転移現象 第11回　地震波速度不連続面の原因は？ 第12回　プレートテクトニクス。スラブとは？ 第13回　スラブの挙動 第14回　地震波トモグラフィーとプリュームテクトニクス 第15回　全体のまとめ	オムニバス方式
				地球科学野外実習Ⅰ	四国内を貸し切りバスで２泊３日で移動しながら、１日に４－５か所の露頭を観察する。その際、露頭の観察手法およびデータの収集方法を理解し、収取したデータを解析する。具体的には、地球科学の基礎知識に関連して重要な各地域の堆積物や岩石（堆積岩・火成岩・変成岩）を露頭で観察する。また、宿泊施設において当日の観察内容に関連する事前のグループワークの結果について報告・議論する。 （①　榊原　正幸）・・・変成岩、応用地質および総合的地質理解に関する指導 （245　楠橋　直）・・・地層および化石の観察方法の指導 （246　齊藤　哲）・・・火成岩類の産状の見方およびその解釈に関する指導 （214　鍔本　武久）・・・地層および化石の観察方法の指導 （177　大藤　弘明）・・・鉱物の産状解析および同定力の指導	共同・集中
				地球科学野外実習Ⅱ	本実習の目的は、(1)野外における露頭観察の技術を習得する、(2)代表的な岩石の鑑定能力を習得する、および,(3)代表的な岩石の鑑定能力を習得することである。各担当教員がルートおよびその内容を事前に通知し、日帰り野外巡検を行う．参加学生は、10月～12月の期間中に日帰りで企画されるコースから２つ選択しする。事前・事後指導を行う。 （153　岡本　隆）・・・堆積岩における柱状図および堆積構造の観察手法に関する指導 （245　楠橋　直）・・・地層および化石の観察方法の指導 （246　齊藤　哲）・・・火成岩類の産状の見方およびその解釈に関する指導 （214　鍔本　武久）・・・地層および化石の観察方法の指導 （73　堀　利栄）・・・付加体の構成岩類の観察方法に関する指導	共同・集中
				生物学序論	我々を構成している細胞は単独でも生きていく事ができます。これは細胞には”生きる”ためのすべてのものが備わっている事を物語っています。「細胞は生命体の基本単位である」といわれるゆえんです。この講義のねらいのひとつは、細胞が示す様々な生命現象の一端に触れ、細胞の中で繰り広げられる巧妙で合理的な世界を知るきっかけとすることです。また、細胞がどのようにして生まれ、そして進化してきたのかについて幅広い見地から理解する事も、この講義の目標とします。試験は講義期間の中間に一回、最終日に一回行います。最終日にまとめて試験を行う場合もあります。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	他学部科目	現代生物学序論	地球上に誕生した生命は長遠な期間をかけて進化を遂げてきた。この間、生物は地球環境を大きく変革させ、生命の惑星を形成してきた。このような生物を理解する生物学の成果について解説する。生物を深く理解し、生物に対する正しい知識を社会生活に役立てることを目標とする。 （オムニバス方式/全15回） （157　佐藤　康/8回） 地球生態系の中で、生物はそれぞれの環境に適応し、また環境の変化に応答し、様々な外敵に対する防御機構を発達させ、たくましく生存している。本講義の前半では、動物と植物の形づくりの違いや、生物が持つ生存のための様々な能力ついて理解する。 （180　佐久間　洋/7回） 地球生命の進化の結果、誕生した人類は、現代文明を築き科学技術を発達させてきた。生物学の発展に伴うバイオテクノロジーの進歩もその一つであり、人類の発展に大きく貢献し現代生活に不可欠なものとなっている。しかしながら急速に発展したバイオテクノロジーに対する不安も表面化してきている。本講義の後半ではバイオテクノロジーの原理とその応用例を学び、正しい知識を得ることにより、バイオテクノロジーに対する判断力を養う。	オムニバス方式
				基礎生物化学	本授業科目では（１）タンパク質とは何か（２）細胞とは何か（３）細胞はどのような仕組みで生命維持に関わるのかを学び、生命現象の本質を理解し、タンパク質の構造と機能、細胞がおこなうエネルギー変換・物質輸送・代謝調節・情報伝達について基礎知識を獲得する。	
				環境毒性学	本授業科目では（１）環境毒性学とは何か（２）リスクとは何か（３）化学物質の体内での運命は（４）どのような仕組みで毒性影響が生じるのかを学び、自然由来および人工的に合成された化学物質が環境中の生物に及ぼす毒性影響とその発現機序について理解する。また、近年問題となっているダイオキシンや内分泌撹乱化学物質（環境ホルモン）・難分解性有機汚染物質（POPs）・放射性物質などの毒性影響・リスクについても理解する。	
				発生学	多くの生物は、一個の受精卵から一連の過程を経て形成される。日常生活において、我々がこの過程を意識することはあまりないが、そこで繰り広げられている生命現象は神秘に満ちている。減数分裂に始まる配偶子形成、精子と卵が融合して一個の細胞となる受精、受精卵が多細胞体へと変化する卵割、将来の体づくりの基礎となる胚葉分化をもたらす原腸陥入、胚葉から様々な組織や器官が形成される器官形成。興味深いことに、生物体が形成されるときのこれら一連の過程は、体制のごく単純な生物から我々に至までかなりの共通性を示す。このような「個体発生」の過程を理解し、その仕組みを考察することにより、我々の身の回りの生命の神秘・尊さに対する認識を深める機会としたい。	
				分類学	人間は古くから地球上の多種多様な生物を理解するために，個々の生物に名称を与え，それらを類似の程度に応じて区分けしてきた。分類学とはそれを学問的に体系づけたものである。この講義では，生物の進化の歴史，無脊椎動物各門の基本的体制，脊椎動物の基本的体制について学び，各動物門の基本的特徴や類縁関係を知ることを目的とする。到達目標配下の通りである。 （１）自然界にきわめて多種多様な動物が存在することを認識することができる。 （２）様々な動物について、その名称を知り、基本的な体の作りを理解する。 （３）分類学の基本的概念と方法を理解する。 なお、成績は授業の態度ならびに小テスト、試験（持ち込み不可）により評価する。	
				環境化学	産業革命以降、急速に拡大した産業活動・人間活動によって地球環境は大きく改変され、環境容量を大きく超える影響を及ぼすに至った。かつては、鉱山や重化学工業といった産業由来の有害物質が、様々な公害を引き起こし、深刻な社会問題となった。また、環境破壊は局所的な公害などにとどまらず、地球全体に様々な影響を及ぼすことも知られるようになった。本講義では、環境科学の様々なトピックの中で、我々が直面してきたグローバルな地球環境変化と対策について学ぶ。前半は過去・現在に社会問題化した環境問題に関する概要を、後半では有害化学物質の環境挙動や影響、処理等について取り上げる。	
				確率・統計	調査や分析では、まず調べたいことを明らかにした上でそれに適した方法を適用する必要がある。そこで仮説の構築、調査、検証、確認などからなる一連の科学的分析プロセスを理解する。次に、データ処理や推定・検定などの統計的分析手法を実践できるようにすると共に、結果をわかりやすく説明するためのグラフ作成法などを習得する。これらをふまえた上で、標本の選定や標本数の決定、調査で想定するケースを効率よく決めるための実験計画法など、調査の企画・立案に関する基礎を学ぶ。	
				土木計画学及び同演習	地域デザインの一端を担う建設プロジェクトを計画・立案し、実施するためには、土木計画論の役割と意義を理解し、その基礎となるシステム分析手法を理解することが重要となる。そこでまず、社会資本を計画・整備・運営していく上で常に念頭に置くべき社会資本の特徴や社会資本整備がもたらす効果を学ぶ。具体的な計画最適化手法であるPERTを用いた工程管理、CPM、線形計画法の考え方や計算法を習得する。つづいて、建設プロジェクトの評価手順を概観し、そこにおける費用便益分析の位置づけを理解し、計算手順を習得する。	講義　30時間 演習　18時間

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部環境デザイン学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	他学部科目	交通計画	過度に自動車に依存したライフスタイルが定着することによって、道路交通渋滞や環境問題など社会問題が深刻化している。また、そのようなライフスタイルは、都市の郊外化や中心市街地の衰退を招くとともに、公共交通の利用者離れを招いている。そこで望ましい都市空間を創出するための交通管理・制御・計画手法を学ぶ。具体的には、都市交通の実態と環境問題との関連性を理解し、対策を検討・実施するために必要となる交通調査や現象分析手法、将来交通需要の推計方法、道路の設計・計画手法等の一連の交通計画・管理・設計手法を学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （37　吉井　稔雄/8回） ・都市と交通 ・道路交通流の理論 ・交通流モデル ・交通運用策 ・信号制御手法 （142　倉内　慎也/7回） ・交通の調査 ・交通需要予測	オムニバス方式
				防災工学	わが国は、地理的、地形的、気象的諸条件から、地震、台風、豪雨、豪雪、洪水などの自然災害が発生しやすい国土となっている。東日本大震災以降、巨大南海トラフの想定やそれへの対処方法が各方面で着手・推進されている。そこで自然災害の科学と災害対策の基礎を学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （164　森　伸一郎/8回） 自然災害の種類、歴史、発災要因、発災形態、災害ポテンシャル、発災メカニズムなどの基本事項を理解する。また災害心理と災害軽減対策についても学ぶ。 気象と災害の関係性について理解した後、特に土砂災害である土石流、斜面災害、落石災害のメカニズムと防災・減災軽減技術の原理と応用について理解する。そして、阪神大震災以降ますます重要となってきている災害ボランティアの活動の意義と役割について学ぶ。 （116　日向　博文/4回） 洪水・渇水災害、高潮・波浪災害、津波災害のメカニズムと防災・減災軽減技術の原理と応用について理解する。 （115　竹田　正彦/3回） 国や地方自治体における防災政策や防災行政を知り、防災事業の位置づけや事業実施の実際の知識を得る。	オムニバス方式
				都市の環境問題	都市域では人口集中、地表面改変に伴ってさまざまな環境問題が生じている。そこで、さまざまな都市の環境問題について学び、生活者・自然環境に優しい都市のあるべき姿について考察するための基礎的知識を身につける。具体的には、ヒートアイランド、光化学スモッグ、大気汚染等の都市環境問題やまちづくりと都市環境整備の事例を紹介する。さらに、ユニバーサルデザインやエコロジカル・ネットワーク等のあるべき都市像についての概念を学ぶ。	
				都市・地域計画	世界各地の都市と日本の都市の比較、欧米および日本の都市計画の歴史を知ることにより、都市についての理解を深め、都市の望ましい姿を考察する。都市計画の制度と事業手法を学ぶことによって都市計画の体系について理解すると共に個別事業の内容を学ぶ。また、中心市街地問題、バリアフリー、公園、都市景観などの具体的な都市問題について現状の課題と、都市再開発事業や地区計画等の対策について学ぶ。交通渋滞等の自動車交通問題への対応として、都市交通計画の考え方について学ぶ。	
				国土整備と関連法	土木事業はすべて法律に基づいて計画・実施される。したがって特に行政に携わるものはその法律を熟知する必要がある。土木事業制度の目的やそれらの根拠となる法律を現在、具体的に実施している事業制度と関連させて把握する。また、その知識を確たるものにするために、実施している事業を見学する。対象とする法律としては、建設業法、品確法、河川法、港湾法・海岸法、砂防法、都市計画法・下水道法・都市公園法、道路法等とする。	
	学位認定科目群			社会共創演習Ⅰ	これまでの正課教育・準正課教育・正課外活動での学修成果の振り返りを行い、社会共創学部の全授業科目や授業外の様々な活動を通じて身に着けた知識・技術や資質能力について，現時点での習得・獲得状況を確認し、今後の「大学における学び」を方向づけるための科目である。また，担当教員の指導の下，卒業研究等に関する課題発見・課題解決に向けたプレゼンテーション、解説またはグループ討論を行い，その解決への道筋を確立する。	共同・兼任補充予定
				社会共創演習Ⅱ	卒業認定へ向けて正課教育・準正課教育・正課外活動での学修成果の振り返りを行い、社会共創学部の全授業科目や授業外の様々な活動を通じて身に着けた知識・技術や資質能力について，卒業時での習得・獲得状況を最終確認する。そして、卒業研究の発表もしくは自由課題研究の修了へ向け、担当教員の指導の下，卒業研究に関しては成果発表に向けたプレゼンテーション、解説またはグループ討論を行い、その準備を進める。また、自由課題研究に関しては、修了へ向けて成果をまとめる。	共同・兼任補充予定
				自由課題研究	担当教員の指導の下、自らのこれまでの経験の棚卸しをした上で、現在の問題意識と目指すべき将来像に基づいたプロジェクトを設定し、プロジェクト計画書を作成する。その後、計画に従ってプロジェクトを遂行していく。その際、担当教員に適宜報告・相談を行いながら、必要であれば、状況に合わせてのプロジェクトの軌道修正を行う。プロジェクトの終了後、そのプロセスと成果についての報告書を作成し、報告会にてプレゼンテーションを行う。	共同・兼任補充予定
				卒業研究	地域社会・環境サステナビリティに関する諸課題に関する各自のテーマに即した資料、データの収集とその整理、分析を進め、内容の説得性の精度を高めるとともに、作成にあたっての論文の体裁、構成についても留意しつつ、卒業研究論文の作成することを狙いとする。さらに、テーマに関して自らの考えを的確に表現し、他者との間で討論・対話することができるようにする。	共同・兼任補充予定

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初年次科目	新入生セミナーA	大学において知的活動の基本である「スタディ・スキル」と、学生生活を支える「ソーシャル・スキル」を習得する。第1回 オリエンテーション・カルト問題対策・大学生活上の規則とマナー、第2回 コミュニケーション1、 第3回 コミュニケーション2、第4回 大学での学び入門、第5回 キャンパスハラスメント防止研修、第6回 ノートのとり方、第7回 大学図書館における情報収集、ならびに、第8回 男女共同参画研修を教育企画室、図書館、ダイバーシティ推進本部女性未来育成センターが担当、第9回から15回まで学部での学びに必要な基礎知識を担当する。 (オムニバス方式／全15回) （79　野本　ひさ／2回） オリエンテーション・カルト問題対策・大学生活上の規則とマナー キャンパスハラスメント防止研修 （236　清水　栄子／1回） コミュニケーション1 （227　村田　晋也／1回） コミュニケーション2 （222　阿部　光伸／2回） 大学での学び入門 ノートのとり方 （219　仲道　雅輝／2回） 大学での学び入門 ノートのとり方 （214　平尾　智隆／1回） キャンパスハラスメント防止研修 （201　郡司島　宏美／1回） 男女共同参画研修 （3　野口　一人・②　藤原　誠・⑤　牛山　眞貴子・⑨　淡野　寧彦・⑩　山本　直史・⑪　小田　清隆・⑫　笠松　浩樹／7回） 大学図書館における情報収集、情報の整理方法、読解の基礎(1)　、読解の基礎(2)、レポート・論文の基礎(1)、レポート・論文の基礎(2)、口頭発表の基礎（1)、口頭発表の基礎（2)・まとめ	オムニバス方式・共同（一部）
		新入生セミナーB	近年、地域に関する諸課題は多様化・複雑化している。しかし、単純には課題解決できない実情がある。そうした課題を解決するために求められる能力・スキルが社会共創力である。本講義では、まず課題解決に向けて求められる社会共創力とは何かを理解する。次に、地域社会の実情と課題について地域ステークホルダーの立場から考える。立場の違いから課題の見え方が異なる点も十分に理解する。さらに、グループワークにより、エリアごとの課題及び協働の在り方を整理し合う。そうする中で、社会共創に関する基礎的な考え方とステークホルダーとの協働を実現するために求められる能力・スキルの基礎を学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) （18　西村　勝志／4回） ガイダンス　－社会共創とは何か－ 学部ＤＰと社会共創学との関係をした上で、習得すべき知識や技能を説明する 地域ステークホルダーの種類と地域社会の諸課題及び諸課題の相互関連性を理解する ポスターセッション （25　松原　孝博／3回） 南予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（1) 南予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（2) ポスターセッション （121　後藤　理恵／6回） 南予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（1) 南予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（2) 南予ステークホルダーによる事例報告 グループディスカッション（1) グループディスカッション（2) ポスターセッション （33　大森　浩二・125　二神　透／6回） 中予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（1) 中予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（2) 中予ステークホルダーによる事例報告 グループディスカッション（1) グループディスカッション（2) ポスターセッション （④　浅井　英典／3回） 東予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（1) 東予エリアの特色・強みとそれぞれの諸課題を認識する（2) ポスターセッション （⑥　山中　亮／4回） 中予ステークホルダーによる事例報告 グループディスカッション（1) グループディスカッション（2) ポスターセッション	オムニバス方式・共同（一部）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初年次科目	こころと健康	生活の基盤である健康に対する考え方は，身体的側面のみならず，健全なこころや食生活のあり方を含め，昨今ますます多様化の傾向にある。このような状況の下，大学生活を開始する新入生が最低限必要な教養として健康に対する基本的な知識とライフスキルを学び，心身ともに健全な生活を継続的に送るための手がかりが得られるよう，「青年期のこころ」（心理学），「生活の医学」（医学），「食と健康」（食育），「スポーツ」の４つの学問分野により授業を展開する。 （オムニバス方式/全１５回） （79　野本　ひさ/２回（共同２回） オリエンテーション・メンタルヘルス/まとめ （148　庭﨑　隆/２回（共同２回） オリエンテーション・メンタルヘルス/まとめ （105　橋本　巌/３回） 青年期のこころ （88　小林　直人/２回） 生活の医学 （228　加藤　亜希/２回） 生活の医学 （233　垣原　登志子/２回） 食と健康 （②　藤原　誠/2回） スポーツ （59　田中　雅人/１回） スポーツ （㉔　上田　敏子/１回） スポーツ	オムニバス方式・共同（一部）
		スポーツ	初回は本授業の目標，指導内容等のガイダンスを行い，受講生の希望を基にクラス分けを行う。2回目の授業では体力測定（敏捷性，筋持久力，全身持久力）を行い，現在の体力の現状を把握する。3・4回目は基礎的な体づくり，5・6回目は，基礎的な動きづくりを行い，それらの改善を図る。7～13回目は，各教員の専門性を活かした発展的体づくり運動を行う。14回目では，再度体力測定を行い，受講期間中の体力の改善状況を把握する。以上の3～14回目の授業では，履修効果を高めるための冊子を基にライフスキルの涵養を図る講義も並行して行う。最終回はライフスキルに関する小テスト及び15回にわたる授業の振り返りを行う。	
	基礎科目	英語Ⅰ	大学生として必要な基礎的英語コミュニケーション能力を定着させるための授業である。英語を使って情報を入手し，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力を身につける。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。特に，自分の考えを明瞭，かつ，簡潔に英語で表現し，会話や議論に積極的に参加できるようになることを目指す。	
		英語Ⅱ	大学生として必要な基礎的英語コミュニケーション能力を定着させるための授業である。英語を使って情報を入手し，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力を身につける。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。特に，様々な状況で耳にする英語による情報を，正しく把握し，適切に対応できる能力を身につけることを目指す。	
		英語Ⅲ	大学生として必要な基礎的英語コミュニケーション能力を定着させるための授業である。英語を使って情報を入手し，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力を身につける。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。特に，自分の考えを明瞭，かつ，論理的に，英語で書き表すことができるようになることを目指す。	
		英語Ⅳ	大学生として必要な基礎的英語コミュニケーション能力を定着させるための授業である。英語を使って情報を入手し，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力を身につける。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。特に，様々な手段で視覚的に入手する英語による情報を，正しく把握し，適切に対応できる能力を身につけることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎科目	情報リテラシー入門Ⅰ	コンピュータやネットワークなどの仕組みを理解し，コンピュータを日常の道具として活用するために，(1)情報リテラシー，(2)情報検索，(3)情報表現，(4)情報倫理について学ぶことにより，コンピュータに関する基礎的な知識・技能を身につけ，高度情報化社会に対応する能力を養成する。情報リテラシー入門Iでは，情報倫理・セキュリティ，電子メールとWeb，日本語ワープロ，プレゼンテーションについて講義と演習を交えて学習する。	
		情報リテラシー入門Ⅱ	コンピュータやネットワークなどの仕組みを理解し，コンピュータを日常の道具として活用するために，(1)情報リテラシー，(2)情報検索，(3)情報表現，(4)情報倫理について学ぶことにより，コンピュータに関する基礎的な知識・技能を身につけ，高度情報化社会に対応する能力を養成する。情報リテラシー入門IIでは，情報倫理・セキュリティ，ネットワークとネットサービス，コンピュータ，情報の表現，表計算について講義と演習を交えて学習する。	
		社会力入門	人間が社会を形成し，維持していくために不可欠な資質・能力を“社会力”という。この授業は，大学生活を通して「オトナ」になるための基礎的な学びとしての“社会力”を修得することを目指したキャリア教育である。授業は，「労働と社会」「グローバル社会」「人間関係」「安全衛生」の4つの学際的観点から実施される。また，今後の自身のキャリア形成を支えるツールとなるキャリア・ポートフォリオの作成を行う。本講のキャリア教育は単なる就職支援ではなく，人生の新しい段階（社会）へと移行する若者の成長を支える教育として位置付けている。 （オムニバス方式/全８回） （214　平尾　智隆/４回） 労働と社会 グローバル社会 （79　野本　ひさ/２回） 人間関係 （38　田中　寿郎/２回） 安全衛生	オムニバス方式
		科学技術リテラシー入門	「科学する心」の育成は，科学の時代である現代の市民に必須の教養である。現在の入試制度のもとでは，文系の学部・学科に入学してくる学生には，自然科学や技術に関する素養が乏しい学生が多い。本講義は，文系学部・学科の学生に科学的な見方や考え方を習得させる事を目指し，1単位の科目として開講する。講義は①科学技術の考え方を事例をもとに講義し，②その知識を基にして正解の無い問題をアクティブ・ラーニングの手法を用いて自分なりに科学的に解を求める事を通して，科学的な素養を身につけさせるものである。	
		愛媛学	文部科学省に採択された「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」における「地域志向教育カリキュラム」のベース科目として位置づけられるCOCコア科目である。日本の縮図，日本社会の将来像ともいえる「愛媛県」の「歴史・文化」「自然・環境」及び「観光・まちづくり・産業」等を概観し，地域が抱える課題について理解を深め，地域内のイノベーションの創出方法について学ぶ。これらを通して，基本的な地域意識を涵養することを目的とする。 （オムニバス方式/全８回） （222　阿部　光伸/２回（共同２回） ガイダンス/総括討論 （132　秋丸　國廣/２回（共同２回） ガイダンス/総括討論 （113　松本　賢哉/２回） 東予における地域課題 （114　前田　眞/２回） 中予における地域課題 （102　坂本　世津夫/２回） 南予における地域課題	オムニバス方式・共同（一部）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	主題探究型科目	環境を考える	環境学は，自然環境，社会環境，都市環境など，人間の生活を取り巻く環境とその人間，動植物への影響について，物理学，化学，生物学，地学，社会科学，人文科学等の基礎科学からのアプローチにより研究を行う学問分野である。本授業では，教員が環境学にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			倫理と思想を考える	倫理学は，一般に行動の規範となる物事の道徳的な評価を理解しようとする哲学の研究領域の一つである。思想とは，人間が自分自身および自分の周囲について，あるいは自分が感じ思考できるものごとについて抱く，あるまとまった考えのことである。本授業では，教員が倫理学と思想にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			歴史を考える	歴史学は，過去の史料を評価・検証する過程を通して歴史の事実，及びそれらの関連を研究する学問分野である。本授業では，教員が歴史学にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			ことばの世界	文学は，言語表現による芸術作品について研究する学問分野であり，言語学は，人類が使用する言語の本質や構造を科学的に研究する学問分野である。本授業では，教員が文学や言語学にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			芸術の世界	芸術とは，表現者あるいは表現物と，鑑賞者とが相互に作用し合うことなどで，精神的・感覚的な変動を得ようとする活動をいい，文芸（言語芸術），美術（造形芸術），音楽（音響芸術），演劇・映画（総合芸術）などを指す。本授業では，教員が芸術にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			地域と世界	グローカル化（localization）とは，全世界を同時に巻き込んでいく流れ（globalization）と，地域の特色や特性を考慮していく流れ（localization）の2つの言葉を組み合わせた混成語である。「地球規模で考えながら，自分の地域で活動する」（Think globally, act locally。）とも関連する言葉である。本授業では，教員が地域と世界にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			社会のしくみを考える	社会学は，社会現象の実態や，現象の起こる原因に関するメカニズム（因果関係）を解明するために研究する学問分野である。本授業では，教員が社会学にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			現代社会の諸問題	現代社会とは，時代の変化と共に社会に生じる変化を強調し，現在存在する社会を過去の社会と区別するために用いられている。本授業では，教員が現代社会がかかえている諸問題について探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			現代と科学技術	自然科学とは，自然に属するもろもろの対象を取り扱い，その法則性を明らかにするため，観測可能な対象やプロセスを解明し理解する学問分野である。物理学，化学，生物学，地学は自然科学の一分野である。本授業では，教員が自然科学に基づいた科学技術にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			自然のしくみ	物理学は自然界の現象とその性質について，化学は原子・分子レベルでの物質の構造や性質について，地学は地球について研究する学問分野である。本授業では，教員が物理学・化学・地学に基づいた自然のしくみにかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	
			生命の不思議	生物学は，生命現象を研究する自然科学の一分野であり，生物やその存在様式を研究対象としている。化学は，原子・分子レベルで物質の構造や性質を解明し，また新しい物質を構築する学問分野である。本授業では，教員が生物学や化学に基づいた生命にかかわる探究主題（問い）を授業題目として設定する。これを基に学生が自ら学習課題を設定して，主体的に学習を行いながら課題を探究する。汎用的能力育成という視点から，小規模クラスでアクティブ・ラーニングの手法を組み入れた授業が行われる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	学問分野別科目	総合分野	環境学入門	環境学は，自然環境，社会環境，都市環境など，人間の生活を取り巻く環境とその人間，動植物への影響について，物理学，化学，生物学，地学，社会科学，人文科学等の基礎科学からのアプローチにより研究を行う学問分野である。環境学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。環境学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				人間科学入門	人間科学は，「人間とは何か」という問題を科学的に研究し，なんらかの意味と解釈を得えようとする，学際的，総合的に研究を行う学問分野である。人間科学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。人間科学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				生活科学入門	生活科学は，人間生活における人間と環境の相互作用について，人的・物的両面から，自然・社会・人文の諸科学を基盤として研究し，生活の向上とともに人類の福祉に貢献する実践的総合的に研究を行う学問分野である。生活科学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。生活科学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
			人文学分野	哲学入門	哲学は，語義的には「愛智」を意味する学問的活動である。古代ギリシアでは学問一般を意味していたが，近代における諸科学の分化・独立によって，諸科学の基礎づけを目ざす学問や，世界・人生の根本原理を追及する学問となった。哲学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。哲学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				文学入門	文学は，詩・小説・戯曲・随筆・文芸評論などの言語表現による芸術作品について研究する学問分野である。文学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。文学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				言語学入門	言語学は，人類が使用する言語の本質や構造を科学的に研究する学問分野である。音声学，音韻論，形態論，統語論，談話分析，意味論，語彙論，語用論，手話言語学などの研究分野がある。言語学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。言語学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				歴史学入門	歴史学は，過去の史料を評価・検証する過程を通して歴史の事実，及びそれらの関連を研究する学問分野である。歴史学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。歴史学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				考古学入門	考古学は，人類が残した痕跡（例えば，遺物，遺構など）の研究を通し，人類の活動とその変化を研究する学問分野である。考古学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。考古学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				地理学入門	地理学は，空間ならびに自然と，経済・社会・文化等との関係を対象にして研究する学問分野である。地理学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。地理学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	学問分野別科目	社会科学分野	法学入門	法学は，法律学ともいう。法および法現象を専門的に研究する学問分野である。法および法現象の経験科学的，理論的な解明を直接の目的とする理論法学や，立法，行政，裁判に役立つ法原理，法的技術を中心に体系化されている実用法学などがある。法学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。法学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				政策科学入門	政策科学は，政策研究や政策分析ともいう。政府などの公的機関が行う政策を改善するために研究する学問分野である。政策科学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。政策科学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				経済学入門	経済学は，この世において有限な資源から，いかに価値を生産し分配していくか，社会全般の経済活動を対象に研究する学問分野である。経済学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。経済学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				社会学入門	社会学は，社会現象の実態や，現象の起こる原因に関するメカニズム（因果関係）を解明するために，研究する学問分野である。社会学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。社会学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				心理学入門	心理学は，人の心のはたらき，あるいは人や動物の行動を研究する学問分野である。科学的経験主義の立場から観察・実験・調査等の方法によって一般法則の探求を推し進める基礎心理学，基礎心理学の知見を活かして現実生活上の問題の解決や改善に寄与することを目指す応用心理学などに大別される。心理学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。心理学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				日本国憲法	日本国憲法は，現在の日本の国家形態，統治組織，統治作用を規定している，1947年5月3日に施行された日本の現行憲法である。日本国憲法における，基本理念・原理，及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。日本国憲法全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
			自然科学分野	数学入門	ギリシャ語に語源をもつ数学（Mathematics）は，必ずしも「数の学問」ではなく，その研究対象はとても広い。代数学，幾何学，解析学，統計学などの研究分野がある。数学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。数学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				物理学入門	物理学は，自然科学の一分野であり，自然界に見られる現象には普遍的な法則があると考え，自然界の現象とその性質を解明し理解する学問分野である。物理学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。物理学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				化学入門	化学は，物質の性質を原子や分子のレベルで解明し，化学反応を用いて新しい物質を作り出すことを設計，追求する学問分野である。化学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。化学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				生物学入門	生物学は，生命現象を研究する自然科学の一分野であり，生物やその存在様式を研究対象としている。生物学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。生物学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				地学入門	地学は，地球を研究対象とした自然科学の一分野であり，地球磁気圏から地球内部の核に至るまで，地球の構造や環境，歴史などを対象とした学問分野である。地学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。地学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				工学入門	工学は，数学と自然科学を基礎とし，ときには人文社会科学の知見を用いて，公共の安全，健康，福祉のために有用な事物や快適な環境を構築することを目的とする学問分野である。工学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。工学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	
				農学入門	農学は，農業・林業・水産業・畜産業などに関わる応用的な学問分野である。数学，物理学，化学，生物学，地学，社会科学などを基礎として研究を行う学問である。農学分野における，ものの見方・方法論及び基本的知識を身に付けることを目的として，この学問分野を専門としない学生を対象に開講される。農学分野全体を俯瞰する授業と，その中の特定の領域を取り上げた授業が行われる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	初修外国語	初級ドイツ語Ⅰ	初修外国語の「初級ドイツ語I～IV」は，ドイツ語とドイツ語圏の事情に関する初級授業である。「初級ドイツ語I」はその入門部分に当たり，ここでは挨拶・自己紹介などの基本的なコミュニケーションの基礎を養う。文法事項としては，綴りと発音の規則に始まり，動詞の人称変化などを中心に学ぶ。「聴く・読む・話す・書く」のバランスの取れた技能の習得を目標とする。	
			初級ドイツ語Ⅱ	「初級ドイツ語I」の基礎の上に，ドイツ語全般の理解に必要となる基本的な知識・技能を習得する授業である。日常的な状況におけるコミュニケーションや表現力の基礎を養う。文法事項もやや高度になり，必要な語彙も少しずつ増加し，動詞や冠詞類の変化など，ドイツ語を運用する上での必須事項を引き続き学ぶ。クラス・教員によって力点の置き方に差はあるが，ここでも目標は「聴く・読む・書く・話す」のバランスのとれた技能の習得である。言語とともに，ドイツ語圏の事情についての知識も身に着けることを目指す。	
			初級ドイツ語Ⅲ	「初級ドイツ語I・II」で学んだ基礎的な知識・技能の上に，より幅広く高度な表現力を習得する授業である。日常的なコミュニケーションや表現力をより豊かにする力を養う。文法事項のレベルも高くなり，さらに多くの語彙を学ぶ。引き続き「聴く・読む・書く・話す」のバランスの取れた技能の習得を目標とし，より複雑な表現にも対応できるようになることを目指す。さらに，ドイツ語という言語に関する知識にとどまらず，ドイツ語圏における文化・習慣・思考などの特徴もより深く理解できるようになる。	
			初級ドイツ語Ⅳ	「初級ドイツ語I・II・III」で学んだ知識や技能に基づき，日常生活において必要なコミュニケーションや表現に対する応用力を養う授業である。より高度な文法事項を含んだ複雑な構文の文章に取り組むことで長文読解力の基礎も習得し，これまでに学んだ事柄を生かす力を養う。ドイツ語圏の事情についての知識も増やすことにより，より円滑なコミュニケーションや表現力の育成を目指す。「初級ドイツ語I」～「初級ドイツ語IV」を通年で受講することによって，ドイツ語検定試験4級程度のレベルに到達することが可能である。	
			初級フランス語Ⅰ	初修外国語の「初級フランス語I～IV」は，フランス語とフランス語圏の事情に関する初級である。「初級フランス語I」はその入門部分である。挨拶・自己紹介などの基本的なコミュニケーションの基礎を養う。文法事項としては，綴りと発音の規則に始まり，動詞の人称変化などを中心に学ぶ。「聴く・読む・話す・書く」のバランスの取れた技能の習得を目標とする。	
			初級フランス語Ⅱ	「初級フランス語I」の基礎の上に，フランス語全般の理解に必要となる基本的な知識・技能を習得する。日常的な状況におけるコミュニケーションや表現力の基礎を養う。文法事項もやや高度になり，必要な語彙も少しずつ増加し，動詞や冠詞類の変化など，フランス語を運用する上での必須事項を引き続き学ぶ。「聴く・読む・書く・話す」のバランスのとれた技能の習得が目標である。言語とともに，フランス語圏の事情について学習する。	
			初級フランス語Ⅲ	「初級フランス語I・II」で学んだ基礎的な知識・技能の上に，より幅広く高度な表現力を習得する授業である。日常的なコミュニケーションや表現力をより豊かにする力を養う。文法事項のレベルも高くなり，さらに多くの語彙を学ぶ。「聴く・読む・書く・話す」のバランスの取れた技能の習得し，より複雑な表現を学習する。さらに，フランス語だけでなく，フランス語圏における文化・習慣・思考などの特徴もより深く理解できるようになる。	
			初級フランス語Ⅳ	「初級フランス語I・II・III」で学んだ知識や技能に基づき，より高度な文法事項の習得とより複雑な構文の文章の理解に取り組む。日常生活において必要なコミュニケーションや表現に対する応用力を養う。フランス語圏の事情についての知識も増やし，より円滑なコミュニケーションや表現力の学習する。「初級フランス語I」～「初級フランス語IV」を通年で受講することによって，フランス語検定試験4級程度のレベルに到達することが可能である。	
			初級中国語Ⅰ	初めて中国語を学ぶものを対象とした中国語の入門授業。四技能のうち「話す」と「聞く」に重点を置く。最初の五回の授業で発音の基礎とピンイン（中国語の表音ローマ字）の読み方と綴り方を集中的に学習する。その後，発音のトレーニングを継続しながら，動詞述語文，形容詞述語文，名詞述語文，主述述語文，構造助詞「的」の用法を学ぶ。単語については２５０語の習得を目標とする。授業終了時には，中国語検定試験準４級の半分程度のレベルに受講生は到達する。	
			初級中国語Ⅱ	「初級中国語Ⅰ」の基礎に立ち，四技能のうち「話す」と「聞く」と重点的に鍛える。発音のトレーニングを継続しながら，数量補語，各種疑問文，指示代名詞，所有表現，親族名称，場所表現，数量詞，動詞連続，完了態，変化態について学ぶ。単語については５００語の習得を目標とする。授業終了時には，中国語検定試験準４級のレベル，すなわち，中国語学習を進めていく上での最低限の基礎知識を習得したレベルに受講生は到達する。	
			初級中国語Ⅲ	「初級中国語Ⅰ・Ⅱ」の基礎に立ち，四技能のうち「話す」と「聞く」を引き続き重点的に鍛える。同時に，「読む」と「書く」を徐々に導入する。発音のトレーニングも継続する。経験態，可能を表す助動詞，進行態，程度副詞，比較表現，年月日時刻曜日の表現，金額の表現，複雑な連体修飾語，前置詞，複雑な連用修飾語を学ぶ。単語については７５０語の習得を目標とする。授業終了時には，中国語検定試験準４級と４級の中間レベルに受講生は到達する。	
			初級中国語Ⅳ	「初級中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の基礎に立ち，四技能のうち「話す」と「聞く」に重点を置きながらも，「読む」と「書く」も平行して習得していく。発音のトレーニングも継続する。程度補語，数量補語，結果補語，方向補語，可能補語，願望を表す助動詞，必要・義務を表す助動詞，禁止表現，受動態，使役表現，「把」構文，存現文を学ぶ。単語については１０００語の習得を目標とする。授業終了時には，中国語検定試験準４級のレベル，すなわち，中国語の基礎をマスターし，平易な中国語を聞き，話すことができるレベルに受講生は到達する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	初修外国語	初級朝鮮語Ⅰ	初修外国語の「初級朝鮮語I～IV」は，朝鮮語の初心者を対象とした授業である。「初級朝鮮語Ⅰ」は，ゼロから朝鮮語の文字（ハングル）や発音に習熟し，日常生活における初歩的なコミュニケーションができることを到達目標とする。たとえばあいさつや自己紹介をしたり，住んでいるところ，好き嫌い，学生生活などについて話せるようにする。授業では，「読む・書く・聞く・話す」の４つの技能をバランスよく習得できるようにし，学生同士の対話練習や発表の時間を多く持つ予定である。	
			初級朝鮮語Ⅱ	「初級朝鮮語Ⅰ」に引き続き，「初級朝鮮語Ⅱ」では，朝鮮語の文字（ハングル）や発音を習得できるようにし，ハングルでパソコン入力ができるようにする。また，「初級朝鮮語Ⅱ」では，描写力の基本を身に付けることを目標とする。具体的には，物のあるなしや位置関係，さらには，一日の生活や一週間の生活を話せるようにし，人や物の特徴についても言えるようにする。授業では，話す技能とともに，聞く能力，書く技能も同様に伸ばすようにする。	
			初級朝鮮語Ⅲ	「初級朝鮮語Ⅰ」「初級朝鮮語Ⅱ」に引き続き，「初級朝鮮語Ⅲ」では様々なコミュニケーションの場に応じた表現を身につける。具体的には，相手に働きかける表現を中心として，頼む・指示する・勧める，意向・欲求を言う，誘う・提案といった，日常生活において事態をを一歩進める表現ができるようにする。さらには，敬語表現を学ぶことによって，人間関係に応じた言葉づかいができるようにする。これらの表現は，対話練習と書く練習，聞く練習によって習熟するようにする。	
			初級朝鮮語Ⅳ	「初級朝鮮語Ⅰ」「初級朝鮮語Ⅱ」「初級朝鮮語Ⅲ」に引き続き，「初級朝鮮語Ⅳ」ではより円滑なコミュニケーションが図れるような表現を身につける。たとえば，時間表現，過去のことやこれからのことが話せるようにする。さらには，理由・目的・対立の表現を学んで因果関係を表したり，推測・仮定，可能，不可能の表現ができるようにする。さらには，対話練習や作文練習に加えて，短い文章を多く読むことを通じて，読解能力を伸ばすことも目指す。	
			初級フィリピノ語Ⅰ	フィリピノ語のアルファベットの読み方，発音から始め，簡単な挨拶，自己紹介ができるようにする。具体的には，初歩的な読み・書き・話すの３技能を獲得するため，初学者用の教科書に沿って，フィリピノ語の単語についての基礎知識，フィリピノ語の述部＋主部からなる基本文型を習得して，フィリピノ語の特徴を理解するとともに，語順，前節語（人称代名詞，小辞）についても理解する。これらに習熟するために音声教材を利用し，繰返し発音するとともに，書取りも行い，上記の技能の定着を図る。	
			初級フィリピノ語Ⅱ	「初級フィリピノ語I」で習得した内容を定着させ，さらに継続発展を行うため「初級フィリピノ語I」で使用した教科書および音声教材を引続き使用する。語彙力の強化とともに文法力の強化によって表現の幅を広げるため，フィリピノ語における標識辞の機能を理解し，これに習熟するために主題を示すang形を理解するとともに，所有等を表すng形を理解する。また修飾・被修飾の関係を示す繋辞の機能についても理解する。これらを通じて，基本的な読み書き話すの３技能の強化を行う。	
			初級フィリピノ語Ⅲ	「初級フィリピノ語II」で習得した内容を定着させ，語学力を系統的に涵養するため「初級フィリピノ語I」「初級フィリピノ語II」で使用した教科書・音声教材に準拠しながら，さらに多様な表現力および読解力を身につける。具体的には，基本文型の一つである同位文，標識辞のsa形の機能，形容詞の副詞的用法を理解する。さらに動詞の活用と相（アスペクト）を理解する。まずは行為者焦点動詞の重点的な習熟を図る。これらにより，日常的な行為についてフィリピノ語による口頭表現，文章表現を可能にする。	
			初級フィリピノ語Ⅳ	「初級フィリピノ語I」「初級フィリピノ語II」「初級フィリピノ語III」で習得したことをもとに，一通りのフィリピノ語の初級文法を理解することによって，旅行に出た時に必要となる基本的な表現力を身につけるとともに簡単な文章の読解力を身につける。具体的には，引き続き教科書・音声教材を活用しつつ，動詞については多様な「非行為者焦点動詞」に習熟するとともに「行為者焦点動詞」との対応や関係を理解し，かつ動詞のモードを理解することで，同一事象に関しての多様な表現の可能性を知り，フィリピノ語の特徴を把握する。	
		高年次教養科目	文系主題科目	初年次を中心として開講している教養教育科目は，高校卒業程度の知識レベルを基礎としている。そのため，その教育内容は，現代社会で必要とされる内容には十分ではない。そこで，ある程度専門教育を受けた2年次後期以降に，文系の学問領域に関する種々の主題を例として，文系の高度な教養を身につける事を目的とした講義である。現代社会が直面する課題を認識しその解決に貢献できる人材が備えているべき文系の素養の育成を目指す。講義形式は座学やe-ラーニングを有効に活用し，選択科目として開講する。	
			理系主題科目	初年次を中心として開講している教養教育科目は，高校卒業程度の知識レベルを基礎としている。そのため，その教育内容は，現代社会で必要とされる内容には十分ではない。そこで，ある程度専門教育を受けた2年次後期以降に，理系の学問領域に関する種々の主題を例として，理系の高度な教養を身につける事を目的とした講義である。現代社会が直面する課題を認識しその解決に貢献できる人材が備えているべき理系の素養の育成を目指す。講義形式は座学やe-ラーニングを有効に活用し，選択科目として開講する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	発展科目	英語プロフェッショナル養成コースに関する科目	Oral Communication	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なオーラルコミュニケーション・スキルを涵養するための授業である。日常生活や旅行などの過去の個人的経験を基にした会話，公共機関や職場といった社会的な場等，様々な文脈での実践的コミュニケーションの場面において，かなり詳細な内容の英語を正確に聞き取り，それに対して，自分の意見を効果的に述べられることを到達目標としている。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。	
			Speaking & Reading Strategies	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なリーディング・スキルを涵養するための授業である。多読・速読用のテキストを活用する共に，英字新聞やインターネット上の英語で書かれた社会的な問題を扱った記事を速読し，その内容を正しく理解し，自らの批評的意見に基づき，発展的な議論を展開できることを到達目標としている。毎回の授業では，ICTを活用して最新の記事にアクセスし，話題提供を行うとともに，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。	
			Effective Presentations	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なプレゼンテーション・スキルを涵養するための授業である。各自の研究や様々な社会問題をテーマにして，インターネットなどを活用して必要な資料収集を行い，効果的な英語表現を使ったスライドを作成できること，さらに，視覚的に理解しやすいスライドに仕上げること，そしてそれらを効果的に英語で発表できることを到達目標としている。毎回の授業では英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。	
			Writing Workshop	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なライティング・スキルを涵養するための授業である。自分の興味のある話題について，文献だけでなくインターネットや簡単なフィールドワークなどを利用したリサーチ・プロジェクトを遂行できること，さらにその調査の結果を論理的に説得力のある小論文（エッセイ）としてまとめることを到達目標としている。毎回の授業では英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式と，作文の添削指導を行うチュータリング形式を用いた学習活動を行う。	
			Academic Reading	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なアカデミック・リーディング・スキルを涵養するための授業である。英語で書かれた学術出版物を理解できること，興味のある学術分野について説明することができること，読み手に配慮した大学院進学志望書を書くことができることを到達目標としている。毎回の授業では，講義形式で話題提供を行い，その後ディスカッション形式で意見交換を行う学習内容となっている。なお，志望書の添削指導を行うチュータリング形式を用いた学習活動も行う。	
			Writing Strategies	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なアカデミック・ライティング・スキルを涵養するための授業である。リサーチ・ペーパーの構造を理解し説明できること，正しい引用方法を用いて，興味のある分野の内容に関して期末レポートをまとめられることを到達目標としている。毎回の授業では英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式と，レポート作成に際して，添削指導を行うチュータリング形式を併用した学習活動を行う。	
			Discussion Skills	基礎科目として学んだ英語を基に，より発展的なディスカッション・スキルを涵養するための授業である。現代社会の様々な問題を認識し，自分の意見を明確に，流暢さをもって述べられること，他人の意見に対して正当な理由をもって賛成，または反対の意見を述べられることを到達目標としている。毎回の授業では，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式，及び意見交換・討論を行うディスカッション形式の学習活動を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	発展科目	英語プロフェッショナル養成コースに関する科目	English For Academic Research	基礎科目として学んだ英語を基に，学術研究のための汎用的な英語運用能力を涵養するための授業である。比較的専門的な内容の英文（雑誌記事や論文等）を読解できること，授業で扱ったテーマについてエッセイを書くことができること，そしてそれらの内容について批判的思考ができることを到達目標としている。毎回の授業では，講義形式で話題提供を行い，その後，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式を用いた学習活動を行う。	
			Business English	基礎科目として学んだ英語を基に，ビジネスのための英語運用能力を涵養するための授業である。ビジネス英語の語彙に習熟できること，ビジネス場面で使用される英語表現を理解し，使用できること，そしてビジネスに関する時事的な話題について議論できることを到達目標としている。毎回の授業では，講義形式で話題提供を行い，その後，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式，及びディスカッション形式の学習活動を行う。	
			Introducing Japanese Culture in English	基礎科目として学んだ英語を基に，日本文化を紹介するための英語運用能力を涵養するための授業である。日本に特有な行動様式について理解し，英語で丁寧に説明できること，日本固有の文化（衣・食・住・祭等に関する様々なテーマ）について英語で説明できることを到達目標としている。毎回の授業では，講義形式で話題提供を行い，その後，英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式，及びプレゼンテーション形式の学習活動を行う。	
			Oral Performance	基礎科目として学んだ英語を基に，発展的なオーラル・パフォーマンス能力を涵養するための授業である。演劇やミュージカル，落語（英語小噺も含む），芝居，パブリック・スピーキングなどの様式を用いて，より豊かな英語表現力を身につけることを到達目標としている。毎回の授業では，自宅でのリハーサルトレーニングの成果を発表し，学生同士相互評価を行う。なお，英語の4技能のみならず，身体表現なども活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動も行う。	
			Introductory Interpretation	基礎科目として学んだ英語を基に，通訳技法の基礎を学ぶための授業である。精通しているトピックについて日・英の両言語で丁寧に説明できること，日・英の両言語で素早くノート・テークができること，さらに架空の状況で，学んだ通訳技法を教室環境で披露できることを到達目標としている。毎回の授業では，講義形式による話題提供の他，シャドーイングなどの通訳訓練法，さらに英語の4技能を活用したアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行う。	
			Studying English Abroad Ⅰ	前期集中科目として，英語プロフェッショナル養成コース所属の学生を対象として開講される科目。夏季休業中における海外での短期語学研修に参加した学生に対して，研修先より発行された修了証等を確認し，一定の単位を認定する授業である。なお，事前・事後指導の受講が義務づけられており，それらを適切に受講していない場合は，単位認定は行われない。特に，事前指導では，渡航先での安全・危機管理面の講習を，事後指導では発表会と海外研修レポートの執筆・提出という課題が用意されている。	
			Studying English Abroad Ⅱ	後期集中科目として，英語プロフェッショナル養成コース所属の学生を対象として開講される科目。春季休業中における海外での短期語学研修に参加した学生に対して，研修先より発行された修了証等を確認し，一定の単位を認定する授業である。なお，事前・事後指導の受講が義務づけられており，それらを適切に受講していない場合は，単位認定は行われない。特に，事前指導では，渡航先での安全・危機管理面の講習を，事後指導では発表会と海外研修レポートの執筆・提出という課題が用意されている。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	発展科目	愛媛大学リーダーズ・スクールに関する科目	愛媛大学リーダーズ・スクール	本科目は，組織や社会を牽引するリーダー及びそれをサポートすることで組織の有効性を増すフォロワーに必要な知識・行動・態度の修得を目的とするものであり，リーダーシップの理論学習に止まらず，グループワークやプレゼンテーション等を含むアクティブな授業を実施する事で学んだ事柄を試行・実践する機会を設けている。複数のスタッフによる体系的・段階的・継続的な支援・教育を通じ，本人の人間的な成長の促進，大学の活性化，卒業後の社会貢献に資するプログラムを提供している。	
			グローバル・リーダーシップⅠ	急速にグローバル化が進む現代社会においては，国内外の多様な人々と円滑なコミュニケーションをとりつつ協働する能力が求められている。本科目では，通常の講義に加え，韓国の大学との共同研修等を通して，価値観や文化的背景が異なるメンバー同士がお互いの主張を認め，協力して一つの物事に取り組む上で必須となる態度やスキルについて学ぶ。受講生らが，今後わが国の経済を担う国際的な人材となる上で役立つ意思疎通能力や主体性等を養成することをねらいとする。	
			グローバル・リーダーシップⅡ	ボーダーレス化する現代社会においては，異なる言語・文化・習慣を持つ多様な人材と意思の疎通を図りつつ協働する力が必須となる。本科目では，海外（サイパン）の小・中・高等学校の生徒たちを相手にした授業を作成し実施すると共に，現地教員からの助言を受け，彼らと議論を重ねることで授業の改良・改善に取り組む。加えて，現地の生徒を相手とした日本文化の紹介活動についてもチームで企画・立案し実施する。これらを通じ，受講生たちが国際的な人材となる上で必須の積極的コミュニケーションや，リーダーシップの発揮について学ぶことを目的とする。	
		サーバント・リーダー養成に関する科目	地域未来創成入門	本講義では，一次産業を中心とした未来社会の持続的発展に貢献できるサーバント・リーダー（地域社会で献身的に活動するリーダー）としての素養を身につける。授業を通じて自らが目指すサーバント・リーダーのあり方について説明すること，持続不可能な地域と世界の現状について，自然・社会文化・経済の視点から説明すること，　一次産業を中心とした持続可能な未来社会像について説明すること，地域において学習・調査活動に関わることのできるフィールドワーク手法と危機管理方法について説明することができるようになることをめざす。	
			カルチャーシェアリング	日本・インドネシアの言語・文化を理解し，多様な主体との協調を通じて地域の未来ビジョンを語る能力を身につける。本授業は，国内サービスラーニングと同時期に実施する。講義では，インドネシアの学生とともに，相手の文化を理解・尊重しながら，協力しあう能力，英語またはインドネシア語で，自国の生活・文化を説明する能力，英語またはインドネシア語で，自らの未来ビジョンを語る能力を身につけることをめざす。SUIJIサーバント・リーダー養成に関する科目「国内サービスラーニング」の受講を希望する学生を対象とする。	
			ベーシック国内サービスラーニング	四国3大学（愛媛・香川・高知大学）が設定するフィールドにおいて，四国3大学とインドネシア3大学双方の学生と協働で，地域の課題と可能性を発掘して課題を解決する方策を見いだす地域貢献活動を行う。本授業は，自ら発掘した地域の課題と可能性を説明することができる，地域から世界の未来を開拓する方法を説明することができる，長期にわたって国内の僻地で持続的に活動するための方法を説明し，実践することができる，言語，文化理解に基づき多様な主体との協調を通じて地域の未来ビジョンを発表することができる能力を習得する。	
			アドバンスド国内サービスラーニング	四国3大学（愛媛・香川・高知大学）が設定するフィールドにおいて，四国3大学とインドネシア3大学双方の学生と協働で，地域の課題と可能性を発掘して課題を解決する方策を見いだす地域貢献活動を行う。本授業は，学生が地元住民など多様な主体と協働しながら，地域の課題解決を目指し，地域の未来可能性を活用した地域貢献活動を実践する為に必要な，ベーシック国内サービスラーニングにおいて習得する能力に加えて，地域課題を解決し，地域のポテンシャルを活用した行動を示すことができる能力を習得する。	
			ベーシック海外サービスラーニング	インドネシア3大学（ガジャマダ・ボゴール農業・ハサヌディン大学）が設定するフィールドに出向き，四国3大学とインドネシア3大学双方の学生と協働で，地域の課題と可能性を発掘して課題を解決する方策を見いだす活動を行う。本授業は，自ら発掘した地域の課題と可能性を説明する，地域から世界の未来を開拓する方法を説明する，長期にわたって国内の僻地で持続的に活動するための方法を説明し実践する，言語，文化理解に基づき多様な主体との協調を通じて地域の未来ビジョンを発表することができる能力を習得する。	
			アドバンスド海外サービスラーニング	インドネシア3大学（ガジャマダ・ボゴール農業・ハサヌディン大学）が設定するフィールドに出向き，四国3大学とインドネシア3大学双方の学生と協働で，地域の課題と可能性を発掘して課題を解決する方策を見いだす活動を行う。本授業は，学生が地元住民など多様な主体と協働しながら，地域の課題解決を目指し，地域の未来可能性を活用した地域貢献活動を実践する為に必要な，ベーシック海外サービスラーニングにおいて習得する能力に加えて，地域課題を解決し，地域のポテンシャルを活用した行動を示すことができる能力を習得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	発展科目	環境ＥＳＤ指導者養成講座に関する科目	持続可能な社会づくり（ＥＳＤ）	本講義では，愛媛大学環境ESD指導者養成カリキュラムの基礎として，自然環境，社会文化，経済分野を横断的に学び，地域からグローバルな地域的広がりにおいて現状を理解し，様々な事象の連関性に気づき，理解するために分析する力を身につけることを目的とする。さらに，人々の意識を変革するために有効な学びの場を企画し提供するという，自ら行動する姿勢を身につけることを目指す。授業は，ESD教材を実際に使いながらグループワーク形式で実施する。	
			環境ＥＳＤ指導者養成講座Ⅰ	持続可能な社会づくりのための環境教育（環境ESD）の指導者に必要な知識と技能を修得する。講義では実際にフィールドに出向き，地域住民，NPO代表者などと関わりながら，地域の自然環境，社会文化，経済の持続不可能な事柄を探求し，持続可能な資源の発掘を行うための技能を身につける。グループワークを通じて，より持続可能な社会を目指した，環境ESDを企画するための知識と技能を学ぶ。本講義は，フィールド実習と合わせて学内外の講師陣から提供される分野横断型の知識と技能を習得することを目指す。	
			環境ＥＳＤ指導者養成講座Ⅱ	本講義は，環境ESD指導者養成講座Iの履修を通じて学んだ持続可能な社会づくりのための環境教育（環境ESD）の指導者に必要な知識と技能をベースに，学生自らが環境ESD活動を企画・運営を行い，学習成果を地域社会に還元する手法を学ぶ。さらに，地域で持続可能な社会づくりを実践している実践者を講師陣に向かえ，実践に結びつく知識と技能を習得することを目指す。講義では，グループワークを通じて，より持続可能な社会を目指した，環境ESDを企画するための知識と技能を学ぶ。	
			環境ＥＳＤ指導者養成演習Ⅰ	本講義の受講生は，環境ESD（持続可能な社会づくりのための環境教育）に関連する活動を行っている諸団体等でのインターンシップを通じて，環境ESDの企画運営に関する実務を学ぶ。持続可能な社会づくりを意識した活動を体験しながら，地域に密着した人的・物的資源を発掘することと，環境ESD指導者II種を取得するまでに学んだ知識と経験を，インターンシップ先の活動を通じて，地域社会に還元することを目的としている。インターンシップ期間は原則60時間とする。	
			環境ＥＳＤ指導者養成演習Ⅱ	本講義の受講生は，環境ESD指導者養成演習Ⅰを受講していることが条件である。環境ESD（持続可能な社会づくりのための環境教育）に関連する活動を行っている諸団体等でのインターンシップを通じて，環境ESDの企画運営に関する実務を学ぶ。持続可能な社会づくりを意識した活動を体験しながら，地域に密着した人的・物的資源を発掘することと，環境ESD指導者II種を取得するまでに学んだ知識と経験を，インターンシップ先の活動を通じて，地域社会に還元することを目的としている。インターンシップ期間は原則60時間とする。	
		スキルアップ科目	英語Ｓ１	前期集中科目として，全学部学生を対象とした科目。夏季休業中における海外での短期語学研修に参加した学生に対して，研修先より発行された修了証等を確認し，一定の単位を認定する授業である。なお，事前・事後指導の受講が義務づけられており，それらを適切に受講していない場合は，単位認定は行われない。特に，事前指導では，渡航先での安全・危機管理面の講習を，事後指導では発表会と海外研修レポートの執筆・提出という課題が用意されている。	
			英語Ｓ２	後期集中科目として，全学部学生を対象とした科目。春季休業中における海外での短期語学研修に参加した学生に対して，研修先より発行された修了証等を確認し，一定の単位を認定する授業である。なお，事前・事後指導の受講が義務づけられており，それらを適切に受講していない場合は，単位認定は行われない。特に，事前指導では，渡航先での安全・危機管理面の講習を，事後指導では発表会と海外研修レポートの執筆・提出という課題が用意されている。	
			英語Ｓ３	英語のスピーキング・リスニング・ライティング・リーディングの技能間の連携を意識した学習を通して，高度な英語コミュニケーション力の習得を目指す授業である。英語で情報を入手し，その情報を基に英語で自分の考えを構築し，発信する能力を身に付ける。ペアワーク・グループワーク・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニング形式の学習活動を行い，積極的に英語を使い議論に参加できるだけでなく，明瞭かつ簡潔な英語表現で自分の意見を伝えるようになることを目指す。	
			ライフスポーツ	初心者を対象にした水泳及びスキーを内容とする集中授業を開講している。水泳は，特に教員免許状の取得を目指す学生を中心にして授業を行っている。夏季に正規のクロール，平泳ぎの泳法と指導方法を理解し，息継ぎをしながら泳ぐことができることを目指す。スキーは，冬季にスキー場において授業を行う。主に初心者を対象に受講生の経験の少ない自然環境下で，共同生活をしながら初～中級者レベルのスキルの獲得を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	発展科目	食育士プログラムに関する科目	食育入門	「食」は，人が健やかに生きていくための源であり，生涯を通じて健全な心身を保ち，豊かな人間性をはぐくむためには，健全な食生活が不可欠である。我が国の食生活は，海外からの食料輸入の増大に加え，食の外部化や生活様式の多様化が進み，若年層の生活習慣病増加や，食料資源の浪費等の諸問題が顕在化している。現在食に関してどのような問題点があるのか，またなぜ食育が今必要なのかを考える。また，現代の食生活がどのように形成されたのか，食文化から考える。	
			食育総論	今日の日本の食は，物的にはきわめて豊かになった。しかし，その一方で，世界人口増加に比例して食料不足や貧困問題が深刻化している。日本国内でも食料自給率の低下や農家の高齢化，後継者不足など，農に関する様々な問題が発生している。そうした中で，食と農の間に大きな断絶があり，新たな関係構築の必要性が指摘されている。本講義では，食と農に関わる現状や問題点について，作物学，森林科学，水産学，社会学など各視点から考えるとともに，日本の食と農の関係について明らかにする。	
		防災エキスパートに関する科目	環境防災学	防災士の取得を前提とした講義であり，防災士（ぼうさいし）とは，特定非営利活動法人日本防災士機構による民間資格である。本講義は，防災士機構の認定に基づく講義であり，災害に関する一般的知識との習得と，松山消防局職員による救命講習の実技からなる。講義で補うことができない内容については，レポート課題として補完する。本講義単位取得者は，日本防災士機構の資格試験に合格すれば，防災士の資格を取得することができる。	
		教員免許に関する科目	スポーツと教育	教員免許状取得を目指す学生を対象にして開講する。小～高等学校の公式行事として，保健体育関係の行事等は複数あり，将来的にそれらに円滑に対応することができることを目指して本授業で経験を積む。授業内容を以下に示す３つのパートに区分し，３もしくは４回にわたり各パートを順次受講する。１）児童・生徒間の親睦を図るレクリエーション種目の実践，２）科学的根拠に基づいた運動系のクラブ活動の指導，３）運動会やクラスマッチの企画・運営の実践。	
		自律学習プログラムに関する科目	知の最前線に学ぶ	本学では知の最前線の著名な担い手を国内外から招聘し，様々な講演会やシンポジウムを随時開催している。学生は，①これらの学術講演会のうち5件を選択して聴講し，②それぞれの講演会で学んだことをレポートとして提出するとともに，③これら一連の講演会を通して得られた学修の成果についてロ頭試問を受けることにより，1単位を取得できる。本科目の取り組み期間は随意で，学期・年度を越えてもよい。学生が自律的に最先端の科学に触れる機会を見いだし，自らの知的可能性を広げる原動力となることを目的とする。	
			プロジェクト学習	学生が個人またはグループ単位で自由にテーマを設定し，自主的にその研究プロジェクトに取り組むことを主眼とする科目である。自らが発想したテーマについて，自律的に課題発見・解決に取り組むことを通して，汎用的能力と知の技法を身につけることを目的としている。プロジェクトの学習期間は随意で，学期・年度を越えてもよい。所定の活動成果報告書が提出された時点でプロジェクトが終了したものと扱われ，成績評価が行われる。1プロジェクトにつき，2単位が付与される。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	留学生対象科目	日本語科目	アカデミックジャパニーズ１	本科目の目的は，大学での学習に必要な総合的な日本語能力の向上および習熟を図ることであり，到達目標は，１.大量の日本語情報から，一定時間内で大意を的確に把握し，２.それに基づいて自らの意見形成を行い，３.日本語で表現できるようになることである。文法的な正確さはある程度まで求めるが，伝達能力をより重視する。授業は聴解主体の回と読解主体の回を交互に繰り返す。読解，聴解とも生教材を主に使用する。	
			アカデミックジャパニーズ２	本科目の目的は，大学での学習に必要な総合的な日本語能力の向上および習熟を図ることであり，到達目標は，１.大量の日本語情報から，一定時間内で大意を的確に把握し，２.それに基づいて自らの意見形成を行い，３.日本語で表現できるようになることである。文法的な正確さはある程度まで求めるが，伝達能力をより重視する。授業は生教材を用いての聴解が主体となる。また，グループワークの比重が高くなる。	
			アカデミックジャパニーズ３	本科目の目的は，大学生活の中でよくあるケースを基本に，相手や機能によって適切なメールの書き方と表現を学び，今後の人間関係を良好にしていけるようなメールが書けることである。具体的な到達目標は，１）日本語学習者に多い誤用例や，誤解を生みやすい表現について理解し，適切な表現を正しく使えるようになる，２）相手や場合にふさわしいメールを書くことができるようになる，である。そのため，実際にメールを送る課題を通じ，知識の定着をはかる。	
			アカデミックジャパニーズ４	本科目の目的は，将来専門課程で必要とされる口頭発表・またその後の質疑応答が可能になるような日本語表現力ー「描写」「説明」「意見のサポート」方法ーを身につけることである。そのため，大学生として適切な口頭発表を行うために必要な手順を，具体的に理解し，実践できることを目指す。その手段として，授業中は留学生同士また日本人ボランティアとのピア活動を積極的に行い，ピアによる発表原稿や口頭発表の見直し・振り返りを通して，ピアサポートの方法を知る。	
			日本語Ａ１	前学期に開講する本科目の目的は，日本語初級前半レベルの４技能（話す・聞く・読む・書く）を総合的に学習し，大学生活における日本人とのコミュニケーションに役立てることである。到達目標は，日常生活に必要な語彙・文型を覚え，実際の場面でそれらを使って日本人と会話できることである。授業は，日本語初級教科書に基づいて進め，毎回宿題を課し，定期的にテストを実施する。受講生は，ひらがな・カタカナをすでに学習していることを前提とし，基本的に日本語で行う。また必ず予習・復習を必要とする。	
			日本語Ａ２	後学期に開講する本科目の目的は，日本語初級前半レベルの４技能（話す・聞く・読む・書く）を総合的に学習し，大学生活における日本人とのコミュニケーションに役立てることである。到達目標は，日常生活に必要な語彙・文型を覚え，実際の場面でそれらを使って日本人と会話できることである。授業は，日本語初級教科書に基づいて進め，毎回宿題を課し，定期的にテストを実施する。受講生は，ひらがな・カタカナをすでに学習していることを前提とし，基本的に日本語で行う。また必ず予習・復習を必要とする。	
			日本語Ｂ１	前学期に開講する本科目の目的は，日本語初級後半レベルの４技能（話す・聞く・読む・書く）を総合的に学習し，大学生活における日本人とのコミュニケーションに役立てることである。到達目標は，１．日本語の動詞や形容詞の活用を正しい形で使用できる，２．教科書に出てくる語彙や文法を用いて，４技能をまんべんなく習得する，３．実際の場面で，学習した語彙・文法を使って日本人と会話できる，の３点である。授業は，日本語初級教科書に基づいて進め，毎回宿題を課し，定期的にテストを実施する。また必ず予習・復習を必要とする。	
			日本語Ｂ２	後学期に開講する本科目の目的は，日本語初級後半レベルの４技能（話す・聞く・読む・書く）を総合的に学習し，大学生活における日本人とのコミュニケーションに役立てることである。到達目標は，１．日本語の動詞や形容詞の活用を正しい形で使用できる，２．教科書に出てくる語彙や文法を用いて，４技能をまんべんなく習得する，３．実際の場面で，学習した語彙・文法を使って日本人と会話できる，の３点である。授業は，日本語初級教科書に基づいて進め，毎回宿題を課し，定期的にテストを実施する。また必ず予習・復習を必要とする。	
			日本語口頭表現Ｃ１	前学期に開講する本科目の目的は，初級で学習した文法や語彙の復習をし，単文から複文へとより高度な表現を学習することにより，物事を詳細に説明する能力，論理的な意見の交換，発表するための口頭表現能力を身につけることである。また，到達目標は，１．日本と自国の社会・文化等の共通点や相違点を理解してスピーチすることができる，２．提起されたテーマについて，J-support（日本人学生・社会人）と話し合うことができる，３．話し合ったことを文章にまとめ，発表することができる，　の３点である。授業は，教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語口頭表現Ｃ２	後学期に開講する本科目の目的は，初級で学習した文法や語彙の復習をし，単文から複文へとより高度な表現を学習することにより，物事を詳細に説明する能力，論理的な意見の交換，発表するための口頭表現能力を身につけることである。また，到達目標は，１．日本と自国の社会・文化等の共通点や相違点を理解してスピーチすることができる，２．提起されたテーマについて，J-support（日本人学生・社会人）と話し合うことができる，３．話し合ったことを文章にまとめ，発表することができる　の３点である。授業は，教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語読解作文Ｃ１	前学期に開講する本科目の目的は，１．初級の基礎的な学習を踏まえ，より高い総合的技能の習得を目指す，２．日本語の基礎的構造を知り，それを運用する能力を身に付ける，３．自律的な学習スタイルを習得する，の３点である。また，到達目標は，１．初級の文型表現を運用することができる，２．自分の考えを短文で表現できる，３．日本語能力試験３級程度の語彙（特に漢字）を理解し使用できる，の３点である。授業は，教材プリント(事前配布)に基づいて進行する。	
			日本語読解作文Ｃ２	後学期に開講する本科目の目的は，１．初級の基礎的な学習を踏まえ，より高い総合的技能の習得を目指す，２．日本語の基礎的構造を知り，それを運用する能力を身に付ける，３．自律的な学習スタイルを習得する，の３点である。また，到達目標は，１．初級の文型表現を運用することができる，２．自分の考えを短文で表現できる，３．日本語能力試験３級程度の語彙（特に漢字）を理解し使用できる，の３点である。授業は教材プリント(事前配布)に基づいて進行する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	留学生対象科目	日本語科目	日本語口頭表現Ｄ１	前学期に開講する本科目の目的は，クラスメートやJ-support（日本人学生・社会人）の対話を通して，文化や社会，人間などについて考える力と，それをスピーチで表現したり，グループで話し合ったりする日本語力を身に付けることである。また，到着目標は，１．自分の体験や意見を日本語で表現できる，２．相手の意見を聞いて理解できる。３．考え方や価値観が異なる相手と対話して，自分の考えを深めたり，新しい考えを創設したりできる，の３点である。授業は教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語口頭表現Ｄ２	後学期に開講する本科目の目的は，クラスメートやJ-support（日本人学生・社会人）の対話を通して，文化や社会，人間などについて考える力と，それをスピーチで表現したり，グループで話し合ったりする日本語力を身に付けることである。また，到着目標は，１．自分の体験や意見を日本語で表現できる，２．相手の意見を聞いて理解できる，３．考え方や価値観が異なる相手と対話して，自分の考えを深めたり，新しい考えを創設したりできる，の３点である。授業は教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語読解作文Ｄ１	前学期に開講する本科目の目的は，大学での学びに必要となる読解のスキルとレポートを書く時のルールを学ぶことである。読解は，必要な情報を的確に把握できるよう，接続表現や文末表現など着目すべき点を学び，文と文，段落と段落の関係を正しくとらえる能力の養成を目指す。また，他者に分かりやすく伝えられるよう，レポートを書く時のルール，文型，表現を身につける。合わせて教材にある語彙の定着も目指す。授業は教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語読解作文Ｄ２	後学期に開講する本科目の目的は，大学での学びに必要となる読解のスキルとレポートを書く時のルールを学ぶことである。読解は，必要な情報を的確に把握できるよう，接続表現や文末表現など着目すべき点を学び，文と文，段落と段落の関係を正しくとらえる能力の養成を目指す。また，他者に分かりやすく伝えられるよう，レポートを書く時のルール，文型，表現を身につける。合わせて教材にある語彙の定着も目指す。授業は教材プリントに基づいて進行する。	
			日本語口頭表現Ｅ１	前学期に開講する本科目の目的は，場面に応じた「適切な待遇表現」を学び，日本人を招くビジターセッション（インタビュー）運営等を通して，場面に応じた待遇表現運用力の向上を目指す。また到着目標は，１．ビジターに接するとき，相手にふさわしい話し方や表現を使って，質疑応答ができる，２．考え方や価値観が異なる相手と対話して，自分の考えを深めたり，新しい考えを創設したりできる，３．テーマを理解するために必要な情報・知識を適切な方法を使って入手できる，の３点である。	
			日本語口頭表現Ｅ２	後学期に開講する本科目の目的は，場面に応じた「適切な待遇表現」を学び，日本人を招くビジターセッション（インタビュー）運営等を通して，場面に応じた待遇表現運用力の向上を目指す。また到着目標は，１．ビジターに接するとき，相手にふさわしい話し方や表現を使って，質疑応答ができる，２．考え方や価値観が異なる相手と対話して，自分の考えを深めたり，新しい考えを創設したりできる，３．テーマを理解するために必要な情報・知識を適切な方法を使って入手できる，の３点である。	
			日本語読解作文Ｅ１	前学期に開講する本科目の目的は，日本語表現全般に通じる基礎的な方法を習得するため，表現を「通信・案内・伝達」「記録・報告」「意見・主張」の三部に分け，ジャンル・形式別の日本語表現方法を身に付けることである。到達目標は，１．文章を書く場合の一般的な手順や基本を理解する，２．場面や相手に応じた適切な手段で自己表現ができる，３．情報を収集・整理し，正確かつ簡潔に伝える文章にまとめる方法について理解する，４論理的な文章を読み，全体の構成や論旨を読み取る力がつく，５．日本語の特徴を理解する，の５点である。	
			日本語読解作文Ｅ２	後学期に開講する本科目の目的は，日本語表現全般に通じる基礎的な方法を習得するため，表現を「通信・案内・伝達」「記録・報告」「意見・主張」の三部に分け，ジャンル・形式別の日本語表現方法を身に付けることである。到達目標は，１．文章を書く場合の一般的な手順や基本を理解する，２．場面や相手に応じた適切な手段で自己表現ができる，３．情報を収集・整理し，正確かつ簡潔に伝える文章にまとめる方法について理解する，４論理的な文章を読み，全体の構成や論旨を読み取る力がつく，５．日本語の特徴を理解する，の５点である。	
			日本語総合Ｅ１	前学期に開講する本科目の目的は，単なる言葉の理解だけでなく，ビジネス知識，習慣など，社会的文化的背景を含めた，総合的な理解力，判断力をつけ，あらゆるビジネス場面で日本語による十分なコミュニケーションができるようにすることである。到達目標は，１．日本語に関する正確な知識と運用能力が身につく，２．どのようなビジネス会話でも正確に理解できる，３．会議，商談，電話の応対などで相手の話すことが正確に理解できる，４．対人関係に応じた言語表現の使い分けが適切にできる，５．日本のビジネス慣習を十分理解できる，の５点である。	
			日本語総合Ｅ２	後学期に開講する本科目の目的は，単なる言葉の理解だけでなく，ビジネス知識，習慣など，社会的文化的背景を含めた，総合的な理解力，判断力をつけ，あらゆるビジネス場面で日本語による十分なコミュニケーションができるようにすることである。到達目標は，１．日本語に関する正確な知識と運用能力が身につく，２．どのようなビジネス会話でも正確に理解できる，３．会議，商談，電話の応対などで相手の話すことが正確に理解できる，４．対人関係に応じた言語表現の使い分けが適切にできる，５．日本のビジネス慣習を十分理解できる，の５点である。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	留学生対象科目	日本語科目	日本語漢字Ａ１	前学期に開講する本科目の目的は，ひらがな・カタカナ・漢字（323字）の読み書きを身につけることである。到着目標は，１．正しい書き順でひらがな・カタカナ・漢字が書ける，２．学習した漢字で書かれた漢字仮名交じり文が読める，３．学習した漢字を使って，日本語の文を漢字仮名交じり文で表記できる，の３点である。授業は，テキスト『Write Now! Kanji for Beginners』に基づいて進行する。	
			日本語漢字Ａ２	後学期に開講する本科目の目的は，ひらがな・カタカナ・漢字（323字）の読み書きを身につけることである。到着目標は，１．正しい書き順でひらがな・カタカナ・漢字が書ける，２．学習した漢字で書かれた漢字仮名交じり文が読める，３．学習した漢字を使って，日本語の文を漢字仮名交じり文で表記できる，の３点である。授業は，テキスト『Write Now! Kanji for Beginners』に基づいて進行する。	
			日本語漢字表記Ｂ１	前学期に開講する本科目の目的は，自律的な学習を通して，自分のレベルの一段階上の漢字とその使い方を覚え，漢字力特に正しい表記力を身につけることである。到達目標は，１．読み手に誤解されない字形等，正しく漢字が書けるようになる，２．授業開始時に設定した目標のレベルまでの漢字を正しく表記が行え，意味がわかるようになる，の２点である。また，場合によっては，ひらがなカタカナの書字指導も行う。授業は，それぞれのレベルに合う教材を使って漢字表記方法を中心に漢字学習を行う。	
			日本語漢字表記Ｂ２	後学期に開講する本科目の目的は，自律的な学習を通して，自分のレベルの一段階上の漢字とその使い方を覚え，漢字力特に正しい表記力を身につけることである。到達目標は，１．読み手に誤解されない字形等，正しく漢字が書けるようになる，２．授業開始時に設定した目標のレベルまでの漢字を正しく表記が行え，意味がわかるようになる，の２点である。また，場合によっては，ひらがなカタカナの書字指導も行う。授業は，それぞれのレベルに合う教材を使って漢字表記方法を中心に漢字学習を行う。	
			日本語漢字語彙Ｂ１	前学期に開講する本科目の目的は，自律的な学習を通して，自分のレベルの一段階上の漢字と漢字語彙の使い方を覚え，漢字力とそれに伴う語彙力を身につけることである。到達目標は，１．読み手に誤解されない字形，正しい書き方で漢字が書けるようになる，２．授業開始時に設定した目標のレベルまでの漢字と漢字語彙の読み書きができ，意味がわかるようになる，の２点である。授業は，それぞれのレベルに合う教材を使って漢字語彙の使い方を中心に漢字学習を行う。	
			日本語漢字語彙Ｂ２	後学期に開講する本科目の目的は，自律的な学習を通して，自分のレベルの一段階上の漢字と漢字語彙の使い方を覚え，漢字力とそれに伴う語彙力を身につけることである。到達目標は，１．読み手に誤解されない字形，正しい書き方で漢字が書けるようになる，２．授業開始時に設定した目標のレベルまでの漢字と漢字語彙の読み書きができ，意味がわかるようになる，の２点である。授業は，それぞれのレベルに合う教材を使って漢字語彙の使い方を中心に漢字学習を行う。	
		日本事情に関する科目	日本事情Ａ１	本科目の目的は，日本の大学ではじめて大学生活を送る学部外国人留学生が，教室内外の活動を通じて，日本文化への理解を深めることである。教室内では，担当教員の講義等により，伝統的な日本文化や今日的な日本マナーを学ぶ。教室外活動としては，松山城，道後温泉，石手寺等の具体的な歴史名所への訪問を行うことで，地元愛媛（特に松山）の歴史を知る。また，伊予かすり会館や地元企業見学等を通じて，地元愛媛（特に松山）の産業等への知識も得る。	
			日本事情Ａ２	この授業では現代日本の様々な社会問題（食の安全，原子力等）を取り上げ，日本語によるグループディスカッションを行う。本科目の目的は，１.現代日本の話題を知ってそれについて日本語で自分の意見を述べる，２.日本社会や文化を様々な視点で考える，の２点である。到達目標は，１.日本語でディスカッションができる，２.日本に話題になっているトピックスについて日本語で意見が述べられる，３.日本語で情報収集ができる，の３点である。	
			日本事情Ｂ１	日本の大学で初めて大学生活を送る外国人留学生が，大学の仕組み・日本の社会の仕組み・日本の文化・日本の言葉など，専門的な学問以前の常識として保持しておきたい基本的な知識を習得する。さらに，日常生活・大学生活で気付いた疑問点について，授業のなかで互いに紹介し合い，討論を行うことにより，実践的な日本語コミュニケーション能力を培う。単に日本の問題点を紹介するだけでなく，同じ事項に関する留学生の母国の様子も紹介しあい，比較対照しながら，立体的に検討していく。	
			日本事情Ｂ２	本来,「日本事情」が扱うべき主題はきわめて多岐に渡る。本科目では戦後期日本を中心に,日本社会への理解を深め,基礎的な判断材料となるような知識の習得を目指す。到達目標は,1.日本での生活・学習の基礎的な判断材料となるような知識を習得する,2.日本が単一なものではなく,「いくつもの日本文化・いくつもの日本社会」があることを例を挙げて説明できる,3.授業で取り上げた諸問題に関し,自国の状況と比較して見解を述べることができる,ことである。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎力育成科目群	社会共創学概論	この授業は、社会共創学という学問の起点となる科目で、社会共創学の学問的性質、社会の課題およびその発見の視点、トランスディシプリナリー研究の在り方ならびに科学と社会の連携による「知の統合」とそれによる地域の新しい価値創造までのプロセスについて学びます。その際に重要なるサーバントリーダーシップの重要性およびその修得法について学びます。講義では、地域社会が抱える複雑な課題を解決する国内外の事例も交え、かつグループ・ディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを活用して学ぶことによって、課題設定・解決への学習意欲を高めます。 （オムニバス方式／全15回） （⑯　榊原　正幸／11回） 　ガイダンス　－社会共創学の学問的性質－ 　地域社会の諸問題　―科学と現実社会が交わるトランス・サイエンス― 　トランスディシプリナリティの概念　－学と社会の連携による「知の統合」と協働－ 　トランスディシプリナリティの実践　－欧米および日本におけるトランスディシプリナリー研究の実践例－ 　トランスディシプリナリー研究におけるステークホルダー論 　課題解決のための分野横断的思考 　トランスディシプリナリー研究におけるサーバントリーダーシップの重要性と修得 　グループ・ディスカッション「地域社会の課題解決のためのプロセスとその手法」 　地域社会の課題とトランスディシプリナリー研究の萌芽 その5　－インドネシアにおける貧困問題を背景とします水銀汚染とトランスディシプリナリー・アプローチによる地域社会の変容－ 　社会共創学がもたらす社会の変容 　グループ・ディスカッション「自分が住んでいる地域社会におけるトランスディシプリナリティ」 （⑭　若林　良和／1回） 　地域社会の課題とトランスディシプリナリー研究の萌芽 その１　－地場産業に関する多面的分析－ （⑫　笠松　浩樹／1回） 　地域社会の課題とトランスディシプリナリー研究の萌芽 その2　－愛媛県の農山漁村振興－ （⑧　井口　梓／1回） 　地域社会の課題とトランスディシプリナリー研究の萌芽 その3　－地域づくりと文化－ （㉕　片岡　由香／1回） 　地域社会の課題とトランスディシプリナリー研究の萌芽 その4　－協働の空間デザイン－	オムニバス方式
		地域調査方法入門	現代社会において、地域調査は、企業・行政・団体や研究機関など地域の様々な主体（ステークホルダー）によって実施され、地域社会の実態把握と問題点の追求、諸課題解決の可能性の検討を考える重要な方法のひとつとして位置づけられる。本授業では、地域の様々な人々とともに地域の課題について検討するために、地域調査の一連の方法を学ぶ。地域社会の多様な実態を明らかにするのに必要となる問題発見能力や調査能力、分析能力の基礎を身につける。具体的には、地域調査に関する基本的な手法を紹介するとともに、演習によって調査実施のノウハウを体得し、その結果をもとに、地域社会の実態を明らかにする。 （オムニバス方式／全15回） （⑭　若林　良和／1回） 第１回　ガイダンス（授業の目的と概要・進め方、社会調査の目的と意義、社会調査の歴史、社会調査の倫理、社会共創学における地域調査の意義） （22　曽我　亘由・119　広垣　光紀／６回）（共同） 第３～８回　量的調査：アンケート調査（統計データをもとに明らかになる事項の解説、データ解析演習、アンケート調査のメリット・デメリットの解説、【演習】調査票作成と調査実施、結果の集約と分析） （126　羽鳥　剛史／4回） 第２回　社会調査の設計（調査の企画、実施方法及び現地調査計画の検討、対象地域の選定、アポイントメント調整） 第９～11回　質的調査：インタビュー調査の要点の解説、インタビュー調査のメリット・デメリット、【演習】調査項目作成と調査実施、結果の集約と分析） （⑧　井口　梓／2回） 第12～13回　地域調査の実際①：地域情報の収集と読解（地図・文献（郷土史資料）、行政資料（地域の計画書・統計書など）様々な資料の紹介、【演習】地図の読解） （⑫　笠松　浩樹・⑳　深堀　秀史／2回）（共同） 第14回　地域調査の実際②：多角的なアプローチとしての地域調査法（景観観察、土地利用調査、行動調査、発掘調査など様々な調査の特徴について解説） 第15回　総括：地域調査の方途	オムニバス方式・共同（一部）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎力育成科目群	経営入門	本講義では、企業システムを体系的に学ぶために、企業（経営）の基礎知識を習得するとともに、具体的なビジネスモデルを製販統合やコンビニエンスストアなどの事例を通じて理解することを目的とする。具体的には、①株式会社などの企業形態について基本的な事柄②会社組織の基本的な仕組み、企業と企業に関わる利害関係者（債権者、顧客、地域住民など）との関係、③具体的なビジネスモデルについて学んでいく。 （オムニバス方式／全15回） （23　崔　英靖／8回）ガイダンス(1回・共同）を行った後、企業経営の基礎知識について、創業から株式公開までの流れに沿って説明する。 （116　折戸　洋子／8回）ガイダンス（1回・共同）を行った後、競争とビジネスモデルについて、チェーンストアやコンビニの事例などを用いて説明する。	オムニバス方式・共同（一部）
		サーバントリーダーシップ入門	この授業は、社会共創学という学問を具現化していくための基本科目と位置付けられ、地域の諸課題解決に取り組むための基礎的な資質・能力であるリーダーシップのあり方を学修します。特に、地域のステークホルダーとの協働において重視されるサーバントリーダーシップについて、具体的、かつ、実践的な取り組みを紹介しながら、系統的に学びます。授業は、２コマ連続で実施し、担当教員による講義とグループワーク（１グループ10名×18グループ）を織り交ぜながら実施します。課題は、グループ毎に３分の動画にまとめ、Moodle/Facebook にアップロードして提出し、教員と受講者間で共有し、授業で活用します。 （オムニバス方式／全15回） （⑭　若林　良和／4回） ・ガイダンス（授業の目的と概要、到達目標およびグループワークの手法と課題提出の方法、評価方法について説明する。） ・社会共創学とサーバントリーダーシップ（社会共創学とサーバントリーダーシップの関係、さらにその意義について解説する。） ・リーダーシップと地域社会（地域の諸課題解決に必要なリーダーシップの重要性とあり方を概説した上で、既存のリーダーシップの機能や効果を理論的に検討する。） ・まとめ（本講義のふりかえりを行い、学生各自が目指すサーバントリーダー像（活躍場所、取り組む課題など）を発表して共有する。） （⑫　笠松　浩樹／7回） ・ガイダンス（授業の目的と概要、到達目標およびグループワークの手法と課題提出の方法、評価方法について説明する。） ・社会共創学とサーバントリーダーシップ（社会共創学とサーバントリーダーシップの関係、さらにその意義について解説する。） ・リーダーシップと地域社会（地域の諸課題解決に必要なリーダーシップの重要性とあり方を概説した上で、既存のリーダーシップの機能や効果を理論的に検討する。） ・日本の里山で活躍するサーバントリーダー（国内の里山の現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、国内の里山で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・日本の里海で活躍するサーバントリーダー（国内の里海の現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、国内の里海で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・日本の都市で活躍するサーバントリーダー（国内の都市の現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、国内の都市で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・まとめ（本講義のふりかえりを行い、学生各自が目指すサーバントリーダー像（活躍場所、取り組む課題など）を発表して共有する。） （㉒　小林　修／5回） ・ガイダンス（授業の目的と概要、到達目標およびグループワークの手法と課題提出の方法、評価方法について説明する。） ・サーバントリーダーシップ概説１：サーバントリーダーシップの概念（サーバントリーダーシップの概念について、これまでの研究系譜や実践例から検討する。） ・サーバントリーダーシップ概説３：地域社会との関連（サーバントリーダーシップを、地域社会との関わりにおいて概説する。サーバントリーダーのあり方について、幅広い観点から地域の現状を俯瞰しつつ、地域の課題と可能性を見出すための手だてについて検討する。） ・サーバントリーダーと地域貢献（地域の発展に貢献することができるサーバントリーダーの基本的な視点、資質、目指すべき方向性について解説する。） ・まとめ（本講義のふりかえりを行い、学生各自が目指すサーバントリーダー像（活躍場所、取り組む課題など）を発表して共有する。）	オムニバス方式・共同（一部）・兼任補充予定

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （社会共創学部地域資源マネジメント学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎力育成科目群	サーバントリーダーシップ入門	（㉓　島上　宗子／11回） ・ガイダンス（授業の目的と概要、到達目標およびグループワークの手法と課題提出の方法、評価方法について説明する。） ・社会共創学とサーバントリーダーシップ（社会共創学とサーバントリーダーシップの関係、さらにその意義について解説する。） ・リーダーシップと地域社会（地域の諸課題解決に必要なリーダーシップの重要性とあり方を概説した上で、既存のリーダーシップの機能や効果を理論的に検討する。） ・サーバントリーダーシップ概説１：サーバントリーダーシップの概念（サーバントリーダーシップの概念について、これまでの研究系譜や実践例から検討する。） ・サーバントリーダーシップ概説３：地域社会との関連（サーバントリーダーシップを、地域社会との関わりにおいて概説する。サーバントリーダーのあり方について、幅広い観点から地域の現状を俯瞰しつつ、地域の課題と可能性を見出すための手だてについて検討する。） ・サーバントリーダーと地域貢献（地域の発展に貢献することができるサーバントリーダーの基本的な視点、資質、目指すべき方向性について解説する。） ・インドネシア社会とサーバントリーダー（東南アジア・インドネシアの地域社会の現状と課題を説明し、地域協働の重要性を解説する。） ・インドネシアの農山村で活躍するサーバントリーダー（インドネシアの農山村に関する現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、農村社会で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・インドネシアの漁村で活躍するサーバントリーダー（インドネシアの漁村に関する現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、漁村社会で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・インドネシアの都市で活躍するサーバントリーダー（インドネシアの都市に関する現状を自然環境・社会文化・経済の視点から説明し、都市社会で活躍するサーバントリーダーの事例を解説する。） ・まとめ（本講義のふりかえりを行い、学生各自が目指すサーバントリーダー像（活躍場所、取り組む課題など）を発表して共有する。）	オムニバス方式・共同（一部）・兼任補充予定

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	フィールドワーク入門	本学部の主眼となる地域社会をどのようにとらえるかの実習に先立ち、その調査の準備に関する講義をおこなう。実例を元に、フィールドワークに入る心構えやコミュニケーションのあり方、観察の方法、まとめ方を学ぶ。とくに、情報収集、課題発見、アポイント取り、ヒアリング、調査票の作成と記録・整理など、必要なスキルを身につけるとともに、コミュニケーション力、観察力、積極性、表現力および説明力などの汎用的スキルを育成する。 (オムニバス方式／全１５回) （20　山口　由等／３回） ・イントロダクション（社会共創学部とフィールドワーク） ・企業のＱＣサークルの手法から学ぶ課題発見の方法 ・地域資料の現地調査とアーカイブ作りによる地域への還元 （⑨　淡野　寧彦／２回） ・主題図のルールと活用方法 ・アンケートの設計と分析 （⑪　小田　清隆／２回） ・農山漁村地域の生活、生業、地域活動、資源、課題を可視化する方法の学習 ・住民への還元方法と学生の成果の取得方法の学習 （117　藤川　健／２回） ・企業調査はどのように行えばよいのか ・地域の企業が抱える問題を考えよう （124　山本　智規／２回） ・産業分野におけるフィールドワークの手法 ・産業分野におけるフィールドワークの具体例 （33　大森　浩二／２回） ・地域自然調査の準備の学習 ・自然環境調査の立案と実施（救命講習等の野外において必要な技術的訓練を含む）	オムニバス方式・兼任補充予定
			フィールド基礎実習	「フィールド実習」のプレ・ステージとして位置づけられ、身近な地域社会に出て「人・地域社会・自然環境」とふれあうための少人数のアクティブ・ラーニングに取り組む。教員の支援のもと、学生自身が計画し、行動の自立と他者との協働、学びの言語化を通して、地域社会への興味・関心を高め、主体的・能動的な態度を身につける。①産業、②自然環境、③文化・歴史、④観光・スポーツの４領域から成るフィールドが実習先となる。学生は学科の異なる学生同士の６人チーム（事前に担当教員が名簿からグルーピングする）によって、グループワークで４フィールドを選択し、行程・行動計画を立案し訪問視察する。 訪問先をあらかじめ学生がサイト等で情報を入手しやすい先とすることで、事前学習を促し、実習効果を高める。また、行程・行動計画書の作成に加え、チームでの学習内容を学修ポートフォリオに記録（アクティビティ・ログ）し、教員からのコメント（コメント・シート）により、自らの学びの振り返りと改善を促す。 （21　岡本　隆）産業の領域における行程・行動計画の指導及び情報産業論の観点から報告書の作成指導を行う。 （115　谷本　貴之）産業の領域における行程・行動計画の指導及びマーケティング論の観点から報告書の作成指導を行う。 （124　山本　智規）ものづくり企業での実習における行程・行動計画の指導及び地場産業の特色を明らかにするという観点から報告書の作成指導を行う。 （32　松村　暢彦）松山市興居島などの里島や肱川水系などの里川における行程・行動計画の指導及び地域環境デザインの観点から報告書の作成指導を行う。 （128　入江　賀子）再生可能エネルギー・プロジェクトにおける行程・行動計画の指導及び地域エネルギー・環境デザインの観点から報告書の作成指導を行う。 （⑤　牛山　眞貴子）観光・スポーツ資源をテーマとする調査の行程・行動計画の指導及び健康・スポーツ科学と地域コミュニティの観点から報告書の作成指導を行う。 （3　野口　一人） 観光・スポーツ資源をテーマとする調査の行程・行動計画の指導及びICTの活用と情報処理の観点から報告書の作成指導を行う。 （⑲　野澤　一博） 産業の領域における行程・行動計画の指導及び地域経済学の観点から報告書の作成指導を行う。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	フィールド実習	フィールド基礎実習で習得したチームでプロジェクトを進める能力をいかし、地域の多様なステークホルダーとのディスカッションやフィールド調査をチームで行い、地域の活動や資源、課題等を調査、把握する。把握した内容を地域のステークホルダーも含めた場で発表し、住民と学生で共有する。これらの活動を通して、地域のステークホルダーが地域社会を持続、変革することの意義と姿勢を学び、地域社会に向かう自分のスタンスを形成する。フィールドは、四国中央市、西条市、松山市、西予市とし、48人ずつ4グループに分かれて各地域へ配置、さらに1グループを8チーム（6人／班）に分ける。学生は、チームでの学習内容を学修ポートフォリオに記録（アクティビティ・ログ）し、教員からのコメント（コメント・シート）により、自らの学びの振り返りと改善を促すことが可能となる。 （32　松村　暢彦）市民まちづくり活動による中心市街地の活性化の観点から、調査及び報告書の作成指導 （21　岡本　隆）地域に存在する企業の情報産業論の観点から調査及び報告書の作成指導 （115　谷本　貴之）地域産業を構成する企業や組織のマーケティング論の観点からの調査及び報告書の作成指導 （⑫　笠松　浩樹）農山漁村におけるフィールドワークの観点から、地元学の手法を用い、聞き取り調査、踏査、結果の集約、地元住民との結果の共有方法を指導 （122　福垣内　暁）製紙科学や機能紙科学、材料化学、紙産業振興を通じた地域活性化の観点から、四国中央市における製紙産業、地域の調査および報告書作成の指導 （124　山本　智規）地場産業の理解を通じた地域活性化の観点から、ものづくり産業の調査および報告書作成の指導 （⑳　深堀　秀史）製紙科学や機能紙科学、紙産業振興を通じた地域活性化の観点から、四国中央市における製紙産業、地域の調査および報告書作成の指導 （230　秀野　晃大）バイオマス変換利用としての製紙科学を軸とし、四国中央市における製紙産業の観点から、製紙工程、原理、歴史などの調査及び報告書の作成指導 （20　山口　由等）鉄道遺産を通じた地域再生活動を核とする産業観光の振興の観点から、調査及び報告書の作成指導 （23　崔　英靖）地域産業を構成する地元企業の経営の観点から調査及び報告書の作成指導 （㉕　片岡　由香）地域の歴史や景観を資源とした観光振興の観点から、現地踏査や地元住民、まちづくりの関係主体へのヒアリング調査の指導、および提案書作成の指導 （1　寺谷　亮司）飲食文化や産業などの地域資源を活かしたまちづくりや地域振興に関する調査及び報告書の作成指導	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	プロジェクト基礎演習	地域・組織等におけるプロジェクトにチームで取り組む。フィールド実習で修得した地域のステークホルダーと協働してプロジェクトの企画を立案する能力をいかして、「よりよい地域・組織等」を地域のステークホルダーともに考え、その実現のためのプロジェクトを企画する。プロジェクトのテーマについては、課題設定能力を育成するため、大枠を与える程度とし（たとえば、地域の持続可能性を高める商店街の活性化を図るなど）、そこから課題を的確に設定する能力を育成する。地域のステークホルダーとの積極的なディスカッションやテーマに関する情報収集等による地域・組織等の現状分析を通して、課題を発見し、絞り込む。絞り込んだ課題に対して、地域・組織等の強みを活かした解決策を企画する。課題の設定や解決策を考える際に、自分の専門分野にこだわるのではなく、チームとして地域に対して何ができるのかを考え、必要があれば自ら新しい分野の知識を修得するなど積極的に取り組む姿勢を身につける。プロジェクトを企画書としてまとめ、プレゼンテーション会で発表するとともに、他のチームの発表に対して、よりよい地域・組織等に向けた実践企画になるように評価、コメントを行う。同じフィールドで実践している3年生ともディスカッションをしながら進めていくこととする。 （1　寺谷　亮司）都市における商業・サービスの振興や文化の活用に向けた視点から，調査及び報告書作成に関わる基礎的な指導を行う。 （①　村上　恭通）文化遺産の適切な保全と活用に向けた視点から，調査及び報告書作成に関わる基礎的な指導を行う。 （3　野口　一人）：ICTを活用した地域振興の観点から、調査及び報告書の作成指導 （②　藤原　誠）生涯スポーツの振興を図る観点から総合型地域スポーツクラブにおける新規企画を提案・運営する能力を育成 （③　香月　敏孝）農林漁業を核とする地域振興の観点から、調査及び報告書の作成指導 （④　浅井　英典）　健康と体力の増進を図り、運動習慣の定着を目指したスポーツ教室の企画・運営の検討と報告書の作成指導 （⑤　牛山　眞貴子）スポーツ資源のうちダンス・健康運動を核とするコミュニティの再生ならびに住民の健康生活の観点から、調査及び報告書の作成指導 （8　小原　克彦）好ましい健康行動(生活習慣や運動)への行動変容に向けた、地域や小コミュニティの果たす役割についての調査および報告書作成に関わる指導 （⑥　山中　亮）スポーツを介する地域振興の可能性をについて探求する観点から、地域のスポーツクラブや地域振興につながるスポーツイベントなどに対して調査を行い、報告書等の作成指導を行う。 （10　槙林　啓介）文化遺産の重要性に関する知識や理解の普及に向けた視点から，調査及び報告書作成に関わる基礎的な指導を行う。 （⑦　大谷　尚之）主に農村部における地域コンテンツの発見・活用に向けた視点から，調査及び報告書作成に関わる基礎的な指導を行う。 （⑧　井口　梓）観光を軸とした地域資源の発見・活用に向けた視点から，調査及び報告書作成に関わる基礎的な指導を行う。 （⑨　淡野　寧彦）地域振興に重要となる人やモノ，サービスなどのネットワーク化に向けた視点から，調査及び報告書作成に関わる基礎的な指導を行う。 （⑩　山本　直史）集団の身体活動促進を核とするヘルスプロモーションの観点から、調査及び報告書の作成指導 （⑪　小田　清隆）都市と農村の交流を念頭に置いた、地域資源の発掘、体験メニューなどに関する調査及び報告書の作成指導 （⑫　笠松　浩樹）　農山漁村住民への聞き取り調査、配票調査、踏査、地図や図面での現地概況の把握を行い、活用可能な資源の把握と解決すべき問題の発見を行い、対応策の検討・提案を行う。 （⑬　山藤　篤）　農山漁村を核とする地域活性化の観点から調査及び報告書の作成指導	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	プロジェクト実践演習	2年次のプロジェクト基礎演習で企画した提案をステークホルダーと協働して、ものづくり、ことづくり、しくみづくりの実現可能性について詳細に検討を行う。チームは、2年次のプロジェクト基礎演習と同じ編成とする。自分の専門分野の知識をフィールドに応用したり、複数の学問分野を横断的に展開したりして、実践知に高めることで、テーマに応じてより広い分野と地域の人々を巻き込んでいきながら、社会に「ものづくり」「ことづくり」「しくみづくり」を働きかける企画案のプロセスをデザインする。ステークホルダー等に対して、中間プレゼンテーション会を開催し、その際に出た意見を反映することを通して、提案内容を改善する。 （1　寺谷　亮司）都市における商業・サービスの振興や文化の活用に向けた視点から，主体的かつ具体的な調査企画書作成に関わる指導を行う。 （①　村上　恭通）文化遺産の適切な保全と活用に向けた視点から，主体的かつ具体的な調査企画書作成に関わる指導を行う。 （3　野口　一人）：ICTを活用した地域振興の観点から、調査及びプロジェクトの企画に係る指導 （④　浅井　英典）　健康増進施設において開催される様々なスポーツ教室の企画・運営の現状を理解し、運動習慣の定着を図る方策等に係る指導 （⑤　牛山　眞貴子）スポーツ資源のうちダンスを核とする「ことづくり」の観点から、調査及び報告書の作成指導 （8　小原　克彦）好ましい健康行動(生活習慣や運動)への行動変容に向けて、健康祭り等のイベントや教室･地方行政施策を通じた集団での健康活動への取り組みについての企画に係る指導 （⑥　山中　亮）スポーツを介する地域振興の可能性をについて探求する観点から、地域のスポーツクラブや地域振興につながるスポーツイベントなどに対して調査及びプロジェクトの企画に係る指導 （10　槙林　啓介）文化遺産の重要性に関する知識や理解の普及に向けた視点から，主体的かつ具体的な調査企画書作成に関わる指導を行う。 （⑦　大谷　尚之）主に農村部における地域コンテンツの発見・活用に向けた視点から，主体的かつ具体的な調査企画書作成に関わる指導を行う。 （⑧　井口　梓）観光を軸とした地域資源の発見・活用に向けた視点から，主体的かつ具体的な調査企画書作成に関わる指導を行う。 （⑨　淡野　寧彦）地域振興に重要となる人やモノ，サービスなどのネットワーク化に向けた視点から，主体的かつ具体的な調査企画書作成に関わる指導を行う。 （⑩　山本　直史）集団の身体活動促進を核とするヘルスプロモーションの観点から、調査及びプロジェクトの企画に係る指導 （⑪　小田　清隆）地域資源や体験メニューを地理的関係と絡めて、ツーリズムプランの策定などに向けた調査及びプロジェクトの企画に係る指導 （⑫　笠松　浩樹）住民との協議、調査（踏査、ヒアリング等）をもとに、発見した地域課題の解決や資源の利用についての計画を立てて試行するプロセスの指導を行う。 （⑬　山藤　篤）　農山漁村を核とする地域活性化の観点から調査及びプロジェクトの企画に係る指導	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	フィールドワーク科目	プロジェクト応用演習	プロジェクト実践演習で企画した提案をステークホルダーと協働してものづくり、ことづくり、しくみづくりを実践する。チームは、プロジェクト実践演習と同じ編成とする。多様な分野と地域の人々を巻き込んでいきながら、社会に「ものづくり」「ことづくり」「しくみづくり」を働きかけ提言力・調整力・マネジメント力を身に付ける。また、同じフィールドの2年次学生(プロジェクト基礎演習受講学生)に適切なタイミングで助言、指導する役割を担うことでリーダーシップスキルを育成する。プロジェクトの成果は、プレゼンテーション会において発表されるとともに、他プロジェクトの計画・行動に対してアドバイスを行うことで、他者に対して協調的かつ主体的に関与する姿勢を身につける。 （1　寺谷　亮司）都市における商業・サービスの振興や文化の活用に向けた視点から，調査及び報告書作成に関わる実践的な指導を行う。 （①　村上　恭通）文化遺産の適切な保全と活用に向けた視点から，調査及び報告書作成に関わる実践的な指導を行う。 （3　野口　一人）：ICTを活用した地域振興の観点から、調査、プロジェクトの企画・遂行及び提言書の作成指導 （④　浅井　英典）　健康増進施設のスポーツ開催・運営に携わり、運動習慣の無い成人の行動変容を図る上で必要となる企画・運営方法及び提言書の作成指導 （⑤　牛山　眞貴子）スポーツ資源のうちダンスを核とする「ことづくり」の観点から調査、企画及び提言書の作成指導 （8　小原　克彦）好ましい健康行動(生活習慣や運動)への行動変容に向けて、集団を対象とした企画やプランが個人の健康行動への取り組みや地域社会全体の健康活動に繋がるかの実践的な検討及び報告作成に係る指導 （⑥　山中　亮）スポーツを介する地域振興の可能性をについて探求する観点から、地域のスポーツクラブや地域振興につながるスポーツイベントなどに対して調査、企画及び提言書の作成指導 （10　槙林　啓介）文化遺産の重要性に関する知識や理解の普及に向けた視点から，調査及び報告書作成に関わる実践的な指導を行う。 （⑦　大谷　尚之）主に農村部における地域コンテンツの発見・活用に向けた視点から，調査及び報告書作成に関わる実践的な指導を行う。 （⑧　井口　梓）観光を軸とした地域資源の発見・活用に向けた視点から，調査及び報告書作成に関わる実践的な指導を行う。 （⑨　淡野　寧彦）地域振興に重要となる人やモノ，サービスなどのネットワーク化に向けた視点から，調査及び報告書作成に関わる実践的な指導を行う。 （⑩　山本　直史）集団の身体活動促進を核とするヘルスプロモーションの観点から、調査、企画及び提言書の作成指導 （⑪　小田　清隆）地域のステークフルダーと協働し、立案した都市と農村の交流プランを実行するための調査、企画及び提言書の作成指導 （⑫　笠松　浩樹）「プロジェクト実践演習」の成果と課題をまとめ、活動を実効化させるための計画の練り直しと実行に関する指導を行う。 （⑬　山藤　篤）　農山漁村を核とする地域活性化の観点から、調査、企画及び提言書の作成指導	共同
			海外フィールド実習	アジア（台湾、ベトナム、インドネシア、ネパール）等の地域に関連する研究素材（社会、経済、文化、自然科学、工学、環境、災害など）に関して、自ら課題を発見・解決の方向性を探求する課題発見・解決型プログラムである。学生が訪問国の大学の学生と共同で課題解決に取り組むジョイント・リサーチを行うことによって、国際コミュニケーション能力・国際性・協調性・社会性・問題解決能力を身に着ける。実習期間は3週間とし、国内での事前調査・ガイダンス、現地での事前打ち合わせ・調査設計・調査実施、最終報告を行う。	共同・集中・兼任補充予定

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	インターンシップ科目	インターンシップ入門	地域における企業、団体、NPO、地域コミュニティなどのなかに入り、ジョブシャドウイング型インターンシップを行うことで、構成する多様な社会人の就労の現場を体感し、自らの職業観・就労観を養う。インターンシップ前には、社会で求められるビジネスマナー、スキル等を演習することにより身に付ける。演習は学内外のゲストを招きより実践的に行う。第1段階として、地元企業などで形成されるコミュニティに参加し多様な企業を調査・インタビューすることで、自分の興味や専門にとらわれない幅広い分野・業種を認識し、業務内容や就労の実情を把握する。第2段階として、地元の中堅中小企業やNPOなどを実習先とし、実際に職場に入って業務を体験すると同時に，経営者層から従業員まで幅広い就労者にインタビュー・企業調査を行う。第3段階として，実習・インタビュー・調査の結果を分析し整理した結果をレポートにまとめ，受け入れ企業等に報告する。これらの過程により，多様な企業・NPOなどに対する理解が深まり，就労に対する意識が醸成され，自分の適性や自己実現の方向性を見つけることにつながる。 インターンシップは１チーム６人で１６時間の実習とし、６人の教員が、実習の状況、レポート内容等の指導にあたる。	共同・集中
			海外インターンシップ	多様な国際経験を通じてグローバルな視野を涵養することによって、今後各地域に到来するいわゆる「グローバル化の波」の中で地域の課題を解決する就業意識・判断力・創造力・行動力・危機管理力を身に着けた地域社会で役立つ人材を育成することを目的とした海外インターンシップ実習である。本プログラムは「事前ミーティング」（全3回）、「事前文献調査」、「現地インターンシップ（２～３週間）」、「事後指導ミーティング」および「学内公開セミナー」からなる。実習先につき２人の教員が指導にあたるほか、本授業の円滑な実施と教育効果を高めることを目的として提携企業の担当者と本学部の教員間で「事前担当者ミーティング」を実施する。	共同・集中
		実践力育成発展科目	インターンシップ実践	この科目は、農山漁村振興または農林漁業に関する法人・団体・自治体、地域文化・観光・まちづくりの実践に取り組む機関、地域におけるスポーツの振興及び健康づくりに関する業務を行う企業・団体・NPO・地域コミュニティなどの中から、社会人の就労の現場を体感することで自らの専門性を活かすための職業観・就労観を養うとともに、課題解決のために必要な知識・技術、協調性、思考力などを高める。 具体的には、事前学習、実習、実習終了後の発表・討論から構成される。事前学習では、事前調査や学生のキャリアデザインに基づく実習先の決定、実習先の業務などに関する調査及び実習中での自己課題の設定などを行う。実習は5～10日程度とし、自らの設定した課題を達成するために主体的に取り組むとともに、実習先の課題を見つけ出し、その解決策を考える。実習終了後の振り返りでは、実習先で発見した課題に対する解決策を提案し、担当教員及び他の実習先に行った学生に対してプレゼンテーションを行い、討論を行う。	共同･集中
			インターンシップ応用	農山漁村振興または農林漁業に関する法人、団体、自治体等の中から、学生個々のキャリアデザインに沿った実習先を選択し、職業体験を行う。原則的には、「インターンシップ実践」と異なる実習先を選択し、幅広い職種を体験することが望ましい。実習期間は2週間（10日間）とする。関連する職種の詳細を知ることに合わせ、協調性、思考力を身につけ、職業人としての役割をより深く理解する。	共同
			文化資源論Ⅰ	地域に根ざしたさまざまな文化資源の発見・活用に関する視点や方法を学ぶ。この際、主に以下にあげた内容を取り上げ、文献調査や統計データの活用、現地観察等をもとに明らかにする手法を習得・実践する。さらに、これらをふまえて、文化資源の発見・活用に主体的に取り組むための意識や関心を高める。 （1　寺谷　亮司）都市部における生業・行事・盛り場などの存在要因 （10　槙林　啓介）歴史的背景をふまえた自然環境と人間文化の関係性 （⑦　大谷　尚之）農村部における行事・コンテンツなどの存在要因 （⑧　井口　梓）観光を通じた文化の往来の諸形態 （⑨　淡野　寧彦）都市または農村部における習俗・コミュニティなどの存在要因	共同
			文化資源論Ⅱ	地域に根ざしたさまざまな文化資源の活用に関する企画力や協働力を身に付ける。この際、主に以下にあげた内容を取り上げ、データ分析や現地観察等によって主体的に考察し、地域のステークホルダーらとの協働に結びつける技能を実践的に習得する。 （1　寺谷　亮司）都市部における地域活性化・景観保全対策 （①　村上　恭通）地域の行政体との連携による文化遺産の活用・保存策 （⑦　大谷　尚之）農村部における地域活性化や地域コンテンツの発見・活用 （⑧　井口　梓）観光による文化資源の複合的な活用や保全策 （⑨　淡野　寧彦）都市または農村部におけるコミュニティの再生・創造の方策	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践力育成科目群	実践力育成発展科目	障がい者スポーツ健康実習	現代の健康課題である生活習慣病や肥満、ストレスは多くの場合運動不足に起因している。子どもや障がいのある人にとっても運動不足は深刻な問題であり、近年障がい者の運動の生活化、習慣化が急がれている。また学校や地域において「運動のバリアフリー化」は学校や地域には欠かせない要素であり、障がい者と健常者が共に行うことができるスポーツによるコミュニティ活性化が広がりを見せている。この授業は障がい者スポーツ種目の基礎的知識・実技を身につけ、コミュニケーションを図りながら体力と健康増進を目的とする障がい者スポーツ種目を理解し、ルール、技能、指導方法を習得する。	集中
			少年期スポーツ健康実践	少年期のスポーツの実情・問題点を把握し、子どもの特性を考慮したスポーツの実践について理論的に学ぶ。さらに、少年期のスポーツ指導の現場として、総合型地域スポーツクラブのスポーツ教室、および、幼児のスポーツ指導現場を訪ね、実際にその指導を観察するとともに指導の補助を体験することを通して幼・少年期のスポーツ実施や健康の保持増進の手法について具体的に学ぶ。まとめの作業を行い、この授業の学びを総括するプレゼンテーションを実施する。	共同・集中
			青年期スポーツ健康実践	青年期における身体的特性、健康及び体力の変容と適切な運動処方の進め方と至適な運動強度、頻度、時間、運動種目及びスポーツ実施時の留意事項等について理解を深める。健康の増進と体力の改善を図る及びスポーツ指導者を目指す上で必須事項となる基礎的知識を修得する。また、生活習慣病に対する適切な運動療法を学び、運動プログラムの作成についての実習を行う。更に自らに対して運動処方を行い、それに従ったトレーニングを実践する。	集中
			中高齢期スポーツ健康実践	健康づくりを目的とした適切な運動の方法を中高齢者に指導できる力（運動プログラム作成法、指導法、および評価法）を演習形式で身に付ける。具体的には、有酸素性運動、レジスタンストレーニング、ストレッチング、およびコーディネーショントレーニングなどの運動プログラムを作成する。さらに、ステークホルダーとの協力の基、実際に運動指導を行い、その効果の測定・評価を実施する。	集中
			アスリートスポーツ健康実践	競技力向上を目的としたアスリートの特性を考慮したスポーツの実践について理論的に学習を行う。また、プロスポーツクラブなどの、競技力向上を目的としたアスリートスポーツクラブの現状について訪問調査等を行い、実際に競技力向上を目的としたトレーニングのプログラム作成等に関する演習を行う。さらに、アスリートのパフォーマンス向上につながる様々な要因（競技力向上、スポーツ障害防止、メンタルケア等）について演習をもとに考察・検証を行い、本授業における学びを総括するプレゼンテーションを行う。	集中

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	課題解決思考力育成科目群	質的データの収集と分析	地域における社会事象を定性的に分析するための質的データの収集法と分析法を解説する。質的調査に関する基本的な手法を解説しながら、それぞれの調査技法のメリット・デメリットを具体的な実践例をもとに紹介し、的確な調査が実施できるようにする。特に、質的調査の特性を踏まえた上で、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析、参与観察データ分析を取り上げて、その実施方法や整理・分析・活用法について検討し、調査能力や分析能力を身につける。 （オムニバス方式／15回） （⑭　若林　良和／2回） 第1回　ガイダンス ・授業の目的と概要、進め方 第2回　社会共創学と質的調査 ・社会共創に向けた具体的手段としての質的調査の特性 ・質的調査と定性分析 ・質的調査のメリット・デメリット ・社会調査士資格の動向と意義 （⑨　淡野　寧彦／5回） 第3～7回　ドキュメント分析 ・ドキュメント分析の調査手順 ・ドキュメント分析の実例 （地域社会・地域文化の事例） （130　渡邉　敬逸／5回） 第8～12回　ライフヒストリー分析 ・ライフヒストリー分析の調査手順 ・ライフヒストリー分析の実例 （地域環境の事例） （126　羽鳥　剛史／3回） 第13～14回　参与観察データ分析 ・参与観察法の調査手順 ・参与観察データ分析の実例 （地域デザインの事例） 第15回　総括：データ整理と分析 ・これからの社会調査としての質的調査	オムニバス方式
		地域経済学	各地域はグローバル化する市場経済の影響を受け、大きな変化を余儀なくされている。このような地域経済の変化を理解するためには、地域経済に関する仕組みを理解し、定量的分析により実体を客観的に把握する必要がある。そこで、本講義では地域経済における諸課題を解決するための理論および政策の枠組みを体系的に学ぶと同時に、地域経済に関する政府統計の読み方と地域経済の現況を分析する能力を身に着けることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （社会共創学部地域資源マネジメント学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	課題解決思考力育成科目群	地域産業概論	愛媛県における地域産業の全体像と特性を概説した上で、県内３地域で環境・社会・経済・歴史・風土に根ざして立地する代表的な産業（南予地域の水産業、中予地域のものづくり産業、東予地域の紙産業）を取り上げて、それらの現状を把握し、抱える問題を抽出する。特に、愛媛県という地域における基幹産業としての発展プロセスを踏まえて、その伝統性や革新性に着目しながら、地域産業の実相について多面的な視点で検討を加える。 （オムニバス方式：全15回） （25　松原　孝博／1回） 南予地域の水産業に関する現状と課題（水産生物） （⑭　若林　良和／2回） プロローグ：ガイダンス（授業の趣旨と進め方）、愛媛県の産業特性 南予地域の水産業に関する現状と課題（水産物流通・消費） （120　太田　耕平／2回） 南予地域の水産業に関する現状と課題（海洋環境） エピローグ：まとめ（地域産業の将来：学生レポート発表と教員講評） （121　後藤　理恵／1回） 南予地域の水産業に関する現状と課題（海洋生産技術） （27　内村　浩美／2回） 東予地域の紙産業に関する現状と課題（四国中央市の紙産業の特色） 東予地域の紙産業に関する現状と課題（研究開発と求められる人材） （122　福垣内　暁／1回） 東予地域の紙産業に関する現状と課題（自治体との連携） （⑳　深堀　秀史／3回） 東予地域の紙産業に関する現状と課題（世界と日本の紙産業） 東予地域の紙産業に関する現状と課題（四国中央市の紙産業の歴史） エピローグ：まとめ（地域産業の将来：学生レポート発表と教員講評） （⑮　高橋　学／2回） プロローグ：ガイダンス（授業の趣旨と進め方）、愛媛県の産業特性 中予地域のものづくり産業に関する現状と課題（エネルギー関連技術） （30　八木　秀次／2回） 中予地域のものづくり産業に関する現状と課題（加工技術） 中予地域のものづくり産業に関する現状と課題（造船技術） （124　山本　智規／2回） 中予地域のものづくり産業に関する現状と課題（電気・機械・自動化技術） エピローグ：まとめ（地域産業の将来：学生レポート発表と教員講評）	オムニバス方式・共同（一部）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	課題解決思考力育成科目群	産業イノベーション論	地域発のイノベーションを牽引するための基礎的な知見を把握する。地域産業の問題解決に導くために、地域の中小企業をはじめ産学官民連携による共同研究、先端技術開発が不可欠であり、それらは地域発のイノベーションを誘発し、地域産業の育成に貢献することを理解する。多様な連携による取り組み事例を紹介しながら、地域産業のイノベーションと発展を支える３つの要素（技術・人材・地域）から総合的な検討を展開する。 （オムニバス形式：全15回） （⑭　若林　良和／7回） 第１回　プロローグ 授業概要：授業の趣旨と進め方、成績評価に関するガイダンスを実施する。 【第１セッション：これからの水産業の発展と地域イノベーション】 第２回　水産業の技術 授業概要：水産生物の資源管理、最新の水産増養殖技術などを紹介しながら、環境に優しい持続可能な水産業を念頭に置いて、これからの水産技術について考える。 第３回　水産業の人材と地域 授業概要：地域水産業の活性化やグローバル化に対して求められる技術者・経営管理者と技術開発・人材育成・地域連携を推し進める手段について考える。 第４回　水産業技術の普及 授業概要：社会と連携して研究・開発したイノベーション技術の事例をもとに普及手段について考える。 第５回　水産業イノベーションのグループワーク 授業概要：水産業の講義から、グループ毎に課題を設定し、水産業にイノベーションを起こす方策を話し合い発表する。 第14，１５回　エピローグ 授業概要：まとめ（産業イノベーションの方向性：学生レポート発表と教員講評） （⑮　高橋　学／7回） 第１回　プロローグ 授業概要：授業の趣旨と進め方、成績評価に関するガイダンスを実施する。 【第２セッション：これからのものづくり産業の発展と産業イノベーション】 第６回　ものづくり産業の技術 授業概要：加工技術、ロボット制御技術、エネルギー関連技術などを紹介しながら、ものづくりと人間・社会・環境の関係に注目して、これからのものづくり技術について考える。 第７回　ものづくり産業の人材と地域 授業概要：地域に存在するものとして、グローバル社会に対応できる技術者、経営管理者の素養と技術開発・人材育成・グローバル経営を推し進める手段について考える。 第８回　ものづくり産業技術の普及 授業概要：社会と連携して研究・開発したイノベーション技術の事例をもとに普及手段について考える。 第９回　ものづくり産業イノベーションのグループワーク 授業概要：ものづくり産業の講義から、グループ毎に課題を設定し、ものづくり産業にイノベーションを起こす方策を話し合い発表する。 第14，１５回　エピローグ 授業概要：まとめ（産業イノベーションの方向性：学生レポート発表と教員講評） （⑳　深堀　秀史／7回） 第１回　プロローグ 授業概要：授業の趣旨と進め方、成績評価に関するガイダンスを実施する。 【第３セッション：これからの紙産業の発展と産業イノベーション】 第10回　紙産業の技術 授業概要：機能性シート開発を紹介しながら、これからの紙産業について考える。 第１１回紙産業の地域と人材 授業概要：地域の基幹産業が活性化するために、企業や公設試験場との連携と技術の実用化、産学官や異業種の連携を実行するために、どのような人材が求められているかを考える。 第１２回　　紙産業技術の普及 授業概要：社会と連携して研究・開発したイノベーション技術の事例をもとに普及手段について考える。 第13回　紙産業イノベーションのグループワーク 授業概要：紙産業の講義から、グループ毎に課題を設定し、紙産業にイノベーションを起こす方策を話し合い発表する。 第14，１５回　エピローグ 授業概要：まとめ（産業イノベーションの方向性：学生レポート発表と教員講評）	オムニバス方式・共同（一部）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	課題解決思考力育成科目群	持続可能性科学	人と自然のかかわりが創りだす地球システムが重大な転換期を迎えていることをさまざまな学際的研究に基づいて説明し、持続可能な社会の構築のために必要とされる総合的な知識について解説します。地球システムの複雑性に対応するための学際的なアプローチ、さらにはこれまでに社会共創学概論などを通じて学んできた社会の多様なステークホルダーとの協働によるトランスディシプリナリーアプローチの重要性と特徴を、具体的な持続可能性科学の研究成果に基づいて説明し、理解を深めます。持続可能性の実現に向けた社会の転換を促すさまざまな社会技術について、具体的な事例に基づいて検討します。 　テーマを定めて行う熟議ワークショップを通じて、私たちが直面している持続可能性にかかわる課題、自分の専門分野を超えた学際的視点の意義、トランスディシプリナリーアプローチによる社会との協働が意味するもの、持続可能な社会への転換を実現するための具体的な社会技術について自ら調べ、議論し、考えを深めます。それを通じて、持続可能な社会の実現に関するさまざまな課題とその対策を総合的に理解し、持続可能な地域社会の構築に役立つ実践的な技術の基礎を身に付けます。	
		社会心理学	社会的ジレンマとは、個人の私的利益と社会全体の公共的利益とが対立する状況を指す（例えば、自転車の放置駐輪は、自分一人にとっては都合が良い行動であるが、社会全体にとっては望ましくない）。本講義では、様々な社会問題の根本に社会的ジレンマの問題が存在していることを理解するとともに、いかにすれば社会的ジレンマの問題を解消することが出来るかについて、社会心理学の諸知見を学びながら、各自の考えを深めていくことを目的とする。さらに、まちづくり問題や合意形成問題等の社会問題を取り上げて、社会心理学的な観点から、その問題の特徴や解決すべき課題について理解を深めることを目指す。	
		統計学	社会調査に必要な基礎的な統計的な知識とスキル、社会事象の分析の考え方を学ぶ。主な内容として、度数分布とグラフ、基本統計量（平均，標準偏差，分散，　歪度）、確率論の基礎（標本空間、事象、確率変数、確率分布、二項分布、正規分布、標準正規分布）、推定（点推定、区間推定、信頼区間）、検定　（帰無仮説と対立仮説、棄却域と両側・片側検定、t検定、平均や比率の差の検定、独立性の検定）、抽出法概説（単純無作為・層化・系統・多段）、　相関（属性相関係数、偏相関係数、変数のコントロール）、回帰分析の基礎を扱う。	
		地域社会論	学生や教員にとって、なるべく身近な内容を複数取り上げる。ただしこれらは、社会の動きの中で多くの共通点を持っている。授業ではまず、誰もが普段から経験している買物や食べるという行為に注目する。われわれが当たり前と考え、さほど意識しないこれらの行為が、社会のどのような動きと関係していたり、社会の変化の中でどのように変わったのか、そして地域社会のあり方とどのように関係しているのかといった視点へと結び付けていく。そのうえで、地域社会における産業の立地やその動向、あるいは人間の意識からみた地域社会の諸特徴などについて、具体例を挙げながら解説する。このなかでは、授業中に学生らが回答した内容も含めることにより、学生自身と地域社会との関係性をつねに意識してもらえるようにする。これらを通じて、地域社会における様々な課題の発見とその解決策の検討について、学生自身が主体的に意識しながら実施しうる能力の育成を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	学科科目	地域資源融合論	持続可能な地域づくりを目指す上で、地域資源を生かした取組、コミュニティの創成、地域協働は不可欠な観点であり、その基礎的知識を有し、応用する力は、地域社会再生人材に必要な能力である。本講義において、地域資源である「農山漁村の特長を生かした産業」「文化・観光」「スポーツ・健康」について概観し、地域社会の再生・活性化は地域資源を活かし、さらに複数の資源を融合することで可能性が広がり、人材・組織を駆使して行わなければならないことを理解する。地域資源の概要、実践に必要な地域資源の基本的知識から理解を深め、地域資源融合（複数の資源を融合し活用する）思考・構想力の獲得を目指す。 （オムニバス方式/全15回） （①　村上　恭通/5回） ・人間・コミュニティーと文化資源 ・体と感性に与える文化資源の効果 ・農村と文化資源 ・漁村と文化資源 ・地域資源としての文化資源の課題 （⑤　牛山　眞貴子/5回） ・地域資源としてのスポーツと健康（地域事業とイベント） ・融合する地域資源活用法：スポーツと観光（ケーススタディ） ・融合する地域資源活用法：スポーツと農山漁村（ケーススタディ） ・融合する地域資源活用法：スポーツと観光と農山漁村（ケーススタディ） ・地域資源としてのスポーツの未来像 （⑪　小田　清隆/5回） ・農山漁村の現状と特徴 ・資源の発掘の考え方、仕方（文化資源・スポーツ資源） ・グループワーク（山村・農村・漁村の３グループに分けて、活動を考える） ・地域資源の融合と農山漁村の活性化 ・地域資源の融合、新しい時代へ、その必要性	オムニバス方式
			地域マネジメント論	地域の特徴を生かしたマネジメントは持続可能な地域づくりを目指す上で不可欠な要素である。同様にマネジメントの担い手に必要な能力として地域との協働が求められている。本講義では、スポーツ振興・健康づくり、農山漁村振興、文化・観光に関わるまちづくりの多角的な視点から、マネジメントに必要な基礎知識として、地域に存在する様々な地域資源の評価・活用に関する知識や地域課題解決の方法について理解する。また、地域の多様性や独自性への理解を深めたうえで、地域を生かしたマネジメントに関わる具体的な実践例について検討し、地域のステークホルダーとの協働のための知識や手法の獲得を目指す。 (オムニバス形式/全15回) （②　藤原　誠/3回） ・地域マネジメントの概要と地域社会再生人材に必要な能力 ・地域スポーツのマネジメント ・地域スポーツの実践事例 （③　香月　敏孝/3回） ・農山漁村地域の特徴と変化 ・多様な主体と連携した農山漁村振興 （⑥　山中　亮/2回） ・文化的価値としてのスポーツと健康 ・スポーツの価値と地域貢献 （⑦　大谷　尚之/5回） ・多様な地域資源の評価や活用 ・文化資源のマネジメント ・文化資源における地域ステークホルダー ・地域マネジメントとステークホルダーとの協働 ・地域における文化資源の活用 （⑬　山藤　篤/2回） ・農業生産法人の実践事例に学ぶ ・地域マネジメント・地域ステークホルダーとの協働・地域社会再生人材に必要な能力：グループワークと　まとめ　（レポート作成）	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	学科科目	農山漁村論	オムニバス形式により、農村、山村、漁村について、生業と暮らしの関係を概観する。農村では、食料供給を支える共同体に焦点を当て、共同社会における物事の進め方について学習する。山村では、限界集落が点在する地域であることから、共同体の衰退と現状、その対策について学習する。漁村では、農村や山村と比べて集落規模は比較的大きく集住型であることに着目し、漁村特有の共同体を基盤について述べる。 （オムニバス形式/全16回） （⑪　小田　清隆／6回） 第　１回：農村の成り立ちと現状・課題 第　２回：農村集落に代表される地域社会の構造と暮らしに果たす意義 第　３回：農業において共同体組織が担う役割 第　４回：農村振興策のあり方と課題 第　５回：農村における地域振興の事例紹介 第　６回：ディスカッションと小テスト（生業と暮らしから見た農村の現状・課題・可能性） （⑫　笠松　浩樹/6回） 第　７回：山村の法的定義と生業・暮らしの特徴 第　８回：小規模高齢化集落が発生した背景と実態 第　９回：山村における山仕事と農耕による複合型の生業 第１０回：農村振興策のあり方と課題 第１１回：農村における地域振興の事例紹介 第１２回：ディスカッションと小テスト（生業と暮らしから見た山村の現状・課題・可能性） （⑭　若林　良和/4回） 第１３回：漁村の成り立ちと現状・課題 第１４回：漁業に依拠した共同体のつながりと柑橘栽培への転換 第１５回：漁村振興策のあり方と課題 第１６回：ディスカッションと小テスト（生業と暮らしから見た漁村の現状・課題・可能性）	オムニバス方式
			地域活性化論	地域づくりの目的と手法は様々であり幅が広い。従って、目標設定、計画策定、実践方法の構築、関係者間の意思疎通、実践の手法を地域の実情を通して身につける必要がある。本科目では、産業振興を中心とした地域づくりの事例、過疎・高齢化が進む地域にありながら産業の推進や交流・定住につながっている事例などを取り上げ、地域資源を活用した経済循環の創出を学ぶことにより、地域の問題点と実績を整理し、地域に関わる意欲喚起と実践知識の深化を促す。	集中
			観光地形成論	観光まちづくりとは、地域が主体となって自然、文化、歴史、産業、人材など、地域のあらゆる資源を活かすことによって、地域内外の交流を促進し、活力あるまちを実現していく活動である。つまり、地域の固有性、多様性が、観光客にとって異なる地域で触れる「非日常性」（観光対象としての魅力）であり、観光地におけるまちづくりと観光の持続的な発展が重要となる。本講義は、様々な地域における観光地形成を通して、観光まちづくりの基礎的な考え方を習得し、地域社会の発展と呼応したサステイナブル・ツーリズムの実践について学ぶ。	
			地域文化論	地域に根付いたさまざまな文化の評価・活用に関する知識や課題解決の方法について理解する。地域の文化の成立要因や変化の諸特徴、現代社会における価値や継承の可能性などについて複数の事例をもとに検討し、地域のステークホルダーらとの協働を目指すための基礎的視点やスキルを身に付ける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	学科科目	生涯スポーツ概論	生涯スポーツについて理解を深めるとともに、社会で展開されている多様なスポーツを生涯スポーツの観点から捉え直し、そのあり方について考究する。 （オムニバス形式/全15回） （②　藤原　誠/7回） 生涯スポーツがいわれるようになった背景や生涯スポーツの意味や意義について学ぶとともに、生涯スポーツの振興に果たす学校や地域の役割について考える。 ・生涯スポーツの背景 ・生涯スポーツの概念 ・生涯スポーツの振興と学校 ・生涯スポーツの振興と地域 ・総合型地域スポーツクラブ ・ライフステージとスポーツ ・生涯スポーツに関するトピック （⑤　牛山　眞貴子/4回） 生涯スポーツとしてのダンス(表現運動）について、,障がい者のスポーツ（生涯スポーツとの関連や現状など）について考える。 ・地域コミュニティの希薄さの中でのスポーツの役割と現状 ・地域コミュニティの形成とダンスイベント ・障がい者スポーツの持つ可能性 ・運動とバリアフリー （⑥　山中　亮/4回） 生涯にわたってスポーツに関わっていくことについて、競技者・指導者・仕事・社会などの観点からとらえ、生涯スポーツの意義について考える。 ・スポーツ指導者の役割 ・スポーツと人材育成 ・アスリートとセカンドキャリア ・スポーツを通した地域貢献	オムニバス方式
			地域健康づくり論	地域資源・地域課題に関する基礎知識科目として、この授業では、健康の増進、生活体力及び日常生活活動性の改善を図るために必要となるヘルス・プロモーション活動としての公共の健康増進支援策、環境づくり策、及びスポーツと健康増進の関わりとスポーツ領域からの支援策について学ぶ。 （オムニバス形式/全16回） （⑩　山本　直史/8回） 第１回：ヘルス・プロモーションの概要 第２回：ヘルス・プロモーション活動としての国の公共施策とマネジメント 第３回：ヘルス・プロモーション活動としての地方自治体の公共施策とマネジメント「愛媛の農山漁村」の事例、暮らしや観光資源とつなぐ「スマイル松山プロジェクト健康ICT」などの事例 第４回：健康づくりのための環境づくり 第５回：地域のヘルス・プロモーション活動に関するグループディスカッション（施策、環境づくり） 第６回：スポーツ領域からのヘルス・プロモーションへのアプローチ 第７回：青少年期におけるヘルス・ケア（スポーツ領域からのアプローチ） 第８回：成人期及び高齢期におけるヘルス・ケア（スポーツ領域からのアプローチ） （④　浅井　英典/8回） 第９回：運動習慣の定着の要件と健康・体力向上との関連性 第１０回：幼少年期におけるスポーツ指導の在り方 第１１回：青少年期におけるスポーツ指導の在り方 第１２回：成人期及び高齢期におけるスポーツ指導の在り方 第１３回：ヘルス・ケアとしてのスポーツ領域からのアプローチ、マネジメントに関するグループディスカッション 第１４回：ヘルス・ケアとしてのスポーツ指導の在り方とマネジメントに関するグループディスカッション 第１５回：期末試験 第１６回：試験解説とまとめ	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	学科科目	身体運動論	ヒトの日常生活は、身体運動、すなわち身体を動かすことから構成される。本授業では、身体の構造、バイオメカニクスの観点からの身体運動、生理学的な観点からの身体運動、および身体運動がもたらす健康利益・健康不利益に関する基礎知識を習得する。さらに、近年では身体運動の不足が指摘されて久しいが、身体運動が不足するに至った社会的・環境的要因についても理解する。	
			地域資源融合実習Ⅰ	地域の活性化を目的とする複数の資源を融合した地域事業・イベントを事例として取りあげ、地域資源融合論の学びを踏まえつつ、参加協力する、マネジメント等の補助的役割や支援的役割を担う等、参加体験型のアクティブ・ラーニングを通して地域資源を融合し活用する思考力とサーバントリーダーシップを養う。 事前指導（1.5時間×2）として、担当教員は個人もしくは複数の教員合同で、学生の学びに相応しく、教員が熟知した一般市民参加型の地域事業・イベント（複数の資源を融合した内容）を学生に推奨する。本授業は集中講義とし、休日、春夏秋冬休暇期間を活用し、参加体験できる内容とする。その際、教員は①主催・共催の相当性②当事業・イベントでの学生の活動内容について募集要項、申し込み用紙、開催要項等を明記した書類が整備されている③学生の負担は適切か、以上の３点を確認した上で推奨する。学生は教員と十分相談の上、その中から１事業以上選択して主催・共催先に申し込み、承諾を受け、参加体験（実習）を行う。開催地や時間など事業とイベントには負担の差があるため、参加活動時間は（1.5時間×10）を目安とする。実習中、教員は学生と連絡を取り、必要に応じて支援する。事後指導（1.5時間×3）として、報告書を作成・提出し、教員とカンファレンスを行う。	共同・集中
			地域資源融合実習Ⅱ	コミュニティの再生を目的とする複数の資源を融合した地域事業・イベントを事例として取りあげ、地域資源融合論の学びを踏まえつつ、参加協力する、マネジメント等の補助的役割や支援的役割を担う等、参加体験型のアクティブ・ラーニングを通して地域資源を融合し活用する思考力とサーバントリーダーシップを養う。 事前指導（1.5時間×2）として、担当教員は個人もしくは複数の教員合同で、学生の学びに相応しく、教員が熟知した一般市民参加型の地域事業・イベント（複数の資源を融合した内容）を学生に推奨する。本授業は集中講義とし、休日、春夏秋冬休暇期間を活用し、参加体験できる内容とする。その際、教員は①主催・共催の相当性②当事業・イベントでの学生の活動内容について募集要項、申し込み用紙、開催要項等を明記した書類が整備されている③学生の負担は適切か、以上の３点を確認した上で推奨する。学生は教員と十分相談の上、その中から１事業以上選択して主催・共催先に申し込み、承諾を受け、参加体験（実習）を行う。開催地や時間など事業とイベントには負担の差があるため、参加活動時間は（1.5時間×10）を目安とする。実習中、教員は学生と連絡を取り、必要に応じて支援する。事後指導（1.5時間×3）として、報告書を作成・提出し、教員とカンファレンスを行う。	共同・集中

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	農山漁村マネジメント系	農山漁村生活技術	本科目では、農山漁村での地域再生人材に必要な基礎と考え方を身につける。理念形成面では、生物資源と共に生きる意味・哲学、生物資源を育む農山漁村への誇りと自信、農山漁村地域の存立・再生へ向けた姿勢を持てるようにする。また、技術としては、地域資源に基づく生業を起こすノウハウ、資源を活用する知恵と技、都市との結びつきによる活性化手法を体得する。	共同
				都市農村交流論Ⅰ	農山漁村の活性化について、その事例を学ぶとともに、実際の活動に参加し、評価の視点を持つとともに、成功のポイントをつかむ。また、地域資源の発掘の仕方を学び、それを如何に活用することができるか、その手法を学ぶ。それらをもとにして、都市に発信し、都市住民を農山漁村に呼び込み交流を実現する。さらに、日常化するための手法についても考える。	集中
				農山漁村情報処理入門	ワード・エクセル・パワーポイントについて、既習しているものとして、それらを駆使して、わかりやすい企画書やポンチ絵等を作成し、様々なツーリズムプランやビジネスプランを立てて応募させることとする。その際、ツーリズムや地域活性化に関わる多様な事例を参考にさせる。中途で、相互評価をしながら修正し、よりよいものを作成させる。プランを外部に応募させることで、外部との関わりができ、成果も得られる可能性もあり、学生の意欲の向上にもつながる。評価は、企画力、イメージ力、評価力及び成果を総合してする。	
				地元学	農山漁村における生業・暮らし・文化を把握すること、活用可能な資源を見出すこと、地域住民と一緒に実践行動を興すことを目的に、地元学の手法を理解・実践する。地元学ネットワーク主宰の吉本哲郎によって展開されている方法論を座学で説明した後、実際に農山漁村での実践を行う。実践では、農家への聞き取り、聞き取った内容の絵地図表現、集落等での発表会を行う。これにより、農家とのコミュニケーション能力、住民が気づいていない農村の魅力を引き出す手法、その活用について考える力を養い、地域づくりに必要なノウハウを身につける。	集中
				地域農林漁業論	農林漁業の意義、課題、歴史、将来展望について学習する。地域との関連性を意識することで、過疎高齢化の問題状況の中にある農林漁業の実態を把握する。また、暮らし、生業、文化、共同体組織等の面で多様性に富む農山漁村を基盤とした総合的な資源生産の現場を理解する。 （オムニバス形式/全16回） （⑪　小田　清隆/6回） 愛媛県の農林漁業の特質に着目し、水稲や野菜を中心とした農村、林業や果樹等の兼業による山村、漁業から柑橘への転換が行われた漁村での農業について解説する。 （⑫　笠松　浩樹/6回） 森林の基本的な機能を解説し、原木生産と林業の担い手、木材加工と製品流通、住宅における木材利用の変化について解説する。 （169　竹ノ内　徳人/4回） 昭和30年代までの漁獲中心の漁業と、その後の漁獲高の低迷、その対応として発展してきた養殖など、漁業の変遷と現状について解説する。	オムニバス方式
				農業起業論	「起業」には、様々な体系が存在する。そこで本講義では、まず、「起業」の概念についてマネジメント論とマーケティング論を関連させて整理する。次に、地域・食品・経済をキーワードとした起業の事例を紹介し、食料・農業分野での起業について説明する。また起業を実践しているゲスト講師による体験談を含め起業に係る諸問題について解説する。これらを踏まえて学生相互で起業する上でのビジネスプランを策定し、意見交換を行うことで、起業のあり方について考察する。	
				農業構造論	この授業では、生産活動としての農業について、歴史的な転換状況とその要因について把握するとともに、今後のあり方について考察することを目的とする。我が国の農業構造は、農地制度を中心とする政策のあり方、全産業における農業の位置づけに伴って変化しており、あわせて生産部門や地域によって展開が異なることを理解していく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	農山漁村マネジメント系	農山漁村課題研究	「卒業研究」を行うため、4年次全体を通して農山漁村または農林漁業に関連する実習を行う。実習期間はおおむね4週間とし、具体的な日時および日数は受け入れ先の状況と学生の習熟度によって調整する。実習先は、学生個々の「卒業研究」のテーマと卒業後の進路を明確に意識し、関連する業種や団体等を対象とする。研究および進路の関係上、必要に応じて複数箇所における実習も可能とする。	共同
				都市農村交流論Ⅰ	都市農村交流論Ⅰとあわせて、農山漁村の活性化について、その先行事例を探るとともに、成功のポイントをつかむ。また、地域資源の発掘の仕方を学び、それを如何に活用することができるか、その手法を学ぶ。それらをもとにして、都市に発信し、都市住民を農山漁村に呼び込み交流を実現する。さらに、日常化するための手法についても考える。 学習の成果として、農山漁村の現状を理解しつつ、その資源に注目し、それを利活用できる態度を身に付け、農山漁村の振興・活性化プランを立案できる能力を養う。	
				農林漁業団体論	この授業では、農林漁業諸団体（農協、漁協、森林組合、農業共済組合、土地改良区、農業委員会等）の成り立ち、組織形態、事業内容、経営構造、行政との関係等を理解し、これからの産業・地域問題の解決のために果たしうる農林漁業団体の役割を考える力を養うことを目的とする。	
				自給地域形成論	水、食料、エネルギーを地域で自給する重要性と、そのあり方を解説・展望する。問題意識を、国土形成の基礎である資源を自ら生産・調達すること、脱化石燃料や脱原子力発電を想定した社会のあり方を描くこと、長らく資源の生産現場であった農山漁村を再評価してその役割を考えること、世界的な資源枯渇に対処することに置く。環境収容力と環境容量を基礎原理とし、地域の自然資源を最大限に活用した暮らしや生業のあり方、資源の効率的な生産・流通・消費を行う範域、自給と自治の関係性について考える。	
				農林漁家実習	農林漁業を営む個人や組織の中から、学生個々の興味関心に基づいて実習先を選択し、栽培、収穫、保育、養殖、漁獲等の実践作業を行う。実習期間は2週間（10日間）とし、期間中に複数の実習先を選択してもよい。農林漁業の実際の作業を知ることにより、第一次産業の位置づけや実践方法について理解を深めることを目的とする。実習後は、日誌とレポートをまとめ、実習で得られた成果と課題を発表会で報告し、担当教員の評価を受ける。	共同
				農山漁村団体実習	農林漁業に関する団体（農業協同組合、森林組合、漁業協同組合等）の中から、学生個々の興味関心に基づいて実習先を選択し、団体で日頃から実施されている実務や作業を行う。実習期間は2週間（10日間）とし、期間中に複数の実習先を選択してもよい。農林漁業における団体の役割について理解を深めることを目的とする。実習後は、日誌とレポートをまとめ、実習で得られた成果と課題を発表会で報告し、担当教員の評価を受ける。	共同
				農山漁村法人実習	農林漁業や農山漁村地域振興を実践している法人・企業の中から、学生個々の興味関心に基づいて実習先を選択し、生産、流通、販売、マメジメント等の実践作業を行う。実習期間は2週間（10日間）とし、期間中に複数の実習先を選択してもよい。農林漁業や地域振興に関する法人・企業の経営を知ることにより、第一次産業の実情や地域振興について理解を深めることを目的とする。実習後は、日誌とレポートをまとめ、実習で得られた成果と課題を発表会で報告し、担当教員の評価を受ける。	共同
				農山漁村自治体実習	農山漁村地域振興を有する自治体の中から、学生個々の興味関心に基づいて実習先を選択し、自治体の実務や作業に携わる。実習期間は2週間（10日間）とし、期間中に複数の実習先を選択してもよい。また、行政機関以外にも、研究機関や普及所等も対象とする。農山漁村や農林漁業の振興における自治体の役割、財政や行政の仕組みを知ることが目的である。実習後は、日誌とレポートをまとめ、実習で得られた成果と課題を発表会で報告し、担当教員の評価を受ける。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	文化資源マネジメント系	文化資源マネジメント論	日本や世界の様々な国の有形・無形問わず受け継がれてきた文化を「資源」として見直し、現代の社会・文化に活かす方法を習得する。本講義では「文化経営（マネジメント）」の重要性を理解するために、文化遺産の保存・保護等の規制の概念や制度を踏まえたうえで、都市・農村の景観形成、地域と連携したフィールドミュージアム、地域づくり、表象文化を活用した地域コンテンツや観光振興など、新たな活用の手法について理論的に学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （1　寺谷　亮司/2回） ・文化資源と都市景観 （①　村上　恭通/2回） ・文化遺産の活用 （10　槙林　啓介/3回） ・文化遺産の保存・保護 （⑦　大谷　尚之/2回） ・文化資源を活かした地域コンテンツ （⑧　井口　梓/4回） ・文化資源と文化経営について ・文化資源と観光・フィールドミュージアム ・文化資源マネジメントの理論と手法 （⑨　淡野　寧彦/2回） ・文化資源と農村振興	オムニバス方式
				都市景観論演習Ⅰ	農・林・水産業や製造業などの地場産業，名所・旧跡，温泉，著名施設などの文化資源や観光，特産品や料理・酒などの飲食文化をはじめとする都市の文化創成に関する演習授業である。学生は，都市の文化創成に関する自身の研究成果を報告するか，あるいは関心があり興味深い研究論文・研究書をレジュメを用いて紹介する。報告後は，あらかじめ定めた討論者（チューター）を中心として，報告内容に関する長時間の質疑応答を実施する。	
				観光文化論演習Ⅰ	本講義では、卒業論文の作成に向けて、観光に関わる論文を精読し発表することで、関心分野における先行研究の動向や展望を学び、研究課題に対する問題意識を深める。課題テーマに応じた研究論文や文献を収集する能力を養い、観光現象に関する人文社会科学の先行研究論文や文献から、観光研究の方法と視点を学ぶ。また、各自の関心テーマを通した観光と文化をめぐる諸問題と可能性について、それぞれの研究論文の論点を整理し、参加者とディスカッションすることで、論理的な思考力とプレゼンテーション能力を身につける。	
				地域構想論演習Ⅰ	さまざまな文化資源の活用方法について、学生自身が関心を持った事象を取り上げ、その先行研究論文を精読したうえで、当該論文の要約と、内容に対する自身の意見をとりまとめる。これらを授業中に口頭で発表するとともに、教員や他の学生と議論する。これらを学生の卒業研究に結びつけ、地域構想論の観点から文化資源マネジメントを担う人材としてのスキルを身につける。	
				地域コンテンツ論演習Ⅰ	これからの時代においては、地域の魅力や文化を発信し、価値として具現化することが求められている。この場合の発信される情報や価値の内実が「コンテンツ」である。本演習では、地域によるコンテンツの活用・創造をテーマとして、関連する文献を精読し、その内容に関連した討議やレポート作成を行う。それらを通じて、地域とコンテンツを取巻くマクロな社会環境変化の概略を理解するとともに、大学生として必要な論理的思考能力や表現能力（文書、口頭）を身につける。	
				文化遺産論演習Ⅰ	文化遺産の保存・活用に関する先行研究を精読し，その内容の要約や自身の意見をまとめて発表する。この際には，関連分野（考古学、文化財学、地理学、観光文化学、環境学等）の研究動向も踏まえ、文化遺産の各資料の研究および、行政や地域社会における活用について、様々な角度からの検討と討議を行う。 （オムニバス方式/全１５回） （①　村上　恭通/7回） ・文化遺産の保護・活用 （10　槙林　啓介/8回） ・文化遺産の研究動向	オムニバス方式
				都市景観論演習Ⅱ	商店街，歓楽街，住宅地区などの都市の土地利用分化，学生地区，高級住宅街，スラムなどの地区別居住住民特性，美しい景観と醜い景観や都市景観条例など，都市の地域創成や景観に関する演習授業である。学生は，都市の地域創成や景観に関する自身の研究成果を報告するか，あるいは関心があり興味深い研究論文・研究書をレジュメを用いて紹介する。報告後は，あらかじめ定めた討論者（チューター）を中心として，報告内容に関する長時間の質疑応答を実施する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	文化資源マネジメント系	観光文化論演習Ⅱ	本講義では、卒業論文の作成に向けて、その途中経過報告を行う。関心分野における先行研究の動向をふまえたうえで、研究課題に対する明確な問題意識を設定することや、観光研究の方法と視点を文化資源マネジメントにおいてどのように活用するのかといった点をまとめ，詳細に発表する。さらに参加者とディスカッションすることで、論理的な思考力とプレゼンテーション能力を身につける。	
				地域構想論演習Ⅱ	地域に根付いたさまざまな文化資源を、現代社会の中でどのように活用し、地域社会へ還元させるのかについて、これまでの授業等によって身につけた知識や技術を幅広く活用しながら検討する。この中では、学生自身が関心を持った事象を取り上げ、学生による構想や調査成果を発表するとともに、教員や他の学生と議論する。これらを学生の卒業研究に結びつけ、地域づくりの観点から文化資源マネジメントを担う人材としてのスキルを身につける。	
				地域コンテンツ論演習Ⅱ	これからの時代においては、地域の魅力や文化を発信し、価値として具現化することが求められている。この場合の発信される情報や価値の内実が「コンテンツ」である。本演習では、地域によるコンテンツの活用・創造をテーマとして、文献講読、現地調査、ディスカッション、ワークショップ、プレゼンテーション、レポート作成等を通じて、（１）調査、発見能力、（２）多面的な思考力、（３）柔軟な発想力、創造性、（４）表現（文書、口頭）能力、を身につけることを目指す。	
				文化遺産論演習Ⅱ	将来にわたり地域社会の文化資源として、文化遺産を保存・活用するため、各自テーマを決めて取り組む。関連分野（考古学、文化財学、地理学、観光文化学、環境学等）の研究動向も踏まえ、文化遺産の各資料の研究および、行政や地域社会における活用について、様々な角度からの検討と討議を行う。	共同
				環境文化論	地域の文化や歴史は、人の営みのみによるものではない。環境のなかで営まれたことが前提である。本授業では、環境と人間の関係性を文化・歴史の観点から概観し、文化遺産と文化資源とを体系化しながら学び、いかに現代・未来へ活用していけばよいか考える。そのために、環境のなかの人間の営みについての様々な事例を挙げながら、その基礎的な研究体系を習得する。	
				都市景観論	本講義では、多様な都市的事象を分析するための視点や各種モデルを学んだ上で、日本および世界の都市の現状や都市問題について、多くの事例を通して学び、これからの都市ビジョンについて考える。 具体的には、各種都市分析モデルを学んだ後、現在の都市空間の形成プロセスとその形成メカニズムについて学習し、さらに世界の都市問題と今後求められ、より暮らしやすい都市のビジョンを考える。	
				文化遺産論Ⅰ	文化遺産は現代的な概念である。過去の歴史の営みを後世に伝えるために、行政・地域社会、そして我々自身はいかにしたら良いのだろうか。そのために、文化遺産そのものとは何か、文化遺産をめぐる政治制度、社会的活動、そして私たちの哲学・思想について体系的に学ぶ。また、文化遺産に関わる様々な学問分野を紹介しながら、それらを総合的かつ学際的にとらえる技術・視点を学ぶ。	
				文化遺産論Ⅱ	遺跡あるいは文化遺産は単なる学問の対象であるだけではなく、現代人、現代社会にとってその存在を問うべき対象であり、そこから学ぶ対象である。本授業では、なぜ遺跡や文化遺産を大事にすべきなのかという理由を考え、国内外の遺跡保存と活用の事例に触れながら、地域社会を持続させる装置としての遺跡の保存・活用法について習得する。	
				観光文化論	地域の文化は、社会的・文化的背景のもと、ツーリスト（観光を消費する者）、プロデューサー（観光を制作する者）、地域住民との間で展開する相互作用を経ながら、観光の対象として新たな意味が生み出される。本講義では、観光文化研究の基盤となる観光学の基礎知識を学んだうえで、観光文化論をめぐる近年の研究動向を通して、「観光文化」の諸現象、および地域文化と観光をめぐる課題や可能性について学ぶ。	
				ソフトツーリズム論	近年、人口構造と産業構造の転換の中で、観光による地域活性化に対する期待が高まっている。しかし、その一方で、技術と市場（マーケット）の変化に伴い、観光はそのあり方の見直しを求められている。いずれにせよ、旧来の観光振興や観光地づくりとは異なった方向を模索する機運が生まれているのだといえる。 本講義では、社会環境の変化の中で成立した、マスツーリズムとは別様な観光形態としてのソフトツーリズムについて論じる。とくに、地域サイドと観光者サイドが地域資源を主体的かつ創造的に発見・活用する側面に焦点を当てて講義を進める。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	文化資源マネジメント系	観光コミュニケーション論	グローバル化・情報化した現代社会において、観光現象は多様化しつつあり、観光を「ゲスト」（観光客）と「ホスト」（もてなす地域側）の２軸では捉えることができなくなった。ゲストもまた、地域活動を支援する主体の一人であり、ホストもまた着地型観光を通してみるとプロデューサーであり、観光客でもある。またゲストとホスト間のコミュニケーション技術（旅行の情報化）の進化により、観光を通して、様々な主体に新たな関係性が生まれつつある。本講義では、ホストとゲストとの関係性を踏まえたうえで、観光行動、ニューツーリズム、旅行の意思決定、観光経験など様々なテーマを通して、観光コミュニケーションについて学ぶ。	
				国際比較観光論	観光活動（ツーリズム）は，全世界のほとんどの人々が行う行動であるが，ツーリストの送出国は先進諸国に多い。本講義では，世界の観光地域における観光資源の分布，ツーリストの空間行動，ツーリズムと地域の変容などを，多くの事例を基に学ぶ。さらに，外国事例の学修によって，日本の今後のツーリズムのあり方についても考える。	
				地域づくり論Ⅰ	日常生活における様々な身近な事象を主な具体例とし、そこから中心市街地の空洞化や再開発事業の展開、あるいはフードデザート問題など、とくに都市地域における諸課題やその変化に関する内容の背景、特徴、展望等を理解する。その上で、今後の望ましい社会のあり方やそのための中心市街地活性化(商店街の活性化など)、コミュニティづくりなどの方法について自らの意見や対応策を考えられるようにする。	
				地域づくり論Ⅱ	本講義では、人口減少、超高齢化というわが国の現状を踏まえ、地方や農村を維持・創造するために展開されている政策と実践例について論じる。 とくに、（１）人口減少と地域問題、（２）農業・農村の現状と課題、（３）地域資源の活用と新しい価値の実現、に焦点を当てて講義を進める。 それを通じて、地域問題を的確にとらえる視座と問題解決に向けた思考法を身につけることを目指す。	
				地域構想論	各地域に存在する、伝統的あるいは地域独自の文化・産業の特徴について学ぶことにより、そこから見出される地域性や地域資源の将来性と課題などについて理解する。 具体的には、地域の伝統的産業ないし行事の成立と現在に至る継承および変容の特色、地域の第一次産業の発展と現代的課題への対応策などについて学ぶことにより、地域の諸問題に関して主体的に考える力を身に付ける。	
				地域コンテンツ論	この授業では、地域の魅力や文化を、情報として発信し、具体的な価値として実現するための方策について論じる。この場合の情報や価値の中身が「コンテンツ」である。 前半では、「コンテンツ」に関して概念的検討を加えた上で、それを地域レベルで活用する方法について事例を基に考察する。具体的には、アニメと食について取り上げる。その上で、国家的に推進されている「クールジャパン戦略」から、市町村レベルでの取組みまで、政策的、戦略的な方策を紹介する。 後半では、地域の場所やモノに体化されたコンテンツとしての「地域ブランド」について論じる。概念や測定法などについて説明した上で、地域ブランドづくりに成功した事例について紹介する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	スポーツ健康マネジメント系	スポーツ健康生理学	幼児から高齢者に至るすべての年代において健康と体力の増進は、豊かで有意義な生活を送る上で必須要件である。また、生活習慣病やメタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム等の疾病予防の必要要件として、定期的な運動の実践が挙げられる。本授業においては、前述の疾病予防や健康・体力の増進を図るための運動プログラムの立案・指導及び評価について学ぶ。また、自らが運動処方プログラムを策定・実践し、その活動を通じて運動習慣の定着化を図るための方策についても議論を重ね、スポーツ指導者としての実践的指導力の涵養を図る。	
				スポーツ社会学	近年、社会においてスポーツの重要性は頓に高まっており、スポーツと個人、スポーツと社会の関係性を分析・考究することは、スポーツを学ぶ者にとって不可欠となる。　本授業では、スポーツの基本的特性について理解を深めるとともに、学校や社会で展開されている多様なスポーツを社会学的視座から捉え、その実態を分析し、そのあり方について考究する。 （オムニバス方式/全16回） （②　藤原　誠/13回）（共同2回） ・スポーツの特性と機能 ・多様化するスポーツ ・スポーツと社会化 ・学校教育とスポーツ ・学校運動部 ・子どもの地域スポーツクラブ ・子どものスポーツをめぐる今日的課題 ・日本のスポーツ政策 ・総合型地域スポーツクラブ ・スポーツとメディア・経済 （⑥　山中　亮/5回）（共同2回） ・スポーツ指導者とリーダーシップ ・選手の育成ビジョンと指導者の関わり ・多様化するプロスポーツの存在意義	オムニバス方式・共同（一部）
				健康医学	まず始めにプライマリヘルスケア(PHC)の概念について学び、その上で日本を含めて先進国で重要である青年期～壮年期以降に増加してくる生活習慣病の概念及び予防方法について知識を得る。さらに得た知識を融合させて、心身や健康診断結果などの状態に応じて具体的な生活改善、食事改善、身体活動改善などの対策について対応プランをを考えることができるように症例(ケース)を用いたグループワークを行う。また、最後に今後の先進国の健康状態の動向についてのディスカッションを行い、卒業後も自分で考えることのできる力を涵養する。	
				衛生学・公衆衛生学	健康や平均寿命の進展には医学や健康づくり施策といった目に見える取り組みだけではなく、過去からの社会のインフラ整備や所得の向上なども大きく寄与している。先進国としての日本ではこれらの事は当たり前のように思われているが、なぜ社会基盤の整備が必要なのか？そしてこの整備は今後も重要であることを理解する。このことは将来、地域の健康を担う者としてだけでなく、世界各国で健康に携わるために重要であることから、学問としてだけでなく職業人としての責務を涵養する。	
				学校保健	地域社会の重要なコミュニティの一つである学校は、地域社会が持続可能な発展に向かうべき次世代の育成を担う重要コミュニティであり、学校における児童・生徒の健康や安全確保の問題は重要な地域課題の一つである。児童・生徒の実態を把握した上で、学校保健の意義及び組織構成等について知識を修得する。また、学校保健活動の運営において地域・家庭・学校の協働、連携など必要な基本的な内容について知識を深め、思考し判断できる力を身に付ける。 授業計画 第1週　地域課題と学校保健　地域のコミュニティとしての学校の役割 第2週　児童・生徒の健康とマネジメント　学校保健の目的、意義、内容 　　学校保健の歴史的変遷、地域保健と学校保健 第3週　発育発達とマネジメント　児童・生徒の健康の発育・発達 第4週　学校での疾病に関するマネジメント児童・生徒にみられる疾病異常 第5週　児童・生徒の精神健康 第6週　学校保健の活動・学校保健経営 第7週　学校保健安全法及び学校保健安全計画 第8週　学校での健康管理マネジメント　学校健康診断 第9週　健康観察、健康相談 第10週　地域と家庭と学校の協働と連携した取組とマネジメント 　　学校保健における感染症対策と学校環境衛生 第11週　学校安全と地域との取り組み 第12週　学校給食・食育 第13週　保健室観察実習① 第14週　保健室観察実習② 第15週　地域と学校の連携　まとめ	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	スポーツ健康マネジメント系	スポーツ健康測定評価学	個人に対するスポーツ・健康の指導、および集団を対象としたスポーツ振興や健康づくり事業をより効果的に行うためには対象者・対象集団の身体的状況や運動能力・体力などを正しく把握する必要がある。そのためには、妥当性、信頼性、経済性、安全性などを十分に考慮した上で測定されたデータを適切な方法を用いて分析し、評価が行わなければならない。本授業では、個人や集団を対象とした身体活動や運動能力・体力などの測定方法と統計処理を用いた評価方法について学習する。	
				運動学・バイオメカニクス	運動学・バイオメカニクスにおいて基本となる骨格・筋肉・神経系・運動における力学的特性等について理解を深める。学問としての運動学・バイオメカニクス成立の歴史的背景、自然科学との関わり、運動技術や運動技能の習熟過程における情報論的考察や運動学からみた動作・運動・体力及び身体運動の動作分析・考察方法などについて講義する。 授業計画 第１回：運動学・バイオメカニクスの学問的・歴史的背景 第２回：スポーツ運動学の現状と問題点 第３回：現象学的人間学 第４回：運動・動作の発展要因 第５回：スポーツスキルの習熟過程、頭頚部の関節運動 第６回：スポーツスキルの習熟過程（知覚―運動行動）脊柱・胸郭の関節運動 第７回：スポーツスキルの習熟過程（知覚―運動行動の組織化）、上肢の関節運動 第８回：骨盤と下肢の運動 第９回：骨格と関節の構造と機能について（関節運動と全身運動） 第１０回：神経と筋収縮のメカニズム(身体構造と力学的運動要因、骨格筋の力学的特徴) 第１１回：運動の力学的解説(関節運動・全身運動と仕事・エネルギー) 第１２回：身体運動の分析法（動作各論） 第１３回：動作分析の方法論（水中・水泳運動） 第１４回：動作分析の実習（陸上での運動・歩行） 第１５回：期末試験 第１６回：試験解説とまとめ	
				スポーツリーダーシップ論	現代社会において、スポーツの領域は、高度化と大衆化、継承と進化の双方向の特性を有しながらスポーツの持つ可能性についても様々な角度から言及されている。スポーツに関わる活動を行ってきた経験から、このような声は年々高まる傾向にある。スポーツの持つ本来の意義を捉え直し、スポーツに真摯に望む態度としてのスポーツマンシップを理解していく中で、スポーツに取り組んでいく上で得られる経験知を、競技的な側面だけではなく、社会全体に活かし、地域社会や組織をより良い方向へ牽引するスポーツリーダーシップについて理解を深める。 第１回：スポーツの持つ意義について考える 第２回：一般的なリーダーシップとは（ビジネス界など）地域課題とリーダー 第３回：スポーツにおけるリーダーシップとは 第４回：スポーツの現場におけるリーダーシップについて 第５回：プロフェッショナルな現場でのリーダーシップの実際 （ゲストスピーカーによる講義） 第６回：スポーツマンシップとアスリート育成とマネジメント 第７回：スポーツ現場におけるスポーツマンシップの位置づけ（指導現場における実際） 第８回：スポーツ育成現場における理想と現実（ゲストスピーカーによる講義） 第９回：スポーツと地域貢献 第１０回：スポーツプロモーションとは 第１１回：スポーツを地域貢献に活かす（ゲストスピーカーによる講義） 第１２回：スポーツを地域貢献に活用していくためのマネジメントと方略 第１３回：スポーツで地域をリードするリーダーシップとそのマネジメント力 第１４回：スポーツで地域をリードするリーダーシップ像を構築する 第１5回：期末試験 第１6回：試験の解説　まとめ	
				救急処置	生命に危険な呼吸・循環・中枢神経の異常について、基礎的知識と症状、応急処置、並びに外因性疾患（外傷、熱傷、中毒、溺水、環境異常など）の基礎的知識と応急処置 と救急医療体制ついて消防署実習、講義、演習を併用しながら学ぶ。 一次救命処置（BLS）として気道確保、人工呼吸、心臓マッサージ、AED、応急処置法実習は止血法、包帯法、テーピング、介護や担送法などの一次救命処置（BLS）のインストラクターを経験し実践力を涵養する。 （役割分担） （⑤　牛山　眞貴子）授業に関するコーディネイト全般、プレゼンのための講義と事前事後指導 （235　馬越　健介）救急医療の講義、実技指導・消防署実習引率	共同・集中

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	スポーツ健康マネジメント系	地域スポーツ演習Ⅰ	スポーツを草の根から根付かせていくためには、単発的なスポーツイベントの開催ではなく、日頃からの継続的な地域スポーツ活動、所謂スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等の地域スポーツ団体の活動の充実が期待されている。日本各地でスポーツ教室、スポーツ支援団体、総合型地域スポーツクラブが創設され、活性化に向けて地域と連携しながら活動している一方、成功事例とともに失敗事例も少なくない。創設したもののマネジメントしていくことの難しさに直面し、「運営の継続」が課題として挙げられている。そこで本授業では、地域スポーツ（スポーツ団体、シニア愛好家チーム、総合型地域スポーツクラブなど）の活動を取り上げ、成功事例・失敗事例から学び、運営の方法や活動内容について概略を理解するとともに、大学生として必要な論理的思考能力や表現能力（文書、口頭）を身につける。	
				地域スポーツ演習Ⅱ	この授業では、地域スポーツを①学校　②教育行政（県教育委員会、市教育委員会）③その他（NPO法人、企業、財団、総合型地域スポーツクラブ等）のカテゴリーに分けて、現在実施されている地域スポーツの現状と課題を明らかにし、マネジメントの必要性を考察し、発展としてスポーツ振興・スポーツ人口の増加のためのマネジメントの一環として地元スポーツのCMづくりを行い、CMづくりから見えてきた地域再生と活性化を考察する。 　取り上げるカテゴリーは①学校　体育祭、球技等のグループマッチ、部活動②教育行政愛媛県総合体育大会、スポーツITスタジアム、国体【する、観る、支える（育てる）】に関する事例　③マラソン、トライアスロン等自然を活用したスポーツイベント（愛媛県の例　愛媛マラソン、中島トライアスロン） 授業計画 第１回：地域スポーツがもたらすもの＝地域貢献　愛媛県に関するケーススタディ 第２回：学校と地域をつなぐ地域スポーツマネジメント　地域スポーツとしての「体育祭、部活動、グループマッチ」高校時代の経験の調査　グループディスカッション 第３回：学校行事、体育祭に関する情報収集、意見交換、グループワーク 第４回：第３回の意見交換をもとにプレゼンテーション 第５回：中学校・高等学校の運動部活動と地域の繋がり、どのようなマネジメントと支援が必要か？ 第６回：中学校・高等学校の運動部活動について情報収集、意見交換、グループワーク 第７回：第６回の意見交換をもとにプレゼンテーション 第８回：自治体とスポーツ（愛媛県総合体育大会スポーツITスタジアム、えひめ国体【する、観る、支える（育てる）】）マネジメントの組織と重要性 第９回：国民のスポーツ参加・県民のスポーツ参加に関する情報収集、意見交換　グループワーク発表 第１０回：「自分のまちの地域スポーツは元気ですか？」地域スポーツの現状グループディスカッション　課題発見 第１１回：地元の地域資源（自然や施設）を発見する。地元の地域スポーツの現状・マネジメントの組織図・課題調査と事例発表 第１２回：プロジェクト・ラーニング「地元・地域スポーツのためにCMを作ろう。」地元の地域スポーツを１つ選択しグループでCM（３０秒から１分）を作る。グループワーク（CMの企画、情報収集、撮影計画、編集計画） 第１３回：地域スポーツのCMを作る。撮影などの制作活動 第１４回：地域スポーツのCMを作る。編集、伝え方の工夫 第１５回：発表、評価とまとめ	
				レクリエーション演習	本科目では、コミュニティの活性化・仲間づくりにも広く活用されているレクリエーション活動としての実施頻度の高い「卓球」「ソフトバレーボール」「ニュースポーツ」の知識，実践方法，および指導法を演習形式で身に付けることを目的とする。各種目の具体的な内容は、1）歴史・ルールに関する知識習得、2）スキル向上のための相互指導、3）各種目を用いたイベントの企画と実践から構成される。 （オムニバス方式/全15回） （②　藤原　誠・⑥　山中　亮/5回）（共同） ・卓球 （④　浅井　英典/5回） ・ソフトバレーボール （⑩　山本　直史/5回） ・ニュースポーツ	オムニバス方式・共同（一部）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	スポーツ健康マネジメント系	生涯スポーツ演習	本科目では、生涯スポーツとして実施頻度の高い「ストレッチング」「有酸素性運動」「レジスタンストレーニング」の知識，実践方法，および指導力を演習形式で身に付けることを目的とする。 （オムニバス方式/全15回） （④　浅井　英典/5回） 運動中の身体の生理学的反応の基礎を理解した上で、適切な有酸素性運動の実践方法を習得する。また、模擬授業・相互指導を通じて、適切な有酸素性運動プログラムの作成方法、および指導能力を育成する。 （⑤　牛山　眞貴子/5回） 身体の構造と機能の基礎を理解した上で、適切な静的・動的ストレッチングの実践方法を習得する。また、模擬授業・相互指導を通じて、適切なストレッチングプログラムの作成方法、および指導能力を育成する。 （⑩　山本　直史/5回） バイオメカニクスの基礎を理解した上で、適切な静的・動的ストレッチングの実践方法を習得する。また、模擬授業・相互指導を通じて、適切なレジスタンストレーニングプログラムの作成方法、および指導能力を育成する。	オムニバス方式
				スポーツ健康情報処理演習	少子高齢化、若年層の運動離れの諸課題が挙げられる中、本演習では、運動やスポーツの生活化を鑑み、携帯型の様々なセンサからバイタルデータを取得する方法、および取得したデータの処理方法について、実際にデータを扱いながら学習する。まず，市販されているセンサの種類を調べ，その仕組み，適用領域や性能限界を調べる。次に，取得したデータを処理するための，統計的な扱いについて学習する。	
				スポーツ健康ICT活用演習	運動の効果を知ることが、スポーツ場面や生活場面では、より意欲を引き出し目標設定のきっかけになる。スポーツ指導者は住民の健康を管理し、健康寿命を伸ばしていくためには、住民の運動への意欲・関心を引き出すことが肝要である。本演習では、スポーツ場面や生活場面での課題を取り上げ、様々なセンサから取得したバイタルデータの処理と活用方法についての演習を行う。データの分析・管理・評価を行い、生活改善、健康増進につなげる方法を学習する。必要に応じて自らアプリケーションを開発し，実際に使用して評価を行う。	
				アダプテッド・スポーツ演習	障がい者や高齢者、子どもあるいは女性等が参加できるように修正された、あるいは新たに創られた運動が、アダプテッド・スポーツである。その本質を理解し、スポーツを活用した健康づくりに貢献できる理論を理解すると同時に実技を身につけてグループワークを通して障害のある人たちと協働し、課題解決に向けて具体的なアダプテッド・スポーツ種目（ノルディックウォーキング、フライングディスク、バランスボール、ダンスなど）を実践し、その活用方法を検討する。	
				コミュニティ・イベント演習	近年、今住んでいる地域であれ、将来の生活の拠点であれ、地域社会が元気になるための方略として「祭り」「スポーツ大会」「交流会」等イベントの活用が見直され、地域のコミュニティと深くかかわり、情報発信していく人材育成が求められている。「愛媛県の祭り・ダンス・スポーツ」「沖縄県の祭り・ダンス・スポーツ」を取り上げ、地域の持続可能な発展に導く俯瞰力に秀でた地域リーダー（公務員、教員、青年団など）とその活動について事例を示しながらコミュニティの活性化に挑む地元情報発信型イベントを考察する。１年次「サーバントリーダーシップ入門」の学びを応用しながら実践力につながる思考力、俯瞰力を涵養する。	
				スポーツプロモーション演習Ⅰ	「少子高齢化」「過疎化」「市町村合併によって希薄化したコミュニティ」この喫緊の課題に喘ぐ地域において、スポーツは新しいコミュニティの仕組みを作るポテンシャルを有している。また幼児から高齢者に至る地域住民の健康と体力の増進は、豊かで有意義な生活を送る上で必須要件でもある。本授業は、学校や地域における「スポーツ振興」、すなわちスポーツプロモーションに関する諸課題（特に地域との結びつき、スポーツ自体の文化的意義の確立、少子高齢化によるスポーツの意義の確立等、科学的観点からとらえたスポーツ振興に関する課題）に着目し、各自が研究テーマを設定し、研究の目的や方法など研究計画を作成する。それに基づき研究を遂行し、結果の分析、研究仮説の検証を行う。こうしたプロセスを通して、研究の進め方や行い方を身につける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	スポーツ健康マネジメント系	スポーツ教育学演習Ⅰ	現代社会におけるスポーツは「スポーツと教育」「スポーツと地域社会」「スポーツと福祉」など多様な側面を持ち、Well-beingを目指し新しい価値の創造につながっている。本授業は現状調査と分析を行い、運動やスポーツの楽しさと喜び、豊かなスポーツライフを実現する資質や能力を育てるスポーツのあり方を検討する。特に「ダンス」について、地域社会のコミュニティで活用するマネジメントについて小グループでの演習でコミュニティの特徴に応じた視点を明らかにしながら、知識の深化を図ることを目的とする。 授業計画 第１回　スポーツと教育 第２回　スポーツと健康 スポーツの社会化、スポーツの生活化 第３回　スポーツと地域社会　スポーツと福祉 第４回　生涯教育、学校教育から見えてくるスポーツの役割、ねらい、教育目標、運動の適時性 第５回　スポーツの中でのダンス　ダンスの特性、適時性、「コミュニティでダンスをいかに活用する？」コミュニティ・ダンスのマネジメント 第６回　リズムダンス　情報収集　量的分析 第７回　リズムダンスに関する分析からの考察 第８回　リズムダンスの運動方法の検討ワーキング 第９回　フォークダンス、日本の踊り　情報収集　量的分析 第１０回　フォークダンス、日本の踊りに関する分析からの考察 第１１回　ダンスを作る　情報収集　量的分析 第１２回　ダンスを作る活動に関する分析からの考察 第１３回　ダンスの運動方法に関する検討ワーキング 第１４回　ワーキングで提案した運動方法の具体化について発表 第１５回　スポーツと教育、スポーツの社会化・生活化　まとめ	
				スポーツ健康生理学演習Ⅰ	スポーツ科学や健康に関する諸課題（特に青少年及び成人の健康、体力、運動習慣、トレーニング、疾病・スポーツ障害、科学的観点から捉えたスポーツ等に関する課題）から、少人数グループ毎に調査テーマを設定する。そして、学会誌、書籍等の検索あるいはアンケート調査等を駆使し、各テーマに対する学びを深め、それに関する知識を習得する。グループ毎にプレゼンテーションを行い、ディスカッションを行う。	
				健康医学演習Ⅰ	健康の維持増進に関わる要因には生活や運動から社会環境要因といった種々の要因が存在し、これの要因を１つ１つ科学的に解明していく事が次世代の健康確保のために大切である。本授業では科学的に解明する方法の１つとして「疫学」に焦点を当てて、疫学的検討方法について概説し、健康と関連するさまざまな要因についての記述疫学的方法及び生態学的研究(エコロジカル研究)について演習を行い、「世の中で健康によいとされている事がどこまで確かなのか」について整理し、その結果をまとめ･プレゼンテーション･ディスカッションを行う。	
				健康運動疫学演習Ⅰ	運動・スポーツが健康増進に寄与するか否かのエビデンスは、疫学研究によってもたらされる。本授業では、運動・スポーツと健康に関する疫学研究の意義と手法について概説する。また、演習課題として、既存のスポーツ・運動と健康に関するデータを用いて暴露と健康アウトカムの関係を検討する生態学的研究を行い、その結果をまとめ、プレゼンテーションとディスカッションを行う。	
				スポーツ健康情報マネジメント演習Ⅰ	地域・社会、学校教育、スポーツ関連産業、ヘルスケア産業の現場で、健康の維持・増進とスポーツの社会的発展に貢献するため、本演習では、携帯型の様々なセンサから健康・スポーツに関連したバイタルデータを取得、およびそのデータを処理するプログラミングの作成までの一連を実践する。さらに、そのようなデータを測定・分析し、実際のスポーツおよび健康づくり指導に繋げるための知識・技能を演習形式で身に付ける。	
				スポーツプロモーション演習Ⅱ	学校や地域におけるスポーツプロモーションに関する諸課題（特に地域との結びつき、スポーツ自体の文化的意義の確立、少子高齢化によるスポーツの意義の確立等、科学的観点からとらえたスポーツ振興に関する課題）について、スポーツプロモーション演習Ⅰの内容を踏まえ、さらに発展的に学習を進めていく。各自の研究テーマに関連した研究論文を収集し、その理論的背景と研究方法について理解を深める。さらに、研究論文を批判的・批評的に読むことを通して、自らの研究課題を明確にする。	
				スポーツ教育学演習Ⅱ	スポーツ教育学演習Ⅰの内容を踏まえ、運動やスポーツの楽しさと喜び、豊かなスポーツライフを実現する資質や能力を育てるために、スポーツの教育的価値及び地域貢献を視座において、地域社会とダンスをテーマに、個人もしくはグループでプロジェクトテーマを設定する。文献調査、研究論文等の情報収集を行い、これまでの学部学科での学びを発展させ、自らの研究課題を明確にする。	
				スポーツ健康生理学演習Ⅱ	スポーツ科学や健康に関する諸課題（特に、1）青少年及び成人の健康、体力、2）運動習慣、トレーニング、疾病・スポーツ障害、3）科学的観点から捉えたスポーツ等に関する課題）から、少人数グループ毎に研究テーマを設定し、運動生理学分野からの測定・実験・アンケート調査等を駆使し、各研究テーマに対して、グループ研究を行う。	
				健康医学演習Ⅱ	健康の維持増進に関わる要因には生活や運動から社会環境要因といった種々の要因が存在し、これの要因を１つ１つ科学的に解明していく事が次世代の健康確保のために大切である。本授業では健康医学演習Ⅰで学んだ知識を基に、健康と運動･生活習慣及びこれらを取り巻く社会環境要因(地域･学校･職域など)との関連について、主として観察型疫学研究(横断調査もしくは縦断調査)を用いた検討を行うためのデザイン立案･実施･評価を行う。またこれらをまとめてプレゼンテーション･ディスカッション･報告を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	スポーツ健康マネジメント系	健康運動疫学演習Ⅱ	運動・スポーツが健康増進に寄与するか否かのエビデンスは、疫学研究によってもたらされる。本授業では、健康運動疫学演習Ⅰで習得した知識を基に、運動・スポーツと健康との関連を明らかにするための横断研究、およびコホート研究の研究デザインを作成し、プレゼンテーションとディスカッションを行う。さらに、実際に運動・スポーツと健康利益に関する横断研究を実施し、その結果をまとめ報告する。	
				スポーツ健康情報マネジメント演習Ⅱ	この授業では、スポーツ健康情報マネジメント演習Ⅰで身につけた技能を応用し、スポーツによる健康マネジメントをより深く理解し実践するため、基本スキルである統計処理の基礎を理解すると共に、統計処理ソフトウェアを用いた演習を通じて、データ解析の基礎的手法を習得することを目的とする。スポーツ健康情報マネジメント演習Ⅰで習得した知識・技能を基に、実際に取得したバイタルデータを統計的に解析し、健康の維持・増進とスポーツの社会的発展に貢献するための活用法について、演習形式で学修する。	
				マルチスポーツⅠ	本授業は、地域に暮らす人々の体力・健康に関する課題解決に向けて、「運動をする・しないの２極化」「運動嫌いの子どもの増加」など特に発達段階における青少年を対象とする場合を想定し、運動に親しむことから始められる「基本的な運動」「ダンス」「武道」「集団型ボールゲーム」「ニュースポーツ」を実習する。 （オムニバス方式/全15回） （⑤　牛山　眞貴子/10回） 第1回：発育発達期におけるスポーツの位置づけと基礎知識について（共同） 第2回：武道「柔道に親しむ」（共同） 第3回：武道「剣道に親しむ」（共同） 第4回：武道「相撲に親しむ」（共同） 第5回：陸上競技　「走ることに親しむ」 第6回：陸上競技　「跳ぶことに親しむ」 第7回：ダンス　「リズムに乗って動くダンスを楽しむ」 第8回：ダンス　「即興で動くダンスを楽しむ」 第14回：まとめ①（親しむから「ダンス」を例にあげ、技能習得におけるコツを伝えるグループ実践）（共同） 第15回：まとめ②（親しむから「球技サッカー」を例にあげ、技能習得におけるコツを伝えるグループ実践）（共同） （⑥　山中　亮/11回） 第1回：発育発達期におけるスポーツの位置づけと基礎知識について（共同） 第2回：武道「柔道に親しむ」（共同） 第3回：武道「剣道に親しむ」（共同） 第4回：武道「相撲に親しむ」（共同） 第9回：球技「タグラグビーに親しむ」 第10回：球技「アルティメットに親しむ」 第11回：球技「バスケットバールに親しむ」 第12回：球技「サッカー：技術に親しむ」 第13回：球技「サッカー：戦術に親しむ」 第14回：まとめ①（親しむから「ダンス」を例にあげ、技能習得におけるコツを伝えるグループ実践）（共同） 第15回：まとめ②（親しむから「球技サッカー」を例にあげ、技能習得におけるコツを伝えるグループ実践）（共同）	オムニバス方式・共同（一部）
				マルチスポーツⅡ	本授業は、地域に暮らす人々の体力・健康に関する課題解決に向けて、「体力の低下」「地域でのスポーツ実施率の低下」「高齢化」などの課題に取り組むために、特に体力と健康増進につながる多世代を対象とする場合を想定し、生涯スポーツに根ざした多世代型スポーツ実技の基礎的な技能と知識を習得することを目的とする。「体つくり運動」「球技：バレーボール」「球技：バドミントン」「水泳」を実習する。 （オムニバス方式/全15回） （④　浅井　英典/8回） 第1～3回：体つくり運動 第4～8回：バレーボール （⑩　山本　直史/7回） 第9～12回：バドミントン 第13～15回：水泳	オムニバス方式
				スポーツ健康指導法（体つくり運動１）	この授業では、体つくり運動の「体力を高める運動」を実習する。様々な体力要素を取り入れた運動を行うことで多様な動きづくりと体力を高めることを目指している。また、年齢、性別、体力の相違を有する指導対象者に応じた指導法を習得する。	
				スポーツ健康指導法（体つくり運動２）	この授業では、体つくり運動の「体ほぐしの運動」を実習する。体ほぐしの運動はメンタル・ヘルスケア及びストレスコーピングの役割を担う運動で仲間と一緒に手軽な運動や律動的な運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができる。心と体の関係に気付き、体の調子を整え、仲間と交流することができる力を身につけることと指導方法を習得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会共創学部地域資源マネジメント学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門力育成科目群	履修コース科目	スポーツ健康マネジメント系	スポーツ健康指導法（武道）	運動やスポーツの楽しさと喜び、豊かなスポーツライフを実現する資質や能力を育てるために、武道を取り上げる。武道は日本の伝統文化であり、中学校・高等学校（保健体育）においては必修単元である。本授業では「柔道」について、①基本的動作・基礎的技能と指導、②身体への意識、③他者と関わる力、④安全性のための管理、を学習し身につける。また、相互支援を通して、学生の指導力を涵養する。	
				スポーツ健康指導法（陸上競技）	陸上競技の技術や知識を習得し、自己の記録や能力を高めるとともに実践的な指導力を身につける。主な内容は、陸上競技のルール、審判法についての講義、走種目（短距離・リレー・ハードル走、長距離走）、跳躍種目（走高跳、走幅跳）、跳躍種目（走高跳、走幅跳）の技術を身につけることを目的とする。基本的な技術の習得を通して、運動のメカニズムを理解し、「より速く、より高く、より遠く」をキーワードとして授業を展開する。	
				スポーツ健康指導法（水泳）	水泳や水中運動の技術や知識を習得し、実践的な指導力を身に付ける。主な内容は、水泳や水中運動による健康づくりや水泳のルール・審判法についての講義、クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの四泳法の習得、健康づくりのための水中運動のプログラミング、安全水泳などから構成される。	
				スポーツ健康指導法（ダンス）	この授業では、ダンスの基礎・基本の運動及び知識から発展した技能までを実習する。ダンスは子どもの成長期において全身を使って表現する「表現力」「コミュニケーション力」「想像・創造性」の育成に特に重要な運動とされている。平成24年度から中学校学習指導要領（保健体育）において武道とともに男女必修の単元になった。「現代的なリズムのダンス」「フォークダンス」「創作ダンス」それぞれの特長を生かし踊ることができる技能と指導方法を習得する。	
				スポーツ健康指導法（器械運動）	本授業では、中学校および高等学校における学習指導要領に例示されている技を身につけるとともに、実践的な指導力を身につける。また、器械運動は個人種目であることから、達成感の有無を感じやすいことにより、学習意欲が大きく左右される。その特性をふまえつつ、より効果的・効率的な指導方法について理解する。	
				スポーツ健康指導法（球技１）	侵入型のボールゲームであるサッカーにおける、技術及び戦術を修得しゲームの中で活かしていく、実技を中心に実習を行う。ルールや審判法についても説明を行い、実際の指導現場で活かしていける指導法についても説明を行う。	
				スポーツ健康指導法（球技２）	バレーボールの指導者として必要な基本的な知識と指導法を学習する。バレーボールの基本動作となるオーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイク動作等をデモンストレーションできるために必要な能力を養成するとともに、基本動作から応用動作までの各種練習法を学習する。フォーメーションやルールを理解し、ゲームの運営法を学ぶ。	
専門教育科目	学位認定科目群			社会共創演習Ⅰ	これまでの正課教育・準正課教育・正課外活動での学修成果の振り返りを行い、社会共創学部の全授業科目や授業外の様々な活動を通じて身に着けた知識・技術や資質能力について，現時点での習得・獲得状況を確認し、今後の「大学における学び」を方向づけるための科目である。また，担当教員の指導の下，卒業研究等に関する課題発見・課題解決に向けたプレゼンテーション、解説またはグループ討論を行い，その解決への道筋を確立する。	共同
				社会共創演習Ⅱ	卒業認定へ向けて正課教育・準正課教育・正課外活動での学修成果の振り返りを行い、社会共創学部の全授業科目や授業外の様々な活動を通じて身に着けた知識・技術や資質能力について，卒業時での習得・獲得状況を最終確認する。そして、卒業研究の発表もしくは自由課題研究の修了へ向け、担当教員の指導の下，卒業研究に関しては成果発表に向けたプレゼンテーション、解説またはグループ討論を行い、その準備を進める。また、自由課題研究に関しては、修了へ向けて成果をまとめる。	共同
				自由課題研究	担当教員の指導の下、自らのこれまでの経験の棚卸しをした上で、現在の問題意識と目指すべき将来像に基づいたプロジェクトを設定し、プロジェクト計画書を作成する。その後、計画に従ってプロジェクトを遂行していく。その際、担当教員に適宜報告・相談を行いながら、必要であれば、状況に合わせてのプロジェクトの軌道修正を行う。プロジェクトの終了後、そのプロセスと成果についての報告書を作成し、報告会にてプレゼンテーションを行う。	共同
				卒業研究	これまで学んできた様々な知識やステークホルダーとの連携などをもとに、農山漁村の実態をふまえた振興策、文化資源の発見と活用、スポーツを通じた健康づくりなどに関わる研究テーマを各自で設定し、調査研究する。この中では、研究企画を立案したり、文献・データ等を収集・分析したりすることで理論的な思考力を養うとともに、活動レポートの作成や発表、実技などを通して汎用性の高い表現力を身につける。	共同